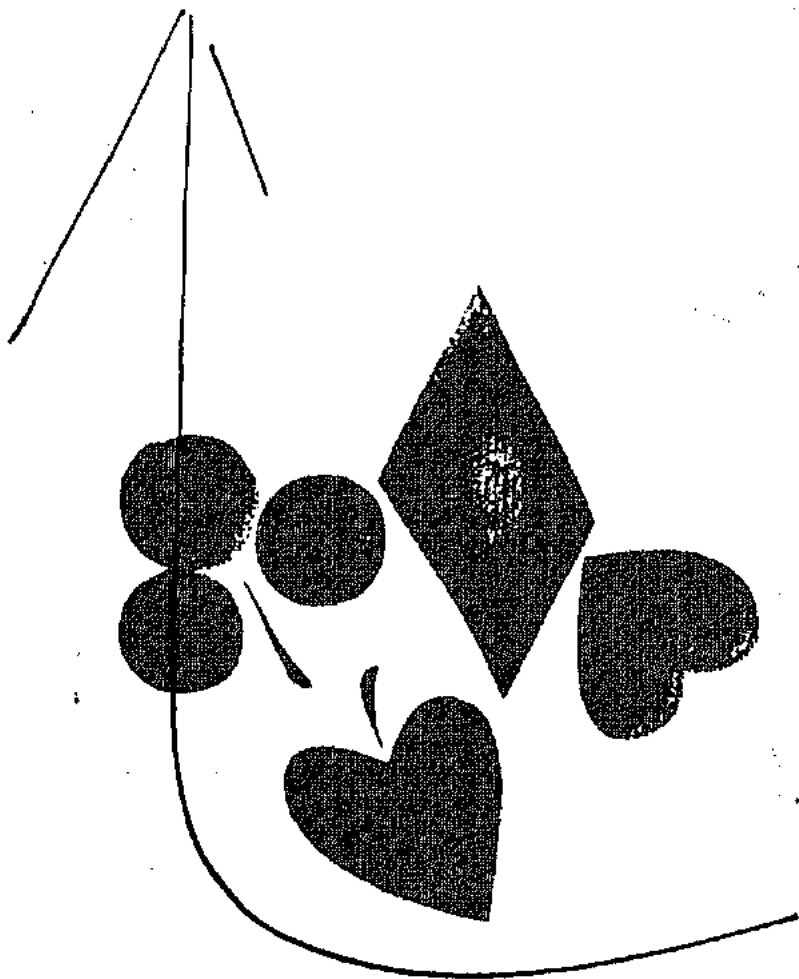




自由時間生活

— 婦人のレジャータイムについての研究 —

労働省婦人少年局編

生活時間白書

— 婦人のレジャー・タイムについての研究 —



労働省婦人少年局編

序

世の中のめまぐるしい移りかわりは、生活様式の面にも著るしい変化をもたらし、婦人の生活時間構造も大きな影響を受けていますので、これに対処して自主的な態度で日々の生活を機能的に処理することが必要になってまいります。このためには、積極的に生活時間を配分し、主体的な生活設計を確立することが強くのぞまれます。さらに、合理的な生活時間の配分によつて自由時間を生みだし、その時間を自分のために、またみんなのしあわせのために役立つ充実したものとすることができれば、私たちの生活は、明るく、そして生き甲斐のあるものとなりましょう。

このような観点から、婦人少年局では、婦人の自由時間についての調査を行ない、また第十二回婦人週間には「生活時間の自主的な設計」を目標としてとりあげ、「自由時間の意義」を強調事項として運動を展開いたしました。その後、各方面でこの問題についての関心が高まり、いろいろの方々から種々の御照会をいただいております。

ここに、「生活時間に関する諸問題」をテーマとして開催した、婦人週間の中央行事である全国婦人会議の記録と、生活時間についての各種の統計資料などを収録して、この問題に関心を持たれる方々

の御参考に供することといたしました。

この書が、生活時間の問題についての研究をされる方々のお役に立ち、さらに、婦人の自由時間を充実させるための手がかりともなりますならば、しあわせに存じます。

昭和三十六年八月

労働省婦人少年局長

谷 野 せ っ

は し が き

—「生活時間白書」の構成について—

第一部には、第十二回婦人週間の中央行事として、四月十三日から四日間、労働省が日本放送協会と共催で行なつた第八回全国婦人会議の部会記録、ならびに、同会議の総会における中川善之助氏（全国婦人会議出席者選考委員長）の講演、および西清子氏（選考委員、第一部会リーダー）の「生活時間についての問題点」を収めました。西氏の文は、この書を絶刊するにあたって新たに御執筆いただいたものです。

第一部の大部分を占めているのは全国婦人会議の部会記録ですが、この会議は、部会、移動会議（東京、神奈川、埼玉、千葉の四班に分れて、それぞれ事業場や施設等を視察し、視察先の婦人と懇談を行なつたもの）、総会によつて構成され、部会は四つに分けられて、「生活時間の自主的な設計のために」をテーマとして、リーダーの助言のもとに討議が行なわれました。会議員は、全国から所感文によつて公募した出席希望者二、一四九名の中から、中央に設けられた選考委員会によつて選ばれた六〇名の婦人ですが、所感文は周囲の人と話しあつて書くことを要件としましたので、話しあいに参加した者は一〇、一一三名でした。なお、各部会には、全国的組織をもつ婦人団体や労働組合から推せんされた特別オブザーバーが参加しました。

第二部には、婦人の生活時間、自由時間の問題を考察する上の参考となる、婦人の生活意識や実態に関する各種の調査資料、ならびに、生活時間に大きな影響を与えられ、生活環境の変化を示す統計資料を収録いたしました。

労働省婦人少年局

目次

序

はしがき——「生活時間白書」の構成について——

第一部 婦人のレジャー・タイムを生かすために

生活時間についての問題点

西 清 子 三

自由時間と民法について

中川善之助 七

家庭婦人の問題

第一部会会議録 一三

勤労婦人の問題

第二部会会議録 四八

家庭内で収入活動に従事する婦人の問題

第三部会会議録 八六

農業・漁業にたずさわる婦人の問題

第四部会会議録 一三〇

第二部 婦人の生活と意識——調査資料——

一六七

生活環境の変化

一六九

主婦の生活と意見

一七八

都市主婦の生活時間

一八七

主婦の二四時間

一九二

東京都民の生活時間設計についての態度	一九七
東京都婦人の自由時間の実態	二〇四
住宅地、商店街、団地の余暇	二〇八
山村婦人の生活と意識	二一七
漁村婦人の生活と意識	二二五
主婦の自由時間についての意識	二三二
階層別生活時間	二四三
アメリカにおける婦人の生活時間	二四七
参考 第十二回婦人週間の構想	二五一
あとがき	二五九

表紙 伊 藤 耕

第一部 婦人のレジャー・タイムを

生かすために



生活時間についての問題点

西 清 子

「生活時間の自主的な設計のために」という第十二回婦人週間のテーマは、方々で大変に歓迎されたようです。一日、二十四時間という時間を、あなた方はいつたいどんな風に過ごしているのでしょうか、もう一度それをお互に考えてみようではありませんか。そうすれば、おもいがけない問題がそこから発見されるし、こんなことではいけないとおもえば、それを改めるためにはどうすればよいかということなども次々に考えだされるはずです。いつてみれば、こんな呼びかけが、このテーマのねらいであつたとおもいます。大変に問題が具体的に身近かであることが、一般にうけたのでしょうか。

労働省では、婦人週間のたびごとにこれまでもいろいろなテーマをとりあげ、それによつて、日本の婦人たちが大いに啓発されてきたのは事実ですが、とかく従来は抽象的なテーマが多く、それにくらべると、一日の生活時間のなかに、一人一人の生きている姿をもう一度みつめ、そしてそれがいわれるところの婦人の地位の向上にどれほど関係があるかという問題を出したのは、よいところみだつたとおもいます。

ところで、私はたまたま、婦人週間の行事の一つである第八回全国婦人会議のリーダーに指名され、前記の問題を討議する出席者をえらぶために、全国各地から応募された沢山の作文に接する機会をえました。その選考のなかでいままさらのごとく教えられたことは、日本の婦人のまだまだ多くの人は、自分の自由時間を持つどころか、日なが夜ながを、いかに忙しく

働らき通しているかということでした。しかもそれは、自分の意志とは全くかわりのない、さまざま事情や力によつてうごかされているということもよく知らされました。こうした姿は、かりにも進歩といえないのは当然のこととして、戦後十五年の今日といえども、婦人の解放がこのような状態にあることは、大いに考えさせられたことです。

特に農村には、いせんとして問題が多く、娶や嫁の生活時間には昔ながらのものもありました。農村で生活改善の結果、なるほど家事労働は軽くなつたけれども、その暇を追いかけるように新しい労働が加わつてくるというはなしなど、合理化とは何だろつかうたがいたくなるようなこともあります。商家の主婦も忙がしく、一日中を店番と家事に追われ、子供の教育にも手がまわらないなど、切実な問題が投げかけられています。また職場の婦人といえども、有給休暇もとれず、長時間労働のなかで働らき通さなければ収入の面に響くし聞りの空気が止むをえないということ。内職の主婦たちは時に徹夜の仕事もしなければならぬ。子供をかかえた、これらの勤労婦人たちのなやみには、ほんとうに深いものがありました。

ちかごろはレジャー・ブームとかいつて、何か人々の生活に大変、暇がうまれつつあることがいわれはじめていますが、たしかに家庭生活の電化、作業の機械化などによつて、余暇がうみだされかけているのは事実です。けれども、手放してその余暇を楽しむことの出来る人々というのは、まだまだ数からいえば少なく、せいぜいが都会の上・中層勤労者階級の生活にみられる現象としか考えられません。少なくとも作文のなかからは、そのようなことがうかがわれました。

日本人が年中、忙がしく働きつめていること、これにはまた、いろいろな理由が考えられることでしょう。第一には、昔ながらの働らき者がほめられるという習慣です。農村で嫁は働らき手として迎えられるといふ風習など、さしづめ、よく働らくということは、これもまた婦徳の一つとして数えられているのです。職場でも仙人よりたとえ三十分でも居残つていればほめられ者の対象となるし、商家が人の寝しずまる頃まで戸をあけておけば、あの店は精を出すといわれる。働らくということはもちろん大切なことであるにちがひありません。しかし、ここではただ忙がしさを探し求めてまでも働らくことが

美德だとする考え方であるとするなら、それは人間性を全く忘れたことといわなければなりません。問題はそれだけでなく、このような習慣や考え方というものが、自分だけをしるのならともかく他人にもそれを強いる結果、働らき者をほめあげる社会倫理のようなものがこでつくりあげられ、あげくが、家庭や社会や職場の人間関係をゆがめてしまっています。そしてそこにはもう民主主義的なものは、とうてい育ちようがないということです。

しかし、忙がしくしなければならぬということの理由のなかに、何としても経済上の問題が大きいということも、これを無視することは出来ないでしょう。自由時間どころか、いつときを働らき通さなければ暮しがゆきづまつてしまふという問題は、農村や商工業家や内職者の家庭には、そう簡単に片のつくことではありません。ここまでくると、もはや個人の心がけやチョツとした工夫などではどうしようもないことで、問題は大きく社会のことにつながり、政治の果たさなければならぬ責任にまで発展してゆかなければならぬでしょう。それにしても、自分の一日の生活時間をみつめることによつて、若しここまで物事を追求することが出来れば、それもすばらしいことといわなければなりません。

さらに、必要以上の社交や行事など、やはり旧い習慣から何となく抜け出せなくて、いたずらに時間をつかい、そのために心身ともに疲れ果てなければならぬ実情なども、作文は沢山に訴えていました。

要するに、合理的な勤勉というのではない、ただ慣習や経済上の理由や義理や古い人間関係のなかで、何の自主性も持たず、自分の生活も人の生活も冒かしている。そうした日本人の暮し方が、まだまだあるということに私たちは気がつくのでした。特に婦人はもう一つ発言権を持たないままに、その一日の生活時間には、ほとんど自分というものが無い事情が明らかにされています。

ところで、これらはいわばありのままの実情です。そういうことでは貴重な検討であるにちがひありませんが、問題はだからといってそこに止つてよいかということになります。感動したのは、作文のほとんどが、一応の苦しい実情をさらけ出

しながらも、そのなかから、精一ばいの知恵を生かし、考えを重ねて、それぞれの解決策を少しでも出しあつていくことで、どうすれば私達は一日の時間を自分の意志をいれて使うことが出来るだろうか。そのためには、あるいは家族への協力を求め、あるいはグループで研究しあい、地域ぐるみのはなしあいをはじめ、さらには自分自身のなかにあるものにも対決してみる。こうしたことの一つ一つについて、この本にも収録されている会議のなかでも、各部門ともに真剣に討議がおこなわれていきます。すでに、婦人週間にかうしたテーマが出される以前に、問題にとりくみ、立派に成果をあげている人たちもあれば、こうありたいと願っている人もあります。

そこで、このような作文や討議のなかから私達が得た教訓は、「生活時間の自主的な設計」といつても、「自由時間をうまくみだすために」といつても、それは、とうてい自分一人だけの力ではどうにもならないことだし、同時にそれは自分だけのことでないということでした。自分の時間を守るためには自分いがいの人の協力がなければ出来ないことだし、また他人の時間を大切にするためには自分が協力しなければ、それは果たされないということです。これを裏がえしてみると、いかに私たちは自分の時間を他からの何ものかによつて制約をうけすぎているし、一方、私達は無意識のうちに他人の時間に干渉しているかという事実です。こうしたことに気がついた以上、この不合理に対しては何とか改善の道が備じられなければなりません。そこで、自分の生活を尊重するとともに他人の生活を尊重する思想や、物事に計画性を持つ習慣や協力や、さらには政治への願いというようなものまで出てこなければなりません。

そうしたあかつきに、いわれるところのレジャーがうまれるとするなら、それこそ人間らしい生活が約束されるはずで、婦人の地位が戦後どれほど向上したか、それを計るバロメーターもここにあります。なお、うまれたレジャーは、また有効に正しく、つかわれることによつて、一國、社会の進歩に役立つことでしょう。そこにまた婦人の力への期待もあります。



自由時間と民法について

東北大学教授 中川 善之助

自由時間という言葉が使われておりますが、現在、自由を持つている人、束縛のない人は、自由ということとは考えないだろうと思います。そういう意味で、全国婦人会議のテーマとして、自由時間がとりあげられたということは、日本の婦人がまだ時間的に自由でもない、もしくは時間というものに対して主体性がない。自分のために使う時間がない。あるいは少ない。ということではないかと思ひます。

みなさんのお話合いの中にも、一日働きまわっても自分は不服でないとか、また動いている方で、有給休暇があるのだけれども自分は休暇をとったことがないというようなことをいわれた方もありました。それを「休めないほど忙しくて、つまらない職場だ」という意味でいう人もあれば、また、嬉しそうな顔をしていつている人もありました。また、私などのように学問をしているものは、毎日有給休暇のようにみえるかもしれませんが実は年中無休でありまして、休みの日でもゆつくり遊べるという人がないのが実情であります。しかし、学問をしている人間は、どんな研究が忙しくて、それだから研究をやめたという話は聞かないのであります。それはどんなに忙しくて、その時間の使い方には自主性がある。つまり、自分がその時間の主人になつてゐる。その人は自分の時間を持つてゐるからで、そういう人には自由時間ということとは、あまり問題にならないのではないかと思ひます。忙がしく研究に追われてゐる時間がすべて自由時間なのであります。

す。

戦争中に聞いた話ですが、潜水艦に乗っている人は、船中の空気分量がきまっているので、自由に空気を吸うことができないそうで、なるべく空気を消費しないようにしなければならぬ。それで思う存分空気を吸いたくないと思う。ということです。普通陸にいる者は、空気を節約しようとか、自由に空気を吸いたいというようなことは考えないのであります。そういう意味からでしょうか、男の集まりでは、あまり自由時間ということが問題にならないようでありましたが、まだ、婦人の生活には生活時間について、いろいろな問題があります。つまり婦人の生活自体がまだ拘束されており、自分の生活になっていない面が非常に多いのではないかと思われれます。

婦人が自由時間というものを考える時には、何か「へそくり」のような感じではないかと思ひます。一種のいんげん財源のようなものです。小説を読もうと思えば、その時間を捻り出さなければならぬ。世界中どこでも、家族制度のもとでは女は大体、財産を持っていません。婦人には自由財産というものが無いから、自分でお金を持ちたいと思う。子供にあめや鉛筆を買ってやるのにも「ええ」とさんに出してもらうのではなく、自分の財布から出してやりたい。田舎などでは、年に千円の小遣いしか貰えない、いわば千円嫁というような、まことに気の毒な妻君があります。そういう人々には、その千円がほんとうにうれしいが、さらにそれを二千円にしてみたいというような悲願の声を聞くのであります。そうするとしゅうとは、いいさえすればいつでも出してやる、というのですが、経済の上でも、時間の上でも、人間の自然の欲求として、自分の自由がほしいのです。そして、その自由が、大まかにいって、男にはあるが女には少ない、そこで、男が自由であるように、女も自由でなければならぬということになるわけでありす。

しかし、男女が共同して家庭をつくっていく上に、お互いが勝手に自由を主張していたのでは、家庭生活がなりたないということになるので、一家の幸福ということで、お互いが自由を譲り合わなければならないのは当然でしょう。しかし金

議でも、妻が自由時間を得るためには、夫の協力が必要だという声がありました。言葉は「協力」であっても、その中に何か「お恵み」という意味が含まれていないでしょうか。たとえば、婦人会などに出席する場合、近所の人たちが呼びにくるので「みんなが行くなら仕方がない、お前も行ってこい」と夫が許したとします。この程度の同意なら、ほんとうの協力ではない。これはただの同情か恩恵にすぎないと思ひます。男が婦人会というものの役割をほんとうにわかってくれて、出席することを認めてくれるのであれば、ほんとうの意味の協力とはいえないと思ひます。

そこで、婦人が昔から手内職をして、自分の自由財産を腹巻の中に巻き込んで、こっそりためていた、いわゆる「へそくり」が、だんだん公認されてきて、妻も財産を持つのが当たりまえだという考え方が出てきたように、自由時間とか自主的な生活時間の設計ということが、今回問題として取り上げられたというのは、婦人が公然と生活時間の主人公になる道程ともみられるわけで、非常に、このまじらしい、便りだと思ひます。

私は民法を専門としておりますが、民法においても、昔から男女の平等と自由ということは考えられていたのであります。しかし、民法というものは、社会のかみといひますが、その時代時代の進歩性なり、反動性なりを包蔵しているのであります。そういう意味で民法も社会思想の一つの現われでありますから、社会一般の考え方が一つの方向に向って来ないと、その方向の民法は現われて来ないのであります。

日本の民法は明治三十一年にできたものであります。當時は非常に進歩的な民法だと思ひていました。たとえば、結婚は当事者の同意がなければ無効であるという規定は、親が決めた結婚に子は嫌やでも従わなければならなかった一時代前の法意識と比べて、非常に大変革であったといえましよう。しかし、その中に、男三十才女二十五才までは父母の同意がいるということが規定されていまして、実際に子が円満な生活に入っても、親が同意しなければその親は結婚を取り消すことができようになっていたのでありまして、やはり、家庭生活の中で親の意思を中心とする思想が残っていたのでありま

す。

このほか、姦通罪、家督相続権などにも、男女不平等の規定がありましたので、学者たちはこの改正の必要をたびたび論じていたのですが、昭和二十二年まで、結局改められないままできたところ、日本社会における封建制の強さが示されているのであります。

明治民法でも、先ほど申しました婚姻の場合の当事者の意思や、夫婦協議による離婚の自由というような立派な規定がありました。これが果してその通り実行されたかとは申しますが、協議離婚というの名目だけで、実際は「追い出し離婚」の仮面であったのであります。昭和二十一年に出来た新憲法の二十四条に「婚姻および家族に関する事項に関しては、法律は、個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない」とありまして、これに基づいて、民法においても全部平等にしたのであります。それでは、現在「追い出し離婚」というようなものはなくなっているかというところ、やはり相当多いのであります。それで、家庭裁判所で一々、本当に別れる気なのかどうかを確認してから協議離婚を受理することにしてはどうかという意見がありました。現在の数少ない家庭裁判所では、とてもできることではありませんが。

また、親権についても、新民法では、父母は共同親権に改められましたが、旧民法では、父親が生きている間は原則として父が親権者で、母は親権者ではなかったものであります。新法により父母の親権が平等になりましたが、そしてまた実際は子供の教育を受持っているのはむしろ父親ではなくて母親なのに、今日でも母親を除外した「父兄」というような言葉が通用しており、いう方も、聞く方も平気であるところ、まだ問題があるのではないかと思います。

相続についても新しい民法では、男女平等ということになっていますが、女の子は結婚するとき、簞笥を持っていくからいいだろうというので、相続分が簞笥だけと交換されてしまうようなことがよくあります。そういうことで、実質的な不平等がやっぱり残っています。

また一方、形の上で男女平等になると同時に扶養義務なども平等になりました。もちろん、扶養する実力のない人は義務もないが、実力があれば平等に扶養義務を負うことになっています。ところが夫が亡くなって、中風の母親を誰が世話するかというになると、みんな長男に押しつけようとする。しかし遺産のことになると、民主的に兄弟姉妹平等に分けるといふ。責任の分担はなるべく旧式に昔ながらのやり方でいこうという考えがまだ一般にあります。それで平等の規定ができて、実際にはなかなか平等にならないことになるのだと思います。

結婚した場合に、夫婦の氏をどうするか、つまり苗字をどうするかということも、私たちの間で問題になっております。明治民法では、原則として妻は夫の家に入るといって、夫中心に考え、結婚すれば夫の苗字にかわるというのが普通になっていました。日本の古い時代、また中国、朝鮮においても、氏というものが血統を表わす意味で使われていたところ、結婚しても氏は変らなかつた。夫婦は別々の苗字を使っていた。それが日本では明治十四、五年ころから、夫婦は同一の氏を名乗ることになったのであります。しかし、どっちの姓を名乗ってもいいではないかという問題が起こって、昭和二十二年の改正の時「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する」と定め、夫婦どちらの姓を名乗ってもよいことになり、形の上からは全く平等になったのであります。実際にはたいがい夫の氏に統一されているのであります。

このような統一を避けるために、昔のように、夫婦別々な氏を名乗ったらいではないか、また、別な第三の氏でもいいではないかという意見も出ておりますが、婦人がそういうことを主張すると、男はとかく「苗字なんかどっちだっていいではないか、どうせ符牒なんだから……」夫の氏に女が変わったからといって、夫婦の平等が崩れるなどと考えることもなかるう」というようなことを言います。どっちでもいいのなら妻の氏に統一したらどうか、と言うと「それは困る」と言う。なぜ困るのかとくくと「何となく工合がわるい」と言う。そういう習慣的な不平等意識というものが、今日も残っているの

であります。

法律というものは、人々の生活の意識を包む枠であります。この枠がどんなに立派でも、中身の意識を引き上げなければ、なにもなりません。法律は百の権利、千の権利も婦人のために与えることはできませんが、何百何千の権利も婦人が持つたとしても、それを確実に実行できるような環境と、その環境によつて規定される意識が、平等を実現できるまでに高められていなければ、実生活において本当の平等は浮かび上がってこないのです。こういう意味で私は、法律は川のように流れていなければ、実生活において本当の平等は浮かび上がってこないのです。今、二木の川が流れていままものだと申したいのです。夫婦の場合、昔は妻の川はなくて、みな夫の川に入っていました。今は二木の川が流れていまます。しかし、妻の川はまだ細いのです。これを平等だからといって妻の川幅も夫の川幅だけにただ広げただけでは水は足りなくなります。そこで二つの川幅が同じで、しかも両方の川の水がよく交流し合うように連続することが、これからの生活で重大な問題ではないかと思ふのであります。

よく「誰でも馬を水のそばまで連れて行くことはできるが、馬に水を飲ませることはできない」ということがいわれます。法律は婦人にいくらでも権利を与えることはできますが、その権利を生かすのは婦人自身であります。与えられた権利の上に婦人が眠っていたのでは、どうにもなりません。せっかく獲得した権利ですから、目を覚まして、自由平等の意識を働かし上げていかなければなりません。私は、まだまだ、婦人の実生活より、民法の方が先に進んでおり、婦人のために民法は深山の権利を用意していると思います。もっとも実際にはなかなか簡単にいかない点もありますから、法技術面でも、もっと婦人の権利が行なわれやすいように考えなければなりません。何といつても根本は、自由平等な意識を婦人自身に付けることだと思います。



の問題

出席者

特別オブザーバ

[illegible]

社会の役に立つために

那須 最初に家庭の婦人として自由時間を持つ場合にいろいろな障害があると思うのですが、そういう障害が一体どこにあるのかというふうなことに付いて、皆さんの体験からお話して頂きたい。そしてまたこちらに出てくるまでに、もし話合いがあつたとするならば、それではどんなことが問題になつたかということ、そういうふうなことを最初に問題にしたいと思います。その話の中で、今年のテーマになつてゐる「自由時間」という言葉の意味——、外国には自由時間という言葉はなく余暇時間といつてゐます。特にこれは自由時間とうたつてゐるところに非常に日本の特長があるといえる——その自由時間というのをどういう意味にとらえたいのかということも皆さんの話し合いの中から出てくればいいのじやないか。無論、自由時間のとらえかたには、それぞれの自由時間の内容を結びつけて、すいぶん違つた意見が出てくると思いますが、それはそれなりで結構ですから、私はこういうふうな自由時間を考えてゆきたいというふうなこともつけ加えてお話し願えればいいのじやないかと思ひます。

また家庭の主婦は自由時間が二十四時間あるじやないかというふうなことをいう人があるのですが、それらのことを合わせまして、自由時間をどういうふうな作つてゆくかということも討論の内容としてゆきたいと思ひますので、そのような心組みで、ひとつご発言願ひたいと思ひます。それでは田村さんからどうぞ。

田村 私自由時間というものは、妻、母、娘、主婦といつゝ、

ばくから解放された個人として使える時間を自由時間だと思つております。私の主人は炭坑に勤めてゐる坑内の職員なものですから、勤務時間が四交替になつておりまして、一週間毎に勤務時間が変わりますが、生活時間というものは、本当にめちやくちやなんです。

そこで、どうかして自分の時間を、いくらかでもほしいと思ひまして、買物とか、掃除、そのほかのことを家族全部に協力してもらふことにしました。買物などは三分分くらい一ぺんに、仕入れ、お掃除なんかは、二日に一ぺん、洗濯も、のりつけものと、そのほかのものに分けて、一週間に二回くらいやるようにし、子供にもそれぞれ仕事を分担させるようにしましてやつと自分の自由時間が少しとれて参りました。お蔭で、近頃はイライラすることも少なくなり、家族とたのしく過すことができるようになっております。

谷津 私は主婦になる前に勤めを持つておりましたが、その頃から、自由時間というものは誰にも支配されないで自分の意思で自由に使う時間が自由時間だというふうな考えで参りました。主婦になりましてから六年、家族は勤めの夫と、それから病気がちで発育の遅れた三年六ヶ月の女の子がおります。以前は辺地におりまして、子供の通院生活や何やらで苦労しましたが、現在は団地に住め、非常に恵まれた生活環境です。ですから、私の場合は、自由時間というものは、私が積極的に求めようとすれば、工夫次第では簡単に求め得られる状態にあるのです。それで、その自由時間を生み出すための工夫ですが、まず第一に生活を合理的、計画的に行なうということだと思ひます。

主婦の仕事というものは、本当にのんびらりとやつておりま

すと、一年中、まったく暇のないものです。それで私は一年中の仕事、一カ月の仕事、一週間の仕事というものを、大体頭の中で整理して、生活の時間割のようなものを作りました。初めは夫も混えてのそれを作つたのですが、夫は、一日中外で東縛されてゐるのに、家庭に入つてまでも、束縛されるのではやりきれないといひます。

それはその通りだと思ひまして、今では、夫のことをいちいち時間的には束縛はいたしませんけれど、私の頭の中では絶えず夫を支配してゐるというふうな気持ちで働いております。それからアパートの奥さんは、非常に暇がございします。朝の九時頃からお茶飲みにいらずしやるんです。私はまず朝の仕事からお客様がいらしてもはずかしい程度に予定をじゆうぶんに組んでやつております。一週間のスケジュールをとりまして、朝の仕事、掃除やら全部含めて二〇分までできるのです。それからアパートの奥さんがいらつしやつてたいていお玄関でお相手をしますが、上りこまれた場合にはしかたがございしませんから、絶えず手を動かしてお話をするようにしてあります。ぬいものや、あみものに一日五十五分くらい費やすので、その分として、お付合をするわけです。次に子供の問題ですが、まだ幼いものですから、一日二時間程度は子供のために遊んでおります。それも午前中は近所の子供さんの世話を一緒にみてあげて、午後はそちらのほうの奥さんにやりくりしてもらふという具合にします。

そこでもだいたい自由時間を生み出してあります。それから夜の生活ですが、私は夏に編物とか冬ものをやり、冬に春や夏ものをやるようにしてあります。そうすると非常に気分的に余裕ができて、アタセク働く必要がないようです。それから洗濯は大体一週間に三

日、掃除に特に重点的には一回、あとはまああとという程度にやつております。そのようにしまして、秋に時間を調べましたら、私の自由時間は一日に三時間十五分ございしました。この頃は、夫も非常に協力的になりましたので、三時間二十分ぐらひはとれると思つております。

国分 私は一日二十四時間全部自分の時間だといつても過言ではないくらいに非常に幸せに自由時間を持ち合せておりますが、以前は非常に無計画に、とんできた仕事に全部とびついて婦人会、あるいはPTAの会というように出歩いて忙しいといつて暮しておりました。それが今作文を書きまして初めていままでの生活があまり漠然としていたということが気がついたので、いろいろな会の役員やなにかで出歩く事も勉強になると思つて是認しておりますが、それ以外に自分自身で勉強しなければならぬことや自分でやらなければならぬことを見出したわけです。これからの一生のうちにはやらなければならぬ仕事——私は、読書や、小説や、童話を書くことが好きですが——というはつきりした目的を一つ見出したわけです。私の場合、その目的のために自由時間の配分というもののできたわけですが、それができたら、やはりこれはある程度の障害をのりこえて実行しなければならぬものならんし、また、その自由時間を意識して使うか、使わなかつたかということで、非常にその価値に差があるのだということを改めて認識させられたわけです。

山崎 自由時間の定義として、私は日本の主婦が誰もしなければならぬ仕事とか、洗濯、掃除、育児などをやつて、なおも余つた時間の中で、自分を高めるために、誰にも干渉されずに、自由に使

える時間のことを自由時間だと私は考えております。私は東京の師範を卒業しまして、昭和十九年に結婚して、疎開をかねて主人の実家である塩原温泉にゆき、それ以来十五年、山間僻地をもちこちと転動しましたが、上の子供が小学校に上ると同時に、退職しました。家庭に入りまして、私は、よい子を育て、よい家庭を築き上げるためには、よい母でなければならぬ。それには毎日の生活をよく考えずに、自分をいかして真剣に勉強しなければならぬと思いい、大体目標をたて、計画をたてたのです。まず一番にお金がかからずに、一番効果的な勉強方法として、ラジオに頼ることに決めました。婦人に関する番組や、教養番組、学校放送などデキストを取りまして、継続的に聞きました。時間にすると、大体午前中二時間、午後二時間くらいを、その時間にあてまして、放送と放送の合間に家事を片付けてゆくようにしました。家事は主として肉休労働ですから、頭と身体と交互に使いし、肉休労働のあとに、ラジオを聞きながら身体を休めることができます。いまは、そんな具合に毎日一定のリズムにのつて、希望をもつて毎日を迎えております。

また子供がだんだん大きくなりまして、育児の時間がういてきましたので、昨年あたりから、婦人会などの団体の役員などもポツポツ引受けまして、地域を明るくするために微力を尽したいと考えております。

土屋 私は一週に一日を自由時間に持つておりますけれども、そこにゆくんには、私なりに努力したつもりです。主婦の仕事というのは、やる意思さえあればいくらでも出てくるものでして、それを

うまく処理するのはその人の能力次第だと思っております。そこで私はどうしてもしなければならぬ仕事と、まああともいいという仕事とを区別しております。そして一週間の計画を立て、土曜の午後や日曜日は家族がいて、仕事があるようにはかどりませんから、その日は私も家族と歩調を合せて、仕事をしないようにしております。また私は、あみものから洋服いつさい、主人の背広なんかは別ですけれど、自分で仕立てておりますので、そのための時間がとてもかかるのですが、水曜日を私のための水曜の自分の時間に決めて、その日は好きな刺繍や読書や竹細工を執習しております。まあそういうふうに水曜日は私のお休みというふうに決めて使っておりますけれども、ここまでくるには、何か家族にすまないような自分があるまけ者のような気持の抵抗があつてつらいこともありましたが、いまでは私もほかの日に十分やることをやつているのだから、このくらいの自由時間をもつのは当然だと信ずるようになっております。自分の暮しをたのしむことは、自分ばかりではなく、家族のものや社会のものをも幸福にすることのように思つております。でも、せつかくそういうふうな自由時間を生む努力や、生かす努力をしても、他人に買われてはなんにもならないと思ひます。買はず、買されずといひましようか、私のグループは訪問なんか午前中は避けて午後にするとか、そんなふうに心がけております。そして私の場合、週に一日の自由時間は、いまのところ私のために使つておりますが、もう少しできましたら社会のお役に立ちたい。そんなふうに考えを進めてゆきたいと思つております。

古谷 私の自由時間は十二時から三時までです。三時間の自由時

間はぜいたくなようですが、幸か不幸か、私は洋裁も、和裁も不器用でできませんので、もっぱら自分の教養を高めるために自由時間を用いております。高校、中学、小学校のPTAの仕事を手伝つておりますので、学校新聞の発表会や、青年学校、それからいろいろな会合などにも努めて出席して、私の自由時間を有意義にしております。自分のたつぷり恵まれた時間を、自由時間を、自由時間の少いお母さん達のために奉仕することは、ひいては社会のお役に立つのではないかと、ほこらしい考えをもつております。そして日曜日には必ず教会に行きます。教会生活も十年になりますが、その自由時間が形のない形になつて、私の信仰として実を結んだことは、意義があつたことと思ひます。

奥宮 私の子供は女の子が三人おりまして、ただいまパートに住んでおります。自由時間の解釈としては、家族とか、よその人に束縛されないで、自分で使う時間というふうに考えております。私は戦時中に結婚したもので、丁度戦時時代と、それから子供を育てる時代が混同した時代で、あまりものを考える暇もないままに忙しく過しておりました。朝から晩まで仕事に追われていたということの無意味さに気づき、自分のしたいことができるようにつとめ、そういうことからまた生活勉強のことをちゃんとしなければ、そういう時間が出てこないということなんかもわかつてきました。わたくしはあまり時間をたてて、キチンと毎日生活するということが得意でないものですから、明日はどこかに行かなければならぬといとか、なにかのいいことがあるからというような自分のたのしみのことを先に目標に立てては、励んで自由時間をふやしてゆくよ

うな方法になつてしまつたんですけれど、いまは子供会を一つ自分で好きでやつております。それが預つているお子さんのお母様に、自由時間を生み出してあげていような結果になつております。だんだん子供が大きくなつてきますと、今度は子供のほうが、学校で生活時間のことなんか勉強してきますと、こうしようじやないかといつてくれますし、家庭内では、私の自由時間に対する障害はありませんが、むしろ、世間の目と申しましようか、そういうことが、とても障害になつていように思ひます。お母さんがしよつ中外に出ていから、子供のことをあまりかまわなから子供さんが、愛想がないとか、そういうようなことをいわれて困つています。

中沢 私は主人が教員で、以前は松本にいましたが、ただ忙しい忙しいといつて毎日過して参りました。だけれども世間には家庭をもつてちゃんと立派に勤めをしていらつしやる主婦の方もおいでになる。自分はただこれじやいけなと思つて、なんとか自分の時間を生み出して、少しは勉強したいと考えました。まず、立ち話ですが、買物などに行きますと、忙しい忙しいといひながら、つい三十分、一時間くらいは費してしまつていたのです。これはもつたないから、なるべくお天気のあいざつくらいにとどめて早く帰るようにししました。次にお洗濯も、一日中ポツポツと洗つておりましたのを、日を決めまして、週に二回とか三回とか決めてしまひました。立話と洗濯に気をつけるようになりましたら、ほかの家事にも少しづつ注意するようになって、ずいぶん時間ができました。ラジオ

を聞いたり、新聞を読んだり、いろいろできるようになりましたが、そのころ主人が、農村の小学校に転勤し、子供も大きくなりましたので、私はとても生活に時間の余裕がでて参りました。そして田舎にきてみてびっくりしたのは、田植などの時には朝の四時頃から、おばあさんはじめ一家総出で、たき火をして田植をしている、そのそばに子供がワイワイと、まつ黒い顔して、稲入れの暇まきのままで泣いている、保育園がなかったからですが、私はなんだから一人で家にいるのがわるいような気がして、保母になるにはどうしたらいいかというようなことを、少しずつ勉強しました。そして、なんとか試験のほうも受かり、村の方に話したら、ぜひとも、というわけで、それから季節保育を始めまして今年で六年目になります。そんなことをしているうちに、今度は村のお母さん達と大変親しくなりました。話し合つてグループを作り冬になりますと、一緒に活動します。そのグループも、夜も皆さんなかなか忙しくて、集まる時間がまちまちなんです。その時に皆さんのおいでになるまで雑談しながら待つものですから、その時間がたのしいだらんの時になります。普段道で立ち話をしないので、そういうときに、いろいろ話をためてやつております。ただ、いま一つ悩んでいるのは、どうしても忙しいので、雨降りとか、夜にしか集まれないのです。なんとかこれを休みの日を決めて昼間集まりがもてるようになればと、そういうところに関心をもっています。

猿渡 私は自由時間としましては、ラジオを聞きながらあみものをしたり、裁縫をしたりするもの、のんびりしてよいから自由時間にいられています。けれど自分一人で誰にもさわれず読書のできる

時間が一番魅力です。それで自由時間を出しますやりくりですけれど、私のところでは、夫が自分の道具の上げおろしは勿論、自分の部屋の掃除も整理もやつてくれますし、子供も小さい時から自分のことは自分でするという習慣を身につけておられますから、私の場合、自由時間を生み出す際の一歩大きなまただけは不意の来客です。

楠 私なりに考えております自由時間は少し抽象的になります。が、自分の休める時間であり、またパタパタと家事に追われやすい自分を叱り、振り返つてみて、一番大切に思う時間でもあり、またとすると眠つてしまいがちな感覚を呼びさまして新しくしてやる時間であると考えております。広い知識を得るために広い勉強が必要だと思ふんですけれど、それも自由時間に当たたいと思つております。この自由時間を生み出すのに、私の努めた点は、まず一番最初、に、ありがたりのことですが、自由時間の必要性ということ、家族特に夫と話し合いました。第二に子供に自主性を持たせるようにということもありますが、家族全部の時間割表を作りまして、それを台所に貼つております。第三に家事の合理化、能率化を図るために、まず一年間の仕事の予定と計画を立てました。それから家具、衣類なんかの徹底的な分類ということを考え、索引帳を作りまして、家族の誰でもが、どこに何があるかということがすぐわかるようにしてあります。第四に他人の時間をドロボウしないと共に、自分も姿勢を崩さないようにということを考えました。特に形式的な交際とか、礼儀、無駄話などに時間をとられることがないよう努めました。それから夜はなるべく早く寝て、朝の六時にはサ

ッと起きて仕事ができるように努めております。

それからこれはただ私だけの問題ではありませんが、家の建て方が、普通の家であれば、主人の書斎があり子供の勉強場があつても、主婦の仕事場とか、勉強場がないということ、主婦が休める時間とか場所を少くしているという点で障害があるように思ひます。

大本 自由時間と申しますのは、さきほどから皆さんおつしやいましたように、まったく解放された時間を自由時間と思ひたいのですけれど、私のように家族構成が、五才の子供を頭に、赤ん坊まで三人の子供をもつていますと、家事を百点満点にやつておつては、とても自由時間が残らないのです。そこで私は、二十四時間の中から、三時間を抜きとつたわけです。ちよつと強引なようですが、私の生活には、二重時間というのが非常に多いのです。おつぱいを飲ませながら、小さい子供に電話を話してやつたり、お台所しながら幼稚園の子供の話を聞いてやつたり、また来客があつたらつくりいや何かをしながら応待する。洗濯とか掃除というものを、午前中に必ずきだという既成概念をなくしてしまつて、午前中の一斉掃除の時間を、とにかく自分の時間にして、洗濯とか掃除という時間は午後になわしてしまふ。それから忙しい忙しいで、頭の中がゴタゴタいたしますから、台所に黒板をかけて、なんでもメモすることにいたします。それから買物も保存のきくものとかはまとめて買うようにしております。そういうようないわば消極的な時間の作りかたとか、家庭の電化というような面も進めてゆきたいと思ひますけれど

ど、それは経済の問題とからみますので、私一人の力ではどうにもなりません。さきほどなたか自由時間を託児のほうに使つていらつしやるとおつしやいましたが、託児というものがもつと普及してゆきますと、私のように乳幼児をかかえた年令層の女性に、自由時間を多く持てるのじやないかと思つています。

母の時代と娘の時代

末広 私、この年になりました、未だ独身で教員をやつております。母に家事のことを一切やつてもらふ、摺摺の結構な身分のもので、お前は失格者だぞとおつしやられるかも知れませんが、私のことを少し話させてもらいたいと思ひます。

小学校の教員というものは、八時間労働では割切れない、ゴタゴタした仕事を、ふろしき包にひつ下げたり、頭の中に持つて帰つたり、ずいぶん時間的には制約されております。その中で私自身が自由時間をどう持つかということは、私自身にもいろいろ問題があるわけです。私はたのしい時間を自由時間だと思つております。自身自身の教養を高めるといふ面も、家庭のお母さんでは自由時間に入られると思ひますけれど、私としては、それは仕事のための勉強というふうに通つて切つて、たのしい時間を自由時間と呼びたいと思ふのです。そこでそのたのしい私の自由時間というのを少し話させていただきます。存じのように、教師には数年前から勤務評定という問題があります。ここで勤務の是非を論ずるつもりはありませんが、たとえどんな評定が行われようと、やはり本当の教育がしたいと願ひ、そのためには、お母さん達と手をつながなく

ではならないと、しみじみ思ったわけです。そのためにお母さんに呼びかけ、そしてグループを作ったのです。そしてそこで、お母さん達の集まりを重ねてゆくうちに、お母さん達の本当の生きた言葉や声を聞くことができました。お母さん達から本当にいろいろと勉強させていただいたのです。私にはどの自由時間よりも一番楽しいのが、そのグループの集りなんです。次の楽しみはものを書くという事です。自分をみつめるための一手段として、思い出した時に好きなように、日常生活の感想などを好きな時間に書いていくわけです。もう一つ書くことの楽しみの一つに、速くのかたと——仲間とか、先輩の方たちと——文通する楽しみというのがあるのです。身分違いと思えるような人から親切な返事を頂け、励まされることもあります。

また私たちのグループに、らくがき帳というのがあります。お母さんたちが思いついたなんでも書くノートにしましょうね、という事で、十人ほどの会員で一月で回覧して思い思いに気のついたことなどを書き進めてゆくわけです。また、私は自由時間の一つと思つて、楽しみながら子供の文集を作っています。その他、山や野を歩きながら、一人で考えることも楽しみの一つですし、演劇を見ることも大好きです。以上が、大体の私の楽しむための自由時間です。

松尾 私はおばあちゃんの問題として出してみたいと思います。私のところは一番小さい子が高校三年ですから、自分の自由時間というのはいへん自由にとれるわけです。おばあちゃんには八十過ぎておりますが、働くことがとても好きで、しょつ中こまこまやつ

ていないと気が済まないのです。私が自由時間を持つておりまして、おばあちゃんは何かしてありますと、やはりおばあちゃんに對して遺憾するんですね。私の家庭は非常に円満だと自分もそう思っていますし、人からもそう見られているのですが、それでも家庭内では、そういう問題があるわけです。私の考え方が古いのか、そういうことを話し合いたいと思います。

小池 私は自身で家庭にいる娘ですが、抽象的にいつて自由時間が欲しいとみんなが願うのは、仕事からの解放、周囲の人達からの解放と、それから婦人が一個の人間として成長したい、自己の確立という、この二つの面を考えての自由時間がほしいという問題ではないかと思つております。私は四人姉弟の長女で、家庭内も円満で、話し合いの場も十分あつて、よそさまから見れば、大変結構なようです。長女の私には私なりの不服があるわけです。昔の、私の母の時代は、女性が強したり、読書したりすることを好まなかつた時代じゃなかつたかと思ひます。ですから私が丁度一番読書をしたいた時に、子供のお守りやなにかで、母は私に読書をする時間を十分に与えてくれなかつたわけです。いまでも、読書をしたいたか、そういうところでよく母と摩擦するのですが、そこでまず母の気持ちを養ってもらい、母の気持とか、私の気持とかを、成長させるために、二年ほど前に私の近所に住むお母様方八人ばかりで、小さいサークルを作りました。そこで家庭の問題とか女性の生き方の問題について話し合つたわけです。そうすると私としての問題、母としての問題が、個人としての話し合いではなくて、一つの大きな問題として、その会でとり上げられますから、非常に効果がありまし

た。その中で母の気持というものも変えられて行きましたし、私自身母に對して理解してゆかなければならないことも、このサークルから学ぶことができたわけです。母も私と同じようにサークルに参加することになれば、お互いに時間を大切にしますし、母が忙しい時には、私が手伝いをしてサークルに出るようになりますといった具合に、家庭内でお互いに理解し、相談してゆけるようになりました。ここで問題として、ぜひ皆さんとお話したいのは、いままです婦人が自主性をもてないというこの原因が、何か男性のほうばかりに責任があるように思ふが、私自身がそんなふうな母との摩擦とか、いろいろなことを経験してむしろ、婦人同士がお互いの自主性というものを阻んでいるのじゃないかということに気づいたわけです。古い社会環境から、若い時に読書をしたり、自分の時間というものを持ち得なかつた人達こそ、次の世代の人達に對して理解をもつべきだと思うのですが、その次の抑圧というものから、次に生きる人達にも同じような生活を繰返ささせてきているのじゃないかと思つております。ですから姑と嫁との問題でも、つきるところは同じじゃないかと思ひます。

福島 先ほど松尾さんがおつしやいましたように、私も母とのことで自由時間を考えてみたのです。私も結婚して一月たち、二月たちするうちに、やはり母との年令の開きが、いろいろな問題を生み出してきました。これではいけない、必要以上の遠慮や、気がねをなくして、母には母で老後の自由を楽しんでもらい、私も嫁といったしましてのびのびと生活してみたいと思つたのです。それで毎日の身近かな生活の中で工夫してみました。まず掃除のことで母は

お掃除がとても好きで、最初のころは私がもうこれで切り上げてもいいのじゃないかと思つても、母が満足そうにしませんから、また同じところにぞうぎんをあてたり、そんな無駄な時間を費してしました。それで一週間の掃除予定表を作つてみたのです。一通りは毎日いたしますけれど、そのあとで、一日一カ所だけ入金にやつてみるようにいたしました。そうしますと、ガラスふきとか、タイルみがきとか、目立ちますので、母も喜んでくれ、私もお掃除の時間に区切りがつくようになったわけです。次に午前中に家事労働を終えますと、お昼過ぎはちよつとひまな時間があります。その間に私の好きなことをやつてみたいと思ひますけれど、母がそばで手もちぶさたにしておりますと、やつぱり気づまりです。ところがある時、母が読書好きのことを知りましたので、図書館で本を借り出しました。それから母が本を読むそばで、私は気がねなく、自分の好きなことができるようにしました。次に毎日の買物ですけれど、私の住んでおりますのは、町からちよつと離れておりますので、日曜日には一週間分の献立を大体立てて必ずメモをとつて入用なもの、保存のきくものをまとめて買うようにしています。次にラジオですけれど、家にこもりがちの主婦にとりましては、ラジオは唯一の楽しみで、教養や、知識の吸収源だと思ひますが、やはり母に気がねをして、聞きたい番組も十分に聞けない場合が多かつたのです。それでニュースや婦人番組など、ぜひ聞きたい時にだけスィッチを入れるようにして、母を誘いました。最初は一緒に聞かなかつたのですけれど、だんだん聞くようになり、それがまた夜、主人を連れての懇談にも大きく役立つようになって、うるさいときめ

ていたラジオを母が喜んで聞くようになりました。こんなことは本当に小さいことですけれど、こういう身近なことから、母と私の生活をわけこませることができ、私の自由時間も得られるようになったのです。

個人の自由時間と集団の自由時間

那須 いろいろな体験を伺ったのですけれど自由時間ということについて重要な定義が出されていると思つたのです。一つは自由時間というのは、結局意識の問題で、自分で自覚することから自主性が生れてくるのだという点。それから、自由時間というのは、労働から解放された時間、人との結びつきから解放された時間ではないけれども、自由時間というものは、家庭のなかで自分のためにもつ時間だという意見と家庭の外の集団の中でもつ時間だという二つの意見がありました。それから内容と関連しますけれど、自由時間というのは、一つの創造的な行為のための時間ではないという二つの意見と、気楽に楽しめる時間ではないという二つの意見もあつたと思うのです。こんなふうに自由時間の持ち方や内容についていくつかの意味づけが出てきましたが、まず、家庭のなかでひとりでもつ時間と家庭をはなれて会合などの中でもつ時間とありますが、どちらにも自由時間を意識付けたいかという問題から討議に入りましょう。

猿渡 自由時間は単独でもつ時間と集団でもつ時間と両方あつていいと思います。グループの例会をもちまして、単独の時間の持

てない人は、集団でもつ時間だけをやりくりしてでてきます。すると、せつかくの例会が、発言内容のない魅力のないものになってしまう。私は両方必要だと思っています。

土屋 いまの両方必要だという説に賛成ですけれど、とにかく自分のための時間を先に生み出すことが先じゃないかと思うのです。それを持ち寄りまして集団で何か社会のお役に立てるというような段階に進んでゆくべきだと思います。

那須 小さいお子さんをもっている場合どうなのでしょう。たとえば子供さんを家において外にでてゆくほうがいいのか。それとも先ず自分の家の中でそういう時間をもつほうがいいのか。

大本 やはり小さい子供がいますと、無論集団の時間もとりませんが、単独の自由時間というほうがパーセンテージが多くなります。

田村 私の場合は、社宅街で、皆さんそれぞれ勤務時間が違ふという関係もありまして、よその家に話に行くということより、まず自分の家の自由時間が一番先です。

谷津 私は、自由時間というものは、単独、集団にかかわらず、その人が楽しみをもつて、その人が満足していることなら、全部自由時間として認めてもいいのじゃないかと思っています。

小池 単独の時間をもつということも、お姑さんがいるとか、という場合は、とりこいひのじやないかと思っています。ですから、家族の関係の中で、どうして自由時間を持つかという問題がその前にあるのじやないかと思っています。

国分 私は単独の場合も、団体の場合も、両方自由にとれるので

すけれど、そのどちらを先にするかは、やはり自分自身のその時おかれた状態からの価値判断に左右されると思います。

中沢 私の今までの経験から申しますと、子供が小さくて手がかかる場合には、単独のほうで、子供が大きくなつて少し暇ができてますと、集団のほうに向かつてゆくのがじやないかと思っています。

山崎 単独も集団も両方必要だと思っています。単独では学習のできないことが集団では学習できるといふ効果があります。

松尾 私は、大体昼間を自分の集団の自由時間というものに当てて、夜は子供達と一緒に自分も勉強するために、自分の単独の自由時間ということにしております。

末広 子供が小さい時は、単独が多くなつて、集団にはでにくいというお話がありました。それは、とても不幸だと思ふんです。小さい子供があつても、集団で勉強しなければならぬことがたくさんあるんです。私たちのグループでは、乳幼児を連れて、おしめをもつてでてこれられるお母さんもうつしやいます。

生活設計の障害

那須 いろいろ出ましたが、話がいま障害の問題に関連して来ましたが、かえつて自由時間を持ちたいという意識がでてくるし、努力するということ、これはたしかだと思ひますけれど、障害があり過ぎて、およそ自由時間なんていうものを全然持てない、あるいは持てないと思ひ込んでいる人達が相当いるわけですね。主婦の立場で自由時間を持つ場合とか、サークル活動の場合の一番大きな障害になつていゝものは何だと思ひますか。

田村 私のところは、いま争議で有名な三井鉱山なんです。鉱山社宅では、本当の労働者と中間の職員と、それから上層の幹部というふうな生活の層がはつきりと別れていて、サークル運動をはじめまして、上層はすべて自分の思い通りにいつてしまふし、中間はどつちつかずでふらふらしているし、下のほうは炭労の炭婦協のような組織がかつちりある、という工合で全然育つていかないんです。自由時間なんか全然受けつけない状態です。

山崎 私達の地方は封建的でして、自由時間があつて、みんな一緒にグループで勉強しようとお誘ひしても、世間の目——星間から何かやつて遊んでいる——という世間の目を気にして、何か口実をつけて集まるのを避けようとするんです。また家庭内で主人の抵抗があります。私もどつかでようとするとやめると必らずいわれます。家をあけて外にでても、けつして家庭がマイナスになるようなことはないと話すんですけど、なかなかわかつてくれません。だんだん抵抗はうすくなつておりますけれど、まだ全然ないというわけにはゆかない状態です。

古谷 私が日曜に教会に行きましよう、親しい方にお誘ひしますと、主人が毎日働いて忙しいのに、日曜くらいはサーブスしなければいけないから、とおつしやいます。夫や、子供が協力して、明るいお母さん、理想的なお母さんに仕立てるために、自由時間をもつと与えてあげたらいいんじゃないかと思ひます。

福島 映画を見に行く時には、御近所の奥さん方に対しても「映画に行きます」と平気でいえますが、婦人会の講演会とか、自分の勉強のためになるような会合にでかけようとすると、あの奥さんあ

んなところに行つて威張つているという目で見られるので抵抗を感じるといふこともあります。

那須 夫に理解がないということが盛んにいわれるのですが、夫側から申しますと、夫としては会社が退けて家に帰る途中が一番自由時間だ、という調査の結果がでております。ということは、結局いまの男性にとつては、特に都市の場合ですけど、職場が一番楽しみになりつつあるわけです。家庭とか、自分の住んでいる周囲には楽しみはなくなつてきているわけです。家庭に魅力がなくなつてきているといふこと、これは問題にしていきたいと思います。主婦の楽しみとも関連させて。

榊 私は男性の味方に立つほうなんです。私は夫を大事にしたいと思ひます。主婦は家におりましたら、自由時間も持てますけれども、夫はお勤めの時間は、働きであり、その時に生産をしているのですから、帰ってくる夫にとつて家庭が一番楽しい場所であるように努めております。それで夫に対する私のサービスというところへんですけれど、夫に対する私の思いやりと、子供に対する思いやりの面のバランスをとつて、夫にも不満がないように、子供にも不満がないように努力しております。特に欲求不満ということがいらすゑる気持ちになつて、それが、一番不幸な状態だといふことは、私もまたときどき思ひ知らされておりますので、その欲求不満のしわよせがなるべく、男性の負担にならないよう、思いやりといふことと共に、家庭の仕事の面では、私が精出して能力をあげるようにしております。お互いに幸せになるためには、やはり男性を、男性の本能、本性といふものを理解し、男性にもまた私達の人間として成長

したいという欲求を理解してもらうことが大いに必要なことではないかと思ひます。

中沢 私はいまの御意見には賛成です、私は夫にとつて家庭が楽しい憩の場所であるようにと思つて、日曜日などには二、三年前から、私も一緒に暮らんかやつて、楽しんでおります。

那須 いまのお話はいいいですね。つまり今までの日本の家庭には、夫婦で楽しむ工夫が足りなかつたと思ひます。ですからお勤めの人は自分を回復する場所を外に求める。これは主婦の場合も同じだと思ひますが、いつも同じ場所ですと、自分というものを回復できないから、一旦そういう集団から離れて、自分を回復したいと思ひることがあります。男性側として、そういう家庭を築く工夫をぜひやつて頂きたいと思ひます。

谷津 私は自分も勤めを持つたことがありますし、割合男性と接する機会も多かつたものですから、お酒も頂くんです。土曜日には二人で晩酌やるんです。暮もするんです。そのほかです男のするようないことはたいてい私がするんです。ですから、夫と一緒に楽しむことはできるんですが、やはり私に対する魅力以外に、外で求めたいという男性的な本能はあると思ひます。如何でしょう。

那須 現在の日本の主婦は、自分の時間をもてないくらいに家の中の仕事に追い廻されていゝという状態ですから、夫以外の男性を異性としてみるだけの余裕がないのじやないかと思ひます。これがもう少し時間と経済に余裕ができたなら、夫をもう少し客観的に見られるのじやないでしょうか。そうなれば、女性も男性と同じで、一概に、そういうことが、男性だけの特権だとはいえないんじやない

かと思ひますが……。

末広 私の知つてゐる新婚早々の奥さんで、こんな奥さんがあるんです。御主人がとても勉強家で本を買つてきて夜勉強するんです。ところが奥さんは、私のことをかまつてくれないと不満なんです。激しい時には、電気を消して御主人の読書を妨げる。私が男性なら本を取上げられたり電気を消されたりしたら腹が立つと思ひます。だからやはりお互いに奥さんも、御主人も干渉しない、自由時間、それは本当に単独の個人の時間がなければならぬといふその話を聞いて痛感しました。

松尾 お互いの自由時間を干渉しないといふことですけれども、私の主人は頭を使う仕事なものですから、帰つてきますと、固い本を全然読まないんです。子供から何か質問された時に、それでは頼りないと思ひます。男の人にも、もう少し勉強してもらいたい。

榊 その御主人に勉強してほしいといふことで、私もそれ感ずるんですけれどね。やつぱり主人は疲れて帰つてくるんですから、主人に勉強せよといふよりも、家庭で勉強できる主婦が、本なり、ラジオなりでたくさん入つてくる知識を、道に話し合ひ、教えてやるようにしたいといふと思ひます。

奥宮 いまの主人と主婦の問題でも、私は外で主人が不満を発散するのも、やはり、その時は発散してきて、いい状態で家に帰つてきたいという気持ちだと思ひます。ですから、自由時間といふのも、そういう明日のための励みになるような、そのために自由時間といふものを使ひたいと思ひます。

那須 奥宮さんの発言は、自由時間の楽しみの場合にしても、それが現在だけの楽しみといふか、その場だけの楽しみじやなくて、やはり未来に対する、将来への準備といふか、そういう意味のありものでなければ、本当の楽しみにならない、そういう意味でしようね。夫婦の問題に少し焦点を合せたように思ひますから、ここで話を戻しましょう。

家庭婦人には、男性にも、職業婦人にもできない子供を育てるという重要な仕事があるのですが、この育児という面から障害、いまの自由時間の問題とも結びつけて、何か御意見ありませんか。

磯藤 やはり子供を立派に育てて社会に送り出すということが家庭婦人の一番大きな勤めだといふことになるでしょうね。

小池 私子供の立場として……子供は母親が立派に育てる育てるとおつしやいますけれど、子供はやはり父を通して、母を通して、育ち、将来家庭に入つた場合は、自分の父や母の影響が大きいと思ひます。ですから子供のほうからいへば、まず父や母が、いま生きてゐる世界で立派に生活して頂きたいわけですね。

園分 ただいまの小池さんの御意見と同意です。父母がしつかり自分というものをもち、そしてその中で伸びようとしてゐる姿を子供がキャッチしてくれたならば、一番よい環境において放任できるといふことが私の持論です。

末広 さきほど私は、お母さんの勉強といふものは、乳幼児が大きくなつてからでは間に合わないといふことを申しました。といふのは子供が大きくなつても、時代に取り残されない若々しい母親、話せる母になつてもらいたいといふことです。だからそのためには、

育児をしながらも自由時間をもつて、教養のために、趣味のために、そういった広い豊かなお母さんになつてもらいたいです。

大本 さきほど家事労働などを主人に任せしやうとおつしやいましたけれど、私のように小さい子供がたくさんおると、どうしても夫の働きがなくては、とても自分の時間なんか生み出せないんです。協力してもらつていいと思うんです。そして自分自身が伸びていつ、自分が老いた時にも、ちゃんと自分の心を持つていけることができるようになれば、現在の小さな犠牲はある程度目をつむつていいんじゃないかと思ひます。

吉谷 夫の協力ということですが、例えばグループなんかでたいてい思つて、子供に「あんたこれ、手伝つてちょうだい」というと「男の子にそんなことをさせるんじゃない、それは女の仕事だ」という前時代的な御主人もいらつしやると思ひます。ですから、男性のそういった古い考え方を啓蒙する必要があると思ひます。

榎 だいぶ私の発言が問題になつてゐるらしいんですけれど結局は自由時間の使い方とか、自由時間の定義とか、そういうものはその人々によつて、その家庭の環境によつて、それぞれ違つていいと思ひます。一番大事なことは、それを使つたり、考えたりする場合に、音楽的に申しますと、リズムとハーモニーとのバランスがとれるように工夫するというのが一番大事であつて、夫にやらせるとかやらせないとかが問題じゃないと思ひます。

みんなの力で自由時間を

那須 夫の障害、子供の障害、いろいろでましたね。そのほか、

外部の障害として、日本人はよく働く人間だ、勤勉だということ、非常に美德といわれ、そのことがかえつて主婦などの場合、いつも働いていなければ、なまけもの主婦だといふふうにとられ、自由時間というものがなくなつてきているという点、もう一つは、いろいろな施設がないために、自由時間がどうしてもとれないということ、またおたがいに訪問時間を考えない時間ドロボウが多いという点など、あるわけですが、それでは、そういった障害のため

に外にもでられない、あるいは自分の家の中でも、自由時間を持つていない人達のためには、一体どうすればいいんでしょうか。そういう意識さえもない人達に対して、どうすれば持たすことができるでしょうか。

小池 自由時間があるというのはある程度その人はその家庭の中で自己が確立している人じゃないかと思ひます。ですから私達外部からの働きかけというのにも必要ですけれど、まず家庭の中で話し合いをして、その中でお互いの生活を反省したりしてゆくようなことから始めていけば、自然に家庭の中で一人の妻として、母として娘としての自己が確立されるのではないかと思ひます。

末広 これは私の父兄の方の入つてゐる会のことですけれど、ある家のお姑さんが、お嫁さんをださない。外にだしたら自分の悪口いうからグループの中には入れないといふことを聞いたので、その人達が、それではその××さんの所で会場を持たしてもらおう、お姑さんに聞いてもらおうというわけで、会をその家に持つていつたのです。この解決方法のぜひはともかく、外部からの働きかけといふことの一例になると思ひます。

中沢 集会のための回覧板を回してもお姑さんが回覧板をみて、お嫁さんにいわないような場合がある。それで私たちは大きな声で「さあ行かんかい」と声をかけるんです。そうすると、あすこの嫁も行つたから、家だけださないわけにはいかん、行つてこいというわけで、しぶしぶ出して下さる。それから勉強の会というところへ行く方もいらつしやいますから「今日は雨降つたから、学校の体操場に行つて、バレーボールやらんかな」という調子で誘つて勉強のほうはいやでも、そんなことは昔を思い出してやりたくなるといふ方もあり、自然に勉強のほうにも入つてきます。初めは勉強々々といふよりも、楽しい雰囲気です誘ひ出すことも一つの方法だと思ひます。

山崎 私のほうの地方には、村念仏といつて、毎月一回宿は順回りで、朝の十時頃からお線香を立てまして、大きな珠数を回しながら念仏を唱えて、そのあと雑談をするという行事があります。その雑談がお昼過ぎまで続くのですが、その行事は義理ですから、そういう会合には家に病人があつても、どんなに忙しくてもでて行きます。しかし、グループ活動しなうなうなうと、暇があつても出ていらつしやらないわけです。ですから、私はそのお念仏のあとの雑談の時間を、みんなの話し合いのグループに活用したらいと思ひまして、その時間に教育映画などを借りたりして、話し合いの雰囲気をつくり、自由時間のことやら生活のことやらを徐々にその話の場を持ちこむことに成功しております。

田村 食して出られない方もいらつしやいますけれど、私達のはうは婦人会がありまして、職員住宅の奥さんが四百名ほど会員に

なつておりますが、札幌あたりから先生がいらして、講習会を開きまして、二十人も集めればいいほうです。そういうことに全然関心がないんです。自由時間はないわけじゃないんです。お手伝いさんなんかも使つてゐるし、そういう方をどういうふうな会合に引き出すかということが問題じゃないかと思ひます。

谷津 自由時間のない人に与えるといふことより、ありながらそれを無意味に過しているといふ人のほうがむしろかたしと思ひます。

那須 ここで、きょうの特別オブザーバーの方に、この会合のいままでの時議について、何か御助言を頂きたいと思ひます。有権者同盟の小池さんひとつ。

小池(有権者同盟) いままで皆さんのご発言を伺つておりまして、どれもこれも私が歩んでまいりました道ばかりです。深い感動を受けました。私は家庭環境は恵まれております。自分が自由時間を持ちたいと思へば、いくらでも持つてたわけです。子供が小さいうちは、自分の時間のやりくりの工夫をしなければなりませんでしたが、子供が大きくなりまして、PTA活動ということに、自分と社会とのつながりを見出したわけです。このことについては、今度は外の障害が出たわけで、単純な好奇心やら、中傷などもありましたが、私はこれに対して実行をもつて当らうと思つたんです。家の中は、いつお客様がいらしても笑われないように、キチンと整理をし、いつ子供が下着をだしたいと思つてもだせるように、主人が洋服ダンスをあけてもキチンと整理がされてゐるように、食事は自分が焼つてきても、すぐできるように、でかける前に材料を洗つて

おくとか、いうふうに行いました。そして克服できました。そうしておりますうちに自由時間が勉強の場から、今度は一種の職業になつてしまつたわけです。そうなりますと、今度は道などで知っている方に話しかけられましたが、時間に拘束されていますから、ゆつくりお相手できません。そんなことが重なるうちに、小池というやつはどうも冷たいという評判ができたわけです。私はこうした障害をどうして乗り越えようかと考えたのですが、これは結局自分の実行力と実績で、誤解をとりて貰うより仕方がないと思うのです。私のあとに続いて下さるたくさんの方々が、社会にでて下さるためには、やはりそういうものをぶちこわしてゆかなければならないと思つて、じつとこらえて、一生懸命実行の面につきあふるようになつております。

奥(主婦連) 私も小さい子供を持つておりますので、さきほどからのお子さんをもちの方のお話、いちいち身に感えるのですけれど、私も好きが高じて仕事になりまして、婦人団体の事務局のほかに常勤でしております。さきほど気がねという問題をおつしやつた方があつたのですが、私も勤めていると申ししても、好きで婦人団体のほうにでているものですから、家のものに非常に気がねをして、日曜日になると、朝から一人で働いて、あれもして、これもしてということばかり考へて、あくせく働くことばかり考へております。お手伝いさんに対する気がねもあるわけです。そういう生活をしておりますが、この頃になつて、自分は気がねして、大いにやつてゐるつもりでも、家族のものが、それで満足しているかということに疑いをもつたわけです。子供にすれば、やはり普段家にな

いのだから、日曜日から一緒に楽しんでほしいとか、遊んでほしいという気がねがあるわけですから、この頃は多少のことは目をつぶつても、みんなが一緒に遊びに行こうという時は一緒に外になつて外にです。

それからもう一つ、私が婦人団体に頭をつつ込んでおりますけれども、今日のお話を伺つておりますと、自由時間の問題でも、いろいろな問題でも、個人の問題をずいぶん皆さん考へていらつしやるけれど、やはりどなたもおつしやいました。一人では解決できない問題も、まとまつて考えれば解決できる問題がたくさんあるのじやないかという御発言に非常に、共感するんです。主婦連合会という団体ができました時の私達のスローガンが「ブツブツと一人グチ、グチがふえ、グチをいうより主婦の会」というようなことで、最後が「ドンとぶつかりや主婦の勝ち」というのですけれど、一人でブツブツグチをいう時間に、ちよつとでも集まつてお話し合いをすれば、案外いい知恵も湧いてくるし、いい考へ方も生れて、家の中でそれを活かすことから、ひいては社会にも広めてゆくこともできると思うのです。自由時間を持ってない方もあるし、お子さんがかかえてでられない方もあるし、託児所の問題から、学校の教育の問題など、いろいろな問題を皆さんの結集した力で、ドンとぶつかりや主婦の勝ちですから、勝ちとつてゆかれるようにお願いしたいのです。そういうことをもう少し明日の集まりの時にでも、お話しをもたれたらと思います。

小森(友の会) 私も皆さんのお話を、たいへん感銘深く興味深く伺つておりました。私もいまは二十前後の子供が四人いますが、十

年前、十五年前は本当に忙しい主婦でした。私も子供が小さくても、どんなに忙しくても、やはり家の中だけに閉じ込めてゐることは残念だと思ひます。私は少しの時間でも、大勢のお友達の中に入つて暮したい。やはり自分のためだけではなくて、世の中のためにお役に立つことができるようにというふうな、そういう気持ちをずつと持つております。たとえば小さい赤ん坊の時はいちい同じような気持ちをもつていらつしやる方に、子供を預かつていただいて、喜びいさんで、二時間、三時間をなつてうれい時間だらうと思つて会合にでかけたようなこともありまして、反対にほかのお子さんをお預りして、その方を出して上げたということもありました。志を同じくする。意欲をもつ女の人がだんだんふえてくれば、お互いに一人では解決できないことを解決してゆくことができるのです。自由時間の使い方にしても、その障害に対する考へ方にしても、やはりそれぞれの環境とか、それまでの考へ方の育ちぐあいというふうなところによつて、いま一様にどうすればよいとはいへないことはできないと思ひますが、やはり私達の気持ちの方というものが、だんだん高められてゆつて、その時間というものの使い方、実行の方法もだんだんよいものになつてくるのだと思ひます。この婦人連の標語にもあります「自分のために、またみんなの幸せのために」という言葉通り、自己の確立とよい社会を目指す、少しの力でも捧げたいという、気持ちが固々相まつて、だんだん育つてゆくところに、本当に自由時間のよい使い方が生まれると思ひます。

(第一日閉会)

人の意見をよく聞こう

那須 昨日四つの班にわかれて、いろいろな施設を見学しました。懇談会などをしたわけですが、それにつきまして、東京班から順番に感想を述べていただきました。

田村 初めに三鷹の市役所に行きまして、市長さんのご説明で市の保育所施設の見学にまいりました。完備した保育所ではほんとうにうらやましいと思つて帰つてまいりました。保護さんには、未婚の方を採用しているそうです。一日に六千円ほどかかるそうですが、最高千五百円までが父兄負担になり、あとは市と園から補助が出ているそうです。生後二月から三才ぐらいまでの赤ちゃんが、朝早くから夜はおそいときで九時ぐらゐまで、衛生的な環境の中に預けられていました。幼児期の、母親の愛情の一番必要な時に、そうして離されていることに何か疑問を感じましたが、その他の点では大変羨しいと思ひました。

次に横河電機へまいりました。ここで驚かされたのは、女子の衛生管理ということが立派に完備されていることでした。

次は協同乳業へまいりましたが、オートメーションのために人員がとて少なくて、あれではますます就職がむずかしくなるんじゃないかと感じました。それから緑町団地へ行きました。そこはよい意味での個人主義の生活をしたくて入つて来る方が多いそうです。が、いざ住んでみると家庭の内部の生活にまで干渉が多すぎて、前に住んでいた町より、かえつて生活が繁雑になつて困つてゐる方もあるというお話でした。それから豊林省の生活改善技術館へ行きま

した。生活改善の普及員という方たちが各地方に散らばっていて、受け持ちの地方で何か問題が起きた場合にはその問題をそこへ持ってきて、どういうふうに変更したら一番よくなるかという、それをもみなで研究して、解決がつけばそれを地方に持って帰る、それでもまだ解決できないような問題は、専門技術員という方を交えて解決するといったような研究所です。

那須 次に神奈川へいらつしやつた班の方に一つ……。

大本 三菱重工横浜造船所の社宅の主婦の方達と話し合いました。その主婦の方は、生活も保証されていて経済的に恵まれているためか、あんがい時間にたいして意識が低調なので驚きました。自由時間というのがあるんですかというふうなことを、反対に向こうから聞かれて、びっくりしたようなわけです。また婦人会とかいろいろなグループができていますが、ぜんぜん横の連絡がないんです。ですから、集まっても、何を話したらいいんでしょうというような合でテーマが見つからない、自分たちにたいして自己の目ざめがないように見受けられました。

山崎 神奈川県の勤労婦人会館も見学しました。働く婦人のために休養といひの施設として建てられた百五十人ほどの収容能力をもつりつばな会館です。そこで勤労大学という講座を開いているのですが、希望者が少なく、十二、三名ほどしか集まらないそうです。せつかくよい施設を作り、いろんなことをどんどんやつて婦人の向上に努めようと思つてもこれではなんにもならないと思ひました。

那須 埼玉班どなたでもどうぞ。

行きましたが、全くオートメーション化されていて、工場の中は清潔です。厚生設備も行き届いていますし、何というか、すばらしくて、ほんとうにうらやましいような、気がいたしました。

小池 生活改善クラブのほうの農家の方たちとお話しして私が住んでいる中都市の生活と比較して強く感じましたことは、生活改善クラブの皆さんが手をつないで、特に生活改善に効果をあげた理由は、自分たちに関接的なものよりも、まず直接的な効果をあげるもの、特に農村の場合は食生活をとり上げたということだと思ひます。それからもう一つ、都市と農村と比べた場合には、農村の方が割合に生活改善とかいろんな婦人の結集とかに、抵抗がたぐさんありませんが、都市に比べて割合にサークルが作りやすいという原因は、それは生活構造が似ているという点にあるんじゃないかと思ひます。都市の場合は、サラリーマンもあり商家もありというふうで、生活構造がそれぞれに違いますから、それだけにサークルなどを作る場合には、どういうところから結びついたらいいかということが大きな壁になつています、それをぜひこの婦人会議の中で話し合つていただきたいのです。

古谷 私、美園村の改善クラブの会誌の最初にあつた信条が私の心に残つたんですよ。それは「不平や不満はだれだつてある。しかしながら新しい心構え、身をもつて職責に準ずるところに発達と進歩の楽しみがある。人の意見をよく聞いて、よいところを取り入れてみな二人一人が発表する機会を持つ」という信条です。

那須 それでは最後に千葉班の方どなたでも。

国分 まず千葉火力発電所にまいりました。一日の出力が六十万

奥宮 埼玉班は、初めに川口の内燃機の鋳物の工場へまいりました。ここで残念だと思ひましたことは、ここでは労使の関係がうまくいつているので労働組合を作つていないということです。うまくいつていても、そういうものはあつたほうがいいんじゃないかと思ひました。そこを出ましてから美園村の大門の生活改善クラブの方、婦人会の方とお話し合いをいたしました。生活改善クラブの方は大体三十戸のうち半分、十六戸ぐらい加入していて、年間の事業計画を立ててやるそうです。その計画の中にはほんとうに自分たちの生活に直結したこと、料理の研究、ワラぶとんの作り方、メートル法の講習、染色とか、一年の行事で盆踊りとか新年宴会ということも入つております。ずいぶんこれはいい会だと思ひました。私はその方々のお話しを聞いていて感じたことは、ここは東京に近いせいもあつて、とても意識とか文化とかいう面では、そうとう程度が高いんじゃないかと思ひました。考え方もずいぶん深いしなまることもほんとうに地についていて、上すべりの感じがありません。そうして一番最後に、農家のお嫁に来る人がない、そういう問題は、どういうふうにしたらいいいでしょうかと悩みを訴えられていました。

その次は盆裁村へまいりました。私は生活に時間割をといつて、一分もむだにすまいというような時間割を立ててみたりして、生活してきたんですけれども、ここで何百年もかかつたという盆裁を見まして、何か自分たちの考えていたことがとてもこせこせしていたような感じを受けて長い長い年代の大きな世界というものを思ひます。そのような感じがいたしました。それから、次に片倉の靴下の工場に

キロワットという大きな火力発電所ですが、オートメーションによつて、従業員が三十人か四十人ぐらいですんでしまうということ、日本の就職難といふことを考えさせられました。

次に登戸（ノブト）の生活協同組合の方とお話し合いをしました。まず会を始めた動機としまして、戦後の物資不足、物価高、お台所をあずかる主婦の立場として何とかしたいということから始まつて、非常にむずかしい商売の経営であるのに、女の手で非常な難関を突破して今日まで続いているそうです。需要状況を見ますと、今組合員は六百人ぐらになつていて、月額千円ぐら、多い方は五千円も六千円も買つている方もあります。次の農業技術研究所というところは牛、馬、細羊などの人工受精ということについて、説明を聞きました。

土屋 生協の経営のことですが、組合長さんが月に四千円、幹事が二千五百円、理事の方が一年を通して二千円の報酬で、一日おきに半日ずつ奉仕なさつていらつしやるそうです。この組合員の奉仕の上に経営が成り立っているということは、もつともつとよく考えなきやいけないことだと思ひました。

自由時間と暮らしの相違

那須 見学の感想はこのくらいにしまして、一昨日のテーマを、もう少し発展させていきましょう。それじゃあ復習の意味で一昨日の問題になつた点や意見をまとめてみます。

自由時間に対する考え方は、いろいろ述べられたのですが、その中で大きくわかれた意見がありました。一つは自分一人でもつ時間

として自由時間を考えていかなきゃいけない。自分を反省するといいますが、自分自身を向上させていくという、そういう時間を作るべきだ、それが自由時間の本来の意味だ、こういう考え方です。それから集團の中で、いろんな場合の中で自分の自由時間を作つていき、それを生かしていく、そのほうが——集團の中で作つていくほうがほんとうの自由時間の作り方だ。こういう二つの考え方がありまして、それについていろいろ意見がかわりました。

それから二番目には、自由時間をどうして作つたかということ。これについては、皆さんは生活技術のほうでいろいろすばらしい知恵を出して下さいましたが、その生活技術を生かすためには、これまでの既成概念を捨てて、できるだけ計画性をもたすことと、家族との協力態勢を作ることが強調されていきました。たとえば夫には話し合いを通じて、子供には自主性を養うようにしむけ、老人には自由時間の楽しさを教えてあげる。そういうふうなことから家族の協力を得て、自由時間を獲得するということだつたと思います。また、前後しましたが、計画性の点では、自由時間の天引きですね。最初からきめておいて、そうしてその時間をとるようにする。それから生活の中で自分の目標を立ててやらなければならぬ。その日暮らしでない生活から、おのずから自由時間が生まれてくるんだという、こういう意見です。また、自由時間を作る工夫には、近所との交際、おつき合いがあるという注目すべき発言がありました。あまり立ち話とか、噂話というふうなもので時間を費さないようにして、簡潔化していかなければならないということでした。これは次の三番目の問題と関連いたしますが、現在の主婦の境遇のなかで自

由時間を作る上に何が一番障害となつていくかという問題です。まず最初に世間の思わくがあります。ひまを作ると世間の人は、あの人は働かない怠け者だという。おしやべりを早く切り上げると、あの人は冷たい人間だというように、世間が自由時間を拘束しているんです。その意見ですが、育児は非常に時間をとるので、育児時間をできるだけ合理化して、自由時間を作つていかなければならぬ。その次は、主婦の独立した部屋がないこと。自分で自由時間をもつとしても、独立した部屋がないから、どうしても妨害されてしまう。それから次に来客ですね。お客様がしよつちゅう見えるので、他人のために自分の時間をどうばうされる。次が、姑さんと一緒に住んでいる家庭では、どうしても姑さんに対する遠慮、気がねがあるから、それができるだけなくする工夫をしなければならぬ。最後に団体の仕事の過重、これはいくつもの団体にたくさん役を持たされ、重複して、自由時間がなくなってくる。団体に参加するということは自由時間のようだけれど、幾つもの団体に自分が関係していくと、今度は拘束されてしまう。まあ大体以上のようなことが、問題として出され、考えられたわけですが、何といつても家庭にいる主婦は自由時間に恵まれておりますから、どうしてもその自由時間をいかに有効に使うかというの方が、やはり大切なテーマになると思いますので、それを一つ皆さんで討議したいと思いますが、いかがですか……。

小池 家庭の主婦が、自由時間というものに対しての意識を、どの程度持っているかという問題だろうと思うのです。だからその点について、なぜ意識を持たないのか、その辺の、家庭内でのものと

複雑な問題が——生活時間、自由時間を考える場合の問題がまだあると思うのです。

那須 それではなぜ主婦が自由時間を自覚できないのかという問題から入りましょう。

末広 私のグループが発足したときは、自分は本を読んだことがないし、字も書いたことがない、だから集つて何か言おうとばかりだというのがすぐわかる。だから集まつて話しをするのはいやだというので、なかなか集まらなかつたわけです。劣等感といえますか、無意味な劣等意識の問題です。

土屋 婦人週刊のテーマになつてから、はじめて皆さんもこのことを考えたんじゃないかと思うんですけれどもその前に生活時間なんてことを考えておられたでしょうか。忙しさになれてしまつて、こういうものだ、これが当りまえだというふうな思い込んで疑わなかつたんじゃないかと思うのですけれども……。

田村 私の場合、結婚後十三年になりますけれども、ほとんど一年ぐらいいは忙しいで過ごしていったんです。一昨年でしたでしょうか、ちよつと故障があつたもんですから、お母さんのからだが一番大事だ、みんなでこれから協力して薬にさせてやらないかという話し合いになりました。それから私にも自分という觀念が出てくるようになりました。ですから生活時間というものの意識が出はじめたのは、今から二年ぐらいい前なんです。

大本 意識のない方をどういうふうにしたらよいかということ、馬を水ぎわに連れて行つても飲まないのはどうしようもないのと同じで、どうしようもないと思います。

奥宮 子供の教育ということから、相当たくさんの方が意識を持ち始めて来ています。子供が学校に上がるようになってから、PTAとかに出てみて、自分というものがいかに視野が狭いかわかつてくる。それからそういう時間を生み出してないということに疑問を持ち出して考え始めます。

末広 ある婦人会議で意識の問題は経済が先だというふうなことが問題になりました。農村では、ぎりぎり最低の暮らしをしているから、自由時間なんてとんでもない、もつと豊かになれば、自由時間というものももてるんじゃないかという意見と、日本中の貧しい暮らしをしている者が豊かになるまで待つていたら、とても間に合わない、だからぎりぎりの暮らしの中にも、何とか自由時間は自分の心がけ次第で作れるはずだというふうな意見と出ました。

弾力のある自由時間を

那須 自由時間の意識の問題、これは非常に重要な問題ですけれども、それだけだと抽象的になるから、使い方と結びつけながら考えていきたいと思います。それから経済の問題も重要な問題だと思つていいます。私、皆さんに、自分のためにだけ使うお金が、月にどのくらいあるかと思つて聞いてみたんですが、六百円ぐらいの人が非常に多いです。一カ月六百円で何ができますか？主婦が、せつかく自由時間を作り出しても、自分の六百円ベースでは何もできない。結局福物をしたりしても、お金をとるための拘束された時間になりかねない。ほんとうの自由時間の使い方ということをよく考えていたいただきたいと思いますが、現在、皆さんどういうふうにお使いに

なっているか、それをお聞かせ願いますようか。

樺島 私は一昨日もお話ししましたように主人と主人の母との三人ぐらしでございますから、主人が出動いたしましたあとは、ぜんぜん姑と二人暮らしで、一時は切実に自由時間がほしいと願いました。そして、姑に気がねなく自由時間を持つために、姑の趣味と歩調を合わせることに努めました。そして、それに自分も興味もてるようになりましてから、今は姑と一緒に楽しく有効に時間を使っています。

小池 家庭から解放された達った雰囲気の中で自分というものを見つめるということ——結局それはサークルになるんですけれども、娘時代でなければ学ぶことのできないものがサークルの中にはたくさんあるんじゃないかと思うのです。そういうことを学ぶために、私は自由時間はサークルに出て行つて視野を広げていく、そのサークルに出るための勉強、それは読書になるんですけれども、そういうものを自由時間に当てたいと思います。

松尾 自分一人での自由時間というのは、もっぱら読書です。集団の中での自由時間は、月一回のグループの例会と、公民館講座というので習い覚えしました購買技術を生かしまして、文化団体の購買印刷やら、娘たち同級生の文集の編集発行を楽しくやつております。

末広 自由時間をどうするかということは、初めに話しましたが、主に読書とものを書くということに使っております。

大本 自由時間といつても、子供が小さいものですから、とにかく本を読んだり書いたり、考えたりというようなことは子供が寝

しまつてからの九時以後にやり、昼間の三時間の自由時間は、子供が成長した後、豊富にありある自由時間が得られるときのことを考えて洋服の勉強を続けております。

那須 家庭のその会合はどういう種類の会合に出られますか。

大本 私のほうに新生活グループという、会社の組織で従業員の主婦が手をつなぐという大きなグループがありますから、その会合と、それから仏教に入つてますので、月二回の仏教の会に出かけます。

神 私は自由時間は合計三時間半持つております。そのうち一時間半は読書、二時間を詩を作ることをやつており二時間の詩を作る時間には、少しがんばつて詩集でも出したという念願をもっておりますものですから、いい詩を少しでもよい作ろうと思つて、現在進行中です。会合のほうには婦人のグループと近代詩のグループに出席するのですが、それは自由時間には入つておりません。

濱瀬 私午前中の一時間は新聞を読みます。午後は三時間ありますが、そのうちの二時間は夕食のあとの一家の団らん時間で、あと二時間は雑誌と単行本を読んでいます。会合は月一回のグループ会に出ます。

中沢 私は自由時間を子供も主人も入らない昼間一人だけの楽しむ時間ということで、読書やら、歌やら、オルガンやらいろんなことをいたします。

奥宮 私一週間のうちで、必ずしもしていることというのはグループに属していてお役をいただいているので、そのために一日半ぐら

い。それから子供会、託児ですけれども、それに一日。お天気がよければテニスを一時間か二時間します。それが大体一週間のうちできまつてゐることです。

古谷 私の自由時間はお昼から三時までの三時間です。一カ月の会合をメモしてありますから、PTAとか集会のないときはゆつくりラジオを聞きながら、縫いものをしたり読書したりしています。それから、投書婦人みたいですが、自分の意見を投書したり、自分がどこまで自分の意思を示せるかということをやつております。

土屋 私は長女がオルガンとピアノに行つてますので、一人分の月謝で二人習おうというわけで、一緒に行つて見ております。そして帰つて来て、娘と練習したり、楽しんでおります。また近所の人たちと、週に一度の集まりを持ちまして、手芸を持ち寄つたりしています。それからひまな顔をしますと、六年生の子供が相撲をしようといひますから、相撲をやつております。(笑聲)

山崎 私の場合は子供一人東京に出して勉強させておりますので、経済的余裕もないものですから、なるべくお金のかからない勉強の方法としまして、この前もお話ししましたように、自分の聞きたいラジオは、テキストを予約で買ひまして、継続的にそれを聞いています。本も回覧して読んでいます。

国分 一番だらしのない生活しているのが私ではないかと思ひます。ぜんぜん無計画で、行き当りばつたりでございます。それは第一に約束が非常に多いことでございます。私の場合、ほんとうに一日の時間の計画ができません。外での時間はPTAとか公民館の

婦人会、それが役員しておりますので、自由時間というよりも、ある程度押しつけられている時間になるわけですが……。それから個人としては、教養として県社会教育学会というのに出て勉強しています。そのほか週に一度謡曲を習つております。

谷津 幼児を抱えておりますが、自分の自由時間として、昨年からは三時間ほど持つています。自分の楽しみのためには、読書とか、それから興味、というとおかしいのですが、蔵王が見えますので、そこに椅子を持ち出して、引つくりかえつて蔵王を眺めながらいろいろ考えたり、ノートに書きつづつておいたり、そういうことに使っています。グループというのは現在ないんですけれども、私の家に近所の方に週に一回ぐら集まつていただいて、皆さんのぐちを聞いたり、たまには私の読んだ本の感想などもお話ししたりいたします。それからお天気のよいときはバドミントンなどもいたします。

田村 私は主人が交代勤務のために、皆さんのようにきちんとした自由時間がきまりませんが、主人の勤務のために夜中でもちよこちよこ起きなければならぬものですから、疲勞を回復するためには、昼間二十分でも三十分でも横になつてます。そのほか、ものを作るのが好きなものですから、洋服を縫ったり手芸をしたり、読書をしたりです。土曜日には小学校の母親学級がありますので、午後一時からそれに出席いたします。それから夜主人が家におりますのが一カ月のうちで一週間だけです。そのときは夜の仕事はやめまして、テレビを見たり、子供たちと木琴で合奏したりして楽しく過ごしております。そのほか、飼っている犬の散歩に駆け回つた

り私の自由時間はいろいろなことに使っています。

家に閉じこもらずに……

那須 それでは引き続き、討論に入りたいと思いますが、午前中から聞いておられたオブザーバーの方々に、何か問題があるか聞かせていただきますよう。

小池(有権者同盟) 一昨日から引き続いて今日の午前中の皆さんの発言を伺っておりまして、金般的にいつて他の社会とのつながりというのを、あんまりお考えになつていらつしやらないかと思うのです。この自由時間を何らかの形で社会をよくすること、自分の村づくり、町づくり、国づくりのために役立てていつていただきたいということです。そういう面の建設的な意見を、一つ午後は伺わせていただきたいと思っています。

奥(主婦連) 私も同じことを考えていました。今度のテーマの中に、みんなのしあわせのために、という言葉がありますし、相当の自由時間をお持ちになつていらつしやれば、少しはそういうほうにその時間をさいていただいて、またそういうことをお考えいただきたい、またそういうことをお考えいただくような雰囲気、持つて帰つていただきたいと思いました。

那須 今の御意見は、自分のことや自分の家族のことだけしか考えていないような印象を受けたということだと思つていますが、それについて、どうでしょうか、もつとほかのグループ活動といひますか、外の社会的な活動と、自分の自由時間とを、どういうふうにつ

びつけてお使いになろうと考えているのか、こういうことだろうかと思うのですけれど。

榎島 オブザーバーの方のお話を聞いて、ほんとうに申しわけないと思います。私は現在、大へん自由時間に恵まれておりますが、これといつて社会のための仕事をしておりません。しかし先頃近所の奥さんと相談いたしました、奥繁期の託児所を聞くことを是非実現したいと思つています。

榎渡 私は外へ出て働くための基礎を家庭においてつちかつてから、外で活動したいというふうにあります。人がそういうふうについていこうというのでなく、その判断を自分で持つための勉強をしつかりして、それからもつと外に出たいと思つております。

谷津 さきほど、申し上げましたが、社会のためにやりたいことは老人の問題なんですけれども、現在幼児を抱えておりますので、家を外にすることはできません。しかし、これは一例ですが、この間肢体不自由児通園というものがあつたので、そのときラジオや新聞などに投稿しましたところ、それを取り上げていただきました、各地のお母さん方からも反響を受けたのです。家にあつてもそういうふうな点で、微力を尽すことが出来るのだと考えます。

古谷 社会活動というんですか、間接に私も働いていると思つては、信仰を通しての問題です。私は教会に行きまして十年になりますけれども、ほんとうに信仰をお持ち下さる方十二、三人で伝道して、とてもいい集まりを作つています。そんなことも私は社会に貢献しているんじゃないかと思ひます。

奥宮 社会活動は家庭で基礎を作つてからということについて

よつと……。私はうちの中で基礎を作つていくということも賛成ですけれども、それだけの一方交通でなく自分からも外へ出て行つて勉強するということになければ、進歩がないように思ひます。自由時間もまたそういうふうに使つてこそいいと思ひます。

田村 私の場合は、二年ほど前に地域母の会という会員組織の婦人団体の総務を仰せつかつたんです。そして、ガリ版切りはしななければならぬ、原稿は考えなければならぬで、とても忙しい思ひをしました。原稿を書くにはやつぱり勉強しなければならぬ、今から考えますと、それが生活をとて合理化して、少しでも自分の生活時間を生み出すものになつたのです。それで今度から会の役員をかわりばんこに、一年ごとに別の方がすることにしました。

土屋 外へ出て社会の役に立つとおつしやいましたけれども、具体的に申しまして、どんなことが、はたしてほんとうに役に立つことかというのが私にわからない。もつと具体的に、こういうふうな役に立つてほしい。こういうことのほうが役に立つということが、ちよつとわからないのです。

小池 私が母と一緒にやつているお母さん方八人の子供を守る会というサークルも、初めは自分たちの問題だけを解決するというので始めたんです。けれども、やつていふうちに、自分の子供さえよければよい、自分の家庭さえよければよいというのではいけないといふことになりました。去年の夏休みでしたが、各家で自分の読んできました本などを持ち寄つて、子供を守る会図書館を作つたんです。そしてその圖書を、自分たちのサークルだけでなくてそれに入つてないうちの子供さんにも見せようじやないかというので、通番

で図書当番を作つて、一週間おきにグループの会員の家の廊下を借りておいてやりました。そうしますと、そんなこともするのかわいうので、今まであまり関心のなかつたお母さん方も、子供を通じてつながりをもつ機会をもつたわけです。それからもう一つは、いつもふところにナイフをかくしているような警察でも目をつけられて不良少年がいたんです。それで、その子を見んなでおおしていかうじやないかということになりました。その子供はお母さんがいない家庭でしたので、会員の人たちが、方々へ一緒に連れて行つたりして、そんなことから今出発しております。そういうことも、自分の身近かな小さいことですけれども、社会に少しでも役立てるといふような一つの意義のある仕事じやないかと、私は思つてゐるのです。

園分 私土屋さんにお答えしたいのですが、個人的に意義あることと思ひますのは、ラジオを聞いたり新聞を読んだり、本を読んだりする。そして自分の意見とか考へてゐることをたしかめるのいいんですけれども、グループで話し合つて、他人の意見を聞きながらたしかめるということが、非常に大切なことじやないかと思ひます。

那須 子供を通じての集まり、子供を通じての地域の結びつきといふこと、これが婦人の場合に、割合入りやすいといふことなんですね。

中沢 私も子供を通じてすけれども、いなかにいるものだから保育園をやつたりなんかして、親しくなりまして、お母さん方でバレーボールを始めました。そうしますと、それが面白くて、赤ちや

ん抱いてでも、会のある日は皆さん出てきました。そうしたら、いつも子供があるからといって、どこへも出られないお母さん方が、子供連れてでも気がねなく出られるグループができたからと、とても楽しんで下さるわけです。自分だけの勉強もいいですが、村の人々も喜んで一緒に集まり合えるそんな活動も、少しは社会に尽くしているのかなあと思っているんです。

榊 私は直接社会に出て働くとか、そういうことは、今のところ時間がないのですからやつてないんですけれども、詩を作るということにおいて、主に社会の矛盾とか、政治に対する批判、よい社会にするためのじやまになつていっているもの、そういうものに目をつけて、それを少しでも発表して一人でも多く訴えたいという気持ちなんです。

山崎 自分が幸福になるためには、やはり私が住んでいる地域全体がよくならなければ、自分も幸福になれないわけですから、私のグループでは、自分たちの教養のためばかりでなく、住んでいる地域の困っている問題を見つけて、その問題に対して、みんなでいろいろ勉強したり、考えあつたり、話し合つたりして、それを解決していく方向にもつていくように考えております。

那須 それぞれの地域にはいろいろ問題があるわけですが、それが直接間接に自分の家庭生活に影響があるという自覚がありませんと、なかなか外に出て積極的な活動は期待できないわけですね。

末広 私は、私たちが正しい判断と批判力を身につけることが、ひいてはよい社会を作り、子供のしあわせにもなることだと思ひます。だからあらゆる機会をとらえて、正しい判断力、批判力という

ものを身につける勉強をするべきだと思います。

積極的に将来を設計しよう

那須 それでは、主婦としてこれからどういうふうに自由時間を使つていつたらいいかということをお話していただきたいと思ひます。たとえば主婦にも収入を与えよ、といった作文もありましたけれど、そういうふうなことにについてはどうですか。また一日ぐらゐ家事から完全に解放され、そうして家族から解放される日を設けてくれというふうな声があつたし、家族デーを一日よこせというふうな声も応募作文の中にありました。そういったこともある程度具体的な問題としては、考えられることの一つじやないでしょうか。

谷津 自由時間があつても、結局外に出られない絶対的な第一の条件に経済的な理由があると思うのです。他の問題は解決の方策もあるでしょうけれども、経済的な問題となりますと、お隣り同士では解決できないんですね。婦人の多くが社会とのつながりを持てない一つの大きな原因は、経済的な問題にあると思ひますが、いかがでしょうか。

那須 私の家庭の話を申し上げるのは、なんですけれども、家内から二、三回いわれたことがあるんですが、もし私がいなくなつて、家政婦を雇つたとき、どれだけかかるかというんです。なるほど、一カ月の費用を考えますと、これは大へんなことで、普段は主婦というものは収入というものがなから、とかく大切にされないところがあつたと思うんです。そして、経済的にゆとりができて自由

時間というものをもてるようになって、それを自分のために十分に使えないということ。つまり自由時間をせつかく作つても、子供のために使つていける人が多いんですね。非常に美徳かもしれませんが、自分が死ぬまでの間の生活というものを、一応描きまして、それを計画的に考えておやりになつたことがあるかどうか、これは一度お聞きしたいと思つていたんです。私は老人研究をやつてい

るんですけれども、その調査に、養老院を訪ねたんです。そして一番意外に思つたことは、そこで一番生きがいのある感じが、気の毒な婦人の中で——そこに入つていける人はそれだけで不幸ですけども——その中でもとても不幸なように思われる人というのは、前に良妻賢母だった人のほうが多いということです。これは非常に考えさせられました。それで私は過去の良妻賢母は、これから変わつてこなければならぬんじゃないかと印象を強くしたんですが、こういふうちに、一生の生活設計を考えたときに、ことに婦人の場合は、寿命と結婚年齢からいえば、夫よりは後に残るので平均八年が九年ぐらゐ未亡人暮らしになるわけです。その意味でも自由時間の使い方をもちと積極的に考え願ひたいと思うのです。

主屋 経済的に独立できるようになること、年寄りにならないように、何か一つ打ち込めるものを持つたらいんじゃないかと思ひます。

中沢 私は、自由時間を、自分のためにも、人のためにも何かしなければという気持ちで保母の試験をとり保育所を季節的にやつていきます。

猿渡 私グループ活動の面に生きがいを見つけていると思つています。

榊 私なんか、いつでも新しいことをいいながら、古いカラもあつて、その二つが同居していると、自分でも矛盾を感じているんですけども、生産という時間を作りました。家族の一月の被服費が、収入から割り出して天引きしてある中から、今日自分で仕立てるのは買えばどれくらいするかという計算をしまして、その差額をとつて、それだけを私の修養費に当てています。それで今やつてい

る刺繍が月謝千円で、生花が五百円かかるんです。その千五百円はどうしても月謝としていっているんですが、それは自分で洋服などでかせいだお金ですから、主人にも何の遠慮もしないで習に行けると思つて満足してやつていっているんです。

末広 榊さんは新しい奥さんだと思ひます。私は収入を得ている立場から申しますと、私の母もそうなんですが、何でも遠慮しいややつていて、自分のことには使わない。父の収入は母が全部まかせられながらも、自分では映画会にもよう使わないんです。皆さんのように若い奥さんで、いろいろやつて勉強してなさる方の、そういう新しい割り切り方といひますか、それはけつこうだと思ひます。

谷津 私は家事労働をいたします。それで夫とよく申しますけれども、うちの仕事を全部するのは、結局そういうふうな榊さんのようにお金をとるためでなくて、食費とか何かの別な経済生活を豊かにするために、結局私が働くんです。理論的には、非常にそういうお金をとることは女のためにはいいことですが、それと……。そうあ

りたいけれどもできないというのが、現状だと思います。

楠 老後の問題をどう考えるか、どう設計していくかということ、刺繍、生花を習っておけば、女に一番手近かで一番雰囲気もつかめると考え、それをしたと思うって踏み切ったわけですね。

古谷 こちらに出席しますときにつくづく思いましたことは、ちょうどそのとき、うちの子供が絶対安静の病氣しておりまして、だれかにお頼みしなければいけないと思ひまして、家政婦に頼みましたら、食べて三百五十円私わなければならぬということ、簡単に来てくれるような人がほしいなと思ひました。そして、そういう施設があつたらどんなにいいかしらと思ひまして、私今ちよつと考えているんですが、家政婦会という大きい組織じゃなくて、私のところに本拠を置いて、簡単に人を登録しておいて、会議などに行きたいというような人を助けてやる、登録した方のほうも便宜をはかつて上げる、私は管理をする仕事、そういうような仕事を実行に移したいと思つております。

那須 これはイギリスの例なんですけれども、ホーム・ヘルプ・サービスというシステムができておりまして、家庭婦人でひまのある方が、パートタイムで働くのです。そうしてたとえばおばあさんとか、お子さんを一日お守りして上げるといふような、仕事をします。それが国の社会福祉事業の一つなんです。ですから安いし、仕事する人たちは国家から保障されているわけです。日本では、まだ全然ないんです。

山崎 子供が大きくなりますと、自由時間が大分ありあまつてきますけれども、家庭婦人の場合は外に職業を持つということは大へ

んむずかしい。それで年とつてからできる方法として、娘時代に皆さんお嫁入りの修業としていろんなものをおやりになりますね。そのうちの一つのものを深く突つ込んでしつかり勉強しておけば、一つちゃんとした職を持つておりますと、ひまができた場合に、家庭で近所の奥さん方、お子さんなど呼んで指導することもできて内職として好都合だと思ふんです。

国分 これまではPTAとか婦人会にばかり出て行つてましたけれども、この際できれば経済面のほうも心掛けたいと思ひます。私主人のすねかじりしてまうから、全然自分の自由にする金がないんです。自分だけの金、自分で好きなことする金がありません。それである目的を持ちながら、それに経済が伴うような仕事を望んでいるわけです。それからもう一つ老後のことですが、社会保障的なものでなく、私たちがお金を積み立てて、老人ホームというものを作つて、気持の合う人がそこで老後を楽しんだらどうだろうということも一方法と思うのですが。

那須 小池さん、娘さんの立場でどうですか。

小池 私の家でも弟にしてみると、長男という立場で、非常に将来の心配をするんです。ばくもお父さん、お母さんを見たけれど、自分の奥さんになる人がかわいそうだから、やつぱり別居してはうがしあわせだと思ふというんです。父も母もだいが考え出してきて、それじゃあ養老院に行こうか、(笑) というところで、双方了解のもとで、納得の上で五年前から養老院に入つてもらうことにしました。

那須 松尾さんは最年長者ですか、何か……

松尾 実は私点字のことを考えているんです。私目がひどいんです。それで自分でもしメクラになつたときに、自分から読書を抜かしたらほんとうにさびしいと思うんです。点字で読めたらいいんですから、そういうことも考えているんです。私の周囲に、点字のグループがありますから、経済的な余裕が出来ましたら、自由時間をその方に使いたいと希つています。

現状打開の道

那須 皆さん方は自己反省が強すぎて要求するところが少いように見受けられます。比較的恵まれている方が多くて、反省力が強く教養のおありになることは結構ですけれども、職業婦人に対する要求なり、あるいは内職婦人、漁村、農村の婦人に対して、家庭婦人の立場から、一つこうあつてほしい、こうあつたほうがいい、自分たちとしてはこういうことを要求したいというような御意見でも聞かして下さい。

田村 私何かの本で見たことがあるんですけども、子供を育てる間は、女性には職場を離れて家庭に帰つてきて、ある程度子供を育て上げてしまつたら、また職場に戻つて若い方と交代する。昔先生をした経験があつて、今ひまがあつてもふさがつていてなかなか職場へはいれないという方がいらつしやいますね。そうじゃなくて、交代したらいかがでしょうか。

奥貫 私外へ出たいと思つて、半年勉強もして、あつちこつち職を探したわけですが、大体主人が定収入があつて三人子供がいると、あなたほうにいて子供を見ていたほうがいいでしょう、とい

う理由で断わられてしまいます。私もここまできて、やつぱり自分本意でない仕事はしたくない、するんだつたら自分で満足する仕事をしたいと思うもんですから、時期を待つていくわけです。保育所なんかをたくさん建てれば、そこに人がいるでしょう、そういうところにどんどん出て行かれるというふうなものがあると思ひます。

小池 主婦でない者が発言するのはおかしいのですけれども、私も以前勤めていたとき、同じ同僚にとまあせぎの人がいて、お互いにいろいろ悩みを聞いたことがあるんですけども、お勤めのある主婦は家庭に帰りますと、外とのつながりを持つ十分な時間がないんです。まずお勤めしている主婦と家庭の主婦との間につながりをもつて、お互いの気持ちをよく理解し合つてこそ、いろいろな問題も解決していくんじゃないかと、私は思ふのですけれども。

大本 そういつつながりを持つためには、私は個々の婦人ではどうにもならないのであつて、市とかもついろいろな団体で側面援助をされて、そうして家庭の主婦の奉仕したいという気持ちと、それから勤労婦人の助けを得たい気持ちとをつなげるような接点と、市とか地域団体で一つ作つてほしいというのが、私たちの部会の希望じゃないかと思うのです。

猿渡 内職をなさる方に申し上げたいのですが、困窮からのがれるため内職するのは、社会保障が貧しい日本ではしょうがないと思ひますけれども、今のうちにいろいろな便利なものが出てくると、暮らしたのなかの何かがほしいから内職するという方もあるわけでしょう。お金さえあれば何でも解決するという考え方はやめなければい

けないと思います。

山崎 私のグループでは、自由時間をみんなで出し合つて、その時間で何か内職でも、社会的な仕事でも、子供を預かる仕事でもと話し合うんですけれども、実際やる場合にいろんな障害が出てくるんですね。個人々々ではいろんな問題が起きると思いますから、それをどういう方法で進めていっているか、内職する場合にも、私の地方では仕事が全然ありません。何かいいことがあつたら教えていただきたいんですが。

那須 オブザーバーの方ですか、そういったこと団体で実際に解決している例はありませんか。

奥(主婦連) 内職とは違いますが、グループ活動で、趣味と実益を生かすようなことをやつてうまくいっている例はあります。例えば、お料理の勉強に通い出した方がグループでもつて料理を作つて、それを実費ならば手数料も入れてわけてあげて。そうするとそのとき夕御飯の仕度に使わなくて外出できる、ごはんだけ炊いておけばよいというわけです。手芸的な趣味を生かしてアツプリケをするとか、鎌倉彫を習つた方はそれを生かして、すぐグループの中でするとか、そういう趣味と実益を生かしたものが、その地元々々に合ったものが出てくると思うのですけれども。

山崎 何か習いたいと思つても足代がかかり、不便なところで習う機会がないし、また勉強の機関がないんです。何かあつせんしていただくことも、して下さる方もありませんので、どんな方法で進めていっているか、暗中模索ですけれども。

小池(有権者同盟) 習いたくても習う方法がないというお話しで

女の先生はほんとうの先生だといわれる。女の先生は熱心でいいといわれますが、私もしじみ考えました。女は結婚して、妻として母として子供を育てた経験で子供を教育するのが、一番本ものの子供の教育ができるんじゃないかと。私もあの三鷹の保育所の方針は不賛成です。女はやつぱり自分の子供を育てたときに、子供に対する愛情がわいてくるのだと思うのです。

那須 私も三鷹保育所を見ましたが、市長の方針は今申し上げたように、あそここの保育所は、保母は経験のない人、つまり家庭の経験のない人というんです。その理由は、一度子供産んだ人は、とかく自分の経験に頼りがつて、自分の経験が一番いいように思つていて、科学的にいっても聞いてくれない。だから、それならば学校出たての若い人、これからという人にやつてもらつたほうがやりやすいということが一つの理由、それからあそこを利用している人が全部ともかせぎの人です。そしてそれも非常にたくさん応募者がいるの中から選ばれているのだということです。年令は零才から三才までですから、ほんとうに小さな赤ちゃんを預かっているわけなんです。あそここの三鷹市というのはベクト・タウンというのか、県は東京のまん中に通勤して行き、夜ねぐらとして帰るだけで、地域に對する関心はまずまずないという、ところなんです。共かせぎの人は自分たちの必要上要求しているけれど、主婦そのものはあまり関心がないんです。そういう地域ですから、市長としては、主婦も非常に関心が高いのならば、むしろ経験のない人がいいんじゃないか、と考へたんじゃないかと思うのです。もう一つは主婦がやつぱり従来の考へ方からいくと何か家へ入つてしまうと職業にほんとうに徹

すけれども、そういう主婦の声を流して、町でも市でも動かしていって、青年学級なり婦人学級なりをなさつて、御自分たちの望む学科を入れてもらつたらいかがでしょうか。

山崎 二年前からやりましたが、なかなか実行に移されないんです。

小池(有権者同盟) なぜ実行に移さないかという追求を県の人を呼んで話し合つて、今はこういう障害があるが、何年先にはこうなるからということも、トコトンまで筋を通して追求する必要があると思うのです。団体の力、組織の力を使つて、みなさんで何か一つの力の盛り上げをお作りになつて、絶えず追求、要求をしていったらいいですか。

中沢 主婦が低調だとは思いますが、三鷹保育所の保母さんは独身の方に限つて採用するというお話がありました。私がつかかりしたんです。都立の保育所は三十才以下だとか申しましたが、私が自由時間を一生懸命生み出して、骨折つて勉強して免状とつても運用しないわけです。これでは免状なんかいただかないほうがいいと思うのです。だからやつぱり主婦というのは手も足も出ない、低調にされちゃうんじゃないかと思うのですが、それで勤務関係の方が結婚しても職場を離れられないのは、結局私みたいに家庭をもつてしまつて再び出られないからでしょう。そういう方のために、私も子供さんを預かつて、十分に職場で働けるように、役立てたいという気持はあるんですけれども……。

末広 私よくいわれることがあるんですよ。末広お前は教師として立つんだつたらママさん先生になれ、ママさん先生になつてこそ

し切れないという懸念が一般にあるということ、これはやはり反省しなければならぬ問題だと思います。しかし、若い結婚前の保母さんが科学的な栄養を与えたり、環境衛生に気をつけさえすればいいというだけでは実はあまり科学的ではありません。つまり母親のこまかいところに配慮の行き届いた情緒的なものが必要なのだと思います。目に見えないようでも、そういう愛情の与え方というのは、これは若い人にはなかなかできないわけです。子供を育てた経験が全然なくて、学校で習つただけではなかなか出てこないといふこともあります。それから保育所のあり方として、何でもかんでも保育所を作るといふ行き方については、もう少し考える必要があります。保育所にかわるものを主婦の間で考えていかなければならないことがありはしないかと思うのです。たとえば科学的な知識を持つていらつしやる方が、逆に家庭に安く出張してきてくれるような組織がほしいわけです。また国によつては育児補助費が出ているところがあるでしょう。社会にかわつて主婦が子供を育てているんだから、国はどうぞんそれについて労働報酬を支払うというのです。そのくらい子供を育てるということは、母の大へんな生産事業です。ですから、もつと社会的に声を大きく叫んでいいんじゃないか、と私感じたのです。

田村 福井のほうでは、普通の家庭の主婦が、家庭におつて三人までは子供を預かることができる。その場合市が半分補助してくれて、あとは親が補助する。その地方は勤労婦人が非常に多いので、市が補助してそういうふうになつていっていることを聞きました。が、全国各市にも広げていいんじゃないかと思うのですが。

小池 さきほどわたしたちの部会は低調だということをおつしやられたそうだけれども、意識を持つてない方たちに気づかせるのは、私たちに課せられた仕事だと思うのです。ですから、いろいろの機会を逃さずに、家庭の主婦に対して自由時間というものを与えられなかったら、生活時間が設計されない、そういう根本的なことさえ気づかないものに気づかせるためには、何らかの形で、発表する機会を通じて発表する、それによって皆さんに気づいてもらう方法があるんじゃないか、私問題が非常に上すべりに流れていて、それが低調さの原因になっていると思うのです。

家事労働の再認識

那須 働いている婦人から、よくこんなことを聞くんです。家事なんてのはだれでもできますよ。ところが、仕事はできないでしょう。こういうのです。自分で一生職業持つてやつていけるような人から、そういう発言があるんです。主婦に対して一種の蔑視感をもっている御婦人が、職業婦人の中にあるんです。これは大いに皆さんから反駁あつてしかるべきだと思うのです。

谷津 主婦の仕事は非常に卑調ですけど、それだけでは評価されないと思うのです。家計のやりくりもありますし、子供の問題等の仕事はビジネスと違います。ビジネスは与えられた仕事をすればそれでいいけれども、主婦は自分のやり方いかんによつては、子供の問題など末々まで長く働いていくんじゃないかと思うのです。

奥宮 主婦の仕事だけを考えるべきじゃないと思うのです。職業

婦人が主婦を劣視するというのは、主婦には、家事業のほかに、自分の仕事と勉強があるべきなのに、それがないからと思うんです。それをちゃんと持つていけば、それだけ自信を持つていいと思ひます。

古谷 たとえば料理にしましても、勤労者の方が作るのめんどろだからコロッケにするところを、私たちが家でじっくり自由時間を使つて、どういふふうにしたら、おいしい栄養的なものができるかと考える、それは一家の健康管理にもなる。そのようなことが家庭の主婦にはあります。それから子供を育てる面では、りっぱな日本国民として社会の役に立つ人に育てるといふことは、ほんとうに大きな力だと思ひますから、そこを見ていただいて、それを評価していただきたいと思ひます。

末広 職業婦人の私の立場から申しましたら、家事のほかのことはだれでもできる、子供を育てることは、母親として与えられた一番大事な務めじゃないかと思うのです。だから私はそれを蔑視するといふような、そんなものはだれだつてできるといふような職業婦人だつたら、人間として女として、落第生だと思ひます。

山崎 家庭の主婦の仕事というのは、お料理とか、洗濯といふようなことだけでなく、それよりも家庭のつながりといひますか、子供を育てる間に、夫と妻と子供の間の目に見えない人間関係を育てているんじゃないかと思うのです。それで私は勤労婦人が、あんなことはだれでもできるという、けれども、そういう目に見えない効果があるというのを、もつともつと主婦の方が、十分自信を持つていいんじゃないかと私は思ひます。

神 家事労働というのに対して、もつともつと日本人が、大切なものである、りっぱな職業であるという意識をもちたいと思ひます。家事労働を蔑視したり、それが軽い仕事のように思つてもらいたくないんです。

谷津 私団地に住んでおりますが、私の隣の奥さんも、三才になる子供さんを月三千円で預かつています。育児ということはお金ではかえられない問題があります。預かりましたお母さんは毎日お世話してあげれば、その子に対して愛情もわきますが、そのことの苦勞を買つてくれない、勤労婦人の方はあまりにも金銭的に割切つて考えるばかりでなく、その愛情の点も考えていただきたいと思うのです。

神 もう一つ勤労婦人に反発するんですけれども、人間としてよほどばかでない限り、何でもさあやろうと思へば、だれでもやれると思うのです。だから、初めは、それはなれなければ能率が上がらないのは当然ですが、勤労婦人のやつていふことは私らでもやれると思ひます。

末広 とまかせぎのどんなを見た場合ですが、そのどんな様の多くは奥さんの給料に甘えてといひますか、お酒を飲んだり、パチンコをするとか、そういうたほうにずいぶんお金を使つてしまうのです。それであんがい家庭がうまくいってないのが多いので、私はともかせぎに内心疑問を持つていふんです。そういう点を考えると、勤労婦人のほうもよく反省しなければと思ひます。

那須 だいが勤労婦人に対する反駁が出ましたが、次に自由時間を生み出すばあいに、グループや職業のような家庭の外で使う時間

を作るのに、どういふものが障害になつていふか。一般の主婦の立場になつてもう一度考えてみたらどうでしょうか。

松尾 私自身はお姑さんの問題であまり苦勞しておりませんが、ここに来ていない方で姑さんの関係でずいぶん苦勞している方がいらつしやると思うのです。そういう例をあげていただいて、考えてみたらどうかと思ひます。

小池 今姑さんの問題が出たんですけれども、私たちのサークルで生活時間の問題を話し合つたとき、姑さんのいる家庭の方たちは姑さんがいないときは非常に家事のはかどりが早いといふんです。家にいるときは、何となく背中のうしろに姑さんの目が光つていふような感じで、仕事ははかどらない、という声が出たんです。それならお姑さんが若いときに、やつぱり自由時間が欲しくなかつたかといへば、そうじゃないかと思う。それなのに、それを姑さんが若いときに得られなかつたから、次の世代、若いお嫁さんに対して持つたせる必要はないとあやまつて考えているのじゃないかと思ひます。

那須 つまりお姑さんを見ていふと、自分が最初に結婚してきた当時の経験では、自由時間を求めていたんだけれども、結局はあきらめてきたわけですね。そういう生活のスタイルを、今度は次のお嫁さんにも求めるという伝統的な時間の使い方の問題でしょうね。それだけでなく、もつとほかにあるんじゃないでしょうか。つまり主婦の時間を支配したり、拘束したりするものがほかにあるんじゃないでしょうか。

神 私は、姑を抱えてないもんですから、そういう問題はないの

ですけれど、昨日美園村の生活改善クラブを見まして感じましたけれども、横のつながりが欠けている、どうして自由時間の集団性、社会性を考えないのかと考えました。あれだけしつかりつかめるようになりまして、やはり自由時間を社会的、集団的に手をつないでやろうということにしたら、嫁たちはだいぶ解放されると思います。

小池 横さんの意見とは、私反対に感じていたんです、あれだけ食生活につながりをもつてやるようになるまでには、相当抵抗があったと思うのです。それをそこまで続けてきたというのは、いろいろな抵抗に対して、ガッチリとした横のつながりがあつたものと思います。きつと新しい問題にぶつかつても、社会に目を向けるような方向にもつていかれると思うのです。対姑の問題も、夫に対しての問題も、ただいままでのような争いだったら、ほんとうにお互いに傷つけるだけです。生活を高めるための争い、しあわせのための争いだったら、あえて抵抗はすべきだろうと思います。

田村 しゅうとを持つていらっしゃるんですけれども、結婚十三年で、自由時間を持つてようになったのは十一年目ぐらいからやつとです。自分の時間を持つためには、少し神経を太くもつてね。おしゅうとさんの気持ちをくんだりしないで、自分も自由に生きようという意識を持たなければならぬんじゃないかと思うのです。

御 オブザーバーの方にぜひお願いしたいのは、さきほどから出てますが、主婦がだんだん余暇が出てまいりましたので動めたいんです。自由時間を社会的な面でつながりを持ちたいと希望があるようですけれども、その場合に年令とか学歴が問題になつてしまつ

てうまくゆかない。せつかくの自由時間が自分を高めるということにならないのです。パートタイム制の託児所、家政婦会というものを早く作つていただいて、採用はまず主婦の余暇のある方を、年令とか学歴に関係なしに使つていただきたいということをお願いしたいと思います。

小池(有権者同盟) 今の要求よくわかりました。私も一生懸命努力いたします。しかし、その前に皆さん方もぜひ職業について話し合いをされて、だれかがしてくれるだろうというようなことはだめなんです、それが皆さんが伸びていく壁になつていらっしゃると思います。自分がいろいろラジオを聞いたり、本を読んだり勉強して、疑問ができたら御自分でやるんです。こんなこといつたら笑われやしないかという遠慮はいらないと思うのです。どこへでも出て行つて、こういう問題はどうしたらよいか、方法はどうしたらよいかとお聞きになつてもいいじゃないかと思ひます。勤労婦人との話し合いも、その土地の婦人少年室に出掛けていつてぜひ話し合いをしたから、それをするにはどうしたらいいかと、相談をお持ちかけになつて、積極的にしていただきたいと思ひます。

消極的になつておりますと、また婦人が家庭の中に閉じ込めるといふようなことにもなりかねないと思ひます。ぜひ皆さん方勉強なさつて、積極的にやつていただいて疑問はどんどん出していただきたいのです。解決の道はだれかがしてくれるというのではなく、自分たちが手をつないで、力を大きくして解決していくんだというように一つお願いしたいと思ひます。

那須 大へん長い間熱心に討議していただきましたことをリッダ

ーとしてお礼申し上げます。

人の問題



出席者

青森 岩手 山形 千葉 東京 石川 福岡 大岡 香川 高知 長崎 熊本 鹿児島
 特別オプザーバー
 黒滝千鶴子 (教員)
 山本富喜子 (電話交換手)
 井上敏子 (工員)
 関口知子 (YWCA幹事)
 新里昭子 (公務員)
 田中九子 (公務員)
 高岡浜子 (寮母)
 大野木綾子 (工員)
 野口敬子 (図書館司書)
 北波洋子 (公務員)
 三野文代 (公務員)
 山崎田鶴子 (教員)
 角田八恵子 (保母)
 上村淑子 (組合書記)
 渡辺敏子 (公務員)
 西清子 (評論家)
 大野はる (日本労働組合総評議会)
 多田とよ子 (全日本労働組合会議)

各々の職場の中で

西 ます職業と自己紹介をお願いしましょう。
 黒滝 私は中学の教師をしておりま。主人は公務員で、三才半の女の子がひとりおります。

山本 私は電話交換手です。

井上 東京電気に勤めております。

関口 東京のYWCAの中の、働いている女の人たちが、グループ活動をしてありますが、そのグループのお世話をしております。

新里 東京都労働局に勤めております。仕事の内容は働いている方々、特に労働組合に属している方たちを相手にして、私たちが働く上での職業意識の向上とか勤労意欲、そういう意識の問題について、非常に基礎的な労働法規の啓蒙的な仕事をしております。

田中 専売公社に勤めておりまして、仕事の内容は一般のタイピストと、それから専売公社の金沢支店の事務、文書を一切取扱っております。組合としては副婦人部長をやっております。

高岡 千人ほど従業員がおります織物会社の寄宿舎の舎監を兼ねて、裁縫の教師と、若い方の生活指導に当たっております。

大野本 日清紡績の島田工場に勤めております。仕事の内容は肉体的な仕事ではなくて、ある程度監督的な立場です。

野口 大阪の府立図書館の司書をしております。仕事の内容は、リフレインス・ライブラリアンという参考事務の仕事に当たっております。

北波 県生活改良普及員をしております。主人も同じように官庁

職員でありまして、子供はおりません。

三野 高松高等裁判所人事課任用係、組合の婦人部のお世話をしております。戦争未亡人です。

山崎 中学校の教員をやっております。子供がいないので、高校二年生の弟を養子にしております。

角田 幼稚園に勤めておりまして、毎日楽しく遊んでおります。

上村 職員組合の書記ということで、先端をいくと思われる職場で働いておりますが、いろいろと矛盾もあります。

渡辺 現在は福祉事務所の仕事をしております。子供は大学二年の子供が一人おります。十八年前に戦争未亡人になりました。

西 これで皆さんの自己紹介が終つたんですが、お聞きの通りいろいろの方が集まつていらつしやるわけです。しかし働いていらつしやるということでは皆さん同じことで、どうぞそういう御自分の御職業とか年令とか環境とかにあまりこだわらないで、広い立場で労働婦人の問題、特に今回のテーマである時間の問題ということをこれからお話し合いたいと思います。この部会は労働婦人の部会ですから、その勤労という問題について、時間という角度から見てどういふ勤務をしていらつしやるかということを中心として伺つてみましょうか。

野口 図書館は朝の九時から夜の九時まで開いているので、二交代で夜勤があります。夜勤と普通勤務とは違ってくるんじゃないかと思いますが、夜勤をやつていらつしやる方の自由時間をお聞きしたいと思います。

山本 私は交換手をしておりますが、年中無休で一分も休めない

わけです。私たちは交代で、一番早いのは七時一番おそいのは四時出勤、その場合は次の朝八時までという宿直です。それが八日にいっぺんあるんです。私たちの労働条件という問題に入りますと、七時間のときもありまして、また九時間働かなければならないときもあるわけです。休憩時間は二時間につき十五分ということになっていますが宿直の場合だと四時から出勤して、だいたい五時から七時までの間に夕食三十分とります。そうして着合します、と寝るまで休憩時間がない。二時に休む人は八時間ぶつとろして着くことになりまして。休まなかつた時間を睡眠時間としてとるわけです。

田中 私は八時間勤務でとても正常で、残業請求なんかきちんと取れますし、いい条件です。

西 学校の先生の場合なんかどうでしょう。

山崎 皆さんのお仕事は機械がとまれば休憩ですが、私なんかの場合ですと、四六時中、肉体的な労働でなくて精神的な労働がいつも頭の中にあるわけです。サボればいくらでもサボれます。やろうと思えば幾らやつても切りがありません。それを自分から進んでどんどんやる人がある、しかし同じ職場の中で乳児を育てている人などやれない人もいるわけで、そここの問題になるわけです。ですから下の低いほうを引き上げる努力ですね。そういうことをこの会でうんと話してもらいたいと思うんです。

上村 私は職員組合ですが、組合の仕事というのは突発的に起ることがしばしばです。勤務時間は八時半から五時までですが、五時ぐらいになってから事件が起ると、残らねばなりません。そういう突発的な事件によって、自分の生活の自由時間がこわされるという

ことがたびたびです。

それからもうひとつ、だいたい二人か三人ぐらいの少人数の職場の場合、私の職場には三人いますが、三人とも共かせぎなんです。そのうち二人ともたまたま同じところにお雇して、私は一人残つたんです。お雇のときは臨時の人を一人雇うんですが、それでも、労働過剰は必然的にくるわけです。その後も、育児時間とかで、それが二人一緒だものだから、私は一人残つて、お雇休み中どこにも出られないんです。人数の少ないところのそういう労働条件ですね、これらを皆さんと一緒に考えていただきたいと思っています。

北波 生活改良普及員の場合は、逆に休んでいる日曜とか土曜に人の訪問を受けるんです。そのほか夜間勤務じゃないんですが、やはり一人で三十戸以上持つておられますと、どうしても各町村から普及所へ負担金もいただいています。夜間談会することも多くて、どうしても労働時間が不規則になり勝ちです。しかし今は話し合ひまして、五時に一応打ち切ることにしています。

角田 私は幼稚園の子供たちの愛情に引きずられて十二時間労働やつています。というのは夏は、いかの時期で、いか干しで忙しいんです。船も早く入つてくるので、六時ごろになると子供たちは幼稚園に追いやられてしまふ。私もせつかく園児が大ぜい来ているのに出てやらなきゃかわいそう。私も戸をあけて、積木でも出してやろうというので、愛情にひかされて六時に出るんです。夕方五時の五時というのはまだ早いでしょう。だから、みんな忙がしくしているのに早く帰ると、なんとなく休養が悪いんです。しかし、私の子供が私の帰宅の遅いということと関連して問題を起しかけたので、

人の子供も大事だけれど、まず自分の子供を立派に育てなくてはならないと思つて、極力早く帰宅するよう努めています。

山崎 私の妹は保育で、ちょうど角田さんと同じですが、二人で話すんですが働く婦人が協同して助け合ふやならぬのに、そのしわ寄せを保育にもつていくということは、やつぱり考えなきゃいけないことだつて……。

黒澤 今年は中学三年生を受け持っていたので、表面はしなないことになつていますが、高校の受験準備が放課後あるんです。それは三時半から六時ごろまでやるものですから、多いときは十時間勤務ぐらいになりました。

西 井上さんのところはオートメーション化された機械の作業のようですが、きちつと時間で終えて、あとは自由時間というふうに簡単にいきますか。

井上 現在はあんまり忙しくないけれども、去年の十二月ごろ、すごく忙しかつたんです。休みが二回ぐらいしかなく、一日二時間残業があつたです。そういうときはうちへ帰つて寝るだけの生活でした。忙しくないときは、きちんと八時間勤務です。

角田 私は図書館へ来るまでは府の社会教育課で仕事をしていたんです。仕事をかかえているときですと日曜、祭日、土曜の午後は全部つぶれるんです。そのかわり代休をとればいいんですが、そのときの仕事とか跡始末が残つてなかなかとれない状態です。これではからだもだめになるし、自分自身もだめになるので、図書館のほうへかわつたんです。

高間 私のほうは中小企業関係のお仕事なものですから、とつて

も問題がたくさんあります。これはその一つですが、勤務時間は、朝五時から午後一時四十五分までの早出と、午後一時四十五分から晩の十時半までの午後出の二部交代になつております。緑物会社ですら、家庭持ちと单身者が半々ぐらいです。それで、家庭持ちの人は早出のときは五時から一時半までうちを留守にするわけです。

運出の時は晩は十時半まで仕事して、それからおふろに入つて、うちに帰るのがどんなに早くても十一時過ぎになるんです。夜おそいのはこたえるから、食事時間四十五分を、三十分でたくさんだ。それだけ早く帰りたいというので、三年ほど前から私たちの会社だけ食事時間を三十分にして、夜十時におしまいにしていたんです。そうしたら再々基準局からしかられてまして、食事時間はどうしても四十五分とらなきゃいけないというので、また十時半におしまひ、ということになつたんです。食事のあと十五分休むことは法親の点においていいかもしれませんが、夜の時間が一番こたえるから、なんとかして十時のおしまひにしてくれないかと声をそろえていつていますが、基準局がやかましいからそれができない。なんとかできないものかしらと思ふんです。

大野木 私は実際に現場に働く一人として、高間さんの意見がピンピンと自分の胸にひびくんです。私は十年間紡績で二交替制やつてきておりますが、事務をやっている人のように、疲れたからといって自分のからだを飛ばして大事にするなんてことはできないですね。幼稚園の保育さんなんか人間を扱う仕事だから、精神はすごく使うことはわかりますが、私たちは一歩間違えば生命を落とす場合もある。また、寮生活には家庭の持つ暖かさが少ないということ

もありです。

労働時間にからまる問題

西 関口さんは都会の銀行や会社へお勤めになつてゐる人たちのケースを知つてゐると思いますが、労働時間の問題とか、そういうことについて何かお聞きになつたことはありませんか。

関口 中小企業のほうでは、八時間労働で六時には帰れることになつていても課長さんが帰れないと帰れないとか、人間関係で問題をすくすく持つてゐます。労働時間とあわせてそういう日本人の考え方、人間関係を変えていかなきゃならない。

山崎 私は教員がたぶん就職しておりませんが、私たちのほうの子供で中小企業であつても、キリの方の中小の企業へいった教員の子の話を聞きますと、相当ひどい様子です。予守りとか、洗濯とか、とにかく自分の自由時間が全然ないんです。そういう労働条件の底辺における問題をとり上げていただきたい。

新里 底辺の問題でなくて悪いんですけど、私自身は労働保護法規をなるべく守るようにようという、警察的な仕事をやつてゐるわけです。仕事をやる上に、自主的にいくら仕事をやつてもいいわけです。そうしますと、私たちの労働条件としては、自主的にやる仕事までの保障というものはもちろんないわけですから、私がその仕事をやる場合には、かなり自分の犠牲によつてやるということが当然要求されてくる。勤労者も相手にする仕事ですから仕事のあとの時間でいろんな勉強をしないと、職場の問題を話し合うとか、どうしても夜の時間がおそくなつて、そういうことを積極的にやれば

私自身の労働条件が悪くなる。また、すぐ「女はだめだ」などといわれるのですが、これは男の偏見であるとしても、やはりこの言葉を実行の面では、はね返してゆきたいと思ふんです。私と接してゐる中小企業の労働組合の人たちはそういう意欲もありますが、私たちが相手にしたいのは、意欲のない、何のために働いてゐるかわからないほど酷使されてゐる人たちに働きかけたわけですから、全然意欲のない人たちの間に入つていきたいという仕事を持つてゐるだけに、のれんに腕押しのなこともあり、自分自身で労働条件を悪くしていくということがあるわけです。

北波 調査によりますと職場の労働条件というところを知ろうとしない女性が多いいことがわかりました。いつになつたら自分の月給が上がるのか、生理休暇がどういうふうに取り扱われるのか、知ろうとしない人がすいぶんある。まず私たち自身の学習をやらなければ、労働条件労働条件と叫んでも片手落ちだという気がして悩んでおります。特にお金の問題なんかですと、使つてもらつてゐるだけでも有りがたい、お金の問題を言つたら恥ずかしいとか、職場の封建性が私たち勤めを持つ女性の仕事を押えているという感じがするんです。

西 いままで、特に時間という問題の角度から見た、それぞれの職場の現状、並びに皆さん以外の職場の実態というようなことを話していただきましたが、それについて私感じましたことは、だいたひ十五人の方たちが持つていらつしやる問題を分けてみたときに、いわゆるプロフェッショナルな専門職、すなわち公務員、学校の先生とか、保護さんとか、図書館の司書さんとか、寮母さんとか、そ

ういう専門職の方と、全くそうでない事務系統、あるいは現場関係の方と、二つに分かれてゐると思ひます。それでそのうちから新里さんのおつしやつた、われわれは確かに労働条件、特に時間の問題で労働保護法を守りたいと思ふけれども、しかし自分の仕事の目的からすればそれもある程度やむを得ないじゃないかというふうな疑問と矛盾にあつてゐられる。早くいえば人さんのためになる仕事である、比較的自分の才能を使つてしなきゃならない仕事であるために、当然課せられた八時間とか九時間とかいわないで、十時間になるかもしれない。それは仕方ないことではないだろうかということと、しかし仕方ないといつてしまつていいだろうかということとのこの両面の問題。それからもう一つと深刻な問題としては経済的な問題があつて、どうしても自分が他のしわ寄せを引き受けなきゃならない。ほかの働くお母さんたちの貧しさのために、自分が保護さんをして子供さんをあずかつてあげなきゃならないという社会的な大きな問題が未解決だということ、これは非常に大きな問題で、時間の問題では解決できないかと思ひますが、それをお出しになつていらつしやる。それから一方いゆる現場とか、事務系統の人は、たとえばもつと職場の中のいわゆる古い人間関係——上役に気がねするとか、自分自身が卑屈になつて、おのずから労働時間を延長してゐるという問題、これをどう解決していったらいいか。もう一つは、紡績とかあるいは電話の交換というものが二交代、三交代というときには深夜業をやる、こういう労働条件の中で基準法で定められた労働時間を確保し、その中で自分たちが健康を維持し、いろんな仕合せを求めていくことが可能かどうかという問題、だいたいこれくらいい

問題が出されたわけですが、ここでもう少し具体的なことについてお伺ひしたいのは、有給休暇の問題です。これもやはりたいへん自由時間というものに関連が深いので、いつたい有給休暇というふうなもの、どうなつてゐるのかということ、その使い方とか、いろいろ問題があると思ひますけれども。

画餅にしたいくない有給休暇

高岡 私たちのような中小企業に勤める婦人は有給休暇なんか使っていない人は半数にも満たないと思ふんです。そういう点いつも矛盾を感じて、声を大きくして叫んでましたけれども、弱い女の人はちばかりなものですから、とても大工場のようなわけにはいきません。

新里 有給休暇ですが、私たちの場合も、とつてゐる人の場合よりもとらない人のほうが多いのが事実です。それから私が仕事で使してゐる中小企業の労働者の方々にしても同じようなことがいえるんです。なぜとらないかという点、それはいざというときのために、不時のできごとがあつた場合のためにとつておく、それでとらないというんです。私はそういう場合は、別に方法を考えるべきだと思ふんですが、そういうことでとつておかなければ現在の非常に苛酷な労働条件の中で、フリーに休む日をとることができないから、そういう不時の災害のためにとつておくという考え方が強いということをやつといたいんです。

井上 私たちの会社は正規に入つた人の場合は、最初一年間は四日、二年目は二日ふえて、あとは一日だけ毎年ふえていくんです。

しかし、その休暇を使っている人はあまりない。あまり使おうとポナスのときなんか影響するというんですが……

黒滝 教員の場合は、公務員並みに二十日間有給休暇があるんですが、私の方の学校でもほとんど利用されてない。どちらかといえば、家事とか育児という突発的な事件で、女の先生が有給休暇を利用しますが、それも二十日のうちせいぜい一週間とればいいというような現状です。また、産前産後の休暇は、産前六週間、産後六週間になつてはいるようですが、私の経験からして産後六週間が教壇に立つのは無理だと思ふのです。あと一週間か二週間延ばしていただきたいと思ふいます。

山崎 補足いたします。いまお話が出ましたが、教員でも産前産後八週間とつてはいるところは、東京ともう一県あるはずですが、農村なんかへ行くと、先生は日のあるうちに帰つていいな、しかも夏休みも冬休みもある、もいちいばつておいて、休みがあつて先生つていい仕事だ(笑)といわれるんですが、ずいぶんひどいと思ふんです。特に子供の教育というのは普通の仕事とは内容が違ふということを解つていただきたいんです。

北波 私の友だちに変なケースがあつたんです。それは産前四十二日間の休暇をとつておりましたが、四十二日たつても生まれなかつたんです。おなかは大きいし、いつ生まれるかわかんような状態で延びた。それで、どうしたらいいかと相談したところが、上司が有給休暇を使つて下さい。二十日も全部、といつたそうです。二十日以上とると昇給に關係するんです。ところが職組でその話を調べたら、当然そういうのは有給休暇でなくて産前の休暇でと

つていいということがわかりました。そういう間違つたことで黙つていれば、そのまま昇給までストップするというような問題があつたわけです。

西 大きなところで言うと、有給休暇をとらうとするとるまいが、ポナスにも關係ない、それがちゃんと保障されているわけですが、実際の場合にそれが非常にためになつてきつたところという現状であるので、そうなる、当然の権利が破壊されるので、ちよつとその現状について、一通りお聞きしたわけです。今日は一通りとかく問題を出していただきました。先ほどまで一応労働条件の中のさまざまな問題を出しあいましたが、それが自由時間をいかに圧迫しているということが、ほぼおわかりになつたと思ふんです。今度は勤務から一応とかれたあとのつまり生活時間がどういうふうになつているか、それは最後に討議いたします。そしてそれにもよつと触れていただきます。どうか、家事、育児というふうな具体的な問題になつてきますが、どうでしょうか。

関口 私の仕事は特殊なもので、ある意味では一般にあてはまらないんですが、雇間側いて、夜私たちのグループ活動に参加しているわけですから、どうしてもグループが六時から九時ごろまでになるわけです。それを終つてから私は帰りますので、私の場合十時から十一時近くになる。そうしますと、家の女の子がおそく帰るといふことはたいへんいけないということで、毎日毎日母が迎えにくるわけです。私は自分の仕事がおもしろいし、すごく意義があると思つて、やればやるほど母のそういう自由時間をおかすわけなんです。それと同じように、そういうグループ活動で自分が勉強した

り、会社のサークルに入つて勉強したりして、自分自身はいいかもしれないけれども、家庭とか、そういう人たちの生活時間を圧迫しているのじゃないか、そういう問題があるんじゃないかと思ふいます。渡辺 私の娘は高校時代に自治会の役員をしていて、演劇をやつていたんです。そのため授業が終りまして、夜のけいこがあると娘ですから「母ちゃん迎えにきてね」といつて出かけます。そのとき子供を迎えにくことが私の時間を阻害されるというふうには私は思わなかつた。子供はそうして伸びていくし、私が迎えにくるといふことで安心しておけいこができるわけですね。そういうことを私が援助するということで、子供を通してやはり社会活動をしているのだという気持ちでした。

勤務と家事とグループと

西 いま渡辺さんの解釈と関口さんの疑問とずれちやつたところがあるんですが、関口さんのおつしやるのは娘が勤務時間以外に、家事ではない、何かグループ活動とかをする、それが自分以外の人の自由時間を圧迫するという心配があるといふことが出されたわけですが、それは同時に自分をも何かの形で圧迫されてくるというふうな、自由時間がそこで阻害されるという問題にも発展してくるわけですね。そういう娘の立場でもひとつの問題がある。

黒滝 私は、夫との自由時間のことを申し上げたいと思ふいます。私は帰りますと、子供が小さいものですから、とにかく子供と一時間半ぐらい、多いときは二時間ぐらい本を読んだり稽古をしたりして遊ぶわけです。その間夕食がありますが、夕食後私の夫は二十分

か三十分テレビを見たり、新聞を読んだりして書斎に引つ込んでしまふわけです。もつと私たち三人で一緒にその日のお話をしたり、なんかしたらいしんですが、目標を持つて勉強しているものから、十二時までは書斎に入ります。私は私である同人雑誌に關係しているものから、その原稿を書いたりするのには時間が必要なので、そうすると、私は締め切りが迫る。主人はそつと本を眺めたいというので子供がいつまでも遊んでいると、どうしたらいいかというふうなことにぶつかることがしばしばあるんです。そこで、最近はお父さんの目的をやつてしまおう、それから私の番にしよう、それはいつになるかわかりませんが、とにかく順番をきめましようというところまで落ちつきました。結婚して七、八年目になつたところですが、そういう状態です。

山本 私たちの職場は一週間のうち夜勤めるのが三日ぐらいです。遠くから来ている人などは、勤務時間や交通機関の關係で、三日も四日も宿直室に泊りこみといふこともあるんです。家事はだんなさままかせとか、お子さんのいらつしやる方なんか、とつても心配で仕事してられないというんです。それから勤務が毎日違うものだから、勤務時間後にいろんな活動をしたと思つて呼びかけても、帰っている方もいますし、休みの方もいますしまだ動いている方もいる。七十名も八十名もいても会があるとき十名ぐらいしか集まらない現状です。仕事以外の時間は全くばらばらだといふわけです。

北波 私は結婚する前、ひとつだけ条件を出したんです。もちろん経済的な面もあるんですが、職業を持たして欲しいという条件

を私は出したんです。そうしましたら、今度は往復四時間もかかるところへ転動になったんです。

朝、夫の寝顔を見て、食膳を用意して、大急ぎで汽車の中で口紅引いたりすることがたびたびですし、帰りもおそくなる。よそでは夕飯をすませて聞らんをしているときに買物かこをぶらさげて歩く始末で、家庭生活というよりも合同宿舎ですね。私は疲れて帰ってきてみると、夫も帰っていない。すべて私の肩にしろ寄せられる、そういうことで自由時間どころじやなかつたんです。そういう問題で、非常に大きな夢を持っていたのが結婚してすぐこわされてしまいました。

山崎 私はいま主人と二人ですが、たいへん恵まれていると思っております。その前はしゅうと、しゅうとめ、中風のおじさん、弟、妹、嫁にいった妹、そういう大家族でたいへんだつた。しかも職場ではよい職業婦人となりたいし、家庭ではよき母であり、よき妻であり、よき嫁でありたい、そういうことを、無理なんです。が欲ばつてがんばつていたんです。辛いこともありましたが、今は二人きりですから、私なんかもしばらく会わないで「ああごきげんですか、元気でやっていますか」というときがあるんです。帰りがおそいし、先に出ていつてしまおうというふうな、すれ違いですね、そういうこともありまう。私は結婚十年目ですが、できるときにものすごくサービスして愛情を惜しみなく注ぎます。それ以外のときは主婦として、妻としてのぎりぎりの線のところまでしかやらないんです。それから労働協約じやありませんが、主人と協約を結ぶ、それも事務的な結び方じやなくて、また男だから女だからというんじや

なくて、私も主人の立場を思うし、主人も私の立場を思つてお互いにかばい合うという話し合いでやっています。

新里 私も共かせぎをしていて、二人とも十一時ごろまで帰らないというふうなことがあるわけですね。そうしますと私のうちは父親と子供と家事のお手伝いさんがいるわけですが、それぞればらばらの状態で私たちの帰りを待っているわけです。仕事のあるときには、ほとんど食事は外でしますから、年よりと子供とお手伝いと三人で食べるわけですね。そうすると好みも違ふし、統制をとる人がいないので家庭という雰囲気なんかない、たいへんさびしい食事をするらしいんです。私は帰つてきて「お帰りのない」という言葉を聞くまで、一日の家庭での雰囲気に対しての心配がとけないわけです。夫もやはりたいへん疲れて帰ってくるので、今日の出来ごとを話をすることもできません。私自身そういうことでもいろいろ洩たされないわけですね。いくら夫を教育しても最低どうしても必要なレクリエーションの時間まで削落して、そうして「私に協力しなさい」ということはいえない、そういうぎりぎりのところにあるんです。

田中 おしゅうとの話ですが、私に恵がおりましたところは自由時間がなかつた。とつても濃密な母で、掃除一つにしても非常にうるさかつたんです。丁寧に丁寧にやらなきゃだめなんですね。私は子供ができてからはだいたい子供にかまけて、できないところはできないと言いますが、それでもやはり昔の考え方というのは、一朝一夕になおらないですね。自分が新しいことをしたいと思うけれども、できないばかりに時間をものすごく浪費するという話があります。

角田 私は全く悪い嫁で、嫁にきて十五年になりますが、一度もお針仕事をしたことがない、全部母がやります。お金がないもので、五円とか十円とかわずかなお金で、上手におばあちやまを操縦しております。夫の操縦法というのは皆さん存じだけでも、おしゅうとさんの操縦法になると不勉強じやないかしらと考えております。もう少し若い人がユーモアをもつてやつていつたら、そんな問題は解決するんじゃないでしょうか。それから私は子供の問題で悩んでいます。子供のPTAなんかについてやれないんです。小さい子はとつても来てもらいたがるんですが、いつてやれないものですから、通知をもらつても「今日はPTAだけでも、どうせ来られないものね」と先にあきらめを持つてしまふ。なんとなく劣等感を持つていられるんですね。私はそれをどうしようかしら、とそれが悩みです。できるならば私はお動をやめたいと思いますが、それがいまのところできない。どうしたら子供をほんとに抱きしめて、自分の愛している愛情を示すことができるだろうか……どうして家庭に母がいないというさびしさを補つてやろうかと、そんな悩みでいっぱいなんです。

大野木 角田さんに対して、ぜひ子供の立場でいたいんです。私は母が勤めております。父は中学のとき亡くなつて、経済的にはすごく苦労しました。母が仕事を持っていて、子供を養育する時間がないと思うのは観念的な考え方で、気持があたりまえすれば、子供といふのはお母さんの生き方を見ていれば、絶対に今後開通つた道を進むことはないと思います。私の母は洋裁や和裁ができませんから、日雇人夫をやりがら私たち四人を育ててくれました。母のた

めならどんなことでもしよう、母が生きている限り私たちは間違つた道を歩くんじやいけない、という考え方がこびりついています。

子供は欲しいが……

西 実際自分自身のために自由時間を自主的に設計しようと思つても、家事、育児の問題、ことに育児の問題が非常に出ておりますが、どれくらい自分を圧迫しているか、という実情をお話いただきたいと思っています。

野口 私の場合特殊な仕事ですから自分で勉強しないと仕事についていけない。特に男の人についていけないという性質上、やはり家へ帰つて家事ばかりに追われていないで、勉強したいんです。それで、私の場合、家事というものを一週間に集中してやる方法をとつております。一週間の食料を一度に買い込み、一週間ごとの献立表を作つて台所にぶらさげておきます。市場へいく時間が省けるし考える時間も省けて、三時間程自分の好きなものを読んでいられる時間が生まれました。

北波 私も献立表を作つて、家事の時間をけじめをつけております。もうひとつの考え方の点で私もそうですが、遊んでいるときは仕事のことを考えて、仕事をしているときには遊ぶことを考える矛盾が主婦には多い。それを外人のように節度をもつて、遊ぶときは一生懸命遊べるような主婦になりたいし、仕事をするときには仕事をしようになりきるといふ節度のある生活が、私たちの生活を高めていくのではないかと思うのですが……

上村 私はいま読書会に入つてグループ活動をやっていますが、

それにいく時間がいまのところは、夫の理解もあつて非常にスムーズにいつております。それでいま一番悩んでいるのは子供ができてからもこういうグループ活動ができていくかということです。私がグループ活動をしておりますのは、共かせぎをしておりますと、自分で作り出す余暇時間がどうしても限度があるわけです。それで限度のある余暇時間を最も有効に使うには、グループの中の話し合いに一人のひとが問題を一つもつていけば、六人集まれば六つの問題が体験できるわけで、私は余暇時間の使い方というのは、グループ活動を通して非常に有意義じゃないかというので、グループ活動はどんなことがあつてもやつていきたいと思つてゐるんです。子供ができたなら昼間はどうかお手伝いを願つてできるとしても、夜の時間は主人に子守をさせてまでいくのは他人の余暇時間を束縛するという点で悩んで、子供を生めなくなつてゐるんです。

西 共かせぎの方も大ぜいいらつしやいます。子供はほしいけれども作れないという、たいへん深刻な問題が出てゐるわけですが、子供をお持ちになつていらつしやる方たちの中にも、もうまるつきり十分な解決方法を持つてゐることは限らなくて、問題があるわけですが、そういう中での問題点の解決はまた後ほど話し合うことにしますが、ちよつとそういうヒントみたいなことがおありならば……

新里 これは勤務婦人の大切な問題として、ぜひ考えていただきたいと思いますが、私たちが職場で、女の人には大事な仕事を与えられない、女はだめだといわれるひとつの大切なポイントが、女はいつやめるかわからないということだと思ふんです。そして、そ

のこの大きな要因になつてゐるのが、育児の問題だと思ふんです。この問題が社会的に解決されれば、私は一生働いていても悔いがないと思ふんです。今後子供を持ちたいと思ふ方も、いま持つていらつしやる方も、その問題を積極的に考えていつたら、婦人労働者の地位は確保できるんじゃないかと思ひます。

田中 私のグループのデパートにお勤めの方の話なんですが、子供が生まれて、お乳を飲みたいけれども、五人のポストがきまつていて、その中にもし二人の育児の人がいて、その人たちがお乳を飲ませにくく三人になつて手薄になる。そこでやはり万引きなんかかなりあるそうです。そうすると結局あの人がお乳を飲ましてゐるから、そこまで目が届かなかつたと、なんというか、女同士でなすり合いをして、自分たちで職場を狭くしてゐる。結局その人たちは育児時間は与えられてゐますが、高いお金を出して近所に預けたりして、自分のお乳が出て飲ませにくく時間が無いので、お乳をとめて職場についているというような状態です。

自由時間の設計

西 それでは次に、睡眠時間を含めての自由時間がどれくらいあるか……、皆さんのそういう書き真を少し出して下さいませんか。

北波 私は睡眠時間は六時間から七時間は必ずとるように努力しております。自由時間は主人と一緒に楽しめるレクリエーションというところで、卦を家庭の中に取り入れておりますが、多いときで三時間ぐらいです。

野口 私は睡眠時間は六時間半以上とつたことがないんです。自由時間は家事はほとんどご飯ごしらえしかいたしませんから、八時から十二時まで自分の時間にしてしまつてゐます。そして土曜が半どんのときには、土曜の午後はグループ活動、組合活動に当ててゐますし、日曜日は勉強もなにもいたしませんで、好きな音楽を聞いたりして教養の時間として費してゐます。

井上 私は勤務終了後六時から八時半まで洋裁にいつております。そして、睡眠時間はだいたい十二時から七時まで、朝の支度はあまり手伝いません。洋服から帰つてきてそれから新聞を見たり、ちよつと本を読んだりするとすぐ十二時になります。

大野木 私は全然自分の時間がなくて、朝起きて寝るだけだつたという例を申し上げます。早番の場合は四時二十分起床、仕事は五時から始まつて一時半に終るんです。その間七時半から八時十五分まで四十五分間朝食、それ以後一時半まで全然休憩がないんです。一時半に終つてからお昼のご飯をいただく。終りましたら自分の部屋へ帰つて、八人が一斉にお部屋の掃除をする。それから学校が五時から七時までありますから、その掃除のあと五時までの二時間ぐらゐが束縛されない時間になるわけです。私はその間に自分の好きなことをやつております。しかし、この間に組合の会合等もあつて、それに出席してゐると自分のやろうと思つてゐた事もできなくなるという様なことが、過去においてしばしばありました。集団生活においては、極端にいうと自分の時間がなくなつてしまう場合が往々にしてあります。

新里 女の人が集団の生活でもつて自由時間を失うということ

で、東京の会議のときに話題になつて注目を浴びたんです。またまたある人が会社の組合の役員に選ばれた。ところが行動力もあり一生懸命仕事をやるからということで、その人がまた上の役員に選挙され、上部団体にも出されるというようなことで、あらゆる時間が組合活動のために奪われる。そんなことで自由時間が金なくなつてしまつた。しまいに自分が何のためにやつてゐるのかわからない、何か自分自身の生活を見出だしたい、自分の時間をつかんで教養のためにやりたい、と思つていても、仕事の忙しさに流されて、しまいに流されつぱなしになつてゐるというような悩みを訴えた方があります。

渡辺 自由時間を阻害されるということですが、私たち家庭に帰つて、計画を立ててなにかしようと考えるけれども、不時の客のために、せつかく自分の計画した時間が阻害されるということがよくあります。

三野 私は留守居は母がしてくれまうので、家事は全部やつてもらつてます。私はほかの会にも関係してゐますので、役所から帰りましたも、それをしばらくやりまして休みますのが十時、朝は六時起床です。

山本 私の睡眠時間は不規則で、あるときは十時間、あるときは五時間、そしてまた朝から晩まで寝るときもあります。というのは夜寝ないで勤めて帰つた日は一日中睡眠時間です。その睡眠時間はあるいは自分の自由時間の一つにもなるわけです。平均しますと、私たちの場合、八時間以上寝てゐるんじゃないかと思ひます。また、自由時間というのをもたくさんあるんです。勤務の時間によつて

全く一日あつたり、二日続けてあつたりするわけです。ですからいままでは自由時間なんてことは、改めて考えてみたことがないんです。私たちが自由時間があり過ぎるためにかえって何して来たかわからないというのが結論みたいに出たんです。

田中 私は、親子三人で家にかぎをかけて出かけるんですが、家事からいつさい私がしなきゃならないので、一週間をどういうふうにするか、二年前から計画を立ててきめて、重点的に仕事をすることにしてあります。睡眠時間は、八時間とるように心がけています。八時間とれない場合は七時間ぐらいいです。大体、一週間、四時間は自分の自由時間になります。日曜日はすべて子供本位の日ですからオミットしてあるんですが。

上村 私は普通の土、日が休みですので、一週間の計画を立てて、土曜日に一週間の家事万端を一応やつてしまい、日曜日は昼寝したり、音楽を聞いたりです。普通の日は、帰りましてから夜九時までは夫との共有時間にして、話し合いとか、ラジオを聞いたりしますが、九時から先はそれぞれの自由時間です。私の睡眠時間は大体六時間から七時間です。

関口 私は恵まれていますので、自由時間は十時間ぐらいいです。私は住み込みのいわゆる女中さんの会を持っていますので、その人たちの自由時間について申し上げます。その人たちが、使われているうちの奥さんは、ひまなときは休んでいいとおつしやつて下さるけれど、仕事を免つけて働いたほうが奥さんの気に入るからというので、一日中ほとんど自由時間がないというんです。それでは、どういうふうにして自由時間を見つけているかといいますと、お使い

にいった時、十分ぐらいいで終らして、あと十分ぐらいいブラブラして帰ってくる、それが自分の自由時間だというんです。そういう人たちがいるということは考えさせられると思うんです。

西 いろいろ問題が出ましたが、ちやうど特別オプザーバーの方が見えていらつしやいますので、とりあえずきょうお聞きになりました範囲で、何かお言葉を頂きたいと思いますが、

多田(全労) 私は全労ということで参りましたが、全職同盟のほうの専従書記をしており、主として組織のほうの仕事をしておりますので、そういうところに焦点を置いて、いま伺つたお話の感想を申し上げてみたいと思います。

やはり組織の場合は、中小企業と大企業では相当大きな開きがあるわけです。大企業の場合は寄宿生活というように、非常に集団生活に伴う制約がありますから、私どものほうで、特に寄宿舎対策部というものを設けて、大企業の寄宿生活をしている人たちの集団生活をどうするか、というように、特に自由な時間をとるということについての対策を練っております。寄宿舎集団生活に伴う自由時間の制約というように、非常に大きな影響になる生活の建物の構造というように、非常に大きな影響になるんじゃないか。ご存じのように大企業の場合は、最近ではデラックス寄宿舎なんていうのがばつばつ出てきていますが、それがごく一部で、戦前の寄宿舎がだいぶ残っていて、そういうところで十五人に十人も生活しているというのが普通ですね、そういうところから非常に私たちの婦人の生活というものに対する考え方というのが、日本人全般が、やつぱり自分の個人の生活というものに対する考え方

が、ちやんとしたものになつていないんじゃないか。特に新卒の場合ですと、昔ながらの難居生活というのが、結構では当然のことにされているところにひとつの問題があると思うんです。そういうふうな生活環境を要するというところから、やはり個人の生活時間の中からできるだけたくさん自由な時間を確保していくということが、ひとつ解決策として考えられるわけです。

大野(総評) 途中で参りまして恐縮ですが、皆さんのお話を聞いて、私たち労働組合を受け持っている立場で考えられるのは、やはり働く婦人の問題は、いまの資本主義の社会ではどんなにがんばつてみても、一人の力では解決できない問題がたくさん出てくると思うんです。そういう問題に対して、やはり集団的な対策というものが考えられない限りは、個人の努力でどうしようもないというのがひとつ出てくると思います。先ほども出ました母性保護——生理休暇とか、産前産後の休暇とかいろいろの問題についても、いまの日本の社会では、時の力関係によつて、私たちの母性というものが押しつぶされたり、それから守られたりということが出てくると思うんです。そういう点現在の情勢は、非常に働く婦人にとつては芳ばしくない状態が出てくるということが、いろいろの統計で現われているわけです。総評は十月、十一月ごろに母体保護月間というのを設けまして、総評加盟の婦人部中心で、そういう働く婦人の母性の問題について浸透する努力をしていますが、やはりなんといつても婦人の力が弱いので、なかなかそこまでいかないということがいえると思います。

西 どうもありがとうございます。今日はほとんど職場の中の

時間の問題、それから家庭生活の中の時間、特に育児、家事に費やされる時間の問題、それから家庭だけでなく、独身の方の寄宿舎の中の問題、あるいは勤務時間からはなされた職場の自由時間の中での制約の問題、いろいろ出たわけです。それからそれらを阻害している問題がどういうことであるかということも、自分自身の問題もありまじやうし、それから社会の中に残っているいろんな古いしきたりの問題もありまじやうし、経営者のほうからの利潤追求の問題もありまじやうし、労働基準法の不備というように問題もありまじやうし、いろんな問題が出てきております。十五日にはそういう問題を、少しでもよくしていきたいということに重点を置いて、何らかの解決への道というものにお話し合いを進めていきたいと思ひます。

勤労婦人の生きがい

西 きょうは移動会議で、それぞれのところに行つてだいがニューアンスも送らうし、雰囲気も送つていたと思うんですが、これからのお話し合いの何か参考になると思いますので、特にお感じになったことがあつたら二言、三言おつしやつていただけませんか。

高間 私、東京の団地を見ましたが、想像していた以上にお粗末だつたんですが経済的に恵まれているためか、よほど空気を感ぜました。私たちは経済的に恵まれていないから、こうして働いているんですが、そのほうが生きがいがあります。

山崎 私は千葉の登戸農協ですが、最初犠牲から始まつたことが、現在は経済的な裏づけ、正当な労働に対する報酬を持つべきだ

という考え方に立っている、それが家庭婦人ばかりでやられたという事で尊敬しました。

西 そういう問題が日本では人情的に解決されていたのが、もつと合理性をもつてきたということね。

三野 労働率ばかりいまい一つの企業だということに踏み切りまして、もちろん家庭を犠牲にした面もありますので、理事さん方は手当とか、そういう面できちんと労働に対する裏づけというものをいま進めているらしいです。そういう点はつきりしてよろしかったと思います。

井上 私たちは東京でしたけれども、いやなことばかりで、私は結婚したら開地に行きたくないと思いました。

大野木 私は埼玉に行きましたが、すごくよかったですと思つて帰つてきました。

田中 私も同じ埼玉なんです、その農村で皆さんが一番悩むのはいなかへお嫁さんのき手がないうんです。それを聞いてほんとに気の毒だと思つたんです。

渡辺 やはり埼玉で、いまのクラブの方の経営がとてきれいなことなんです。お嫁さんが妊娠したときのらに出るのは重労働じゃないかという質問がでたんです。

そうしたらおしゅうとめさんが理解を持ってくれるからというようになことをおつしやつた、ところが私のうしろの一般の婦人の申からず、それはうそだ、そんなことは許されないう声が出ました。ほんとうのことは聞かれなかつたんじゃないかと思ひます。

係、あるいは世間の目というような関係で、よく思われたいというふうな気持ちが、それがまた成績の問題にもつながっていくという職場の中のひとつの空気、あるいは人間関係というものがどうしても勤務時間を合理的にさせないひとつの問題を出している。それから次に不規則な時間というのがあるのですが、二交替とか三交替とか夜おそくまで働かなきゃならないという、そういうところからくる時間の問題の悩みというものが出ている。それからその次には、経済的な問題として超過勤務というものが割合労働時間を不規則にしている。こういうことが労働時間の問題に關して出た問題点だと思ひます。

次に有給休暇の問題ですね。労働協約その他でもつて一応きめられて有給休暇ですが、これはすなわち自由時間として考えていい問題ですね、ほとんどの人が有給休暇を理想的な形においていていない。なぜ有給休暇を理想的な形でとれないかという点、一つは有給休暇をとればボーナスに關係する、出勤状態がよくない、とおかしなことで重められている。また自分が病気をしたり、不時の場合使うためにプールしてあるわけですね。だから自由時間のために有給休暇をとることはあまり考えられない。そのつぎ産前産後の休暇、これも自由時間ではないけれども、働く婦人の母性保護という問題、それがやはり十分にとられていないというふうな実態があげられたと思ひます。

以上のことが、いわゆる自分の労働条件の中で、時間というものがどんなふうに使われているかという点で、皆さん方から出された問題だと思ひます。

新里 東京のいいところだけ一つ発表したいと思ひます。三蔵の保育所ですね。私は東京にいてこういうお話はよく聞いていたんですが、見るチャンスがなかつたんです。市長さんに会つてその説明を伺つたときに、社会保険としてこの施設を作つたのではなく、あくまでも労働婦人が男子と同等の立場で働けるように作つたのだという事でほんとうにすばらしいと思つたんです。

西 いろいろと皆さんそれぞれの立場で感想を得たわけですが、そういう取組まれたものを大事にして、何かの機会に生かしてくださるうちに、これからの討議の中にもそういったことが参考になると思ひます。では今日の討議にはいる前に、一昨日の問題を整理してみよう。今年の婦人週間のテーマは「自主的な生活時間の設計のために」ということなんです、重要なことは、自主的な生活時間を設計するために、はたして自分には自由になる時間がうみだせるかどうかという問題だともいいます。そこで自分たちの生活の実態はどうであるかということを見つめてみるために、皆さん方にいろいろとおはなしをして頂いたわけです。それによりまずと、だいたいの次のような問題が出されたともいいます。一つは業務時間の問題で、仕事の性質によつて、勤務時間が長くなることを余儀なくされているという問題。この仕事の特殊性というのは、特に専門職——学校の先生とか保健さんとかは事務的に割り切れない、そういう専門職が、持っている仕事に対して情熱を感じれば感ずるほど、そしてその意義を十分に果そうと思えば思うほど、時間というものを事務的に割り切ることができない。これをどうしたらいいだろうかということ。それから次にはいわゆる上役とか同僚との関

次に勤務以外の時間、つまりうちへ帰つてからの時間はどうか、ということについておうかがいしましたところ、まず第一に家事労働の問題ですが、家事労働をどれくらい皆さんが負担しているかという点では、ここにおいてになる方々には幸いにも、経済的裏づけによる電化ということで、生活の合理化をはかつていらつして、相当解決していらつしやる。あるいはもつと計画的に一週間の献立を作つたり、いろんなことで解決していらつしやる。それから次に家族の協力、つまりだんなさまとか子供さんの協力で家事労働はなんとかいまいところ、それほど大問題になつていないらしいというふうなことが見られました。

ところが問題は育児ですが、ここで皆さん方が出されたのは、育児に時間をとられるということよりも、むしろ育児に十分なものが自分として与えられないという悩みが出ているわけです。この育児の問題は自由時間との関連で考えられるのか、あるいはもう少し深いところで考えられるのか、ちよつと私は大きな問題だと思つたんです。それから未婚者の立場では勤務以外の時間はどのようなかといえます、家事などに圧迫されることはあまりないようです。むしろ親子のあいだの心の干渉というところが、自由時間の十分な活用をさまたげているということですね。それから、これは娘さん、既婚者とも共通にあると思ひますけれども、勤務以外の時間の中で組合活動ですね、そういう特別な仕事のために自分の個人の時間がなかなか得られないという問題、それからケースとしては少ないけれども、寄宿舎というふうな集団生活の中で、建物の問題とか、あるいは同じ部屋に居る人たちの人柄の問題とか、いろん

なことで自分の自由時間にいろんなわずらわしいものを授け込まれるということがある。それから勤務を終えて帰った主婦として一番悩むのは、来客とか習慣が非常に自分の自由時間を阻害するという、勤務以外の時間の中で問題点、こういつたことがあげられていたと思うんです。

それから皆さんがどれくらい睡眠時間をとっているか聞きましたら、だいたい共かせぎをしていらつしやる方は六時間という数字が出ていますね。睡眠時間は八時間がいいといわれていますが、そうしますと六時間では二時間足りないわけですね。

私は最初皆さんにお伺いしたいんですが、いまあげましたように皆さん方の中に似た問題を整理してみても、この中で一番基本的に考えられることは、日本人の労働時間に対する観念というものはこれでいいんだらうかということなんです。どうでしょうか。それから、今年のテーマはくれぐれも申し上げましたように余暇時間の善用というような、ひとつの運動みたいなのではなくて、あくまでそれ以前の問題、つまり自分たちには自由時間が与えられることが必要なんだ。それはなぜか、ということですね。考えをできるだけそこへ集中して討論していただきたいと思います。

労働時間の観念

新里 その考え方で、自分たちの職場でいつも感じていることです。何か机の前で仕事をしていないと仕事をしているということにはならない、という評価の仕方があるわけです。ですからものを考えたり、その参考資料を読んだりなんかしていると、それが仕事

じやなくて遊んでいることになる。それは能率に対する考え方だと思えますが、そういう科学的な能率についての考え方が全然統一されていないんじゃないかということを感じます。

西 きのう山崎さんが学校の教師の仕事はすれば切れない。しかも端折つてやろうと思つたらそれもできるんだと、おつしやつたのですが、その点で山崎さんはどこへ線をお引きになりますか。

山崎 私はその限界でいたいへん悩んでいるわけです。どこまでが教師の領分なのか……とにわかれ毎時間毎時間充実すればいいのだから、授業だけ完璧にやれば何かは何もやる必要ないと割り切る方がありますが、それではだめだと私は感じています。

西 黒滝さんいかがですか、同じ先生の問題で……

黒滝 私の場合極端な考え方もありませんが、仕事は仕事、家庭は家庭というように割切つてしまつています。それで、家庭持ちの先生方と手をつないで、男の先生たちがいいようにいいます。私たちは大いにして帰りますよと、さつさと帰つてしま

渡辺 山崎先生は、授業時間を充実して与えればいいということだけは、概みを持つとおつしやつた。いまは「子供のしつけは家庭で」ということがよくいわれるわけですが、しつけのできるような家庭の環境ばかりじゃなくて、逆に働いて子供も見られないから、人格の点までも先生にお願したいという父兄もあるわけです。そういうときにこれをどう解決するか、ということもあります。

黒滝 例えば欠席児童があつた場合、学校ごとに規律部の生徒が

いて、一日休んだら係がみて、つぎの日に教師に報告するようになってます。生徒だけで解決しない場合にはやはり、私がじかに行くなり、電話かけるなりそこまではするわけです。しかし、そういうことは一カ月に二、三回で、あとは大いに行つただけで解決できるんです。問題児もクラス平均一、二人いますが、生活指導部の方、学生主任、校長という方と手をつなぎ合つて解決するようにしています。

西 教師の眼界とおつしやいましたが、これは大きな問題だと思ふんです。その他のいわゆる専門職の方たちの問題ですが、その眼界をやつぱりどこかで引かなければ、いつまでも自分一人が背負つていかなければならないという問題が出てくるんじゃないかと思うんです。使命感だけでやっていますと、やつぱりどこかでいつかは緊張が切れちゃうわけですね。それをどう合理的に解決していったらいいかということも多少考えておかなければ、ただ好きだから、義務だからやっているとただでは、その善意が最後まで通つていかないんじゃないか、という心配があるんです。どうしたらいいでしょう。

北波 私の場合、生活改良普及員の目的は、楽しい豊かな生活をしましょうという暮しの陰役者です。その暮しの陰役者が楽しい生活ができなかつたのでは、口先だけのから回りだと思ふんです。ですから普及員を志望したときに、普及員自体の生活も楽しい豊かな生活ができるようにしなくちゃいけないと思つて努力しました。たとえば、夜の会合を頼まれますね、農家の婦人は夜が集まりやすいので集まつてくださというわけです。初めは新米ですから、「は

い」といつていました。しかし、それでは相手の計画の時間を無視してしまふ結果になるんです。しかも夜居眠りしながら大切な話をして、昼の農作業には疲れたからで出るよりも、大切な時間の中ですが、日中にその時間を持てるようにすれば、私の夜の時間も十分に使えますし、相手の夜の不規則な農作の節度のなさも追放できるんじゃないか、と考えたわけです。

西 たいへんいい話が出たんです。これはいいかえてみますと、自分の仕事を自分だけで考えないで、仕事の対象も引き入れて、そして自分の生活時間も考える、相手の生活のことも考えるという、そういう相手をも含めて仕事を進めていくという、ひとつのたいへん合理的な解決策をお出しくださったんですが、そういう意味でどうでしょう、新里さんの場合もそうだし、山崎さん、黒滝さんの場合もそうだと思いますが、なんかそういうことであなたの生活も生かされ、相手の生活もそれによつて生かされるというふうなやり方は、どこかでないでしょうか。

新里 私は少しやつています。それは勤務婦人の余暇時間を利用して教養の向上とか、組合意識の向上というふうなことにについて話し合い、勉強をするんですが、それは私自身の勉強でもあるし、皆さんの望んでいるところでもあるわけです。いまの方のようによりよくしたいというので、勤務時間中にその仕事ができれば私はなおいと思うんですが、相手が労働組合の方たちですから、組合の勉強をするために時間中にとやるということは、会社に対して不利な場合が多い。これは一つの障害です。

渡辺 私のところは母子相談員がいるんですが、その人たちのと

ころへ相談を持つてこられるのは大抵夜なんです。お母さんたちが働いていますから、昼相談にくると、それだけ日給がもらえないんです。私たちは職場にきてくださいと、呼びかけるのですが、現実問題として、休めば百八十四ももらえせんというんです。そううつてくると母子相談員の善意でしようが、家にきてもらえないんだからというので解決できない。子供さんの保育園の問題にしても、子供さんをお母さんが迎えにこない、お母さんは時間がきてても帰るわけにいかないということになるんです。生活が困っている人にはなかなか理想的にいかないんですね。

生活時間合理化の手がかり

西 北渡さんの場合は幸いにして非常に努力されて、夜の座談会だけは断わろうということで、両方ともひとつの合理化に踏み切られて、それができた。渡辺さんの場合は、それがどうにもいまのところはできないほど相手が貧困だという問題で釘づけになっている。それをここで、じゃあすべてが北渡さんのようにできるかどうかということになれば、それは絶対にやりましようというふうには持つていけないかもしれないけれども、それじゃこのままでいいかということになれば、どこに問題があり、どこを手がかりとして少しでも理想に近づけるようにするかということになります。

北渡 婦人参政権も年月を重ねて叫んで生まれたので、私たちも初めから集まれる会合にはならなかつたんですが、いまの農業経営はこういう危機にさらされている、その重大な問題を話し合うのだ

らない現状です。私たちが時間短縮とか、人をふやしてくれというと、そんなにいうならば合理化をすると出てくるんです。自動化してしまえば問題がない。そうしますと反対に人間が余つてきます。ですから一方で合理化の反対ということを叫び、その反面時間を短縮してくれ、人をふやしてくれという。考えてみると矛盾だらけです。

大野木 時間短縮というものを労働組合の問題として取り上げて、現実には歩み出していかなければならない。金銭でストライキまでやつて、十五分の時間短縮をやつて八時間から七時四十五分になつたんです。それまでには女の人の意識が低い、「なにさ十五分ばかり」という観念がみんなにあるんです。それをどういうふうにしてみんなに浸透させるか、ということが問題で、労働組合の問題にしても現実には歩み出さなさいけないと私は思います。

角田 時間短縮を私たち考えてできないかというのと、できるんです。できたんです。最初は女はおかしなもので、勤務時間なのにベちゃくちやする時間はあつたんです。(笑)これを自分で意識しなかつたまでのことです。女は降りの人が仕事をしていると、自分もその仕事をしないと都合悪いというような自主性のなさがあるの、その自主性のなさで労働時間が短縮されない。まず自分の職場の中をもう一べん整理する必要があると思つています。

野口 一般の働く人の中には自分たちがいくらストライキなんかやつて、最低賃金を上げようと思つても、どうせ上げてくれないから時間がかせうじゃないかという言葉があるんです。

高間 いま最低賃金の問題が出たんですが、これはとても矛盾の

から遊び事じゃない、仕事と同じようなものだから昼間討論してもいい問題だ、ということを重ねて話をしたんです。

角田 三年前に私は婦人会として家庭を新生活運動で回つたんですが、どこに抵抗があるかというのと、大ていおしゅうとめさん側に抵抗がある。おしゅうとめさんというのはもうここに坐つていて、考え方もきまつてしまつていて、いくらゆすつてもゆすつてもゆさぶり切れないんです。

野口 私たちには労働時間を短縮するというよりも、延長のほうが、生活態度として正しいという考え方が植えつけられていると思うんです。私もそれで非常に職場で人数が少なく仕事が多い、機械化するなどして、仕事の性質をすつかり変える工夫をしました。

労働時間を延長するとか、人をふやすということの前に、自分の仕事をもう一べん考えなおして、能率の上るようにならないかということ、考えてみる必要があるかと思ひます。

西 つまり定員増の問題とか、機械化の問題以前に、いつたい労働時間はこれでいいのかという考え方があつたと思うんです。ただ一般の人たちに野口さんのおつしやつたような、これでいいのかという考え方を、もう少し合理性を持つて徹底したらいいんじゃないかと私は考えてみたかつたんです。その点でどうでしょう若い方たちのほうから……。

山本 私のほうは人が足りない足りないことをよくいうんです。交換手の場合は、加入者がいくつあるから一日の呼びは何べんと、公社側は基準を出していますが、実際は二倍も働かなきゃな

ある話なんです。というのは全体の能率を上げなければならぬ、そこで能力のない人をどうするか、という問題です。会社側もやはり八千円の最低賃金を払うならば、それだけの能力のある人間しかいてもらえないのです。もう一つの問題は、これは私自身の生活になるんですが、私の場合は、倉庫といつても生活指導の部面を持ちますと、先生といわれる立場におかれておりますし、一日八時間労働を楽しくするように、意欲を持たせるのが私の使命だと思つて喜んで仕事に當つていゝんです。ところが若い娘さんたち二百二十人もいる中で一人留守番しているものから、朝から晩までするすると、全然学校の先生どころじゃないんです。私は午後三時には帰つていいことになつて、夜七時から九時半まで事務所の番番をしてくれということになつて、八時になると寮生を全部寝かせます。そのあと九時半まで留守番をしているんですが、その間退屈なので、読書や編物をしているんです。ところがその編物をしているというのを寮生がいやがるんですね。与えられた八時間労働の間に自分の仕事をしているというのです。それから問題になりまして、それじゃああなたたちと組合の人、会社側との四者で話し合つて、私はまな板の上にのせて、どういふ仕事か私の大切な部分か協議してくださいといつたんです。それでいろいろ話し合つたところが意外なほうへ発展して、会社側では夜の時間は高間先生に解放してあげようというんです。ほんとうに願つたりかなつたりのお話で、とにかく五時までは全責任を負う、あとは自由にしないといふことになつた。そうした問題が持上つたことが私にいい解決方法を与えてくれたんです。

上村 皆さんの話を聞いていて勉強になることばかりなんです。高間さんのお話、最低賃金をきめたために経営者のほうが、何かそれだけの能力がないからと困るというお話ですね。私はそれは経営者の考え方にあると思うんです。経営者は企業の発展だけを考えてやっていることですね。それを働いている人が、食べていけないということを考えたなら、能率とか、そういう問題を度外視して、最低の賃金は上げなきゃならないという考え方を経営者がしなきゃ解決しないと思うんです。

家事労働の問題点

西 いま出ました問題は勤労婦人の問題として、あらゆる問題が、出たわけです。合理化をしてほしいという方もあるし、合理化されれば困るという話もあるし、それから最低賃金と労働時間の問題、職場の中の自分自身のおのものの考え方ということも、もつと整理する必要があるんじゃないかというようなこと、いろいろ時間ということから考えてみても、今日の勤労婦人が当面している問題が出てきたわけです。こういう大問題をここで二日議論しても、三日議論しても、すぐ、じゃそれひとつやれば解決するということ問題は私はないと思うんです。同時にまたどれからでも手をつけていかなきゃならない問題ばかりではないだろうかと、それだけははっきりしたわけです。そこで残りの時間を勤務以外の時間についてどう考えたらいいか、どうしたらいいかということを話し合ってみたいと思います。たとえば家事労働というのは、どこまでやつても切れない。皆さん家事労働をどの程度で切り上げようとしていら

つしやるか、私なんかよけいなことでしちやつて、そんなこと何べんしても同じだとあとで損したような気がするんがあるんです、どうでしょう。

新里 具体的なことで、食事までの時間がたいへん長くなるというところで、だんだん料理の仕方が単純になつてしまふ。できるだけ安い切り身を買って焼いて食べるとか、せいぜいごちそうといえはお汁をつけるというふうなことで、栄養ということでは気にかかるとすけれども、まず時間をなんとか短縮して休みたいですから、食器を洗う手間がなかったら、どんなにいいかと思うんです。

田中 私は食事のことは絶対厳密にやることにしています。けれども半製品を使つて時間を短縮するようにしています。お掃除なんかはルーズなやり方で、使うところだけは毎朝やつて、あとは一週間に分割しています。

北波 私は献立表はこまかく立てると、かえつてそのために時間があるの、献立の組み合わせだけを考えているんです。カレーライスのときには何を組み合わせたらいいかというだけで、簡単な組み合わせカードを作つてやつています。

野口 私の場合、一時カン詰を使つたんですが、カン詰では財政がとて持たないの、一切カン詰を使わずに一週間の献立を立てて、計画的に日曜日に買つてきます。

角田 計画的にやるというのは、恵まれたところに住んでいらつしやるからできるので、私どもは朝十時ぐらいになると、お野菜なんかかついで売りにくるんです。漁があるときはお魚もたくさんありますが、お肉なんかないんです。その日その日で計画を立ててい

ても違つてくるわけです。

大野木 家事労働を合理化するについて家庭の人の協力がなければできない。電化しろといつても貧乏で電化どころじやない、おかずもおいしいものを買えないと思うんです。ですから家事労働を合理化する場合に、家庭の人たちの協力、主婦の立場を理解してもらうことが、とても重要なことだと思います。

西 この中でお手伝いさんを入れてらつしやる方は……

(新里 黒滝氏挙手)

西 あなたのところはお手伝いさんを求めることは、そうむずかしいありませんか。

黒滝 わりにむずかしいですね、若い方ですとほとんどなり手がないんです。私の場合は、前の方がやめる二、三カ月前に床屋さんに頼んでいた、それでその方からまた聞きして向うから直接……

新里 私は、母の郷里の遠い親戚になつている方をお願いしたんです。

西 男性の協力の前に、お手伝いさんの問題は社会的な問題ですから、お手伝いさんをおきたい方も出てくる、子供が生まれたような場合、保育者を入れなきゃならない、そういう場合に、床屋さんに頼まなきゃならないとか、八百屋さんに頼まなきゃならない、それだけで解決ができるかどうかということですね、どうでしょう。

山崎 私はお手伝いさんは頼んでおりませんが、お手伝いさんを頼んでいる方の話によると、電気器具なんかたくさん出てくると、十分それを使いこなせないところもあるわけですね。それで電気器具の使い方などの勉強を三週間ぐらいやつた人たちをお手伝い

さんとしてお世話なさるという話を婦人少年室で聞きましたが——それからお手伝いさんがなかなかないという話ですが、内職も安いからパートタイムでやりたいという方があるんです。そういうのをやつていただきたい。

野口 大阪は婦人少年室が非常に力を入れていただいて、働く婦人の代表と、家庭婦人の代表と懇談会をやつて、その話し合いの中で家庭婦人と勤労婦人が手をつないでやつていこう、そしてもつと市の協力を得なきゃだめだということで、民政局に働きかけて、民政局でこの問題を取り上げております。

渡辺 だいたいどれくらいお手伝いさんに差し上げていますか、給料を聞きたいんですが。

野口 大阪の場合、家事サービスセンターがあつて、一定の訓練を受けてきた方で六千円か七千円、これは通勤の場合ですね、このほかに通勤費が出るわけです。商売をしている場合は、労働時間が長いので一万円ぐらい出しているところもあります。

西 私は、東京の家事サービス指導所のお手伝いさんの養成機関の委員をしているんですが、住込み三食付きで、だいたい最低四千円、通勤で一日三百円、交通費は使用者持ちで昼食付きです。これは最低線です。これに赤ちゃんのめんどろを見なきゃならないとか、お年寄りがあるとか、家庭の仕事の内容によつて相談をして、これ以上になつていきます。

上村 いま通勤三百円昼食つきというお話ですが、若い人の共働きでは、二人合わせて二万円ぐらいですから、お手伝いさんに一万円も払つたら自分の給料以上払うことになるんです。

新里 私は上村さんのおつしやつたそういうことでほんとうに悩んでいます。ときどき私は、その人のために働いているんじゃないかという疑問さえ感じて、たいへん苦しみられることもあるんです。

田中 私の地方は城下町だから人の使い方に対する観念でも、割合に古いんです。ですから中学を出た女中さんが、定時制の高校に入らせてあげるといふ条件でいくんですが、朝早くから起きて、奥さんは朝九時ごろから子供などそつちのけで遊んで歩いて、それで学校へ行きなさいとおつしやつてくださるけれども、一日の疲れで学校どころではない、自分のほうからやむを得ず行かれないという状況がたくさんあるんです。

西 少し結論めきますが、経済と自分の仕事とアンバランスだったときに、何のために仕事をしるかわからないというような話がありました。これはまた個人差の問題であつて、自分の給料を注ぎ込んでも仕事がおもしろければやつていく自由があるし、経済的につまらないと思えばやめる自由もあるのだし、その半分ぐらいでやれる方法はないかと思つたら、主婦のパートタイマーを当てにすることもできる、そこいらに柔軟性が持てると思うんです。

家庭での夫の協力

西 午後の話し合いに入る前に、高間さんのほうから出ました例の労働基準法に定められた四十五分のお休みはとらなきゃならないが、二交代で働くとき十時半になつてしまふ、あとの時間がたいへん苦しいから休憩時間を短縮する方法はないかということ調べてみ

ましたら、やつぱり八時間働く人は四十五分の休憩をとらなければならぬという基準法があつて、三十分の休憩でいい場合は六時間の勤務に対してだということなんです。もしもこの基準法に触れないで、そして皆さんが少し楽をしたいのだつたら、労働時間をなんとか短縮する以外に法を犯さないで働くということではできないらしいですね。そうすると、やつぱり時間短縮ということになつてきまして、それはどう解決なさるか、組合運動とかその他の地域の問題とかで、これからまたお話し合いになつていただきたいと思ひます。それだけちよつと申し上げておきます。

午前中に家事の問題とお手伝いさんの問題にまで入つていつたんですが、大野木さんからだんなさまの協力はどうかという話が出たんですが、これはどうなんでしょう。簡単にどう考えるかという考え方だけおつしやつてくださいますか。

北波 私の場合は、私が職業を持つというのには、私が持たしてくれという条件で持つております関係で、とても苦しいんですが、やはり昔から男は台所に立つのはあまりよくないように見られた社会環境に育つておりますと、周囲への気がねもあり、なかなか思うように手伝つてもらえないんです。

山本 私たち「あおり会」という結婚前のグループを作つたんです。その中で、共かせぎは是非か非かという討論をやつたんですが、男の方から共かせぎについて、どのような考え方があるか何つたんです。その時に男の意見として女の方はどしどし社会に出てやつてほしい、男というものはどうしても妻がうちで働いていると、おれが食わせてやつているんだからという気持ちが出てくると思うんです。

やつている。これは中年以上の私たちの考えが間違つていたということを目覚めたとおつしやつたんですが、非常に感激しました。

西 ご主人に家事労働をどんなふうに協力してもらうかということについても、自分自身で頭の切りかえをしなきゃならない問題もあるし、それから男の自身が変わつてくれるかということもあるしそれからいわけゆる世間の目ですね。それとも職つていかなければならない。それから男の人が台所へ入つてもおかしくない雰囲気を作ることも大事なことでと思います。心がまえただけではできない。さつき上村さんがだんなさまはすべて奥さんにまかせている。そこで主婦の確立をしているということがだんなさまにとつても安心だという、そういう考え方があらんじやないか、とおつしやつたんですが、それはどう考えますか。

新里 実際にはそういうことだと思ひます。ですけど、男の人はうちへ帰つたら仕事のことを考えないでもいいような状態に、いまの社会はなつていないし、共かせぎの女もそういう状態で帰つてくる。そういう場合に一応家庭の中で主権者が確立されていて、夫から家庭のことは君の責任であるとかまかされている妻の現状、そういう二重な仕事を持つているということは絶対的にあると思ひます。自分も疲れているけれども、おしりをはたいてやつてもらえないという感じがするんです。

託児所問題の周辺

西 次に子供さんの問題に移つていただきますでしょうか。一応託児所の問題に触れていただきたいと思います。子供は託児所がで

ね。女は女でやつぱり経済的なことにならなければ、自分が食べさせてもらつていてという気持ちが出てきますから言いたいことも言えないというのです。男の方も社会的に見ても自分の奥さんが、人より下でいるよりも自分と同じ、みんなと同じで社会知識も豊富だということは、自慢になるといふんです。

上村 これはうちの主人の場合だけかもしれませんが、大いに協力したいとは思ひますが、うちのことは主婦にやつてもらいたい、ということも非常に希望しているわけです。家庭においては全部奥さんにまかせているというのは自分が安心して働けるということもあるし、それは反面から見たら主婦の権利が確立されている、というような見方ですね。

三野 これは高校の教師の方がおつしやつていたんですが、私は主人にはたいへん失望したから、子供は小さいうちから男性、女性の区別なしにお針とか、いろんなことをやらせている。次の世代を教育するのは女の人間がななくお母さんになつたときの責任だ、というふうなことを申されておりました。これはたいへん必要だと思ひます。

高間 きこのうで見した三菱重工業の社宅の話ですが、その中に若い方が共かせぎをしていらつしやるんです。ところが便所掃除なんか共同でやるんだそうですが、奥さんがお勤めに出たあと、だんなさんが便所掃除に出てきた。それで近所の方がびっくりして、いくら共かせぎをしているからといって、だんなさんが便所掃除に出てきてもらうのは心苦しいというんですね。ところがその後しばらくそのご夫婦の様子をみると、そういうことは実に割り切つて

れば安心して働けるようなものですが、託児所があつても託児所から帰ってきた子供を、また家庭で受けとめて教育をしていかなければならない、見てやらなきゃならない、それが自分をまた押しひしげで、なかなか自分で考える時間もなくなつてしまふというふうなことでですね。働いていらつしやる皆さんとして教育の問題は……。

田中 これは私が子供を育てたときに思つたんですが、私は子供が生まれてすぐ、役所の託児所に三年ほどつれていつたんですが、託児所といましても乳児から数えの五才まで四十八人いまして、保育士さんが二人だつたんです。そうすると結局一人で二十五人ぐらい受け持つことになり、子供の教育ということが全然なされない。上のほうの子のひとりが泣きますと、寝ている小さな子が起きるんですね。そうするとしかつて、なるべく泣かないようにさせる。そうすると子供はそういう圧力に押されているので家に帰ると親にひつつくんです。四つぐらいになりますと、親の顔色を見て、忙がしうだとひとりで積み木をしたりして遊んでいますが、一つ半か二つぐらいはひどいんです。台所にいくにも泣いてついでくる。自由時間なんて全然ないんです。はたしてそういうふうにした子供がいはうに成長するかどうかが疑問です。その点皆さんどうでしょうか。

黒滝 私の場合、お手伝いさんをお願いしていますが、どうしても甘やかす、しかつてくれないということが私の一番の悩みになつていふんです。

渡辺 託児所は子供の教育をするところではなくて、お守りをするところでしょう。いま教育のことが出たんですが、お守りをする人が少ないと、おむつをあてたまふ十二時までほうつてある。そういう

けというものは託児所はしつてくれていると思ふんです。

高岡 私のほうでは会社で犠牲的に見てあげる、でも問題はあります。そのときは母親のほうから、こういう点是不合理だからという問題を出して、組合が中に入つて解決している。私は自分の子供をやはりつらい中から育ててきたものですから、こういう環境にある子供をどういうふうにしたらいいか、その弊害というものは自分一人ではとても除くことができない。自分の愛情のあり方を変えることによつて子供を育てていきたいと思ふんです。

西 託児所といつても完璧の託児所もあるでしょうし、そうでないところもあります。しかし働く女性のために社会の施設として、どうしてもほしいというところは異論がないと思います。その運営の仕方とか、保育士さんがもつというつしやればいいのか、お部屋もたくさんあればいいとかいろんな問題が出てきます。これは地方々々の行政にお願いしなきゃならないし、組合の力とか地域のお母さんたちの力とか、いろんなもので改善していけると思ふんです。子供さんも託児所で愛情をもつてめんどうを見てくれるかもしれないが、もう少し母親の気持ちを補つてくれるような、そういう子供の扱い方がないものだろうかということについて、何か方法はありますせんか。

渡辺 これは私のほうの貯金局の人たちの話ですが、あそこはとも共がせがみが多いところなんです。それで個人的な契約をして、専門のところ、その方に赤ちゃんを預けて、預けた人はお母さん代りに一日見てあげる。そしてお母さんが帰るときに預けた方から赤ちゃんを受取つて帰るんです。このやり方に私自身は非常に賛成して

う子供が幼稚園に入りますと、四つぐらいになるまでおむつを穿るんです。それから親の顔色を見るというのは事実です。保育所なんかたくさん子供を入れますと、確かに顔色を見て、すなおな子供ができないと、保育所の先生自身が悩んでるんです。

田中 私の子だけかもしれないが、消極的な子供ができる。そういうことをなくしようと思うから、家に帰つてなるべく一日の押しつがされた気持ちをほぐしてやろうという気持ちで、それがちやほやするということになる。

角田 しかるといふことが出ましたが、私は幼稚園では絶対しからないようにしてるんです。女というものは特に感情でもつてしかることが多いんですよ。私は時に感情家ですから感情を出してしかるといふのは一番いけないことだと思つて一生懸命制している。しかるといふこと、きびしくするといふことは逆うんです。逆戻りして悪いんですが、さつき黒滝さんは、自分の十五分間の休みを労働時間を短くするために使つておつしやつたでしょう。私が子供を出した場合に、母親として考えることは、先生は休み時間にもすみませんけれども子供と遊んでくださいといいたい。子供の心を掌握することは、授業時間だけではなくて、そういうところにもあるんじゃないかと思ふんです。

山崎 私は託児所のよい点もお話ししたいと思っています。私の妹は託児所に勤めていますが、託児所にいる子供は人の顔色を見るといいますが、反面非常に早くから自分のことは自分でできるんです。それから託児所のしつてすけれども、どうしても人間としての最低限度やらなければならぬ両便とか、生命の安全とか、そういうしつ

います。

高岡 私の町の施設は保健所の所長さんが顧問になつていて、保育士さんが全般にいろいろな講習を受けてやつております。しつての部門もある程度年輩の保育士さんいて、やつていふと思ひますが、各自の母親が利口になつてしつていくよりしようがないと思ふんです。

西 その問題について東京でひとつ今度実施されようとしている問題があるんです。それは東京都の民生局で、家庭福祉員というものをやるんです。これは託児所を作るには非常にお金がかかるし基準がある。そんなことをいつているうちに困つてお母さんが出てしようがない。東京でも個人契約で子供を預つていけるケースもたくさんあるので、ここに手をつけてじやどなたでも手のあいていける人は預りなさいというの、あまりに行政庁としては能のない話だから、ここでひとつ家庭福祉員という肩書をつけて、たとえば保一應監督をし、それから認可するという立場をとつて、たとえば保健婦さんの経験のある人とか、産婆さんの経験のある人、学校の先生をした経験のある人、またお医者さんでもけつこう、それから家庭の婦人でも、お子さんを何人か育てて、十分自信のある方、それから保育士の経験のある方とか、資格を持つた方たちを募集して、それを各福祉事務所や資格審査をして認可を与える。そして何人かプールしておいて多少教育もして、その近くの預けたいお母さんたちを募集して、一人が最高三人までは預かることができるという方法をいま計画中です。料金のほうも一人三千二百円です。ですから高岡さんがおつしやつたように、絶対的にお母さんの代りをする

ということではできないけれども、託児所よりなにかその人によつては、お母さん代りになれるんじゃないだろうか、そういう新しい方法がとられていきますので、ひとつご参考になるんじゃないかと思います。

それからこれは今日の問題ではないんですが、育児の問題で、託児所とか個人に預けるといふことで解決する面もあるんですが、愛着の問題でお母さんが悩むのだつたら、お母さんはその間子供が小さいうちは一応うちにいた方がいんじゃないか、というふうな意見も出てくるんですが、これは考え違つていらつしやる方もあると思うので、少し問題にしていただきましようか。

角田 私はほんとうにこの間も申しましたように、自分の子供が悪くなりかけましたので、その悩みを持つていたもので、子供が高校にいくぐらいになるまでいてやりたい。ところが、それまでうちにいたら、その次の就職口がないので、それができないという苦しみがあるんです。

山崎 私はこういうことをやつてもらいたい。母体保護の産前産後休暇と一緒に育児休暇を作つて、その間でできれば休給をもらいたい。大まけにまけて休給の三分の一ぐらいの児童手当を要求するんです。そして子供が大きくなつたら必ず復職できるという約束をする。

野口 また組合なんかで母体保護運動を進めたときに、いろいろ育児のことで行き詰まつたんですが、結局母体保護とか育児とか、いうことは社会保険制度でやるという様にもつていかないと、解決できないと思うので、飛躍するようですが、私たちの日々の活動を

通じて世の中の仕組みを変えるようにもつていかないと、だめじゃないかと思つたんです。

新里 渡辺さんから、子供が生まれてから育児期間は家庭に入るべきだという意見が出たときに、ちよつと反発を感じたんですが、いまお話を伺つていて、そういうふうな問題を無理じゃないような方法にもつていくことが、望めば可能じゃないかという、光みたいのが出てきたんです。休暇をまとめてとるとか、社会保険で保険がなんか出してもらつて、安心して休んでいられるような状態とか、そういう方向へもつていくんじゃないかと思うんです。そうじやなくて、なんでもかんでも家庭に帰つて休んでいろうということでは男性の、あるいは経営者の方々に利用される危険があると思うんです。

自由時間の工夫

西 いい意見が出ましたね。これから皆さん方が、これをどういうふうな具体化していくかということ、日常活動の中で実らしていただきたいんですが、ひとつの手がかりとして考えていただきたいと思ひます。

自由時間というものをとるためにさまざまな問題をお話しくださいつたんですが、皆さん方どれくらい自由時間があるか、カルテみたいなものを示していただくといふんですが、午前中にも報告したように、ぎりぎりのところとるのが、なかなかむずかしいというのが皆さん方の実感ではないかと思ひますけれども、かといつて、まるつきり自由時間はこれ以上とれないのかというと、とれないとはいえない

ような気持ちもしてゐるんです。どこかでとる工夫をもう少しすればとれるんじゃないか、その点どうでしょう。

井上 朱鷺の立場からお話します。私たちの場合は、勤務八時間というものが終ると自由時間なんです。自由時間の過ごし方に問題があると思うんです。私たちの会社は中学卒が多く、流れ作業をしているので、他の人と接触する機会もなく、知識を吸収する機会も少ない。彼女たちの自由時間の過ごし方を見ますと、昼の時間は洗濯したりレース編みしたり雑談したりして過し、勤務終了後は洋裁とか和裁とかに通つてゐるんです。全然教養の時間が少ないです。このような人たちがもし結婚した場合子供の教育がほんとうにうまくできるかと考えると、自由時間の過ごし方にはほんとうに問題があると思うんです。

西 もつぱら生花とかお茶とかいうふうな花嫁修業になつてしまふことが心外だとおつしやるのね。

大野木 私は十太助ですから、自由時間は比較的恵まれていますが、教養の面でも、学校へ行かなくても自分を高めるといふ時間を持つてゐるんですが、集団生活の中において、どれだけ自分が拘束されているかについて悩みを持つてゐるんです。八人から十人の人が一つの部屋に入つてゐると、全部私生活を見られてゐるわけです。自分一人きりになつてものを考えると、思索にふけるという時間が作れないんです。睡眠時間をさいてでもない、なかなかないんです。

田中 自由時間というものの考え方についてですが、社会的家庭的に拘束されない時間が自由時間だと一応考えていますが、井上さ

んのおつしやつたお裁縫とかお茶とかを習つてゐる。それも考え方によつては自由時間を利用してるということじゃないかと思うんですが、これについて……

西 自由時間というものの基本的な考え方ですが、ちよつとむずかしくなりますが、どうでしょう。

山崎 自分の要求でやることは、私は自由時間だと考えてゐるんです。人から強制されたものは、よそから見たら遊んでゐることであつても自由時間ではない。よその人から見たいへんだなと思つても、自分から進んでやつてゐるのは自由時間だと思つてゐます。

新里 自分から進んでゐるということになると、私たちは全部自由時間みたいになつちやう。いろんな定義の仕方があると思うんですが、生活する上に必要な時間を除いてしまつた時間で、しかもその時間は自分の考えてゐることのために自由に使える時間、というふうに一般的に考えていいと思うんです。

角田 私は自由時間が少ないほうですけれども、私の自由時間の考え方はちよつと変つてゐるんです。昼の時間は遊ばないで、一生懸命掃除をする。全部で二時間もかかるのだけれども、それを自由時間と考えながらやつてゐます。掃除は、しなきゃならないことで、自由時間ではないけれども、三人で楽しくおしゃべりしながらやつてゐる。なんとかこれをもつと早くする方法はないかしらと、おもしろ半分に話しながらしてゐる間は自由時間と考えてゐるんです。けれども、そういうことが当り前になつてくると労働時間の短縮ということがいわれなくなると、反論されそうですが、そうなる

と私は迷ってしまうんです。

野口 私の場合は非常に忙しかつたんですが、自分でこういうことをしたいという目的を持つたんです。そのために生活の合理化というか、生活の簡素化、建直しをやつてみたんです。そうしたら案外時間が浮いてくる。職場でも仕事の簡素化というか、質を変えるように、皆さんとやるようにしました。

北波 角田さんの場合は自由時間じゃないんじゃないかと思うんです。それが自由時間だつたら生活改良普及員の私なんか全部自由時間になる。

高間 掃除はどうしてもしなきゃならないことで、いくら楽しみながらでもそれは束縛された時間だと思います。

角田 それはわかるんですけど、お昼の時間は自由時間です。その時間に楽しみながらやると自由時間にならないのかな、ということですね。融通性があつてもいいんじゃないでしょうか。

田中 角田さんによく似てゐるんですが、私たちがたとえば講演会なんかに出るとき、こういう講演会があるから出てほしいといわれて、自分はいやだけれども出たというのは自由時間じゃない。けれどもそのとき自分が出たいという場合がある、そういうときに参加するのは、自由時間か、自由時間ではないかということについて疑問があるんです。

山本 一昨日から役員の問題が出てゐるんですが、職場にいると若いものに役員が回つてくるんです。それで役員をやつていて自分の仕事ができない、だから自由時間がないということが出ましたが、私はそう考えないんです。なぜかといえば、やつてくれないか

ものが自由時間という、これが学問的な定義だそうです。生きていく時間は何かと聞きましたら、睡眠したり、食べるために働かなきゃならない時間だときき、これは納得したんです。公けのためにサービスする時間は自由時間と解釈していますが、学問をするのも芸術をするのもすべて自由時間であつて、自由時間があつてこそ私たちは向上するんじゃないかな、というふうに解釈しておりますが、どんなものでしょうか。

西 それでいいんじゃないかと思ひます。その時間を生み出すために、より私たち婦人の社会的地位の向上ということが、婦人解放の条件だけれども、それがあまりにも無視されてきたという現状、あまりにも自分たちが認識していなかったというふうな実情を見つめましょう、というのが今日の会議のテーマなんです。それから、それで皆さんいいんじゃないでしょうか。——どう使つても結局はいいことになるんですが、それでも野放図に使つていいものでもないし、一応の社会生活をしており、また家庭生活も営みしておりますから、その中でよりよきあり方という、ものの使い方の問題というものも、多少反省もしなければならぬところがあるんじゃないかと思ひます。具体的な内容の問題に入つていってみたいと思ひます。若い方たちが花嫁修業ばかりに閉じ込めるといふことは、おとなから見ればたいへんいい娘だけれども、娘の立場から見るともの足りないという話も出ましたが、どうですか、そういう使い方について考えていらつしやるような考え方でいいのか、あるいはもつとそれを柔軟性を持たせていいのかということがありますね。

渡辺 私は小さいときから母に、ご飯など家事のことはばかでも

ときた場合に、それを受けるのも受けたくないのも自分の意思です。いやだつたら断ればいいんです。私は入社してから一、二年は断つていたんですが、三年、四年ぐらゐになつて意欲がわいてきたとき、やりましようと思ひ受けました。ところが母にいわせると、毎晩々々、今日はなんの会でおそくなる、女としての仕事をいつやるのだといわれるんですが、私はこれも自分の時間だといふんです。自分が好きで、やらなきゃならないという気持ちと、それからやりたいという興味と、そういうのでいくのだから人の時間ではないといふんです。役員になることも私は自由時間に入れています。そうして年とつてから昔を振り返つてみて、何してきただろうと思ふより、あのときはあれもしたこれもしたと思つて、年とつてからそれに意義を感じたらそれでいいと思ふんです。

三野 私の場合は、問題が職場と家庭ということ、休養時間とそれから自由時間とこんがらがつた使い方になつてゐるかもしれないが、お昼の一時間の休みを利用して、共通の問題を話し合うとか、コーラス部を作つて金曜日を練習日にして習つたりしています。みんな割合によく出てきてくれて、何かひとつ問題をもつてきたり、それから次はお料理の講習がしたいとか、そういう希望をもつてきたり、そんなことで割合この時間の利用について、いまのところ順調にいつてゐるんじゃないかと思ひます。

高間 私は、自分たちはお勤めをしている人間ですから、お勤めから勤め時間として与えられた以外の時間は自由時間と解釈していいんです。

渡辺 生きていくために使わなくちゃならない時間を差し引いた

女であればできるが、思索する時間、いわゆる学問は家庭に入ると時間が少なくなるから娘のうちに学んでおくべきだ。そうして本を読んでも、読むだけではなく、それを理解する力を養うべきだといわれ、自分の娘にもそういうようにすすめております。

関口 いわゆる洋裁とかお花であつても、将来の大きな目的にながつてゐる、そういう意識をもつてやつてゐるのは単なる花嫁修業ではないと思ふんです。そうじゃなくて、一般的に若い人は、これとこれを習わなくちゃお嫁にいかれないという、世間の習慣みたいなものにどうしても染まりがちで、その意味の花嫁修業は意味がないと思ふんです。

北波 この問題は習性の問題で、こうあるべきだ、あああるべきだということじゃないと思ふんです。将来を考えたならそれぞれ必要があればやるだろうし、職業婦人で通そうと思つたら務の作り方なんか習つても仕方ない。

西 井上さんの作文に、花嫁修業と一般にいわれている、生花とか料理とかをするのに、自主性をもつてしてないということが指摘されていて、おもしろいと思つたんです。結局人にいわれるからしている、みんながやるからしようとか、いわゆる流行ですね。なんのためにこれをやるか。好きだからやるというだけでもいいんですよ、それでもやっぱり自主性だと思ふんです。そのあたりのところがはつきりしていれば、お茶をやらうとお花をやらうと長唄をやらうとけつこうじゃないかと思ふんです。

井上 私の場合、習いごともしたいし、学問もしたい、どつちをしていいかわからないんです。私たちの会社の場合、三十になつた

ら定年です。もし三十になったときに結婚といういい就職ができればいいんですが、(笑) もしできなかった場合、自分で生きていかなきゃいけないでしょう。ですからそのときのために思つて編ものと洋服を習っているんですけれども、教養という面もやりたいんですが、その時間がないんです。

多田(全男) 繊維産業の場合、都会に残つて生活するというのはほんとうにひと握りの人で、農村へ帰つて結婚する人が大部分です。農村の人たちの考え方が非常にそこにずれていて、やつぱり、和裁、洋裁、お花、お茶までできなくても、お裁縫ぐらいでなければ嫁入りの資格がないという考え方が常識になっている。その壁を突き破るということが、一人々々の自覚だというふうなことをいつていますが、まだなかなか時間がかかるんじゃないかと思ひます。

高岡 このごろのお嫁さんですと、ミシンから縫ひものの機械から洗濯機から全部持つていくんですが、折角持つて行つても自分でできないことがけつこうあるんですね。おしゆうとさんが、それだけのものを持つてきたから縫えるかと思つて縫ひしたら、私は寄宿舎にいてそんなもの習ひにいつたんじゃないというんです。それで洋服やら和裁を仕込みにつたんじゃないというんです。それで私もではやつぱりある程度、自分のふだん着や、子供の洋服ぐらいは縫えるぐらいにしたいと思ひます。それで、二十ぐらいまではうんと遊びなさい、そうして役員もやつてもらい、組合の用事もしてもらい、そのかわり二十一ぐらいから一、二年かかつてみっちりそういうものを習ひなさい、ということ、いまやつています。

を作つて、その中に自由に入つていくことをしています。組合の中の活動を通して、自分の時間も広げていくような、運動と一緒にその中のサークル活動で自分を高めていくようなことを並行してやっているので、仕事が自分自身のためにもなつております。

黒滝 私は一日の自由時間は、一時半から二時間ぐらいしかない。その中で自分の職務に關係のあるための読書、それから一月一回の集まりに出るくらいで、いまのところは自分自身の生活でぎりぎりいっぱいです。

北波 私は家庭の話し合いということを重視して、夫と暮らしながらきょうあつたこと、あつたこと、こうしたいということ、話を時間を持つております。それから学習活動は、職員組合のサークル活動を通じて、第二土曜日の午後から、時事問題とか一般教養、コーラスをやつています。

田中 私は日曜日は家庭的に遊ぶことにしていますが、水曜日は将来のために、それから自分の趣味を生かすために生花を習つています。本を読むのは、勤めのお昼の一時間を読むことにしているんです。

野口 私は学習活動とはちよつと違いますが、自分の仕事のために勉強してゐます。男の人に負けないように、自分の仕事のことではやはりエキスパートになりたいという気持ちを持つてゐるので、ウィークデーの自由時間を全部つぶしてあります。

大野木 完全自由時間は消灯過ぎの日記を書く十五分が三十分です。これはだれにも侵されない自分のための時間です。日曜日はハイキングや、サークルのコーラスをやつたりしておりますが、自分の

家族の中の個人の場

西 それでは次に、わずかの自由時間というものをもしも生み出したとするならば、どういうことをしたいと思つてゐるか、現在どういうことをしてらつしやるか、それがどういう目的だということ、なことを聞かせていただけませんか。

高岡 私は俳句をやつております。いままでそんなことは考えてもみなかったんですが、私の子供がいま大学にいつておりますが、息子が結婚したとき、いいおしゆうとさんになるには趣味を広く持つて、大らかに若い人々を理解してあげる母親になりたいと思つて、俳句の句会とか、信仰的な部門に入つて、そのほうで忙がしいくらいです。

西 ただ単に俳句をやつてゐるというふうな、ひとつの趣味だけでなく、あなたご自身の息子さんから独立した後のあり方として、それを心がけていらつしやるということですね。ひとつの人生設計の目的を持つていらつしやるのね。

上村 私は余暇時間を使うのにグループ活動を通して自分の余暇時間をもつとふくらませたいという気持ちがあるので、余暇時間は主にグループ活動に使つてゐます。いまいつてゐる読書会は、隔週一回六時から九時半ごろまでやつております。特に近代史をやつていますが、そのグループ活動のために自分で作り出す余暇はいまのところ二時間ぐらいしかないんで、読書会にいくための勉強を、夜の時間を使つてゐるんです。

新屋 自分の仕事を通して作つた会を利用してその中にサークル

向上をさせるための時間は、日記を書く時間と、お休み時間の五分間でも十分間でも詩や歌を書く、その時間が私の完全なる自由時間です。

山本 私は何曜日には何をするとか、何時から何をするかというふうな時間が持てませんので、大体一月の勤務がきまるわけですから、計画を立てるときは一カ月で立てなきゃならない。それで私たいへん歌をうたうことが好きなものですから、コーラスに二つ入つております。それから読書をする時間とか、新聞を読む時間も、勤務時間に左右されて日によつて違ふんです。しかし、この前もね話したように地域がなかなか家族のものに気兼ねして、とれないというのが現状です。

西 大きく分けてみますと、自分の余暇時間を使うのに全く個人的なものに使つていらつしやる方と、それから集團ですね。グループという形の中で、自分の時間を自分のために使つていらつしやる方と、二通りあるわけです。まず伺いたいのは、家族の協力で、一応自由時間を生み出すときの努力とか解決というものはあつたとしても、全く一人のために使つてゐる場合、たとえば孤立した独身の方ですと、自分の部屋で一人になることもできるけれども、家族と一緒に暮らしている場合に、どうして自分だけの時間、自分だけの座というものをそこで作つていらつしやるか、その次に読書をしてゐる姿勢だとか、自分で勉強している態度とか、そういうことに家庭の中で何か抵抗みたいなものがありますか。

山崎 私の場合は、自分の仕事のための読書を生み出すのによく利用するのは図書館です。それからもう一つ夫の宿直の夜です。

田中 私の場合は、子供の寝たあとがだいたい自由時間です。で、主人とは二階と下に分かれてお互いに相手に無関心で自分のしたいことをする、という工合にやっております。

関口 私のうちは人がたくさんくるんです。兄とか私の友だちがきて、私たちは楽しいんですが、母がそれで自由時間が束縛されるものですから、私たちは金曜日を訪問の日にきめて、その日以外は友だちがきて、きょうは訪問日じゃないということに徹底して、玄関のところで話をして帰す。という様に工夫をしています。

西 相当割り切った何かをしなければ、せつかく得た自由時間を活用することもできないというわけですね。家族集団の中で自分の自由時間をどういうふうな形で生かしていくことが無理でなく、ひとつの合理性というものを身につけることができるか、自分の机だけ持つてきて、二畳でも三畳でも同じこともつていけば、自由時間を活用したということになるんですが、やつぱりそこには夫もいますし、子供もいる。そういう家族集団の中で自分の自由時間を使う苦労があるわけですね。

北波 私はアパートなので部屋が分けてくても分けられないんです。それで、私の場合、就寝前の一時間はどちらも読書することにきめ、話すことがあつたらその前にすましてしまおう。習慣になると一時間ぐらゐ熱ついていることが、同じ部屋でもできます。そういうふうにしております。

西 今度のスローガンの中にも、自分のしあわせのために、またひとのしあわせのために、ということがあるんですね。自由時間の活用にしても、自分の教養も大事だし、自分という個人の確立とい

うことも大事だけれども、同時に自分以外の人をかかえていかなきゃならない、それを考えながら自由時間の活用も考えなきゃならないんじゃないか。たいへん皆さんはご勉強がお好きで、ずいぶん勉強をなさつたり、読書をなさつたりしているんですが、それ以外のレクリエーション的なことを、どんなふうにかがけていらつしやいますか。

山崎 私は疲れて帰つてきて、ものもうのがおつくうのときがある。そういうことが続きますと、お互いに気まずくなりますね。それで土曜の夜だけは大事にする。自分のやりたいことがあつてもゆずり合つて、その日に集中的に楽しむわけですね。

北波 紺屋の白ばかまといいますが、生活改良普及員を奥さんに持てば、たいしたごちそうが食べられるだろうと主人なんかいわれるそうです。(笑)けれどもそうそう時間がたつて、生活改良普及員の奥さんを持つていての特典が発揮されるのは日曜日です。日曜日は二時間ほど朝寝をする、それから何がほしいかということをおもむろに聞くわけです。私も楽しみながら作りますし、手伝つてもいただきます。

上村 私のうちは休日が全然違うので、一緒に楽しむというのは晚だけしかないんです。それで夕飯を兼ねて九時までを二人の共有の時間にしております。

西 なにをなさるについても、自分だけの生活でないの、やはりそこに家庭の集団の中にもひとつの人間関係がある、人間関係を調整しながら、自分の自由時間を活用していくという計画性とか、合理性とかまた技術的な問題を皆さん方よくおやりになつていらつし

やる。それから高間さんは自分の長い人生設計のために、長期的に余暇の時間をなにか計画していらつしやるということですが、これなんかも考え方としては、たいへん大事じゃないかと思ひます。

田中 私は生花の先生をするつもりでもうお免状をとつていられるんです。やめたら副業にして楽しみと共に行やろうと思つています。

大野木 私は自分が会社をやめたらはつきりいつて経済能力はないんです。ですから私はいままでしてきた経験をもとにして生意気なようですが何かを書きたいと思つていられるんです。

渡辺 私は旅行が好きなので、昭和二十三年から毎年やつていられるんですが、それをもとにして紀行文というのを作りたいと思つております。それからこれは四年間の計画なんです、今年の初めから子供と話し合つて、四年後の東京オリンピックを見にくるために、経費節約に頑張れるようになろうと勉強しています。四年間先に話せるかどうかは自信がないんですが、計画いたしております。

角田 私は勤務から帰つてきて、一日を楽しく過ごすというようにことを一生懸命努力しているんです。そして毎日を、ほがらかに通しているんですけれども、途中でやり切れないものが出てくるんです。ときどきばかんとしたい時間が出てくる。そういうときに二分でもいいからばかんとしている時間があつたら、私はそれで自由時間として満足しているんです。

西 それはどういら方法で時間をお理めになろうと、その人その人のおかれて生活の条件でお考えになつたらいと思ひます。たとえ二分間でも、ほんとうにばかんとする時間をできるだけ作るということも大きな意味では、非常な大きな精神のレクリエーションに

もなるし、肉体のレクリエーションにもなるし、いいことだと思ひます。それがなんのためにそういうことをしているのか、ということさえちゃんとつかまえておれば、そういうことをなさろうと私は自由だと思ひます。

北波 私も思ひますが、自由時間の使い方は、いい意味の子供にもなり切れるし、おばあさんにもなり切れるし、鬼にもなれるし、淑女にもなれる、あらゆる節度をもつて切り換えのできるお母さんになるために、計画を立てるべきだと思ひます。子供が大きくなつた時につまらないお母さんというふうにならばいけないために、余暇時間の使い方を、根本的に目的を持たなければいけないと思つています。

西 グループとか集団の中で自由な時間を使つていらつしやる例として、そういう集団活動で、どういうことをしていらつしやいますか。

上村 私のほうの読書会では、何かひとつのことについて計画をたてて、長いことかかつてグループで研究しようじやないか話し合つています。

井上 私の場合は書くことが好きな人が集まつて「カレント」という雑誌を作つています。

関口 宣伝になつてしまうようですが、私がしている仕事はYWCAの中で、都会に働いている女の人たちが一週間に一度集まつていくつかのグループに分かれて、テーマごとにサークル活動をしております。

大野木 私のほうでもサークル活動を始めて三年ぐらゐになつた

んですが、三年ぐらいいになると下火になるんですね。みんなが集ま
つてこないでリリーダだけが踊っているような形になる。それで、
一年に一回、サークル発表会を持つというふうにしたんです。

地域の婦人と手をつないで……

西 私のはうから質問を出したいんですが、皆さん方は働いてい
る婦人ですが、うちへ帰ればその地域の居住人ですね。そうします
と現在住んでいらつしやる場所の問題、それを生活時間の中で、ど
う考えていらつしやるんですか。

野口 私は鉄筋のアパートのいわゆる団地族というんですが、人
間関係のうるさいところに住んでいるんです。私のところは自治
活動というものがあつて、水道料金の値上げ反対運動をやらうと
さんたちが、手をつながないとだめだということになつて、家庭の
奥さんから働きかけ、私たちも入れていただけて話し合ひをする会
ができております。私たち働いているものは、普通の日に話しかけ
られると困るので、日曜の午前中は一緒に車取りをする時間が一時
間きまつているので、そのときとか、緊急の場合は招集がかかりま
すから、階段の下で井戸端会議の招集のかかったようなものをやる
わけです。いまのところ私も住宅の奥さんたちと話し合う会を作
つてやつております。

西 その場合、あなたが奥さんたちの中へお入りになつていらし
つたんですか、それともあちらからの呼びかけですか。

野口 作つたのは私と学校の先生と、もう一人奥さんと三人が中
心になつたんですが、やはり働いているものが中心になつて引っぱ

つていくのは、会の運営中非常にまずいものですから、中心になる
のは家庭の奥さんというふうにおぜん立てをしていったら、家庭の
奥さんたちがよく働いてくださる。私たちが、招集日なんか前もつ
て希望をいつておきますが、家庭の奥さんが日曜の九時から十時と
おつしやれば、その日は少々の事があつてもやはり出ていつて一緒
に草むしりをしながら、話すというようにしております。

西 私が伺いたいののは、いま野口さんから非常にいい経験を伺つ
たんですが、私は働いています。私は職業婦人だからといつてうづ
かりしていると、地域から取り残されてしまう。地域から遠き上つ
てしまふわけです。けれどもどんなに働いていても、何していても、
自分はあくまで地域の住民であるということから抜けることは
できない。どこかで積極的になかなかなきやならない問題があ
るんじゃないだろうか、ということなんです。そこで団地の話なんです
が、階段の掃除がいつでも問題なんです。ひとつの階段では共働き
の奥さんがいらつしやるが、全然階段の掃除をやらない。そうする
とたいへんな文句が出る。もう一つの方の階段は日曜日ごとに共
せきの奥さんが掃除する。そうするとせつかくの日曜日のお休みに
そんなにお働きにならなくてもいいからというので、家庭の奥さん
が同情して私たちがしますからといつてくださつた。これは階段と
いう具体的な一例ですが、やつぱり地域社会の問題ということば、
非常に大事だと思つたんです。基本的には自分がその地域の住民であ
るということ、ひとつの責任も義務もあるわけですね。それをど
うやつて解決していくか、始末していくかという問題ですね。

渡辺 これは私自身のことじゃないんですが、ある奥さんがお花

の先生で、常会があつてもその奥さんが出てこない。すると皆さんい
わく、あの奥さんは忙がしい忙がしいというけれども、自分は金も
うけをしてるんじゃないか、ということなんです。私の義理の姉は共
せきの先生で、勤め場所は二時間ぐらしかかるところにやらされ
た。そうすると常会なんか全然出られないものですから、姉自身
も苦しみまして、常会なんかのお茶菓子とか、そういうものは
全部自分に負担させてくださうということ、いくらか責任を逃
がれているような感じがします。

田中 私の場合も勤めているので近所の人は、向う三軒両隣りぐ
らいしか顔を知らない。月当番なんかも何も知らされてないで、い
ままで隣りに月当番の札がさがつていたのが、私のところをとおし
て移つていく。私はそれを町内に聞きにいつたんです。そうしたら
あなたは勤めていて子供さんもあるからと思つて抜かしたというん
ですね。でも私とすれば、私がいまに楽になつたら当番をしてもら
うからという了解のもとでならいいけれども、そうでなく飛ばされ
たらさびしい、のけものみたいだから相談してくださいといつたの
です。そうしたら皆さんの中にも内職をしている人がいて、私たち
妻だ変だと思つていた、外に出てくる人ばかりを抜かして、不公平だ
と思つていたというんです。話し合つてみると、あなたの方のことも
わかるし、いまにやるという約束があれば抜かして上げるといふこ
とになつて、私は勤めをやめたら順番にするという約束で、いまの
場合は皆さんがいい工合にしてくださいなんです。

角田 いつも協力しないから知らせないでおこう、そうするとさ
びしくなつて、入れてくださいというだろうという。私はどうかと

いうと、ものすごく忙がしいのでいかなれないこともあるんですが、
いかなれるときは二分でも三分でもくつをはいたままのり出して、そ
のあとは時間がなからあとから聞かれないことになつて、一応
は出ていくんです。道掃除なんかでも出られないから、お金でも出
しますと、あなたは勤めているんだからいいんですよ、といつてや
つてくださるんです。

新里 地域の方と手をつながりたいということをとて思つてい
るんですが、私のところにはそういうサークルもあるらしいんです
が、たいへんまわりの方を見ておりまして、個人の生活を妨害す
るような人もいない、他に干渉しない方のほうが多いんです。けれ
ども私なんか働いていてお手伝いさんがいなくて困つたとき、たい
へん親身になつて考えてくださるんですね。井戸端会議的な無駄話
じやなくて非常に要領よくお世話くださるんです。そんな感じの方
が多い。そういう方たちとなにか手をつないでいつたらいいんじゃない
かというんですが、その方たちは、あまり外に出たがらない、
干渉されたくないし、しないしということ、話し合ひの理解はあ
るけれども余計なことには出ないというわけです。ですからサーク
ルというのを作らうと思つても、できないんじゃないかしらという
雰囲気を感じるんです。

大野木 私の母は、朝六時半からつとめに出かけるんです。帰つ
てくるのが午後七時過ぎです。母は婦人会の会議などのぞくひまも
ない、母は地域の人たちと話し合つたりおしやべりする時間を持
つていなか疑問なんです。

西 それはほんとうに自由時間を持ってないという長時間労働の方

もたくさんいらつしやるので、どの人もこの人もひつくるめて話を
するわけにいきませんが、私が聞きたいのは、往々にして、私は働
いてる婦人だからといって働いていることが特権みたいと考えてい
るというふうな批判もあるわけで、自分は職業婦人であると同時に
に、地域の住人であるということを忘れないように考えていかな
きゃならないので、余暇時間を、ああしたい、こうしたいというふうな
いろんな欲求があるならば、その一部は自分は地域の住人であるとい
うことを考えて、どうすればいいかということは、それぞれの地
域にもよるし、住み方にもよるし、その方の持つている職業にもよ
ると思いますが、そのことを最後に忘れないで生きていくことも大
事なんじゃないかということをお話してみたいわけです。幸いにし
て皆さんはもちろんそれを感じになつていらつしやるようで、心
強い限りです。

そろそろ時間のようですが、一昨日からきょう、朝から晩まで話
し合つて、まだ話も足りないところがいっぱいあると思います。く
れぐれも申しましたように、ここでなにかひとつきめなきやならな
いということは何もないので、いろんな話の中で自分々々で、これ
だあれだというふうにおつかみくださるのがいちばん大事なことに
やないかと思ひます。予定の時間がこれで終るんですが、皆さん一
日半、はたしてどういうご感想をお持ちになつたかわかりませんが、
残された問題もあります。たとえば自由時間を活用するためには経
済の問題というものが解決しなければ自由時間を活用するためには
も、自由時間どころじやない。せい一ぱい生きてゆくために毎日々々
働いている方たちも世の中にはたくさんいるわけです。ですから

まず時間を自主的に設計するためには、生きていけるだけの経済的
な基盤とか背景がなければならぬかというところはできない。また
自由時間を生み出したとしても、その自由時間を活用するためには
レクリエーションにも金がいる、本を読むにも本を買わなきゃなら
ない。子供と一緒に楽しむためにはテレビも買わなきゃならない。
家事の合理化をはかるにしても何をやるにも、経済問題が大きく入
つてくるということは忘れてはならないと思うんです。しかしその
問題、どうしてみんながそういう経済的裏づけを持つことができる
かということになれば、これは、一応政治の問題ということになり
ますが、それを今後少しずつでも解決していかなければ、われわれ
の問題はどうしてどうにもならないのだと思うんです。しかしここ
で特に強調し、お互いに考えていきたいことは、あくまでも時間とい
う問題を角度にして、私たちの生活がいつたいうふうなつてい
るのかということを含めて、私たちに考えないで暮らしてき過ぎたんじ
やなからうかということなんです。この自分の生活の背景裏というもの
を作つてみるのがまず第一であり、それができたら、どうい
うふうにこれを合理的に設計していくか。その結果自分の生活がどうい
うふうに変化していくだろうか、また自分たちはそこでさらに何を
しなければならぬか、という問題を考えていただくことができた
ならば、それだけでたくさんだと思ひます。日本の社会の中にある時
間というものに対するいろいろ不合理なあるいは考え方を訂正し
て、まずある程度の合理性というものを身につける。いままであま
りにもなさすぎた合理性というものを改めて身につけて、そこから
自分たちのおかれた諸条件を改善していくという、その一点をどう

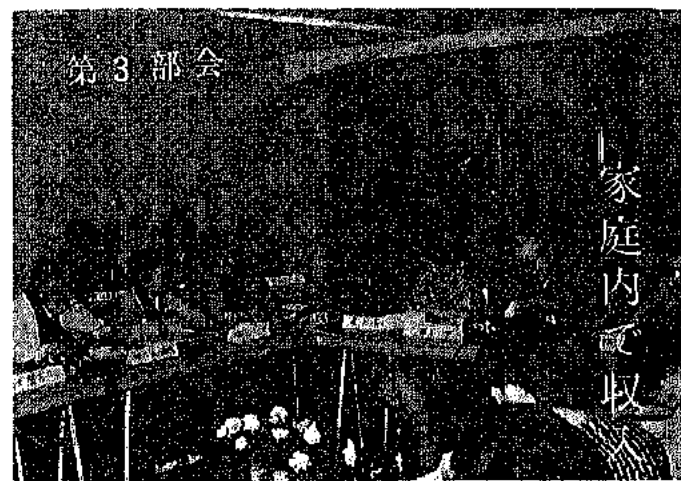
ぞ皆さん方、お帰りになつてさらにお考え頂き、またさまざまな具
体的な解決方策のための運動のあり方というものを、それぞれ工夫
していただきたいと思ひます。

長い間ご協力くださいます、ありがとうございます。

家庭内で収め活動に従事する婦人の問題

出席者

宮城	三浦ミチ	(無職)
茨城	古川ちか	(無職)
神奈川	森 満枝	(旅館経営)
福井	蟹本久江	(無職)
岐阜	近藤美智	(無職)
静岡	大橋いね	(無職)
愛知	佐橋八重子	(行商)
三重	荒井春子	(無職)
兵庫	岡田アサノ	(無職)
奈良	水谷靖子	(無職)
山口	安倍嘉美子	(洋服店主)
香川	鈴木清子	(無職)
熊本	橋本ふきえ	(商業)
大分	宮永美津子	(無職)
特別オブザーバー	石井あや子	(東洋大学教授)
	佐藤光子	(婦人民主クラブ)
	山下田金子	(YWCA)
		(全国地域婦人団体連絡協議会)



第3部会

社会的な世論を盛り上げる

塚本 「生活時間の自主的な設計」ということですが、今日西さんがちよつと指摘されましたように、あくまで問題は自主的な時間という基本的な課題について考えてみることで、単に時間割をどう設計するかということばかりではなく、一つの哲學ともいえるべき根本について勉強しなければならぬと思うのですが、そういうことを腹におきながらできるだけ具体的なことを今日話し合っていきたいと思います。

鈴木 私昭和二十年から農村へ疎開しましたが、農村に住んでおりますと、冠婚葬祭のお手伝いとか神社の清掃奉仕とか病人代参とか、そういう用事がたくさん飛び込んできます。それでそれらのない日を一日大体自分の仕事のやりやすいようにと思つて計画を立てて、やつていくのです。それを簡単に申し上げます。朝は大体五時四十分起床します。六時三十分ごろまで身仕度とか洗面とか炊事、雞の世話、七時ごろまでに朝食を済まし、七時半ごろまでに食器洗い、あと片づけをし、八時までに簡単な用事をして、大体四十分ごろまで洗濯します。九時二十分ごろまで約四十分くらい自由時間を測り込ませて、九時二十分くらいまでは新聞を見ます。九時半ごろから主に洋裁の仕事にかかるわけですが、十一時ごろ八百屋、魚屋が来ますから、それ以外の買物は主人が会社の購買部から買つて来たり、子供が自転車で隣の町から買つて来たりして、私が買物に走るといふことはありません。十二時に二十分ほど食事にして、ちよつと休んで又仕事にかかります。この間に洗濯を取り込み、アイ

ロンかけという仕事がありますが大体五時二十分くらいまで仕事をしまして、夕食の仕度にかかり、それが六時三十分ごろに済むわけです。七時ごろから約一時間くらい食事のあとの閑らん、それから八時半までがあと片づけ、九時に入浴となりますけれども、入浴のない日は自由時間に入ります。九時から十時半まで一時間半の間は解放された、なにをしてもいい私の時間になるわけです。お花を生けたり読書したり、手紙を書いたり、文庫のように文章を作つて書いてみたり、勝手なことをしているわけです。内職の話ですが、造花などを作つておられる方は授産所に行きましても機械を使つて仕事が多量に作れるというのでしょうか、四千円くらいになるのですが、家庭に帰つてする方は単作業になるために夜まで一生懸命やつてやつと二千円程度にしかならない。そういう方は、自由時間を持ちたいからといって自由時間どころでなく、自分のからだを休む間もない。子供さえも見てやれない、そういう中でどうしたら自由時間を持てるかということになったのですが、社会的な世論を盛り上げて、仕事も楽にできるように、はたの方もまたその方々も同じ境遇の方と話し合つて、自分たちが少しでも楽になるようにしたいという話が出ました。

家事の合理化

塚本 目安ですね……。それじや四国が済んだのですから北へ飛んで宮城県の三浦さん。

三浦 私どもの地域の中年の婦人が九人でグループを作つておりまして、月の第二金曜日に持ち回りで会をしております。身近かな

いろいろな生活問題とか、子供の教育の問題、時事問題という話し合いをしたり、それからときには作文を書いてみるという小さな会なのです。それが婦人会のテーマが出ましたものですから、二月に集ったときに、私たちも、生活時間や自由時間のことについて話し合いをしてみましょうということになりましたが、家庭生活では、家庭婦人の時間と申しますものは、うつかりすると十二時間労働にもなりかねない、それにはどうすればいいか、結局は家事を整理して合理化するより仕方がないじゃないかということになります。自由時間ということも社会的なことに結びつけて、社会奉仕をするのももちろん大切ですが、私ども婦人が自分の楽しみという点、精神の飽きることになることがなくちやいけないのじゃないか、それがあつたために家庭生活が明るくなるという面も多いんじゃないか、という気がいたします。

納得できる暮らし

富永 私は洋裁の内職をしております。朝から晩までミシンに取りついているとお金の方は儲かると思いますが、それじやどうも私にとつてはもの足らないといえます。第一仕事の情熱がわいて参りません。一番ウエイトをおくのは子供の教育ということ、次に一日のうちでなにを一番先にしなければならぬかということ、私のところは母子家庭ですから、その経済的なことからどうして仕事にたくさん時間をとらなければいけないということですね。第三番目には私がいふいろいろの楽しみ、趣味を持つていくことです。大体一日に十一時間くらい洋裁していると思います。読書もほとんど

ど毎日しておりますけれども、それはやすむ前にすることもあるし、それからラジオで娯楽番組を私あまり聞かない方ですので、人の時間の暮つたあとでちよつと本を読むということがあります。こういう女の暮し方があるという一つの見本だと思ひまして皆さんに見て頂きたいと思うのです。

内職グループをつくる

古川 私の方は、婦人会の中の婦人学級の中でもつて、生活のいろいろな暮し方のお話し合いをした結果、内職グループができましたので、それについてのお話を申し上げたいと思います。幸いに、私の方の県庁の中に内職々業指導所というのがありますので、そこではいろいろな職業、内職を指導して下さるというパンフレットが参りましたのでそれをきつかけに、内職の輪を願ひました結果、子供の雑談の付録を作ることにしました。その子供の雑談の付録を作る労働日数というのが、ちよつと一カ月のうちの二十日間になつておりますので、十日間は結局自分の自由な日数でもつて家庭整理の時間にあてるというとても条件がいいように思ひました。その二十日間、労働日数を十分生かしていくためにどういふ時間をとつたらいいかというので、お互いで話し合ひました結果、一日に八時間は内職の時間にあてようということになりました。寝る前の三十分から四十分の時間に洗濯をしてしまふ。つくろひもののようなものはあていける十日間のうちに整理してしまふ。とかく内職しておりますと、でき合ひのものを買つて来てはこれで間に合せようということ、偏食に陥りましては結局家庭の生活の破壊になります。

のです。

森 私、二つばかり伺いたい事項があるのですが、一つはお仕事をされている場所は、一カ所であるかどうか、もう一つはお互いに健康に留意して、食の生活について一品料理を作り上げる、そのことは近所ですらういふふうにはやつていらつしやるのか。

古川 仕事は私が責任者になつておりますから、私のところに一度にどうつと持つてくるのです。そうするとグループが二十人ほどおりますから、五人ずつのグループが四つに分れる、その中に責任者がおりますから、仕事が出来たらその四人のところに通知して、その四人の人がグループの人に通知して、みんなが取りに来て各人の家でやつております。

食べものの方は、たとえばこういうものをしましうねといひましても結局は各自のふところの台所だと思ひますので、のぞきに行くとわけにいきませんが、そういうことを頭において気安くやりましようということ、それを実施しているかどうかということとはわかりません。

年寄りと若い者と

橋本 私の方は、うちが商店が魚屋ですので、主人の兄弟が五人と自分の子供三人、それにしゅうと、使つてゐる人が四、五人おる大家族なんです。その中で私は結婚して十年くらいになりますけれども、その時分のことを申し上げますとちよつとサマータムがある時分でしたから、朝起きるのが五時で、今でいうならば四時に起きていたわけなのです。そうして四時に起きて御飯を炊きます。主人がそれ

しないかというので、それには簡単なそうざい料理をお互いに工夫しましうというわけで、一品料理の研究に入つたわけですね。掃除などは家庭全員でもつて責任分担しましう。こういう内職をやつて参りますとかく子供のしつけがなせになりますので、そういう点には特に気をつけまふ。八カ月間じつとやり通したのですけれども、まずよかつたと思ふことは、グループが月に一回ずつ集まつて参りますので、お互いがほんとうに親密になつていつたこと

です。

橋本 収入はどのくらいになりますか。

古川 大体最高が月に三千五百円くらいですね。

岡田 ただいまの方のお話ですけれども、子供の雑談の付録を編集なさるお手伝いとすれば、相当ものをお書きになるとかそういうグループでなければできないお仕事ではありませんか。

古川 私たちが構想するのではなくて、雑誌の付録の見本が雑誌社からきますので、それを組み立てていくという仕事なのです。

鈴木 香川で贈写印刷の内職をしておられる方は、忙がしいときはものすごく忙しいのに、切れたときにはぶつんとひまになつて困るという声がありました。そういうことがありますか。

古川 付録が年度がわりとか四月の増刊号のときには山のように来まして、現在のようなときには冬枯れで、ほとんど手があいてしまふのです。グループが二十日働けるものが、五日か一週間で済んでしまう場合がある。そういう時のつなぎと思ひまして別の仕事を頂いて今やろうとしているのですか、そうすると東京からの仕事と違つたので、仕事の賃金がうんと違つてくるのです。東京は歩がいい

を食べて市場へ行きます。主人の理解さえあれば大がいのことはや
つていけると思つて結婚したわけなのです。ところが、家族制度の
中に板挟みになつて、夫の愛憎なんというものは手も足も出ないよ
うになるわけなのです。仕方がないから主人と二人さとの母のうち
で二年ばかりくらししました。主人の父がなくなりましたので、今の
家にもどりました。二年も別居しておりました関係で母の方も少し
折れるようになり、どうにか円満にいつておりましたけれどもとに
かく年寄り若い者というものはどうしても溶け合わないところが
あります。二年前から附近の奥さんたちが集まつて、夜一月に一回
の会合を持つようになりました。市の社会教育課から少し補助があ
りますから、そこに頼んで講師を呼んだり、自分たちだけで子供の
こととか身の回りのこととか話し合いました。今まで、なんでもこ
らえて風波が立たないようにして来たということが、結局は間違ひ
ではなかつたかと思ひ始めたわけなのです。それで母に今までただ
はいはいといつていたのが、ときどき皮鞭の一つもいうようになり
ましたのも、その会合のおかげだつたろうと思ひます。グループの
集まりによつて、自分の意見をいうような習慣が家庭にも持ち込ま
れて、自由にものがいえるようになったために、ちよつとそこにト
ラブルが起つたりしましたけれども、反つてそのあとにはお互いに
年寄りも反省するし、若い者も母はそんな氣持でいつたのだなとい
うことを感じたりすることがあつたりして、そのために円満になり
ました。

塚本 なにかお聞きしたいことがありますか。大へん勇敢に自分
自身というものを考えになつて、非常にいいと思つたのです。

ころでどんなになるかしらというのが悩みの種の一つなのですが、
なかなか従業員との間がむずかしいでしようね。

森 三つあると思うのです。私の申し上げる立場が自分の主婦と
しての立場とお客様に対して商売としての立場とそれから使つてお
ります者の立場と、それを分けて考えました場合に、私どもが婦人
会で話し合つた限りでは、主婦の立場としてのまず自分たちの家庭
生活を、商売の生活と一応ダブらせないような形に持つていこうと
いう意味において、九時までに整理しようというわけですね。

安倍 私、子供はありますが、夫婦で、小さい洋服店を経営し
ておりますから職業婦人でもあるわけですね。まず職業労働時間をど
うやつて締めようか、お休みをどうやつてようか、使用している
人たちにどのような自由な時間を与えようか、ということですね。私
ん考えておりますが、私どものような商売は家族の者が協力してく
れませんが、なかなかできないわけですね。今のところ仕事の時間中
はラジオの読書の時間、婦人の時間とかを聞きながら、みんな一
緒に仕事をします。夜は一応六時までに仕事を切り上げて、使つて
いる人は帰つてしまうものですから、自分の時間が持て、映画も行
けますしいろいろできるようにになりました。

塚本 ここらで半分終りましたので、出席下さいました特別オブ
ザーバーの方にもよつと御感想を伺いたいと思いますが、まず最初
に婦人民主クラブの石井さんから。

家族の協力

石井 (民主クラブ) 私は女の方が時間を生み出す場合には、やは

橋本 それから時間の問題ですが、結局商家も農家も同じで、ひ
まがあつてもそのひまを自分のものにする自由がない、というこ
とがとても損なのです。新聞を読みたいと思つても、新聞を掲げて
読むという「新聞読むひまがあつたらちよつとわき掃除などする
とよかたい」といわれたりしますから新聞などは、食事するとき
らしいか読めないわけですね。

従業員と主婦

森 観光地ですので、婦人会の会員と申しますと、旅館をしてい
る人、みやげもの屋さん等がかなりあります。毎年冬になりますと
婦人学級をするという習慣がありますが、三月の声を聞くとき忙しく
なり、十月、十一月まではとてもいろんな婦人会の活動などという
ことは持てないのです。婦人学級を一月に一回にしますのに一日
三時間ずつ一週間に二回時間を生み出さなければならぬ。大休
お客様が平均して十時くらいからいらつしやいますから、朝の食事
の時間を九時まで片づけてしまふ。そうすれば生活が区切りがつく
ということです。夜の時間は大体六時くらいにはお客様が途絶えて
少なくなつて参りますから、それから食事、家族の団らんということ
で、大体九時までは夜の時間も終つて、九時から以後は、主婦の
時間としてなんとか自由の時間が共通に考へてとれやしないだろう
か、朝は九時ごろまでに片づける、夜も九時までに片づけるという
ことで、この婦人学級を進めるについて私たちは「九時まで運動」
という標語のもとにこの冬を過ごしたわけですね。

岡田 家族と従業員が同じ屋根の下での生活ですと、そういうと

り家族の協力がなければできないということで、お子様方、御主人
様方の考え方をどういうふうに変える教育をしていらつしやるか、
ということがお話の中に出て来てほしいと思ひます。たとえば先ほ
どお掃除分担というお話がありましたが、お掃除やお皿洗いは女自
身の中にもありますし男の考え方の中にも相当抵抗があります。そ
れを変えていかなければなかなか実現できないので、その点お話し
進みませんでしたことを残念に思ひます。

塚本 今お話し頂きましたことは大変大事なことです。十五日
の討議の時間にどうすればいいか、どういうふうにご男性飼育法
を試みていられるか、その点をひとつ皆さんで討議したいと思ひま
す。

塚本 さきほど橋本さんのおつしやつたように両親を持ちます
と、家族関係の中では威厳だけでは通じないということを身にしみ
て十年苦労して参りましたし、家族の協力がなければということ
は、毎日毎日それを痛感して参りました。私は結婚して十五年、三
人の子供がおります。新聞を読むひまがあつたらといわれるのは農
村や商家だけじゃないのです。今になつてふり返れば、腹も立ちま
せんが、おばあちゃんのことばは、やつぱり無理がないというこ
とがわかるのですけれども、それが非常に辛いのです。子供を育
てていきますときには私どもひまがあるわけがないのですがね、家庭
菜園などもしておりましたし、明け暮れ忙しくすごしていると、本
を読んでのんきにしているひまはないのです。けれども、その中の
たとえ五分でも十分でも本を読んでもおきますと、そういうことをす
べきじゃないというふうにもすごく罪惡に思つていられるのです。

(笑) それを自分の犠牲によつて円満に保つていこうというふうなことをどこまでも続けて参りますと浮き潮がないのです。子供が大きくなつて学校にも参ります。私も子供を自主的に生活できるよりに教育しているつもりですけれども、それがほんとうに順い通りの自主的な子供になつたときに、私にはなにが残るかと思ひます。おばあちゃんや昔からのしきたりの中で、主婦としてせいじつぱいに過して来て、おばあちゃんになつて残っているか、年寄りと一緒に参りますとほんとうに拘束されることもあるし、自分がなんと無意味に送つて来たかというのを考えますが、その反面自分の人生設計をともに考えることがあります。二、三年前に私大決心をしました。自分さえ犠牲になつていけばいいということを、少し変えようと思ひました。今本を読んでいます。何時になつたら仕事しますからね、といつて、私自身の修業のためにも時間をとるようになつた。私は手袋の毛糸刺繍の仕事をして参りました。その仕事にとりかかつて参りましたら、何度もお話に出ましたように、内職のいろいろなむずかしい面が出てくるのです。内職の仕事が一週間でしたら、三日ほどは内職に疑問七、八時間を当てることにして、あとの三日ほどは家事のしわが家族に寄らないようにして参りました。お昼休み一時間は必ず休まして頂きます。鍵をかけて昼寝します。本を読みたいときは鍵をかけて一時までは好きな本を読みます。うちの年寄りは八十近い年寄りですから、本を読みますとなんたなことかと思うのです、けれども(笑) そういうことに負けないだけの気持を作らなければと思つて、強引にやつて来たのです。このごろなんともいいません。そうしているうちに、市役

所の調査員の仕事を分けて頂くことができました。パートタイムの仕事ですが、自分自身のためにと思ひやり始めました。月に一回は短歌の会に出かけますし、PTAの仕事も、役を持つてくれば、どんな出かけて参ります。本もどんな読むようになりまして。子供が成長したあとで、脱け殻にならないためには、いつたないに必要なのか、そういうふうなことを教えて頂きたい。社会のためには仕事をしたいと思ひ点訳をしたと思つています。それには習いにも行かなければならないし、ある程度の時間をかけなければいけません。これをやるために無理をせずに入つていくには、どういふふうに調節していつたらいいかと考えております。

岡田 お母さんがやかましいようですけれども、やはり一つの誇りを持つていらつしやるから、奥様のそれが実行できると思ふので

鈴木 私の地方でお話が出ました場合に、若い娘さんが電気洗濯機なんかいいらない。洗濯機を持つていつたためにほかのお仕事に追いまくられる。なんかやつて働いてるという体裁を作らないと、怠けているようにとられるらしいのです。古いしきたりのために、どうにもならないという場合がずいぶんあるのです。

塚本 それが十五日の討論の問題に出ると思ひますけれども、どうにもならないぎりぎりにおいつめられた意識のなからそれを越えて少しづつ変えていこうという、そこに自主性の問題が生れてくると思ひます。

○ 水谷 私たちの町は、五十軒を中心にして、そのまた両脇に三十軒ずつの商店街のすちつと並んだ小売業者ばかりの通りに住んで

おりますので、主婦は忙しい忙しいの連発で、自由時間ということをおし上げてそれがどういふ時間であるか、そんな時間がわれわれの身近にあるのか、もう一度胸に手を当てて考えるくらの生活をしております。晩の閉店まで、心の緊張のゆるむ折がないという現状で、小売業者ですからお客様がいつ見えるかもわかりません。

お客様相手の仕事ですから、規則正しく時間割りをきめても、臨時に変更、または突発的な用事ができるといふことは毎日のことですから、主人の協力とか、家族の協力特に主人の協力がなければ自由時間というものは絶対に生み出せません。午前中に主人が会合に出る場合には、主婦はその時間にうちの片づけをしてしまつて、店番をする。昼は店員の食事と、その後の休憩時間を含めて一時間ほど

はどうしても店番をしなければなりません、午後も、たまたま子供の教育などで学校の会合の時間と主人の会合の時間がち合つた場合には、主人と十分な協力のの上に、どちらかが辛抱をして店番をするとか、二人とも外出する場合には、店員によくいつて出るといふふうな、みんなのよき話し合いがあつての上でなければうまくいかないような状態です。日曜、祭日など、人の遊ぶときこそ商家は忙しくつて、お金儲けの大事なときなのです。欲にはきりがありません。おおよそそれだけすれば自分のからだに無理をしないで、健康のこと、家族のこと、店員のこと、団らんのことを考えて見切りをつけてやるのが大事じゃないかといふことは、わかっているのですけれども、やはり商売人としての本質で、すぐ儲ける方へ走つてしまふのです。商店街独特の主婦の立場として、営業時間を短縮するという問題を今後運動に移してはいい、という希望が切

実に出ましたので、それを町の男の役員方に話したところが、ちよつとでも早く開けて運くまで商売をするといふのなら賛成だが、営業時間の短縮とはなにごとだといわんばかりでした。ただ時間を長くしたらだんだんと店を閉けていても成績は上らないと思ひますから、去年から実施された毎月一回の定休日を含められたときと同じように、もう一度よく研究して頂きたいと、熱心にいいました。そのとき、つくづくと他の職業に比べて、商店の方の考え方は封建的な面が多分に残つていようと思つたのです。営業時間の短縮という問題は非常にいろんな問題と絡んでおりますので、先生方に教えて頂いて、今後あまり摩擦なくうまく進めて頂く方法を御協力願いたいと思ひます。

塚本 皆さんで話し合ひましょう。

○ 森 私の方も同じような状態です。私たちはとにかく忙しいといふ二言目にはいいますが、時間調査をしてみると案外そうじゃないのです。四時開くくらいは自分たちの時間があるようです。その時間をどういふふうに通していかるところに、商家の主婦の問題があると思ふのです。だからその時間の使い方をもう一ぺん考えてみる必要があります。それに商売を一時間短縮する、あるいは定休日をどうするといふ問題も絡んでくると思ひます。商売に使う午前十時から午後四時の六時間は一応労働時間として除けるわけです。睡眠時間と労働時間、家事の時間を、二十四時間から除いて広義の自由時間が四時間以上あるわけです。

塚本 いろいろ条件が違ふのです。たとえば店の番をする、いわゆる労働者の形態で人のいる場合と、それから奥さん自身が労働

者でもあり主婦でもありしなければならない場合と、条件がそれぞれ違ふと思ひますから、この問題もつと話し合いたいと思ひます。これからあとまだ五人残つていられるので、その発表をして頂きたいと思うのですが、その前に地域婦人団体連絡協議会の下山田さんから、ご感想なりお教を頂きたいと思ひます。

主人と別居の場合

下山田 (地婦連) 私は東京都と申しまして、墨田区の方の零細業者の集まりのところに住んでおりますから、今日のお話を聞いて私にびつたりしているような気がいたしました。しかし私たちよりも皆さんの方が幸せなのかと思ひます。三百二十世帯のうちの三分の二は家庭工業、小売業者、そのほかのお勤めの家庭はやはり内職をしております。先ほど、石川さんも三浦さんも、内職をなさる時間を五時間なり八時間ときめていらつしやいます。私の地区などの内職の状況を見ますと、そんなわけにまいりません。お金がほしいということよりも、やはり仕事をしなすところのおうちでそれだけの理解をして頂けません。この仕事は何時までにといつの目限を制限されますので、夜十一時までも十二時までもしなければならぬとありますが、自由時間を作るといふことは今の社会環境では非常にむづかしいと思ひます。私も婦人会の方と話し合つて、人のうちを訪問する問題を取り上げて考えてみました。週に二回くらいときめてもなかなか実行できません。昨年あたりは午前中は人のうちを訪問することをやめて午後からしようということにいたしました。これ

は効果があつたと思ひます。それもやはりいろいろ用事があつて、自然とお流れになつたような状態です。なかなか洗濯機も求められない、電気釜も買えない状態で、やはり家事労働に非常に皆さん追いまくられておられる状態です。皆さんからいろいろ自由時間を作る問題について話し合いを聞かされて、オプザーバーという立場でなくて、非常に参考になつたということで感謝している次第です。

塚本 どうもありがとうございます。引き続きまして岐阜の近藤さんにお願ひいたします。

近藤 私は教師の妻で、主人が転勤することになりましたので、子供の教育のこともありますので、いろいろ相談の結果、主人と別居してくらすことに踏み切り、四月、五月はなんだか夢中で済んでしまつたわけです。二カ月過ぎてみますとやつぱり二重生活です。赤字になつてしまひました。そこで私は細物が好きで、細物機械を持つていたものですから、とにかく赤字を埋めなければならぬといふので、くる日もくる日も細物一点張りやつたわけです。そうするとやつぱり十二時くらいまで続くことがありますので、からだもこわしてしまひましたし、子供たちにもいろいろ無理をいつたりします。うちの空気が変なふうになつてしまふ。具体的に申しますと五千円くらいはどうしても足りませんので、そうしますと一日六時間から七時間細物をしなければそれだけの収入は得られないわけです。睡眠時間を減らすことも考えものだと思ひまして、八時間はどうしてもやすむ、いくら少くても七時間はやすまなければいけない、洗濯とか掃除とか食事の仕度、そういうことなどもなるだけ子供たちに相談しますと子供たちはそれじやこんな

小売店の主婦の場合

こと僕がやつてやる、私がやつてやるといういろいろ出してくれまして、食事の仕度なども子供たちが一週間ずつ交替で簡単な夕食などは作ってくれます。そんなふうにして、自分の自由になる時間が、三時間から三時間半くらい出てきたわけです。市の連合婦人会の中に「映画友の会」というのがありますので、映画の鑑賞をしたり、婦人学級に行くとか本を読んだり、夜は子供たちと一緒に日記をついたり、子供たちが大へん作文が好きなのでから文藝的なものを作つて主人のところに送つたりしております。お客様があつたりして案外自分の時間というものがなくなる場合がありますので、そういう場合には、細物のちよつとした靴下とか手袋とか簡単にできるようなものを作つておいて、やりながら話し合ひしたりします。

一週間の月曜日はお洗濯をしたりお掃除も丁寧にするようにしております。火曜日は洗濯、つくろいもの、アイロンかけ、等を昼前の二時間でやつています。水曜日はやはり洗濯をして木曜日は家の中の整理ガラス拭き、金曜日は自分の時間にしております。土曜日は大い主人が帰ってきますので、夕方からはなんにもしないで主人と話をしたり、本を読んだり子供と一緒に輪読会のようなことをやつて楽しくするようにしております。日曜日は午前中はうち中で分担して掃除をして、午後はどこかへ出かけるとか、主人がいるから、そのときはなにもしないようにみんなで楽しくするようにしております。

塚本 今度は岡田さんのお話を伺うことにいたしましたでしょうか。

岡田 私が学校へ勤めたり、主人がサラリーマンだったり、失業などにも会ひまして、いろいろな事情で小売業者になつて、現在バタ―、ミルクそんなものを売っている店をいたしております。ちょうど満九年ほど前のことでして、五十に手が届くくらいになつてから私の人生、生活のやり直しを始めたわけです。商売を始めたため、一番問題になりましたことは子供の勉強をみてやれなくなつたことです。それから大きい子供は、数人の従業員と一緒に生活をしていて、自分たちの家庭は家庭でなくて合宿所だといふふうに出て、私にぶつかつてくるというふうなこともありますし、主人は性格上仕事をやり出したら時間もなにもありません、そういうことで、家族的生活がすつかりこわされたような感じになりましたが、商売のためには家庭といふものにひびを入れられないように苦心をいたしました。農村出身の青年を幾人か預つていますが、青年たちが都会の悪い風潮にしみやすくなるのをどういうふうにしたらいいか、また預つた青年の将来の問題などどうしたらいいかという問題があります。わずかの退職金と、株とで始めたお店なのに、五十万円の損失をこしらえて資本金にくだんで実に辛い思いをしました。しかし小売店の主婦の立場からいいますと一番の問題は、営業時間ということ。朝六時に起きて七時から八時までいろいろな準備があつて、八時から店に出て夕方五時まで働きます。あとは家事と自由時間といふふうに、大体しています。眠る前と朝目が覚めて六時から七時までの一時間だけを本を読んだり、ものを書いたりする、そう

いう勝手な時間にしました。

自転車の上の自由時間

大橋 私は昭和三十年から和裁の内職をいたしております。四年前内職をはじめてから一年してどうも、夜なべがからだに影響するのじやないかといつも感じていました。私のほかに二人ばかり内職しておりまして、町の八百屋さんなどで行き会うといつも青い顔をしておりますので、私のことだけでなくその人たちのことも非常に心配になり、機会あるごとに道などで話し合い夜なべをやめましょうという話にだんだん進んで参りました。呉服屋さんの方でも私たちが需要に応じてこしらえれば多く売れるわけですから、私たちにいつまでも長続きして貰いたいために、私たちを大事にしてくれることがわかつたので、なるべく夜業をやめたいということをお話したのです。その主婦の方でも年輩が私たちと同じだものですから、お話ししたらわかつたわけで、今までより少し歩を増して貰つたわけです。成功の結果としまして、そこに自由時間が生み出されたわけですが、そのために一人の方は去年一年は婦人会の役員をいたしましたし、もう一人の方はお針子さんをおけるようになつています。

佐橋 私は行商いたしております。終戦から十年ばかり私が経済的にほとんど全部背負つておりました。現在もその半分以上背負つて家庭をやりくりしております。私の家は、戦争前、毛メリヤスの製造卸をしていましたから被災してからも運よく疎開しておいた五打ばかりのメリヤスをお米とかえたりするうちに行商という生活手

段をおぼえていつたわけですね。行商ですから天気の良い限り、朝から晩まで自転車に乗って外を飛び歩き、途中で皆さんが休む時間が私ばかり入ります。一日二十キロから二十五キロ走渡します。自転車の上が自由時間なのです。いろいろなことを計画したり、歌のことを考えたり。終戦のごたごたの最中に婦人会長の役をもつてこれでした。会員の方に自覚がない、婦人会というのは会費を納めるだけで勉強するのでもなんでもない、こんないい組織を盛り立ててやっつけていかなければいけない立場にありながら、無関心だということに気がついて、一生懸命商売がてら夜全部婦人会のことをやつたわけです。そうして疎開者としての孤立化から繋がりが出て、グループ活動に進展していつたわけです。現在も自由時間でグループ活動しておりますけれども、グループ活動に熱中していること自体、子供の教育に非常にプラスになります。商売を放つたらかしてグループ活動をやつても気が悪いものですが、商売を得心がいくまでやつてグループ活動をやつたときにはとても気がいいものです。

櫻本 今のお話を伺いまして、することを十分やつてから自分のすることをするとはほんとうにいい気持ちだとおつしやつた、あれは一つの解決だと思つたので非常にいいことだと思ひます。

櫻本 ただからだの問題、私も健康なので、少しむちやをするのです。それはほんとうの健康に通ずるニュアンスかどうかということとはもう一ぺん考えなければいけない、どうぞ自重してからだを大切に。

共同浴場で本当の意見

荒井 皆さんのお話を聞いてすいぶんうら淋しくなつて、自分自身のことや周囲のことを眺めるとなんか全然違つた私たちの地域の状態のように思つたのです。それは皆さんが割合に経済的に恵まれてみえるし、周囲の方も経済的に恵まれていらつしやるのですけれども、私たちのところは昔から、私の父や祖父の時代から、地区全体の生活水準が低いのです。今でも農家が二パーセント以外は公務員とか団体役員、会社員、店員というような固定した収入がある人というのは全部で九パーセントちよつとという程度で、あとは雑役、労働、失対、内職に等しい仕事、それから物品小売業とか行商、修理業です。主人の収入が少いから女も日傭い労働者に出たり、内職に等しい家内産業に出ています。ですからものを考えると子供の教育のためにみんなが集まつて話し合う機会がありませんでした。それで一昨年の秋から、小学校へ通つてくる子供の母親だけでグループを作りました。毎月班別で集会を持つて、教育の問題、生活の問題について話し合つていたので、今度の生活時間のことについても少しの人で集まつて話し合いをしました。私自身は主人が小さな鉄工所の工具ですので、私も家事労働以外の時間は内職しております。なんとかしなければいけないといつて作つた母の会やグループの活動は夜しているのですけれど、会員の連絡はほとんど共同浴場で顔を合したときに連絡することになっています。

お風呂だと案外ほんとうの意見が聞かれるので、それが楽しみです。お風呂に行くような状態です。自分たちに与えられた自由時間というのは、グループの活動のことに飛び回つて、なるべくみんなが自

分の時間というものを考えるようにしていくようにやつていつたら一番自分の自由は充実されると思ひます。

櫻本 なにか関連してお聞きになりたいことあります。最後にYWCAの佐藤さんから今日の会議のようを御覧になつて感想頂きたいと思ひますが。

一つの目標を持つ

佐藤(YWCA) すいぶん長い時間だつたのですけれども、皆さん方の一生懸命、せいいつばい生きている御様子をとくと伺ひまして、大いに反省したり励まされたりしたわけです。私も瀬田最寄会というグループを持つております。その最寄会がいろいろ今まで計画して来たことなどをひくるめてそうなのだと思ひますが、私の経験も、自分に経験があれば皆さん方のお話を承わることができないのですけれども、自分が自主的であるということは言葉通り自分が主人になることで、自分が思つた通り自分の時間でも自分のお金でも使うことになりませんが、結局は自分が自分を大事にし、家族も周囲の人も尊重していくという考え方で生きていくことであつて、それがお金の使い方、職業の選び方、結婚することについても同じことがいえると思ひます。私ついでに申しますと家庭裁判所の調停委員もしておりますから、家族関係がすぐに頭に響いてしまつて、家族との関係はどうなるだろうかといふことを、考えざるを得ないのです。それで私は頭に響くまで焦つてみたり怒つてみたりしながらやつてきたのですけれども、四十くらいになるまで自分のしたいと思ふことを自分で判断するよりはかかないと思ひます。

同時に自分は自分、人は人で、結局どんな立派な例を引いても、人のことなので、自分は自分のペースで歩いていくより仕方がないと思う。一人の一生でも一生の間いろいろなところを通つていかなければならないと思う。若いときには大きな隙隙のない未来を夢見て来たのですけれども、結婚することではいい意味でも悪い意味でも一つの制約を受けるわけです。結婚して子供が生まれること子供が生まれたことによつて、自分は死んでしまったというふうに考える人もあるので、このごろ二十代の人が離婚するとき、子供がほしいなという奥さんが実に多いのです。そんなときには夫も子供はほしいなという人が多いので、赤ん坊は奥にかわいそうですが、それはずいぶんおかしいと思うのです。やはり家庭を持ったときには、それに責任ある態度を持たなければならぬ。そうすれば自由時間を考える場合にも家族、子供を育てるということを含めて自由時間を考えると思います。その間は私は育児ということに夢中になつて暮したわけです。いろいろ育児の本も見たり自分で書いてみたり外国のものを読んでみたり、楽しくやつて来たわけです。そのうちに子供の手が離れましたので立教大学の大学院に入学しましたら、一年経たないうちに調停委員に任命されたので、大学院の方はやめたのですけれども、私自身の気持では若いときに学校で勉強したことを今でも続けたいと思つていいます。続けられないけれども一生を通して自分に一つの目標を持つていっているのです。ですから十年も中断していても決して、それであきらめることもないし、捨てたと思うこともない、形が交つていと思うだけなのです。ただその中にはまり込むと、自分で自主的に判断していくより仕方がないわけ

です。私の持つていっているグループが四十ほどあるわけですが、それを育てるといふことは私のYWCAにおける任務で地域社会に奉仕するということなのです。地域社会に奉仕するということも十年前に奉仕したことと現在では全然形が違つたのです。十年前には子供に遊び場もなかつたし、子供たちが林間学校もなかつたので私たちは夏期学校を二度続けていたしまして、百人ばかりの子供たちをいろいろな先生方にお預りして、私のうちを解放したときも劇団のうちのうちを解放して預いたときもありましたが、もうそんなことは必要なくなりまして、また先ほど育児のことにも触れましたが、私の次男は戦後最高の出生率のときの子供でして、なるほどあのとき育児のことを研究したのは無理もないと思います。まだずつとあとになりましてここ四年ほどは、私の住んでいる上野毛商店街に集団就職の少年少女たちが入つて来たので、その仕事をしております。月に一回主婦が八時から十時までにその子供さんたちと一緒に遊んだり、月に一回の定休日に集まることもありました。あまり私たちがお世話する必要もなくなつたので旧正月のころに「お餅食べ放題」ということをうちだしまして、八十人ほど店員さんが来て小豆を煮たりお餅をついて貰つたりということを行いました。一方私は世田谷区立西小学校の千七百八人のPTAの会長になることになりました。それも地域への大きな繋がりがだと思つてやつております。その前にPTAの規約を改正する委員になりました。その地域の父兄をいくつもの班に分けたのです。そのために班での活動が非常に活発になり、小学校の中でも班の繋がりがPTAの中でしたりできたわけです。そのとき六才の少年が竹槍で突かれるという事

件が起つたために、考えなければならぬ犯罪の問題にどうしても地域として取組まなければならぬことになりました。班も私たちの持つていっているグループも、私の持つていっている家庭裁判所の少年審判部も、一緒になつてその問題をやつております。

結局目標がなかつたら自由時間なんてあつてもなくてもいいと思います。結局私たちはなんのために生きていくのか、一生は一つしかないのですから、この一生をどう生きていくのか、それが途中で倒れるかもしれないけれども、なにか生きがいのある生き方をしていくためにお金もひまもいるので、そのためにはそれぞれの工夫の仕方があつても、その使い方がわからなければ意味がないと思うのです。今日のこの会には職業を持つていらつしやる方、家庭で仕事をしている方、商売をしている方々なので、消費者の立場から申したいのです。私たちは買物をきまつた日にしないから営業時間が長くなるので、実は私二十二日の定休日を含める運動をしたのですけれども、ずいぶん裁判所に行つて、あんなくでもない運動するから二十二日に買物に行けなくて困るじやないかといわれたのです。そういわれても構わないのですけれども、これは社会の啓蒙に一方的に努力なさつても損するばかりで、婦人が手をとり合つて努力すれば休日もふやすことができると思つております。

榎本 皆さんの大へんいいお話を伺いまして、それぞれ収穫を得られたことと思うのです。

うらやましい保育園

榎本 きのは移動会議に四班に分れてそれぞれ参加されたので

すが、皆さんの移動会議においてになりましたご感想を印象の新しいうちにちよつとつかがつてそれから会議に入りたいと思つております。どなたからでも。

佐橋 三鷹の保育園に行きましたときに、市長さんのおつしやつた言葉が非常に印象的で、それが心に残りました。婦人に経済的葛づけがなくて男女同権ということはありません。だからこの保育園をやつていっているのはなにも困つた方を助ける意味のものではなくて、男女同権というものの女子の権利を男性と、平等に発揮させるためにやつていっているのだとおつしやつた、そのことです。それから、女子の方で、赤ちゃんがまだお腹にあるうちから、すでに働こうという意欲を持つてその保育園に申し込みをされるということをおつしやつたことも、印象に残りました。

榎本 立派な保育園を見せていただいて、あんなことが全国どこにでもできるようになつたらさぞいいだろうと思ひました。働く婦人の方とわれわれみたいな商売人の子どもも、商売をしておりまうとかなかなか子どもを理想的に育てることができないために、手の足りない分を人を雇うことによつて解決しているわけなのですが、それが正しい保育知識を持たない人に頼むためにとても悪いなと思うのです。それであんな保育園が小さい町にもできるようになつたらいいと思ひました。それにつきましては結局は予算の問題があると思ひました。あそこの場合は、個人負担が千五百円となつておりまして、あとは市とか都から出してやつていっているのです。けれども、理解のある市会議員がいらつしやる場合にはそのような保育園が建つ可能性がありますが、市に予算がない場合もあるし、その予

算をほかに回したりして、そういうた保育所なんかには予算が回つてこないならば、いつまでもそれは建たないでしょう。個人負担が千五百円に限られているところに少し矛盾があると思いましたが、それは法律で定まっているのだそうだけれども、家庭では子供一人に二千円、三千円すぐかかると思いますが、個人負担を二千円か三千円に上げるようにしたら、もつとどこにでも保育所が建つ可能性がでると思います。

塚本 橋本さんのおいになつたのは三鷹の保育園ですね。

森 同じく三鷹の保育所で大へん感心しましたが、特に私どもも考えなければならぬと思いましたが、三千五百円を三鷹市で負担可能ということはどうかという疑問がありました。それで、室長さんに伺いましたら、市長が選挙に立候補なさつたときにそれを公約として立候補なさつたのだそうです。その立候補のバツクには、三鷹市の婦人が全部あの先生を推したというような関係がありまして、一人について三千五百円、百二十人の子どもそれに付帯する経費が相当年間にかかるわけですが、その経費を市会で承認するということにはそれだけの裏づけがあつたと思います。ことに私たち婦人の立場から考えさせられることは、三鷹市の婦人が先生を推したというところを、ほかの市でも学ばなければいけないと思いました。

岡田 私も三鷹の保育所で非常に感激を持ちました。ただいまのお話のように私たちが選挙だけでなく政治にもつと関心を持てば、政府の力を動かす原動力を私どもは握っているのだということを感じました。

つしやつたようなことがありまして、社宅の立派な奥さんたちはずいぶん豊かな暮らしをしていらつしやると思つたのです。ところが、内職をして夫の収入をもう少し豊かにするために、生活のある程度のを助けているというお話も出たので、案外私たちと同じくいろいろな生活をしているのじやないかと考えました。それとは別に、日本石油化学と旭ダウという工場を見学いたしましたときに感じたのですが、科学センターというのですか、あの辺一帯にあればいいものができているのに働いていらつしやる方はほとんどいません。産業がどんどん機械化されていくということになると、働いていらつしやる方はいつたようなことになるかと、このことを隣の方とお話したのでした。そういうことに対しては国の政治と直接つながる問題でしようけれども。

近藤 私安倍さんと同じように神奈川班に行きました。大師橋というのを過ぎると川崎市だそうですが、そこに入るととたんに工場がずつと並んでおりまして、ほんとに科学センターに入つたという感じを受けました。石油化学の方はそういうふうな発展しているのに、九州の地方で暮らしていらつしやる方々の争議の話を聞いたりますと、大分差があるような気がして、そういう点をもつと上の方にも考えていただきたいと思いました。新しい文化のしわ寄せがされていく。ちょうど横浜の港の上から見ますと、はしだけで生活していらつしやる方があつたのですが、しわ寄せされた人たちのこともやつぱりもつと考えてみなければならぬのじやないかと考えたのです。

もう一つ生活技術館をみまして、あそこは私の生活に違ひものでしたけれども、二段ベッドがありました。私のうちで実行しておりませんでした。あそこはちよつとズラしてあつた。これは滑つてさつそくまねて私のうちの従業員の部屋の一部分だけでもそれに着手しようと思つていい勉強になりました。

科学センターについて

井井 きのうは神奈川班に参加し、神奈川の三養工業の社宅の方々と話し合いました。初めにみんな生活に非常にゆとりのある方々のように見受けました。私たちのように生活にあくせくしている者としては、自由時間の不償というようなものの考え方が全然違うように感じました。

大橋 私は、千葉班に加わりましたが、最初に東京電力千葉発電所に参りましたときに、実際難詰なんかで見ますよりも百聞一見に如かずですべてに驚きました。もし停電のときには中部電力とか、あるいはその他の大きな電力会社と提携して東京で送電できない場合には、ほかの電力会社がすぐに送電できるような施設になつていて、そのことを知つて、すべての社会機構がそういうたもので成り立っているということを感じました。

水谷 きのう三養重工の社宅の方とお話したときにあとで感じたことですが、実情をもつとよくお話しをするまでに私たち知識を得ておけば話し合いができたのに、その間くい違いがあつたことを大へん残念に思いました。

安倍 三養の工場の人たちの奥さんとの懇談では、水谷さんのお

婦人の力で協同組合

古川 私は美國村の生活改善クラブの方々と懇談いたしましたときに、ほんとうにうらやましく感じましたことは奥さん方の一年間の現金収入が一年間にバランスがとれるように計画されていることでした。米麦の生産の現金収入の入れないときには、あの辺の市場に苗木を出すやら、あるいは生花を出す、あるいは青果物を出すやらして、バランスをとりながらお互いにクラブのいろいろな運動に当たつていらつしやるということを知り、奥さん方の意気込みに大へん感服してまいりました。

三浦 農村の主婦の方の少数の集まりでしたけれども、その会を持つたためにお姑さんの抵抗というものが、初めにあつたらしいのですが、そのお年寄りの方たちの会も持つ様な運動をして、その会を持つことによつてお嫁さんたちも自由に出来るようになったという、それは大へんいいことだと思いました。

富永 千葉では登戸生活協同組合を見学しましたが、そこは大体において俸給生活者の奥さんたちが、婦人の力だけで協同組合を設立し、今なかなか立派にやつていらつしやるので、全くその努力に感心しました。設立当時に終戦後の物のない時代で、たしかに必要でしたし、またそのためにこそ発展して行つたと思いますが、今のようない時代になりますと果たしてこれの存続の意義があるだろうかということ、それからもうこれがある限界まで来ているのじやないかということ、それからもうこれがある限界まで来ているのじやないかということ、それからもう一つ千葉にあ

ります。農業技術研究所にいましたが、そこは十坪ほどもある広い山あり丘あり谷ありという、緑の樹木の中の大へん環境のよいところで、そこで牛馬や鶏について研究をしているのですが、私がおもしろいと思いましたのは、人工授精の研究でして、これは私も理論的にはかなりよく知っているのですけれども、直接いろいろな器具とか写真とか、研究していらつしやる先生から詳しくお話を伺って大へんおもしろく思いました。

鈴木 私も埼玉にまいりました。片倉ハドソンで感じたのですが、昔の女工寮史にくらべますと厚生施設なども寄宿舎の生活、工場の生活の合理化されて、色彩も非常にきれいにされていて、ああいうところで今働いている方はほんとうに幸せだと思いました。

塚本 さつきお話が出ました工場などの高度のオートメ化の問題についてです。横河電機でお話が出たのですが、オートメが進めば進むほど技術の専門化が起こつてきている、ですから結局女の人も技術を身につけていないと、いつまでも下にはかり働かされるということになって、立ち上つていけないのじやないかということですね。会社の統計をみますと、二、三年前にくらべてずつと既婚者の割合がふえているのです。その一方お休みが男の方にくらべて非常に多い。まして既婚者は未婚の婦人よりも多い、家庭的な負担がかなり女の手にかかっているということになると、それを解決するために、三鷹の場合のような乳児院の問題に、問題が戻ってくると思うのです。

三鷹の乳児院でつくづく感じたことは、一票を私が持つているということも少し考えるということです。そうしてきめられた予算

これからいよいよ本論に入つて一昨日の続きをやりましょう。自主的な自由時間というものをどういうふうに解するか、それについて少し話し合つてあとの問題に入りたいと思います。

自主的な時間とは

水谷 私は自主的な時間というのは、自分がこうするのがいいと、自分自身の判断のもとに使う時間を自主的に見ております。自分で考えていいと思つたことならば自主的な時間、自主的に行動した時間と解釈しているのです。

塚本 いかですか、今の意見は。

三浦 そういうふうには広義に考えれば割合たくさん時間はとれますけれども、純粹に考えたならば他人に制約されないで自分自身生み出すことのできる時間、自分のことに使える時間というふうと考えて、家事労働などは一応排除したいと思うのです。

荒井 その人の生活環境によつて、誰からも制約されない時間というふうに見える人もあるし、生活に追われて内職なんかであくせくしている人でしたら、せめて一時間でもPTAの会合に出たり、いろいろなグループ活動に出ることが自由時間だというふうにいる人と、二通りあると思うのです。

塚本 具体的にはたしかにそういうことだと思いますけれども、今ここで求めているのは、自由時間というのをどういうふうに考えますかというのですけれども。

佐橋 仕事時間に対する息抜きの時間と、いうふうに考えれば一番簡明に受けつけられるように思つております。

の使い方、庁舎を改築すると自動車を購入するということをしないで、保育所に注ぎ込んでいくという考え方の方に、市長さんに立つていただけるといふところに女の力があつたということです。私ども一票の選挙をもう少し考えなければならぬということを考えさせられました。

塚本 皆さん大体発言していただきましたのですが、今のお話をまとめてみますと、これは自由時間の問題にも間接的に触れる問題ですが、自由時間を女性にとるためにはやはり社会的な手当というものが必要なんだ、従つて大きいというならば社会保険とかあるいは政治の問題にまでつながっていくのだということを勉強なさいます。

それから非常に機械化されオートメーション化されていつた場合に、いつた人がいなくなるといふじやないか、そういう人たちがどういうふうにしたらいいか、ここには今度経済構造の問題が出てきました。いろいろ考え方がありましようが、人間がむやみに長い間時間をかけて働けばいいということではなくて、やつぱりそこに適当な労働の配分というようなものがなくちゃならない。しかもそうして所得を分け合つて楽しい明るい生活をしていく。そういうことになりまうと、社会保障の問題にもからんでくる問題である。そういう点をいろいろ勉強なさいますね。

それから、まあ細かくは技術的な生活の面もご覧になつたわけですね。私は午後だけ東京班の方に伺いました。皆さんの態度を謙遜的に申しますと、非常に謙虚な非常に立派な態度であつたということをおし添えておきたいと思つております。

森 二十四時間の設計という問題だと思いますが、一応私たちがどうしてもとらなければならぬ睡眠とか、家事のための時間、労働時間、この三つのものを除外してあとの時間を自由時間という考え方が一つあると思います。それからもう一つ、私たちが意識を持つて私の自由時間をこういうふうに設計しようということ、あるいはこの時間は自分の自由時間にしようという意識を持った時間、そういう時間がほんとうの意味でここで議題になる意味の自由時間じやないかと思つております。

余暇があるから自由時間があるというふうには考えられないので、いくら余暇があつてもそれを自分の自由時間として活用しなければ、それは自由時間といえません。

塚本 意識の問題を先に確立して、それによつて自由時間というものがあるのか、それをどうにも持てるのか、どういふか、こういう意見ですが、それに対して意見がありますか。

古川 収入の面から見て労働に対する報酬を得る時間は結局自由時間でない。ですから自分のやることに對しての報酬を得られない時間を自由時間と考えております。

鈴木 その人自身がその時間を有効に使うという意識がなければ、いくら時間があつても自由時間といえないのじやないかと思つてます。

岡田 経済的な問題にとらわれないことと、意識した時間、それだけではないと思つております。無意識にだらだらしている時間も自由時間であり得ると思つております。

塚本 今おつしやつたことを大体まとめてみますと、こういふふう

に理解していかどうか、これは皆さんにおはかりするのです。自主的な自由時間と今度のテーマとしているのは、日常生活の中において自分の自由な意思によつて使用される時間、そういう意味であつて、しかもその内容は自分自身にも意義がある。同時にまた対人関係においてもある社会関係においても意義を持つて、好ましい方向に関連している時間である。したがつて小さくいうならば家庭環境、地域環境大きくいうならば社会全体の問題、それから先ほど話に出ました経済の問題、政治の問題、あるいは福祉の問題にも深い関連性を持つ、そういう発展性を持つというか、その根幹となるものは自分の自由な意見によつて時間というものを理解し、どういふにそれを使つていくかという意義ある見方をすることが自主的な自由時間ということの真の意味ではないか、そういう基盤の上にたてそれでは日常の具体的にどういふふうな時間を処理し整理していつたらいいか、これは各々の業態やら環境やらで違つてくるのですけれども、とにかく皆さんのおつしやつたことを説いてみると、共通の問題としてこのようにいえるのではないか、いかがでしょうか。

水谷 その自由な意思というのが問題ですね。

榎本 自由な意思というのは自分自身で考えだした時間なんです。そこでどう考えたから副題だとか、こう考えたから正しいということではなくて、自分自身の自覚によつて考えたものというふうな広い解釈をしておかないと、共通の広場ができないわけですね。そこで家を建てる例からいえば一応地突きが済んで土台をおいたということになるのです。そしてこれからその上にどういふふうな柱を立てていくかという場面になると思うのですが。

榎本 大へん大切なことです。

荒井 自由時間というものを全然考えられない人々の問題を私たちは日常考えてみる必要があると思います。

榎本 大へん大事なことです。どうしても絶対に生活の上で自由時間どころじゃないという方の問題を考えるということ。一応いままでのところを整理してみますと、先ほど第一番に自由時間というものをどう考えるかという、言うならば哲学的なことをやつた。その次に自主的な自由時間を作るために家族との協力関係をどうしたらいいか、そのために家庭生活をできるだけ簡素化して整理して、仕事を進めていくのにむだのないようどんどん進めていくような手順を考えたらどうか。第三の問題として家庭で収入を得るために働かなければならない。そういう家庭で収入を得る仕事に従事した場合にはどのように自由時間をその中から生み出していかう問題、第四番目には自主的な時間を持つためには環境の改善ということがあるのだ、これは特に観光地なんかの意見を伺いますと自分のうちだけではどうにもならない。小売商の場合も買方の方の考え方でどうにもならない。自由時間というものはこのようにいろいろの角度から考えられるのですが、第五番目の柱として、それでは自主的に生み出した時間をどのように使つたらいいかということ、そういう大体系五つくらいな柱にまともつていくのじゃないかと思ひます。

そこで第一番に戻つて、自主的な時間を作るために家族との協力関係をどうしたらいいかということ、これについて真剣な議論を試みたいと思います。

鈴木 自由時間を確保するため自分の意思がありましても社会の環境から後退する場合があります。その問題を解決する必要があると思います。

榎本 社会環境の制約を排除しなければならぬということですね。

荒井 主婦のものの考え方がいつの場合でも受け身であるということが、自主的に自由時間を生み出すことの壁になつてくるのじゃないかと思ひます。

岡田 いろんな理由があると思ひますが、政治力を借りないとうしてもそれが進められないと私の立場から感じております。

安倍 私は経済的な貧しさを解決しなければならぬということ提案したいと思ひます。

榎本 社会も家庭も封鎖的なものの考え方をなくす、ということが大事だと思ひます。

鈴木 各人がどういふ立場にありましても、自由時間を生み出すという意欲を持つことが大切だと思ひます。

水谷 周囲の協力も必要だと思ひます。

榎本 私は結局求めているものは幸福というものだと思ひます。そうしますと自分にとつて幸福というものはなんであるかということをよく考えたい。

三浦 ただいま皆さんがおつしやいましたことは、自由時間を作り出すための技術とか方法、やり方というふうなお話だつたと思ひますけれども、その見出しで作り出した自由時間をどういふふうに使ふかということが一つの柱になると思ひます。

家族との協力関係

鈴木 家族との協力につきましても、生活時間の設計を立てる前に家族と共に話し合つて、家族の人にも適当な、それぞれの立場に合う程度の仕事をそれぞれにふり当ててお互いに分担し合つていくように思ひます。

榎本 具体的にどういふことですか。

鈴木 生活設計を立てるときに大体家族と一緒に話し合うのです。そうして子供には、あなたはどの程度だつたらできると思ふからこれをして下さい。主人はいつも時間がわり方ひまだから、お庭の掃除程度でしたら願ひますか、というふうな具合に前もつてきめておくことだと思ひます。

古川 家族の協力を求めて、できるだけ主人はこういうことをして頂きたい。お掃除の方の拭き掃除くらいは男の子でできるからやつ貰いたい、子供たちにはいろいろなお使いをして貰いたいというふうな分担をして協力は得ますけれども、内職をやりましたら、いくらくらいは子供たちに分配してあげるという経済的な裏づけがないとうまく協力はできないと思ひます。

鈴木 それがあまり進みますと子供が打算的になりはしないかと思ひます。私のところでは、子供が自分から進んでしようとしないうのです。ですからちゃんとしなければならぬようにふり当てるような形で、朝のおふとんは全部上げずにおきますと、仕方がないから全部上げてくれます。

榎本 今おつしやつたように、いやいやながらするのを命令でさ

せようというのですが、私がするのだつたらいやだと思えますね
(笑)自然的にやるような方法は。

鈴木 朝のおふとんなのですが、子供は自発的にやつてくれない
のです。

塚本 私も逃げようとするかもしれませんね。

荒井 自発的な協力という事で一面子供のしつけの面に入るか
もしませんけれども、私小学校に上つていない小さい女の子があ
るのです。その子なりにできる用事などをしてくれるのですけれど
も、庭掃除とか、そういうときに非常に喜んでやるのです。あんな
のおかげでほんとうに助かつたわというふうにな。

塚本 おだてる方ですね。

荒井 子供の、やつたことにほんとうに満足するように言つてや
ると、案外自主的にやつてくれます。

塚本 今問題が出ておることを一つ取り上げてみますと働くとき
に経済的な裏づけをしてやらなければいけない、ただ働かせるば
かりにやみんな喜ばないというのですが、子供や年寄りに働いて貰
ったときに、報酬を上げる、ただどももありがとう、よくやつてく
れたとおだてただけではないけないことになるのですが、その眼界をど
うしたらいいでしょうか。

荒井 抽象的な意見になるかもしれませんが、報酬よりも、報酬よりも
私は家族全体に勤勞の喜びというのですか、労働の大切だというこ
とを植へつけていくということが必要だと思えます。

三浦 家族の者のものの考え方、意識と申しますか、どうも明治
生まれの男性はそういう傾向があるわけなのですけれども、こうい

う家事向きのことは男がやるとなにか世間体も悪いし權威にかかわ
るといふふうな考えを少しずつでも刷っていくかなければと思うので
す。父親が率先垂範ということですね。

塚本 痛いですね。(笑)

古川 先ほど私の言いました経済的裏づけというのが、報酬のな
んだか具体的に現実化しているように伺いますが、私の方のグルー
プは家族全体で子供も父親もおばあちゃんもおじいちゃんもできる
ような仕事をしておりますから、それに対する報酬を経済的な裏づ
けというふうには、ただある一人の働きに対してするのではないので
すから、お含み頂きたいと思えます。

塚本 大へん皆さんのお話を伺つて私も勉強させて頂きました
が、こころあたりで次に移らなければならぬので、私の意見をち
よつと述べさせて頂きます。子供のときからなんでもさせるという
ふうな習慣をつけることはいいいことで、実は四月号の「親と子」と
いう雑誌に一つ入れたのですが、近所にニコヨンのお母さんと子供
がいるのです。これはいろいろないきざつがあつて、おじいさんの
ところに預けられていたのが、お母さんのところへ行きたくて子供
の意思でお母さんのところに帰つて来たのです。それで嫁家とは絶
縁したお母さんがニコヨンをしなから子供を育てているわけです。
このお母さんが非常に聡明で、子供の生活に全然干渉しない。その
子供がまた非常にいい子で、自分で御飯を炊いたりお洗濯をする。
初めは母親の目から見ると垢なんか落ちていません。それがだんだ
ん自分の練習で短時間に洗濯がうまくなる。そのうちにお母さんが
働いているのだからというので、自分も自主的に新聞配達をはじめ

ました。ところへ前に申込んであつた都営住宅が当つて独立の家屋
をもつことになり、今度はそこでおそうごい屋を始めました。子供
が配達をするのですが、そこには自転車をはしいます。すると前
に勤めていた新聞屋の主人が非常に感心して、その子の独立の記念
のためにとても安価に、しかも月賦で自転車を売つてやつた。この
ケースについて結論から見ますと、お母さんが子供の生活に干渉し
ない。従つて子供に対する信頼感を持っているということなんで
す。こうした母の態度のもとで子供はすくすく伸び、新聞やおそう
ごいの配達をしながらクラスの中でずつと一番を通過してゐる、とい
うことです。

私の友だちのある家庭では、屋根にぐみがたまつたのを掃くとか
庭の草をとるとか、いわば家として共同生活の場面に關する限り、
子供の年令に応じて仕事をさせますけれど報酬は全然やらない。と
ころが特にお使いに隣り村まで行つてもらう。ときには、若干の報
酬をやる、報酬をやる仕事とやらない仕事の限界を持つてやつてい
る。

以上は例をお話ししたわけですが、自分自身自主的な時間を持つ
と同時に、家族全部にも各々に自主的な楽しい時間を持つ配慮が必
要じゃないかというふうには私は思ふのです。そして自由時間を持つ
ためには家庭の生活を簡素化し、家を整理して夜手探りでも物があ
るところがわかるというふうには、すると、時間が有効に使えのじ
やないか、そういう点で御経験を語り合つて頂きたい。

家庭生活の簡素化

安倍 私なんかなんとなく捨てるのがもつたないような気がし
て、包み紙とか箱とかをとつておくのです。そうすると主人は片端
から整理して捨てていってしまうのです。そのときもつたないとい
思ふのですけれども、結局取つておいてもあと少しも使わないので
す。衣類でもいらなくなつたものを捨てるのがもつたないといつてど
思つて取つておくのです。主人は誰かにあげた方がいいといつてど
んどんあげてしまふのです。それは非常にいいことだと最近思つて
おります。

塚本 なかなか捨てられないのですね。からつばの空き箱ばかり
積んであるのですけれども、女は自分では処理できないのですね。
子供の学校でバザーがありまして、子供がお世話になつてゐるから
なにか出さなければならぬということにきまつて、始めたのです
けれども、人さまに物を差し上げるというのは好意がなかなかその
まま受け取つて頂けないのですが、不用品交換会というのは私自身
の役に立つたようなことが多かつたので、非常にいいと思ひます。

大橋 取つておくのもあげるのもよいのですが、包み紙だつた
ら、これはあの木のカーパーにして処理してしまえばいいと思つた
ら、すぐその場でカーパーにしてしまふ、そのとき考えが浮ばなかつ
たら捨てることです。古着がありますね。ちよつと出したときにこ
れは誰それさんいいなと思つたら飛んでいつて差し上げれば、そ
れはそのときに処分されてしまふわけです。

近藤 仕事に計画性を持つことが大事だと思ひます。たとえば洗
濯は毎日やろうと思えばあるのですけれども、一日おきにすると
か、毎日同じことをだらだらとやらないように。そういうことが時

間を生み出すためにいいことだと思えます。

佐藤 今のお話に関して地方会議でも出たのですけれども、一日の家庭処理の時間を考えずに、一週間の時間を考えて家庭処理をするとは非常に合理的にできるといふことですね。

三浦 ある計画性を持って物を買ったり貯えたりするということによって、いろいろなものが出るという点を防ぐことができるといふ思います。

塚本 私も女の方の生活を見てみますと、雑箇の中に平常着ない着物がたくさん入っているのに驚くことがあります。といつてそれが全然ないと淋しいでしょうし、なにか生活にうるおいがいい。そこらあたりをどういうふうな合理化していらつしやるのですか、皆さんは。

水谷 私たちの土地は空襲にもあわず、ともかくのんびりと暮せる土地だったものですから、何月になれば給、何月になれば単衣もの、冬はウールの単衣だったからおかしというふうな考えがつい先ほどまで残っておりまして。そういう過去の衣に対する考え方を一度すつかり捨て去つてほんとうに自分に一番便利なものを考えて、どういふ場合にはどれを着ていかなければならないということに對しても自分独自で判断して、他の人の考えをあまり気にしないというふうなやつていくべきだと思います。

橋本 大部分の人は恥ずかしい程度着物を着たいという気持ちがありますから、それを申し合せによつて簡単な着物で行く、ふだん着で行くということをお願いによつてきめて行くようにしております。

職場の民主化

佐藤 あとの方が印象に残っておりますから、その方を先にちよつと申し上げます。自分がいいと思つたことを実行するのはずいぶん勇気のいることだと思います。先ほどどなたかおつしやつたように、ここにいらつしやるような方は信念の人という言葉が当たっているのだ、きつとおたくの方でもなかなか芯のかたい方だろうと思つたのです。しかし、そういうふうになるまでにはずいぶん努力がいつたでしょうし、その態度をこれからとる場合にはずいぶん努力がいると思いますので、孤立してそういうことをするのはむずかしいことなので、うちにお帰りになつても仲間の方と一緒になさること、そういう生活の仕方を広めていくことができるのじやないでしょうか。先ほどの衣類の話ですが、私は皆さんと同じ立場ですけれども、実際に自分の時間をはぶいたり、持ち物にとられる自分の気持をはぶくためにしておりますのは、新しいものを一つ作るとその前のものはすぐ手離すということを機械的にやつております。子供たちの雑誌なども付録がたくさんあるので、二年か三年になれば二年のときの参考書もいらなくなるので、学年の終りにどんどん整理させまして、近くの母子寮にさし上げることにしております。それを機械的に運ぶために大きな箱をおいてそこにいれておく、そうして電話をかけて母子寮の方で取りに見えるのです。相当ボロでもお使いになるというので、母子寮の方にさし上げるといふことで解決をつけております。いろいろなものを貰つても誰もうれしくないのですから、まだそれが使える状態でさし上げるか、あるいはほんと

鈴木 家庭の中をなるべくお金をかけずに住みよく住めるように、テンプルセンター、椅子カバーをよく作るのです。刺繍したり安い生地で作つたものを取りかえて、捨てても惜しくないような見た感じのいいものをこしらえます。感じが非常に新しくなつて、おく場所や、向ける方向を少しかえたりしますと、同じ家の中でも感じが変つて新しい感じを受けます。そういうように工夫しております。

塚本 自分の意思によつてやつていく、それには私はやつぱり自分自身が相当教養を高めていかなければならない、今のうちに環境をときどき変化させて新鮮な感覚を持つというお話がありました、それから派手になつて困らないような仕組みにして一定のものを作る、不用品なものを作らない、これにもやつぱり一つの限度があつて、私たち男から見ますと、どの顔を見てもどの奥さんを見てもみんなおんなじように見えるというようでは、うるおいが感じられない。この点はどうなんでしょう、やつぱり自分の個性に合った美しさというものを、簡素の中から、にじみ出させるということができないものでしょうか。

富永 できます。私はその方をとりまします。制服はきらいです。

塚本 皆さんから大へんいいお話を聞きましたが、これはべつだんにまとまりをつける問題でないので、こちらでオブザーバーの方から意見を伺いたいと思うのですが、YWCAの佐藤さんからおねがいます。

うに磨品にしてしまうということも考えに入れることが、どうも生活の中では大事ではないかと思ひます。

先ほどから出ました自分自身の個性ということ、自主的な判断ということとはあくまでも大事だと思ひます。家族との協力関係のお話が先ほど出ておりましたが、まあ塚本先生が大へんいい締めくくりをなさいましたのでべつに申し上げることもありませんが、年令によつて、環境によつて子供にしろ夫にしろ、その人たちが今専心考へているということはやはり先にくるので、ときどき考えますのは、あんまり家持ち上手になるとつまらないと思ひます。そればかり考へてその工夫で終始してしまふ。常にそつちに頭が働いていますから、家持ちの専門家みたいになつて、自分が生きている部分はどこにもない感じがしてくるので、やはり私たちは自分の金体とすることを考へていきたいと思ひます。

私の子供の場合などは、下の女の子とはよく話し合う機会を持ちますけれども、中学にいつた男の子や高校の男の子はなるべく引き離して眺めることが必要な感じがいたしますので、やはりそれはその子供子供によつて違ひし、夫なりおじいさん、おばあさん、みんなその立場立場を重んじていくことが必要じやないでしょうか、そんなことを考へながら伺ひましたが、あまり御参考にもならないかと思ひます。

石井 佐藤さんが大へんいいことをおつしやいましたので申し上げることもないのですが、同つておりまして私は家族の方との協力がなない自由時間はなかなかできないということ、その問題でまたいろんな壁があるんじゃないかということです。家庭の民主化ができま

せんと職場の民主化もできないのです。自分のことは自分でさせるような教育ということは大へん大事なことで、働く婦人の集会でもお茶汲みの問題、お掃除の問題が必ず出て参ります。そのことも家庭の中で男の人がやつても決してこけんにかかわることでないという教育ができておれば、職場の民主化もできるのじやないかと思ひまして、そういう点から大事な問題ですから、もうちよつと深めて頂きたいと思ひます。

それから、いろいろ今後官庁の問題が出てくると思ひますが、そのときにやつぱり政治との関係もやはり含めてお話しをして頂きますようにお願いいたします。

塚本 大へんいい御忠告を頂きました。下山田さんにひとつ、

下山田 もう一つお願いしたいことは、どなたか自由時間を持つてない方の問題をちよつとお出しになつたと思ひます。私自身が家庭工業をしておりまうと、私の地域の方々はそのいう方が多いものですから、自由時間を持つていない人というよりか自由時間を持つていない人という人として申し上げた方が適切な言葉かと思ひます。そういう問題に触れまして、もう少しそういう方のために深い掘り下げた意見を伺いたいと思ひます。

塚本 三人オプザバーから大へん適切な御意見を伺いました。

それでは次の問題の柱に移りまして、今発言のありましたような自分の自由時間を絶対に持てない方もありますし、持つことを知らない方もおありになるというような問題も含めて、家庭で収入を得るために働かなければならない場合に、どういふふうにして自由時間を得るか、どういふふうにしてそれを合理化していらつしやる

か切実な意見を承りたいと思ひますが。

自由時間の合理化

安倍 私家で洋裁しておりますけれども、何時間働いたら必要な収入が得られるようになるかということが、一番大きな問題だと思ひます。ですから値段、それから値段をきめてくる基礎ですね。そういうことを一応よく考えてみたいと思ひます。

塚本 あなたはどういふふうになさつていらつしやいますか。

安倍 大体標準があるわけなのです。私の場合は都立と地方とで値段が非常に違うわけなのです。都会で千円頂いているものでしたら地方で五百円しか頂けません。今のところは地方の今までのお値段の大体の標準と、私たちが大体はいいお値段の最低とのバランスをとつて、今まで千円だったものでしたら千二百円にしたいといふふうに、洋服店の仲間でもう少しづつ上げて頂く、上げたならば上げただけの手は入れるということをお話ししながら少しづつやつております。

塚本 千円では安くて千二百円当然いるのだと思ふといふふうにおつしやる場合、その賃金の基礎といふもののはどこから出るべきだと思ひますか。

安倍 私はやつぱり働いた時間によつてきめられるのがほんとうだと思ひます。だから一着のスーツを仕上げるのにも、もし三日間かかったならば、三日自分たちが生活していけるほどのお値段を頂きたいと思ひます。

塚本 なにかほかに意見はありませんか。

大橋 三日でも上手な方と手の悪い方との差がありますから、お話し合ひでその平均をとることが必要じやないですか、時間を出すために。

佐藤 今の自由時間の持てない方持ち方方知らない方への協力というのは、たとえばグループの協力で、家族の方を協力の線に持つていくということが一番いいのじやないかと思ひます。

塚本 私の店は魚屋をやつておりますけれども、一つの店にあまにもおんなじ魚が多いわけなのです。それでいきおい商店同士で競争するために利益が薄くなるといいますが、人数の割に労働が強いられるわけです。主婦を始め主人も店員の人たちも皆収入の割に労働が多くて、もう少し競争しないで、自分の労働に対する適当な収入があれば、もつと人数をふやすことなどによつてもつと主婦の時間も生き出せるし、それぞれの時間も生き出せると思ひます。

安倍 私は一日働いて一日生活できるお金がほしいといふふうに申しましたけれども、一日の全部を働いて収入を得るのじやなくて、一日のうちで八時間くらい働いた時間の、労働時間に対して大体生活できるだけの値段を頂きたいといふふうと思つております。

塚本 その問題で、大体商品というものはそのでき上つたものの価格がきまる場合には、その中に含まれている労働の量乃至は労働の時間がどれだけ含まれているか、もう一つはそれにかつた機械が、どれくらい磨減しているか、そこに一つの均衡な割合が保たれる、ということが商品の価格といふものを決定する原則でなければならぬ。それが途中で機械をもつた方面に利潤がより多く吸収されたりなると、労働賃金が下つて来る勘定になる。これは皆

さんも同様にお考へになると思ふのですが、この点を考えて参りますと、最低賃金法といふものが去年できましたが、それは一体どういふ仕組みになつてゐるか、私個人の考へから申しますと非常に半端な最低賃金法だと思ふのです。何時間働けばどれだけの賃金が適当だといふ根本的なものがきまつていないように思ふのです。

大橋 私たちの内職は和裁ですから、どうやら最低の賃金くらいは獲得できますけれども、袋を貼つてゐる方などは、同じような精力を使つて働いていても同じ賃金は得られないですから、そういうときには政治的なものとが福祉的なことに加わつてくるのじやないかと思ひます。

水谷 私たち小売商人の場合は、主人と店員と協力してやつていく場合であつて、からだは薬をしておつても、店番という大事な用事があり、相手はお客様でいつなんどき来られるかわかりませんから、生活時間の設計もなにも成り立たないと言へます。

私の地区の場合は五十軒も七十軒も一つの町に小売商店ばかりの町並ですから、営業時間の短縮を思ひついで、それを今後の問題として運動していきたいと思ひますけれども、それにはなかなかの抵抗があるのです。

塚本 どういう抵抗ですか。

水谷 商人として営業時間を長くするといふことは積極的だから賛成できるけれども、短縮といふことはなにごとだといふ声があるにでます。

塚本 最も抵抗の強いのは男の商店主の側ですか。

水谷 ますそうです。

塚本 なにかそういうことで一軒でも時間を合理化しますと、非常な圧力が出るわけですか。

水谷 自分のところだけ早く聞ければ、おとくいをよそへとられる心配があります。

安藤 私としてはたとえ能力は少くても、それに応じて一生懸命努力して一日働いていらつしやる方は、最低賃金を保障して頂けるようなまわりの考え方と、それを裏づけるだけの社会の状態を作つて頂きたい。

塚本 作つて頂きたいというよりもわれわれで作らなければならぬ。

佐橋 ある程度資本をおろすことも工賃を高める一つの原因であると思います。グループを作つて中間搾取をなくす努力をしなければいけないと思います。

古川 私の方は、業者を中間におかないで、直接内職を頂いておるのですけれども、その量が毎日毎日異つておりますので、内職の賃金が不安定なんです。そういう解決はどうしたらいいか、それで悩んでおります。

塚本 賃金の安い切実な方があるし、それから安藤さんのおつしやつたように一生懸命働いているけれども、働いている人の技術が未熟で、それで食つていかなければ生活が成り立たない人もあるし、そういう場合に締めくくりの問題としていつたように処置すべきかということです。

森 結局貧乏な日本の予算、国費の中から、あまりにも重点が国防費に注がれているということが一番の根本問題で、社会福祉とか

民生の安定の方面にもつと重点をかけて頂きたい、それはみんなの願いだと思ふのですが。

大橋 上から考えたところではそうですが、根本問題は自主的に時間を見出して話し合い、小さいグループから次第に大きい団体の力にいつたらいじやないかと思ひます。

塚本 職にしてもいろいろな種類があつて、同様なさるという型、もう一つは人頼みなんです、眼に輪廻所を作つてお世話願うといった方法、私の仕事もそこで頂いてます。

塚本 今までのところをちよつと締めくくりますと、結局は自由時間を持たないほど働かなければならない。これを大きく言うならば、一國の政治の問題に、繋がると同時に日本の宿命的な生産面の二重構造に關係する。大企業では比較的安定して働け、厚生施設などもとのつて、ところが日本の九〇パーセントは中小企業であり、中小企業というのは下請であるか、しからずば同業者の競争がはげしいので、輸出のものにしても非常に値段を叩かれてしまふ、そこでそのしわ寄せが働いている者に来ているということ、この二重の生産構造の問題を合理化していかなければならない。

小さく言うならば、働いている者が自主的な組織を持つということ、たとえば内職をしている方々が相当の組織を持つて、組織の問題でものを言つて、一歩一歩自分たちの主張の方に近寄せていく。これは自主的な時間という問題からものと発展した問題であるけれども、自主的自由時間の獲得という意識の問題から入つてゆくことも必要である。観光地などの場合には、環境ぐるみの時間の合理化を考えていかなければならないという点であつたと思ひますが。

塚本 今までのところは一応皆さんが実質的にいろいろ苦勞しながらやつていくうちに、大きな壁に突き当たると、そしてその壁の解決の問題にしなければならぬ。しかし一方においては、自分たちの身近かに組織を作るとか、あるいは一歩一歩ならんかの形で自由時間を生み出すようにすること、あるいは賃金についても、結局時間の問題は賃金と関連してくる、そこでそういう基本的な問題を解決していかなければならないということなどお話し合いになつたわけですね。外に出て働かなければならない家庭の主婦の方もあると思うのです。そんな場合、皆さん自身の経験とかあるいは皆さんのグループの中にある問題についてひとつ話し合つてみたいと思ふのですが、いかがでしょうか。佐橋さんは身をもつてそういうことをやつていられるようですが、あなたの苦心談をひとつ発表して頂きたいと思ふのですけれども。

佐橋 私はグループを一つ作つておりますが、自分自身が内職をやつてゐるわけではありません。行商ですから、一日の収入というものをきちんとあげてからでなければ、こういうグループ活動とかいろいろなものがおもしろく気持よくやれないということに帰着します。こちらから積極的に出ていく販売ですから、調子のいい悪いに影響します。皆さんの休んでいる時間は私が一番働かねばならないときで、朝早くと中間の休みのときと夕方ということになります。

塚本 あなた自身が外へ出て働くわけですね。品物を持ち出して、その苦心談があると思ふのですが、どういうふうにしておうちを片づけたら、仕入れのことで歩いたりしていられるかを少し聞かせて頂きたいと思ふのですが。

佐橋 朝早く出なければならぬので、新聞さんが御飯食べながら読むのです。どこでも一日中緊張の時間ではなくて、自転車に乗つているときが自由時間になります。取崩中のための生活がそのまま生活手段になつて、行商をはじめたものだから、どこかほんとうの行商人とは違ふのです。販売の話から知らないうちにグループ活動の語になつたりします。

塚本 家族の朝の食事なんかどうなさいますか。

佐橋 炊事はどうしても私がやります。長時間調理を要するということは全然やらないのです。栄養不足を補うためビタミン剤と生卵は常時買つて補充しています。

自由時間以前の問題

岡田 私は直接自分で、これを問題にするようなことにおつかつておりませんけれども、私がこちらにくるときに三の宮の駅まで追つかけて来て、この数項を書いて持つて来て下さつた方があつたので、兵庫県のお願ひの一つを皆さんに訴えたいと思ふのです。これをお出しになつた方の近所は、皆さん昼間出かけて行くのです、父親も母親も、子供たちはある年令までは託児所に預けていきますが、小学校の三、四年から中学までの、自分のはつきりした意見なりそれを実行する力なりを十分持たない子供たち、そういう子供たちをなんとかして救う道を開いて預ける方法を聞いて来てほしい、今年の正月に小学校の五年生の男の子がガス自殺をした事件が近所にあつて、そんな子供だつたらもつと夜でも尋ねていつてやつたのにと自分の責任のように感じておられる。こういう問題をなんとかし

て貰えないだろうかということを書きまとめて見えた方がありますから、この機会になんとかいい方法を一緒に考え出して頂きたいと思えます。

塚本 自由時間以外の問題として働かなければ食っていけないし、そのためには学童の問題、保育園からもっと上にいった子供、一人遊びのできる自主性のない子供はどうしたらいいか、これは人権にも関連する重要な問題だと思うのですが、皆さんでひとつ話し合いをして下さいませんか、どうしたらいいか。

近藤 どうしてガス自殺なんかなさったのですか。

岡田 それをこの方に聞き返しましたら、両親がいないのです。工場に中学もろくに出不いで通っている兄さんと生活をしている、くわしいほんとうのところはわからないのですけれども、兄弟げんかでもしたのでしよう、自分にはあたたかい家庭もないし、周囲はみんな働きに出ているうちが多いものですから、相談に行くところが全然ない。そんなことからガス自殺をしたということだそうです。塚本 欠損家庭の問題なのですけれども、どういうふうにしたらいいいでしょうか。

荒井 同じような問題なのですが、三重県の県の婦人会議のときにも出ましたが、内職に追われている主婦が子供の面倒を見られないというところから、青少年の不良化の問題が出て来まして、子供の面倒をなんとかグループで見てもうけようというふうな話が進んでいるのですけれども、現実には実施されていないというところなのです。ですから、もう少しその問題で話し合ってほしいと思います。

安倍 勝山市は大体構物が盛んで、家庭の女の人がほとんど職場を持つている。女の子が子供を育てる時間がないので、そういう地域の特殊な事情から、未亡人の仕事として、子供さんを三人以上預けられる。市からの補助が八百円、個人の親からも八百円くらい出して、その一人の方に三人くらいの方を見て頂いてやつていてというお話をちよつと聞きました。これは特殊な地域の場合であるし、一つの職業にまとまっていらいやというところ、小さい者の場合ですけれども、こういうことがさつきの学童の場合でもなんらかの形で、できないものか提案したいと思えます。

岡田 私自身が前に宗教団体におりましたから、それを感じますけれども、宗教団体にはある程度集金の場所や、小さいグラウンドがあるところも大分あります。そういう方たちが自分の信者を訪問して、宗派の信者の拡張よりも、そのまわりにある、特に両親の外へ出ていつて見放されている子供たちにもつと目を向けて下さつたらと思います。場所をあまり無用に使っているような感じがいたしますが、いかがでしょうか。

佐藤 家事手伝い、ホーム・ヘルパーと申しますか、内職者などがグループ作りをしつかりして、その中で話し合つてそういうものを作り、場合によっては家政婦会とかなんとかいうものの用に向けるという方に進んでいつたらと思います。

古川 私のところで最近まだそれほど実績はあがつておりませんけれども、子供会に五、六人づつの班を作りまして、その班員同士でいろいろなことを友だちの間柄においてやつておりまして、不良化防止の一つにしております。

鈴木 そういう問題は私の方の地方会議でも似たようなケースが出まして、香川県では小豆島でお父さんは校長先生、お母さんは小学校の先生で、どちらもとても立派な教育者で、はたのどなたが見ても非のうちどころがない方のお子さんが、学校で同級生をなぐり殺すという問題が起つたのですけれども、そういう場合やつぱり親がそばにいないから子供が精神的に淋しくて、なにか心にわだかまりのようなものを持つているのじやないかという話が出ました。ちよつとの時間でも子供に接する機会を多くして、子供とあたたかい話し合いを五分でも十分でもしたらいいのじやないかという話が出ました。

富永 門司で小学校の先生が五年か六年の女生徒を妊娠させたということがあります。先生すら信頼できないということ、両親がいらいやするので、お二人とも工場に出ていらいやするそれで、お母さんが妊娠五カ月になるまで全然気がつかなかった。それが非常にこわいと思ひまして、外で働いていてもできるだけ子供を見てやろうという気持ちが大変だと思ひます。

塚本 私若いとき幼稚園に勤めておりましたが、お母さんがいらいやする子を見るときに問題があると思ひます。それで子供ができた一応うちに入ることを条件にして結婚したのですが、子供の手が抜けまうといろいろの欲が出てまいりまして、手芸の仕事をしてみましたが、内職にはいろいろな限界があります。現在パートタイムの仕事をしていますが、子供を持つている母親だという立場を忘れないためには、パートのお仕事はやつぱり望ましい一つの形じやないかと思うのです。

鈴木 私の方では子供と親が寄りまして、親子会というものを開くのです。子供のいいことをなんでも親に対する希望とか、遊び場がほしいとかいろいろな意見が子供から出るのですけれども、そういう機会を作つて子供の気持ちを推しはかるようにしております。

塚本 今まで皆さんのおつしやつたことをとりまとめて申し上げますと、きりぎり内職をしなければならぬ。あるいは外に出て働かなければならぬ。そこで家庭が一種の欠損家庭のようになって来ている。子供たちが保育園に預けられる場合はいいけれども、仮に保育園があると仮定しても、下級の学童の問題をどうするかというレジスタンスから自殺した例まであるというお話で、この問題も切実な問題としてとり上げなければならぬし、政治の問題としても、そういうことに感覚のうすい政治は国家を不幸にする。このように皆様が着眼しておられることは非常に佩服するのですが、これを手近な問題としてどう解決するか、重点が絞られなければならぬ。そこで一つの問題としては地域の活動が盛り上つて来て、ボランティアの人たちが、報酬を要求するのでもない。恩恵的でもない、自分の余つた自由時間を生み出したもので、ほんとうに地域にサービスする。日本人のサービスは外国の場合と違つていて、なにかそれに報酬を求める。恩恵的な優越感をもつ。受ける方もそれを受けることによつて恩恵をうけた気持ちになる。そうではなくて自分が奉仕したいというやむにやまれぬ立場から、手助けをするという運動が進んでいくことも必要である。

第二の問題は、そういう方もなくて、ほんとうに周辺が働かなけ

ればならないような方ばかりであつた場合にどうするかという問題、これに對しましてはその中にいられる未亡人の方などにお金を払つて子供を見て貰う。あるいは交替で何日かはずして子供を見て、その代りその人の労働賃金はみんなの働いたうちから分けてあげるという自主的な問題。

第三点はその地域の資源をできるだけ活用する。お寺であろうが、地域の資源として活用するようなこと、これも地域の自主的な声としてできるようなことなので、皆さんがそれぞれのグループで勇氣を持つておやりになればできると思う。ここでまた自由時間の問題とグループの問題とが大きくグロースアップされる。皆さんの意見をまとめると以上になると思いますが。

その次にやつぱり労働の密度というものを考えてみたい。朝から晩まで忙しい忙しいといながら、きのうも移動会議で聞きましたように、忙しい忙しいといながら二時間も三時間も立ち話をしているということ、それから仕事をする場合にだらだら働く、農家なども、忙しい忙しいといながら朝早くから出て夜遅くまで働くことがいいことだと働くわけですが、案外お茶を飯んだりむだ話をしている時間もかなりある。そういうものをもつと制約して、働く場合の労働の密度を深めていつて、それによつて自由時間を見出すという方向もあるのじやないかと思うのですが、そういう問題についてひとつお話し合いを願いたいと思います。

労働の密度

蟹本 今の佐橋さんの意見のように、自身が自主的になされる方がいいですけれども、森さんのおつしやつたような問題に對しては、週休とか営業時間の短縮とかいうことで、お互いが少しでも助け合う方法に持つていけば、ある程度解決になつていくのじやないでしょうか。

荒井 ただいまの蟹本さんのお話で思い出しましたのですが、県の婦人会議でパーマの仕事をしていらつしやる方が、週休制の問題にして、週休制を勝ち取つたのですけれども、中にはお休みときまつても商売をしたり、お休みの日でもくるお客様があつたりして、人の自由時間をあまり犯さないようにしてほしいという意見があつたのです。

近藤 私どもの方は陶器を作つておりまして、家内工業のような小さい工場をやつていらっしゃる方が多いのですから、夜を昼にひいてやるような仕事ですが、そういうことではいけないというので、皆さんが話し合われまして、週休に當つたその日は必ずみんなが休むように町ぐるみなつたのです。八百屋さんなんかでも一斉に市内全部休んでしまわれます。最初のときは消費者も大へん困りましたが、今では皆さんに認識されまして、あすは休みだからというので土曜日に買うようにして、みんなの力で解決されていくと思ひます。

水谷 営業時間の短縮の問題ですが、観光都市ですから夜分を早く閉めることは困難なものですから、朝一時間遅く店を開けるという方法を考え、町の役員方に話をしてみしても、いろんな議論が出るだけのことで、実際問題として朝八時に開けたときと九時に

鈴木 収入の低い仕事ほど労働時間が長くて、収入の高いほど労働時間が短いという結果になつていと思うのです。これは、当事者だけでは解決がつかない問題です。私は農村に住んでおりますので、農村では、とかく仕事よりもからだを忙しうに動かしていれればよく働いているという觀念があるものです。能率をどんどん上げてそのあとは昼寝をしようと思はうとそれがいいのだ、という社会の氣持を変えていくようにしなければいけないと思います。

森 労働の密度を上げていくことは、大へん結構ですけれども、商売の場合にはお客様本位で、上げたくてもお客様がいらずしやらなければ結局拘束をされておりますけれども、自由時間ではあり得ない。それじや一定の店番してないながらできる仕事があれば、活用することは結構ですけれども、割にひまそういて自由時間を見出し得ない商売の立場というのは、非常に私たちとしてはどつちつかずです。

塚本 地理的条件とか、商売の業態とかいうことで、一概にその問題を平均化して話し合うことはできませんが、商売は商売というふうになにかいい方法があつたら、話し合つて頂いた方がいいと思います。

佐橋 私のように行商しておりますときは、やつぱり自分の商売のことですから、密度の点に關して非常に考えるのです。たとえば、炭鉱地帯に行くときには炭鉱の方が上るときに、農家に行くときには昼の休みの時間にお邪魔にあがるようにする。あるいは朝早くです。そういうことを重点的に自身で考えてすれば、非常に能力が上ると思います。

塚本 ではこのへんで話をしめくりします。労働の密度の問題に關して来たと思うのですが、家庭の時間の密度を詰める。つまり休むときははつきり休むということなのですが、ここで一番問題になるのは、ヨーロッパには十九世紀の終りから三分法というのができつておりまして、八時間寝て、八時間休んで、八時間働くというところが守られている。日本ではだんだんといわゆる刻苦精勵している姿が非常に多いという習慣的なものが残つてい。しかもある代議士などのヨーロッパを見てきた印象として、ヨーロッパの國民は日本人のように精勵しない。怠け者だ、ああいふ國はだんだん亡んでいくだろうとおつしやる。働くときには働き、休養するときには休養し、寝るときには寝て、しかもそれで立つような生活の面が考えられなければならない。そうするとやつぱりこれもわれわれの手近かな生活の問題として考えると同時に、大きくは社会保障制度にもつながりをもつ問題である。先進國は大金持と食うに困る國民との間隔が次第に縮まりつつある。つまり、貧富の差が縮まる傾向にあるのです。それは國民の所得の再分配を意味する社会保障制度が完備しているからです。一國の経済政策の中に、当然社会保障政策が入らなければならないというのが近代的主張です。

次に、自主的時間を持つために環境をどのように整理したい

かという問題について、具体的な問題をお話し頂きたいと思います。

自主的時間を持つための環境

三浦 私の場合は小規模の医院です。日中は割合無関心でいらつしやつて、夜分になつてから医者の門を叩くという方があまりにも多いのです。きのうからせきが出ていて朝から熱が出ていたというのに夜の十二時頃に来るケースが非常に多いので、そういう点人の自由時間を尊重するという意味からも、また病氣は軽いうちに医者にかかれば早くなおるといふ常識からも、皆さんの認識をお願いしたいと思ひます。(笑)

塚本 まことにこもつともです。

森 私どもにも労働基準法というのは適用になつておりまして、実働九時間の範囲内で労働するということを基本にしているわけです。ところが実際はなかなかそうはいきませんので、拘束時間が十五時間あるわけなのです。十五時間の中の労働九時間をどういうふうにしてやつていくかという問題もありますが、商業に労働基準法を適用すること自体に無理がある。その無理のある労働基準法は精神は生かすべきであつても、そのものを強化して適用するということについては、考慮の余地があると思ひます。

塚本 どういう点ですか。

森 労働九時間といつて何時から何時までと工場のような労働密度で客商売ができるわけじゃないのです。ある時間は忙しいけれどもある時間はひまで、結局拘束時間は長いわけなのです。そういう

ところを九時間で打ち切るためには、適用上の例外とか、極端に言えば抜け道を作つてかろうじて労働基準法を適用している、抜け道を作つて適用すること自体それに適正した法律ではないのじやないかという問題があると思ひます。

塚本 業態別の配慮がないということですね。

塚本 私たちの小さな町にも同業者間に組合を作り、月に一回の休みがありますが、それがなかなか実行されておられません。それといふことも鮮魚を取り扱つております関係上、それを一日寝かすということができません。鮮度が落ちますから、休みでも売つてしまわなくちやという気持が業者にもあるわけなのです。

それともう一つは、お客様から考えてみて、あすこの店は休んでいるのにこつちの店はやつているから、あすこはサービスがいいという評価が下るものですね、いきおい休みを休まないような結果になります。そこで鮮魚店の店舗改造とか、冷蔵庫を作る場合に補助金を貸すようなことを考えて頂きたいと思ひます。

定休日の問題ですけれども、業者間の協定とか、話し合ひですといつても、なかなかそれは実行不可能なことが多いわけです。ある程度法律化していただいた方が。

塚本 それは新聞でも御存知のように、毎月休日を作ろう。日曜のほかに毎月一日を休むようにしたらどうか。平均化して今までの日曜のほかに休みを作ろうという議員立法で出ていますし、そういうことは工場に勤めている人もいいしわれわれも希望するのですが、奈良の水谷さんのような場合には、休みの日には余計抑しかけてくると思うのですが、それをどうしたらいいか。

岡田 商売の方はほかの日に休めばいいわけですから。私の子供が大学を出たころ、しばらく川崎の製鉄所で働いたことがありますが。臨時雇の者は祝祭日に休みますと有給ではあります。ある種の人は有給で休みが多くなり、ある者は日給のために休みが少なくなるし、いよいよ貧富の差が開いてくると思ひます。祝祭日を一面で喜びながら、一面喜んでいいかということを、私の家庭で話し合つてまいりました。

塚本 大へんいいことですね、対立する矛盾があるわけですね。佐橋 そういうふうにした休日が日給者でも臨時であつても、全部有給にして初めて意義があるのですから、そういうふうにするように私たちはみんなで努力したいと思ひます。

塚本 立法化の問題も気持はわかるのですが、僕の考えじゃ日本ではあまり法律が多過ぎるのではないか、なるべく法律を作らずに自主的な段階できめていくようにしたいと思ひます。

森 いわゆるサービス業に携わつてゐる者の心得として今まであるところでは、十点サービスしてゐたものならそれは八点のサービスに下げるといふこと、そして家族の方にサービスをします。そういうふう考えたという話が地方会議でなりました。

大橋 公けと自分とを区別したらいかでしようか、時間は短縮しないで家族のうちで時間的な自分の自由な時間もとるし、その話し合ひで交替制にしたら。

岡田 私のところでは二年ほど前までは私のところだけでなく、近隣もみんな月一回の公休日でした。それを週休制に近づけるため

に昨年二回にいたしました。大へんこれはよくなりました。全店が一斉に閉めます。ために今年から私の店だけは四回、週一回の休みにいたしましたけれども、二回は全部閉めます。あとの二回は当人と話し合ひます。

塚本 従業員をたくさん使つていらつしやるところは交替制もできるでしょうが、家族でやつてゐるようなところでは奥さんの方にしわ寄せがくるといふ問題、これを皆さんの方でも少し工夫して頂きたいのですが。

橋本 それはある程度家庭内の話し合ひで解決すると思ひます。

塚本 観光地へいきますと、お店で売つてゐるものはどこでも大抵同じようなものです。ああいうところを通るときにいつも思うのですが、先ほどお話ししましたように、お客様がなくても揃つて店を開けていなければならぬ。そこを輪番制で、今日は甲のうらが開けるそうしてほかの店は休んでいる。あしたは乙の店が開けるという特殊な業態による工夫のようなものも多少してみたらという気もするのですが、いかがでしようか。

森 大へん結構な御意見で、それが実行できればいいのですが、輪番制で開けますと、お客様が大へんいらつしやつたときの番にあつた店は喜びましようけれども、必ず毎日同じような程度にお客がないということから、結局なかなか実行がむずかしいのです。

塚本 長い目で見れば大体ならされていくわけでしょうけれどもね。

森 ですからその理解が皆さんにできればいいと思ひます。

塚本 そういうこともやつぱり話し合ひで説得なさつていかなければ

ればならないということ、もう一つ大きな問題は消費者の方に呼びかけるということが大事じゃないでしょうか。買にくる時間をきめてくれということをマス・コミで働きかける手はありませんでしょうか。

岡田 神戸では元町というところが一番にぎやかなところなのですか。その元町で週休制が全然なかったところを、月二回にして、お客様の方に新聞を通して知らせました。今それを週休制にしたとか、開店を遅くしたいということをしつつあるのです。

榎本 消費者の側からいいますと、大売り出しというビラはしょっちゅうくるのですが、何日と何日は休日だというビラはちつとも出来ないで、その点商店街も時代に沿って考えて、休日は休みだということ徹底するようにしたいだいたいと思います。

もう一つ考えなければならぬことは、農村などに行きますと、農休日というのがこのごろ大分出来てきた。農休日だからうどんを打てとか、ぼたもち作れということで、主婦の方は反って忙しいということである、休日をどのように休養し、どのように自由時間をとっていくかという工夫、ここにも問題があると思うのです。

農休日など

安倍 山口の地方婦人会議で農休日の話がでましたんですが、農休日に主婦が休んでないんですね。生活改善普及員が調べましたら、主婦がほとんど休んでいないらしいのです。封建的な考えでの嫁さんは労働力なんだから、農休日に休むということはお姑さんの手前まずいというようなことが非常に問題になつて、私の自由時間

以前の問題が農村にあるということを知りました。

三浦 私のところは仙台ですが、仙台ではまだ匿名が全面的な週休制にするか協議中です。大きな病院では週休制が実施されておりましたが、不便なものですから、一般の方々が、どうしても小企業の開業医のところは休日でもくるケースが多いものですから、私のうち日曜日は午前中ということにいたしております。日曜日の午後が主人の休養の時間になつていきます。うちにいればどうしてもお客様がきますので、必ず外へ出るということにしています。そうしますと主婦の私がまた留守番ということになり、ふだん手の届かないところのお掃除など、ついやつてしまいます。それで、月に二回程度、私がひまを全面的に貰う日をきめていて、それでこつちが息をつくということにしております。

鈴木 私の方では、農休日には男の方はほとんど朝から休みますが、女の方はせつかくのお休みだからなにか変わったものを作つてくれとか、それ以外に主婦自身にしても平生できないことをゆつくりこの日にしてとか、洗濯もしてなどということ、そういう気持ちから抜け出さなければいけないと思うのですが、なかなかできません。平生にしても自分が自由時間を工夫してやれば、二時間くらいはとれないことはないと思うのですが、昼間はどうしても休めないし、結局仕事にだらだらと埋めてしまふ形になるようなのです。

榎本 村の封建制といいますが、それに抵抗して挑戦してやつていかなければならない田舎で、私の知っている長野県のある市の郊外、純農村ですけれども、私は昭和二十七年に毎日働く老人クラブ

を日本最初に作つたのですが、その呼びかけにこたえて老人クラブができたのです。お寺の和尚さんが非常に頭のすぐれた方で、老人クラブを作つてお年寄りがここにすれば、昔の地主も小作もないすつ標の人間として、後いくばくもない人生を有意義に過せようという指導をされました。老人たちは喜んで賛成したのです。自分たちは今までの近所隣りと仲良くつき合つたといひながら、隣りに腹が建つとねたましい気持ちでした、隣りに不幸があると全く他人のことのような気持ちで表面的につきあつてきたのじやなかったか、これではほんとうに仲良くしたのではなかった、ということに反省をしたのです。私はNHKの方と一緒にまいりまして、全国放送がされました。そのときのクラブで和尚の話題が世界の情勢なんですね。実に驚いちゃつたのですが、とにかくお年寄りが反省して、百姓は今迄あまりむちやに働き過ぎたのじやないか。われわれも生身だから休養が必要だ、そこで月々一回農休日をつくらうと老人の方からい出した。若い人たちの反対するわけはありません。大賛成、おばあさんたちも老人クラブにこれからは嫁が弁当を作つてよくしてくるのだから、今度は嫁の日を作らうといひ出して、今度は嫁の日が出来ました。お嫁さんというのは、大体農村では財布を渡されない限り四十才になつても嫁なんです。そこで子供を連れてお寺にあつまる、公民館の先生たちが来て子供たちにお遊戯をさせたり歌をうたわせたりして遊ぶ、その間にお母さんたちは老人向きの料理の講習会を受けたり、自分達もうたつたり踊りをならつたりします。大へん楽しそうにやつていらつしやる。考人で中風などで動けない人がいる、そういう人たちに二万円くらいするのだそうですが、リ

ヤカーのもつと高級なようなものを作つて、元気な老人がみんな乗せてたんば道を歩いて置えつて工合とか車のみのり工合などを話し合つていく。こうして村全体が明るくなつていく。そのような工夫、説得など、重要なことですがそれは皆さんが中心になつて周辺に共鳴者を、一人でも多く、意識を持つた人の繋がりをお作りになる、そうして不可能を可能にすることは困難だとしても、やれば可能なことはやるという線に持つていくというやり方がいいのじやないか。今は可能なことでも必ず壁があつてできないということ、あきらめを持つていけるのですけれども、勇気を持つてぶつかつていって、できるだけ志を同じうする人たちがやつてみたかどうか、よう、商店、小売商人の問題、観光地の問題など相当重要な問題で、何百年培われた一つの伝統がありますから、なかなか大きな壁があると思いますが、しかし、やつぱり勇気をもつて休当りをしていつてみる、ということがいいのじやないか。

店員たちにせつかく休ができて、遊びに行けば小遣がある。だからその人たちが休みの日や仕事を終つてから自由時間にゆつくり手足を伸ばせる風根を作つてあげる。将棋をさしたり碁をうつたり、ねつころがつてゆつくり休めるような福祉的な施設を考えてあげたらどうか、ということを感じたわけです。

次にどなたかが作文にお書きになつておりましたが、来客などが不意にあつたりして無計画に時間をとられては困る。三浦さんの場合なんか診てもらいにくる患者なんですけれども、普通の来客などが無制限に来られる。日曜などもめつたにうちにおりませんが、今日は自由時間だ、本でもゆつくり読もうと思うとどやどやとお客様

がいらつしやる。私気が弱いものですから居留守をつかうというこ
とは絶対できないので、日曜もついでしてしまふのですが、そうい
う問題をどうしたらよろしいでしょうか。

お互いの時間を犯さない

安倍 個人個人としては、やつぱり自分も犯されたくないから他
人のところにもあんまり勝手な時間に押しつけて、勝手な時間をつ
いやさない心がけも必要ですが、訪問される方としてはいらつしや
つた場合に、自分は忙しい用事がこれくらいある。何時くらいまで
はひまがとれますから、ということをはつきりいうようにならなけ
ればいけないと思います。私の場合は仕事をしておりますから、今
日はとても忙しい用事があつて、何時までしなければならぬとい
うお仕事をしまつたらお会いするというのです。ですからこちら
の条件を相手の方に悪くとられないように初めにお知らせすること
は必要じゃないかと思ひます。

塚本 私なども何分だけ今日は時間がありますからお会いします
としておりますが、つい私も話が好きなものですから、勇気を持つ
てもう時間が来ましたということ、ベルでも押したりした方がい
いかもしれませんね。

水谷 私はつき合っている方も大へん忙しい方が多いですから、
大ていの場合には、お尋ねするときも来て頂くときも、電話で都合聞
いた上でないことにならないことになっております。またお会いする時間
も今日はゆつくりさせて頂きたいとか、今日は短時間で済ませる用
事です、とお互いにとりかわした上でなければ会わないことにして

おります。

鈴木 理解を求める場合には若い方はわかつて頂けるのですけれ
ども、お年寄りの方々は一時間でも二時間でも限界がありませんか
ら、自分より年上ですとどういうふうにかつたらいいかいという
場合があります。

塚本 農村で有線放送ができていたところでは、今まで自転車
で行つて半日かかつたところを、有線放送で簡単に話が解決できる
うになつた、そういう社会的な手当も合わせて考えなければならな
い。習慣を破りながら。

鈴木 私の方では徹夜時間といひますけれども、八時と書いてあ
つたから九時ごろ行けばよいといひということになつておりま
す。私なんか役をしておりますときは、どなたもいないときでも自
分は最初に行かなければならないと思つて、時間にもやんと出てい
るのですけれども、ときによつてと開会が二時間後ということになる
ので、それも他人の時間をとるということになるので、集会は時間
通り集まるという心がけを持つて頂きたい。

塚本 それは非常に大事なのでしてね。東京にもやつぱり東京時
間がありまして、講演を一時なら一時にしてくれと頼まれる、大体
五分前にきちつと行くようにしているのですが、一時間くらい持た
される。初めから来ている人には大へん時間のむだをさせること
になる。ですから時間を守ることには大切で、また集会の
時間中もむだ話の時間をつくらぬようにする反省が必要じゃない
か。

近藤 今度私の方では多治見市の連合婦人会で、時間進行推進の

会というのができまして、どうしても集まる時間を守るように、と
いう申し合せができたわけです。それがずつと各種の団体の方にも
呼びかけられまして、始まる時間が守られるようになり、何時に終
るといふことなども、会合の開かれる場合に連絡されますから、大
へん有効に、お互いに時間を犯されないようになって来て、町の人
たちも喜んでおります。

塚本 自主的な時間を持つために環境の改善をどうするか、とい
う問題では小売店、観光地の場合の問題、それから来客、相互訪問
の場合の問題、集会時間の問題などが取り上げられました。もう少
し問題についていいたいことは冠婚葬祭ですね。こういうものにか
なりむだな時間があるのじゃないか、それらのことを実際当面する
問題として話し合つてみたいと思ひますがいかがでしょうか。

冠婚葬祭についてやす時間

鈴木 若い方の中には主婦にしましても簡単に改善していきたい
という気持は、持つておりまして、お年寄りの方に気がねでそう
いうことだけはいい出しにくい状態なのです。

古川 私の方ではできるだけ時間的に簡素化を計ろうというの
で、公民館で式をあげるのです。親たちも納得してむすこさんたち
を擁護して式場に迎えてあげるのですが、そのあと今度はそのむす
こさんたちのグループが二次会、三次会というふうになつてしまひ
ますと、親がああいう簡単なことをするから、僕たちにこういうし
わ寄せがくるというやうなまだ気分が残つております。

塚本 私昭和二十七年に生活館で結婚式を始めるときに、意

識の問題を中心に取り扱わなければならないと考え、憲法二十五条
の両性の合意によつて結ばれるものであること。結ばれるならば何
人といふこともこれに干渉することはできないものであること、男女
平等の立場で結ばれること、これをはつきり結婚式のときに当人同
士も誓つて貰いたい。それから居並ぶ両親、親戚の人にもそれを承
認して貰いたいということから始めたのです。

もう一つは結婚は合意であると同時に法律的行為ですから、そ
の場で署名する。事実上の結婚と法律上の結婚を同時に済ますとい
う意識の問題を宣伝して来ました。その結果当然結婚式の冗費やむ
だな時間をかけるということとはばかばかしいという考え方が出てま
います。次第に全国的にその風潮が拡まつたのです。合理的な風
習なり、合理的な時間の利用ということは、冠婚葬祭の面におい
ても意識の問題から出発しなければ、長続きがしないということに
なるのじゃないかと思ふのですが、いかがでしょうか。

近藤 聞いた話ですけれども、若い方でコーラスに入つていらつ
しやる方なのです。御両親もある方ですが、コーラスの人たちは皆
さん会費制で結婚式の披露をしたそうです。親たちは立派な結婚式
を望んでいて、なかなかトラブルがあつて困られたようですけれ
ども、おむこさん、お嫁さんがしつかりして結局コーラスで結婚
なさつたといういい例があります。

塚本 われわれものの本質を考へるということと忘れて、どうも
末端だけを考へやすい。本質というものをもう少し詰める習慣
をつけるようにし、それからまた皆さんの周辺にそういう同志を作
つて頂いて、それがだんだん大きくなっていくというふうにするべき

安倍 大切な自由時間を有効に使おうということばかりに気を使うと疲れます。生活技術の習得をするグループに出るとか、楽しみなことをするとかいうような計画をある程度作るということも非常にいいことだと思えますけれども、それと一緒に計画のない自由な時間というものがあつてもいいんじゃないかと思えます。

塚本 皆さん平生疲れているからぼんやり休養することはいいことだと思えます。娯楽、映画の問題なども出ておりますが、娯楽というものを皆さんどういうふうにお考えになつていらつしやいますか、またどういうふうにご利用していらつしやるか。

娯楽の利用

塚本 映画を見たり娯楽をすることによつて疲れをなおすことと、明日への希望がとてもしほいて来ますから、そういうふうにご利用しております。

岡田 仕事のことからうちのことからいろんなことから解放されて、なにもかも忘れたという瞬間が一番いい娯楽じやないかと思うのです。そういう意味での旅行も年に一回や二回いたします。

塚本 映画や芝居を見るということもたしかに娯楽ですけども、たとえば岡田さんのおやりになつてゐるように一時退店の人と一緒に茶を飲みながらダベるといふことも娯楽だと私は思います。生理的に申しまして気分転換をする。私のように常にものをいつたり書いたりしている者が疲れますと、あてもなくステッキを持つて二十分くらい歩きますと、すつと新鮮な感覚になる。娯楽というものをあまり固定して考えないで、娯楽は生活のどこかにあつ

て、手近かに見つかるということも考えていいんじゃないかと思えます。

塚本 私は楽しみ、娯楽というふうなものは、生活の中にスポンと穴をあけちやうことじやないかと思えます。俸給生活者でお金の余裕があるわけではないのですが、夏休みにおばあちゃん別荘になつておりますので、私の方に鍵をかけて海水浴に行つてしまふのです。共済組合を利用して四日なり五日なりスカッとあけてしまふのです。帰れば赤字の家計が待っていることはわかりきつてゐるし、そのほかのときに別に不自由していることもありませんけれども、あの五千円あれば、あの八千円あればと思ふときもあります。私としてはとても娯楽になるのです。

塚本 ここで特別オブザーバーの方から御意見を伺うことにして、最初下山田さんから。

みんなの力で大きな壁をよぶ

下山田 それぞれの技術面からそれぞれのやり方をなさつて自由の時間をお持ちになつてゐるということ、私非常にそれは尊いことだと思つたのです。しかしまだまだほんとうに皆さんのような自由の時間を持たないという人、そういう人の問題も数多くは出ませんけれども、そういう問題を解決しますにはやはりどうしても先ほど皆さんのおつしやつたように、法律の問題にしても資金の問題にしても政治力が必要だと思ひます。政治力によつて経済というものがうるおふならば、割合にたやすくできるんじゃないかと考えたわけです。ですから皆さんの持つてゐる一票がほんとうに大切なこ

とだと思ひます。

佐藤 いろんなことを感じながら同つたのですが、おととい今日のお話合ひの中で一番強く感ずることは、十五年、二十年前にはこういう話合ひはできなかったらうということ、今は、これだけ皆さんが話合ふようになった。自分の考えを人にわかつてもらへるようになるようになり、人の考えを受け入れることによつて自分の考えが豊富になるということを考えれば、いいことはいつか実現するのじやないか、ここで考えたことで一番根本になつておりますことは、皆さんが自分の生活を大事にする、自分を大事にすることから始つてゐるいろいろなことを追つて来ているのじやないかと思ひますが、自分の時間を作り楽しみを持つ、どういふふうになつてゐるか、その考え方というものはすべて自分が自主的に自分の命を処理していくことで、お金にしても自分が好きなように使つて同じような意味だと思ふのです。どうも私たち今まで自分を犠牲にして、これだけが非常に崇高な生き方で、楽しみを持たないで苦しんでいくことの方がはかりにかけて価値が多いという考え方から抜け切れないのじやないでしょうか。ですから一生懸命生活していても、九分通りそこにくるのですけれども、やはりそこに自分たちをうしろに引きとめておくものがあるのは私だけじやないと思ひますが、楽しみということも大事なことのなか、自分が命の洗濯をすることは本質的に大事なのだということとがわかれば、自由時間を持つという問題が真剣に考えられて来て、やつぱりお金儲けの方がより大事なのだという考えがどこかにあれば、そちらを遊ぶことになりましようから、先ほどからお話合

つた中で共通した考え方をもちの方があつたので、ほんとうに嬉しいと思ひましたが、子供が一人前になりますまでは家族ぐるみの喜びというものが相当大きな場所をとらなければならぬと思ひます。自分を失いたくない、自分がひとりぼつちになつたときに、カスみたいなことになることはつまらないことだと思ひますので、自分の生き方がその間に一本切れないで続いていきたいと思ふので、それが勉強であるのか趣味であるのか、そういう生き方がやはり大事なのじやないでしょうか、私自身は夫と一緒にものを考えたり楽しむといふことは、相当時間を使つていきたいと思ひますので、夜の時間なんかずいぶん話合ふのです。そういういい方をするとずいぶん生活意欲に聞えるかもしれませんけれども、うちにおりますと子供がおります、昼間は家政婦が来ておりますので、よく主人と外で会ふのです。ランデブーみたいなんですけれども、町の中で会いますと気分が変るのです。よく話をすると、けんかもするのですが子供は夫婦というものはそういうものだと思ふのです。やつぱり夫婦というのは、親子で生きてゐるよりも長く生きていかなければならぬのですから、子供子供といひますけれども、夫婦は自分の生活を大事にしていかなければならぬ。自分の生活を大事にしていくためには、共通の話題と共通の時間を持たなければならぬ。と感じましたので、ちよつとご参考までに。

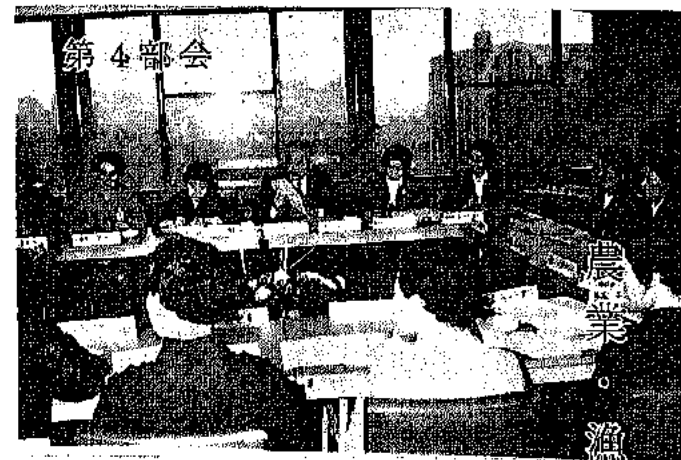
石井 皆さんの御経験からの言葉をほんとうに尊く、一言一言承つておりました。話合ひというものはなんでもいいものだらうかと思つたのです。ところで自由時間を作るのに、何つておりますとずいぶん無理があるのです。その無理がやはり個人の力ではどうし

でも解決がつかないので、社会機構、経済機構、政治機構に縛られているところが非常に問題で、それを打ち破るのが大へん問題でありますので、私が大へん手腕のある政治家だつたらと思いましたが、ことに佐橋さんのお話を承つておりまして、苦しい自虐車の上が自由な時間であつしやるということを目指したら、それを楽しんでいらつしやるのですから内政干渉してはいけないと思うのですけれども、やつぱりからだに障りになりはしないかと思つて胸苦しくなりましたし、八時にお夜食をなさるということは何つて、子供さん達がその間どんなに召し上りたいだろう。それをどういうふうに通していらつしやるか、そこに疑問もあるわけです。その一つ一つが、私どもの力ではなかなかすばり割り切つて解決ができないところに、今日のお話合ひの最後のところがあると思います。お話合ひが深まりましたのでやつぱり最後の心を前え力を合せていけば打ち破ることができるといふ期待ができるわけです。ですからいいグループ活動をして頂いて、大きな力で大きな壁を皆さんで打ち破つていけばいいと考えたわけです。

塚本 大へんいい助言を頂きまして、ありがとうございます。生み出した時間をどのように使用すればいいかという問題で、共通した問題としては休養をとらなければいけない、そうしてその休養のとり方というのは、生活の中にボカンと穴をあけるような、ほんとうに自主的な休養をとつた方がいいという意見もありましたし、皆さんも同感のようでした。娯楽といえますか楽しみという問題ですけれども、これもやつぱり生活の中に楽しみを見出す、家族ぐるみの楽しみを見出すということも非常に大切なことだという意見でし

た。ことに助言頂きました中にも、主婦が楽しむという時間を作る。これも私の実験なんです、夫婦の仲が非常にいいという家庭からはあまり不良少年が出ないのです。大分子供も大きくなりましてお父さんとお母さんで今日は映画に行くからという、あ、やつてお父さんとお母さんという調子で、子供たちの干渉される世界からむしろ解放されるというふうな点もありまして、そういうこともやはり大事なものはなにか、関らんしながら楽しみ、また相談やらいろいろ教育をなさつていられる方もありますけれども、家庭の奥さん自身が楽しむことを知らない方は、店員とか家族を楽しませることを知らない人なのでして、自分がどうして自由時間を取り、自分がどうして楽しむかということを知つた方は、そういう人たちに對しても楽しませるべきであるということもできます。この点が非常に大事な点である。もちろん教養を高めるといふことも大事なことですけれども、それから趣味に生きるといふか、植物の採集を目的に持つた自由時間をお持ちになるといふようなことも大へん結構なことです。家庭全体が明るくなるということは地域、環境を明るくすることにもなる、そういう志を同じうする方々がグループをお作りになるのは当然でしょう。そして慢さず慢されずという生活の仕方、そこでお互いに理解を持つことも大へん大事なことで、いかに、時間をどう使うかという計画をなさることも必要だけれども、といつてその計画の時間にあまりに神経をとがらして、時間ノイローゼになつて、反つてその時間にこちらがとられるといういき方ではなく、そこに自主性の問題というものがあるのじやないかというふうには、皆さんの実感のこもつた発言で強く感じさせて頂いた

わけです。



農業・漁業にたずさわる婦人の問題

出席者

北海道	小泉和子	(農業)
岩手	清水セイ	(農業)
秋田	堀田信	(公務員)
茨城	渡辺芳子	(農業)
新潟	小林幸子	(農業)
富山	片岡幸子	(農業)
山梨	海原道子	(無職)
長野	萩原道子	(無職)
滋賀	山中紀子	(無職)
京都	西見紀子	(無職)
和歌山	永井八重子	(無職)
鳥取	土井浜子	(農業)
鳥根	斎藤田子	(農業)
広島	花岡子	(農業)
徳島	前川豊子	(無職)
佐賀	弥富育子	(無職)
リダー	岡野信夫	(評論家)
特別オブザーバー	池田りゆう	(全国漁業協同組合 婦人部連絡協議会)

自分の言葉で真実を

岡野(リダー) 今から私が司会させていただきますけれども、一つ気楽な気持ちでやっていたいだきと思います。まず最初に私の、リダーとしてつとめさせていただき気持ちを少し話させていただきます。

今度の婦人会議は、生活時間の自主的な設計、また自由時間をどうしてつくり、どうして利用するかということが主な課題なのです。私たちの生活時間、あるいは自由時間に對して私はこういうふうに考えているのです。人それぞれにめいめいの人生というものがあつて、毎日毎日の生活を積み上げて、一生がつくられてゆくその間に結婚もし、家庭もち、子どももつくり、子どもも育てるということで一生終るわけなのです。これが人間の運命です。その毎日毎日の二十四時間をどのように生きるか、その積み上げ方にいろいろ問題があると思うのです。二十四時間だばんやり生きた人もあるし、二十四時間、わたしはほんとうに人生を生きたのでという自覚をもつて生きる人もあるでしょう。そういうものの積み上げで、その人の送つた人生の値打と申しますか、それが非常に違つてくるのではないかと思うのです。

人間誰しも、生まれて死んでしまえばそれまでですけれども、その一生をどういう意味をもつて送るかということが、問題の一番根本じやないでしょうか。そうしたものの方の中から、生活時間あるいは自由時間というふうな言葉も出てくるのだらうと思います。が、その場合に、言葉だけが頭の中から回りしているのじや、あ

まり意味がない。人間は社会という機構の中で横にも広がり、また縦にも、先祖から自分の代、子ども、孫というふうにつながり合つており、そのつながりの結び目として自分がいるわけですから、そういうつながりの中での生活時間、自由時間という問題だということに考えてゆきたいと思うのです。

今度、みなさんの作文も、そういう角度から拝見したわけなのです。文章として立派だ、作品としてよくできているというものもたくさんありますが、私に審査した立場は、むしろ作文は下手であつても、その中に自分が生きて、ほんとうの人生を渡つていくのだという真実感が流れている文章、生々とした現実が感じられる文章を選んだわけなのです。

ここに選ばれた皆さんは、北から南までいろいろな地域の人の集まりであるということ。いま一つは、ちがつた年代の人たちの集りであるということも配慮しているわけなのです。集まられた十六人の方々のそういう地域的な差や、それから年代の相違、さらにもう一つ付け加えますと、それぞれの生活、あるいは仕事の内容の違いというもののから当然生じてくるものの見方、考え方の違いというものをお話し合い願えれば結構だと思います。そこからお互いに、必ず得るものがあるはずなのです。

次に、三日間の話し合いのやり方ですが、私は、こういうふうに進めていただいたらどうかと思つております。

まず第一は、これは意見のコントロールではない、あの人はいい意見はいつたという競争の場ではなくて、一つのよりよい結論を出すための協力の場だということです。いい結論を出すためにみんなが

力を合わせるのだ、というふうに考えていただきたい。そこから当然出てくることですけれども、自分の意見なりものの考え方はどんな話していただき、同時にほかの方の話をいらしやることもよく聞いていただく、そしてその中からさらに充実した自分のものの考え方を引き出すということが非常に重要だ。ということ。第三には、いうまでもないことですけれども、真実を語っていただきたい。真実の中には、自分は気付かなくとも、非常に重要なこともたくさんあるわけです。そういうことをほかの方に気付いてもらうということも必要です。恥ずかしがらずに遠慮なくほんとうのことを話してもらいたい。

第四には、言葉はみなさんのおくのに言葉で結構だと思ひます。むずかしい言葉、本に書いてあるようなえらそうな言葉を使つてもらわなくてもいいわけで、自分の言葉で自分の考えやものの見方を話すということが大事だと思ひます。要するに言葉にやつてもらふということですね。

それでは、今からお話ししていただくことにして、一番最初に申しましたこの会議のテーマを頭に置きながら、それに別にこだわら必要はありませんけれども、自分の村のことだと自分のものの考え方だとか、ざつとばらんに話していただきましょう。

農村の種々相

小泉 わたしの部落は町から八キロも入つてゐる、ほんとうに辺りな開拓地なのです。一日といつていいのか、一年中、主婦の座とていうのが忘れられていたのです。忘れられていたというのは開拓

地ばかりではないでしょうが、農家に入つたら一生懸命、ただ身体を使つて働らくばかりが主婦だ、というふうにとられていたのです。私どもの開拓部落では、家にいてお客さまの応待をするとか、子どものめんどろを見るという時間がなかつた。それで自分から主婦の座などは考えたことがない。ただ身体を一日いつばい、一年いつばい、日のあるうちは働らいていたというに過ぎなかつたのです。しかし、これじゃあ一生面白くない……、すこし自分の主婦の座を考えて、自由時間をつくることでできれば人生楽しいのではないかと考えて、二年ぐらゐ前から時間割をつくつてみたのです。一日のうち昼前二時間、夜一時間の自由時間をとりまして、一週間交替で夜の一時間は主人と夜學へ通つていたわけです。そしてそれを徹底的に実行した。自分としては、自分の家庭内ではとても楽しい人生を過しているのです。最初はまわりから、あの方は主人が養子だから、旦那さんを尻に敷く、自分の母親だから、兄弟だからあの方は実行できるが、わたしたちとても実行できないとよくいわれた。しかし、家族の者の理解と協力を得ることは、そんなにむずかしいことではないと思ふのです。夕食後にみんなで話し合うとか何とかいろいろ方法はあると思ふんです。

清水 私の農村は何百年も前からの農村で、封建制といひますか、古い因習とか慣習に捉われて、どうすればよくなるかということがわかつていながら、なかなかやれないところです。農村はただ働らく働らく、ほんとうに暗いうちから、暗くなるまで働らく。そうすると訪問の時間なんか早く行かなければ仕事に出してしまうからその前に行こうというので、暗いうちからよその家に来る、ゆうべおそかつ

たから、今日はすこしゆつくり休んでいこうというつもりが、結局起こされてしまう。それから家族制度がお嫁さんとかしゅうとさんとの関係はすいぶくよくはなつていますが、やつぱりまだお嫁さんに個みがあるのです。旦那さんが威張つていて、奥さんが何か買つても、旦那さんからお金をもらつて行くのです。だから女の人たちで、何かの集まりに出ましようといつても、お金さえあつたらなあ、とすくう。自由時間や生活時間に結びつけて、何かをやろうとしても自分で経済をやつてないと、集まりに出るという気持ちやら、何かを習うという気持ちにもなれないのです。

小泉 そういうところのお嫁さん、かわいそうね。自由時間を生み出すといつても、理解がなくちや全然できないでしょう。旦那さん一人が家計を切り廻しているといつたら、ほんとうに自由時間なんか、お嫁さんにはないですね。

土井 でもそれが、農村の実態だと思ひます。

小泉 おしゅうとさんがいつてくれなかつたら、憎まれても、お嫁さんや若い方から切り出して、家庭の話し合いというものをつくつたら和やかに話せるのではないかと思ふのです。その機会をつかんで、若い人が生み出す力を考えなくちやならないと思ふのです。一生おしゅうとさんとお暮らすんですから。

土井 心の中では絶えず直接にぶつかつてゐるし、今の若い人はどんどん打ち破るよう努力して、わたしたちの若い時に比べるとよくなつてゐるのですが、まだまだ破りきれないものはある。でもそれを破ろうと努力しつとあるというのが現状じゃないでしょうか。

花岡 わたしは、家庭での話し合いが一番じゃないかと思ふ。話し合いすることによつて向こうの心もほぐされてきますし、自分のいいこともいえます。そうすれば、やつぱりあれも思つてゐるが、わたしもあつてやらなければ、ということが出てくるのじゃないかと思ふのですがね。

國野 いまのお話、家族関係、あるいはまわりの関係ですね、それに非常に大きな壁がある。それはなかなか破れないものだが、若い人が根強くやれば破れるという意見も出ました。それじゃ、次にまいりましょう。

堀 ただいま清水さんがおつしやつように、わたしのほうも、因習に捉われる古い農家だけの部落です。それで参政権は得たのですけれどもわたしはなかなか男の方と同等でお話しできるところまでは行つていないのです。社会性が乏しい、自己批判がないとよくいわれる。つまりわたしはもつと勉強しなければならぬということなんです。

忙しくて、勉強できないと家の中で話をしましたら、忙しい忙しいといふけれども、計画性がないからじゃないかといわれたのです。それで婦人会の会合に出たときに、計画を立てて仕事をしていたらどんなものかと話してみたら、みんな「百姓のくせに、天気相手の商売でそんなことできない」といわれたんです。けれども百姓は天気相手の仕事だけれども、主婦にとつては家庭のことなどいろいろなことがあるから、月曜には何を、火曜には何を、というふうな、計画を立ててゆくと、農作業のほかのことが順々に運ばれてゆくような気がしたのです。それで小さいわたしの部落のな

ただで、話し合つてみたのです。こんなに機械化が進歩している、土地改良なんかも相当進んでいるのに、どうしてわたしたちがこんな時間にないのかと、そうしたら、機械化はされたけれども、経済とのバランスがとれないような機械の購入の仕方をしてるので、それを補うために副業に時間をもつていかれるんです。それから、あくまでも自分というのを考えてやればいいでしょうけれども、いま清水さんがおつしやつたように、なかなか部落の因習に掣われがちで、どうしても自分個人ではできないことが数あつたので、農休日と定めてもらうことをまず最初に部落でやつたのです。ずつと昔から、比較的いいとみなさんからいわれているのです。農繁期を除いた以外です。田植とかは日曜でも休まないが、それ以外は休んでおります。明日雨になりそうだという時は、前刈りをして、明日の分を今日働らきましようやつていたが、日曜でも一日休むのでなく、午前十時頃までは草刈りでも何でも働らく、そうすると、わたしたちはいいが、若いお嫁さん方でしたら四分の一働らいて帰つてきて、作業衣を脱いで洗濯やつて、お部屋に片付けたらおひるまでにできない。結局は半日のお休みになる。それでは困るというので、わたしたちが、農協の婦人部と青年部の合同の座談会を開いて、どうかして、ヨシゴト（四分の一働らくのをヨシゴトという）を廃止してもらいたい、という意見が通り、公民館のほうから部落の主人方が集まる会合にもち込んでもらいました。それじゃあ朝一時間ぐらゐ早く起きて、仕事をよけいにしたらいいでしょうと、何百年も続いているヨシゴトが廃止になりました。自由時間といつても、みなさんそれぞれ目的があると思います。そ

画です。

でも、雨が降ると、家にいる時間があるんです。木曜は家にいて家事……食べ物を整える時間にとつておきます。けれども雨が降つた場合には、それを入れ替りにして、そんなにきちんとはいかないんです。家族会議はないんですが、冬でしたら、ストーブを囲みながら、息子夫婦たちに、どんな計画を立てているか、一応話してみても、明日こういうことをやりたいと思うがあなたのほうで借りられないかしら、あんな明日なにやる？ と聞くんです。

萩原 お財布が持っているのですか？

堀 家計費はわたしが持つて、生産は息子が持つています。主人は公祖公課のほうをやつています。小さい財布です。たかが三万円ぐらいの財布でやるんです。

萩原 嫁の小遣いは？

堀 今はわたしが出しております。今度養鶏グループをつくることにしています。生産と経済を結ぶグループでなければいけないというので、農協の方へわたしたち六人で、養鶏の融資をもち込んでいます。養鶏を嫁にさせてもらつて、嫁はわたしたちから直接小遣いを出さないように、生産でもつて小遣いを得るようになるので、話し中なのです。

国野 いまのお話は、要するに自分の生活だけでなく、生産と結びつけて解決点を見つつけようとするわけですね。

渡辺 私は直接農業に従事してないので、ここに出る資格がないような気がして聞いていたのです。

わたしたちはいまは茨城ですけども、私は新潟の蒲原平野の真ん中

れで、何とか勉強するために修養日を設定したいものだなとみんなでも話し合いました。修養日の設定は、農協の婦人部にお願ひして毎月五日は、修養日に設定されております。（農繁期を除いて）

次に、どのくらいわたしたちが雑用に追われているかということ、グループで時間も調べてみたことがあります。二月中の一週間をとつてみた。そうして衣食住の時間全部引いて調べたら、雑用時間というものが約六時間ぐらゐでした。それをどういうふうに使つかというのを今検討中ですけれども、わたし、日課表をつくる場合に、一週間の栄養の献立をつくりまます。栄養の献立といつても、カロリーなんか出すことはわからないから、有野菜は青とか、動物性は赤とか、色別に書いてある。うちのほうでは肉が嫌いな人が多い。経済も考えると、週に何回も食べられない。それで、肉食デーを水曜に決めてある。

そのようにしてやつてみますと、何となく気が持が、楽なような感じがしまして、農家でですから、わたしたちグループは時期に分けて計画を立てることにして、特に冬分は、農繁期に備えてのびん詰とか、衣服の修理とか、お休みに話し合つてやつています。

山中 今、一週間の仕事の時間をグループでつくるようにしたら、とおつしやつたが、一週間の仕事の時間割が出来たのですか？ 堀 時間割じゃないんです。ただ日課表をつけてみる。はつきり何時間という正確な時間なんか出してみても、できないのです。（日課表を示して）こんなふうにして、たとえば日曜は戸棚の整理、火曜はお手洗いの掃除などをしていく。明日は残物整理とか、家畜のワラかえとか、風呂たたく日はいつになるか、ざつとこんな計

の農村に育ちました。父はなく母が、二町歩の水田、三反の畑をしておりましたので、小さい時から農業のお手伝いをして過ごしました。農村にお嫁に行く積りで農業学校の農業科を卒業して、一生懸命農村に生きることを自分でいいことだと肯定しながら生きてきましたが、母の生活なんか見えていますと、父の兄弟がいるところに母が嫁いで来て、ものすごく苦労しています。またまわりの人たちを見て同じで、一番あわれでみじめなのは農村のお母さんだと思いました。そこから抜け出すためにどうすればいいかを勉強しようと思ひました。それで、農業経済とか農村の事情を、各地をまわつたりして勉強している間に、みなさんの前でこういつちや悪いのですが、農業は劣性産業だという考え方が芽生えて来ました。こうやつたらいい、こうやつたら仕合せができるというふうな考えでやることとはいいのですが、その前に大きな力といえますが、今まで遅れていた家族制度とか、経済的な鎖から抜け切るためには、一人ではなかなかだめだ、という考え方がだんだん芽生えてきたのです。家にいた時には、母の生活を見てほんとうにみじめだ、あわれだと思ひましたし、自分のものを持つて生きていけない。そのことから母に協力して、自分のものを持つて生きていく。そのことから母に協力するに、いつもいろいろな面で協力したんです。たとえば婦人会の会議なんかでも、おえら方ばかり出る。しかし、みなさんのように目覚めた改革に至つていらつしやる方には問題ないのですけれども、まだそこまで至らない多くの人たちに、目覚めてもらい、考えて頂くようにしむけてゆくべきだと思ひます。

小林 私のほうは一日と五日は完全に農休日です。よそよりも休

みがいつばいみたいですが、二十九年、三十年に耕地整理して、三十年に大水害を受けまして、経済面で行き詰つた。その時に、嫁である自分に、貧乏しよわせてもらいたいというので、たまごあきないを始めました。一と五のつく日を完全な休みにして、自分の現金収入を得るようにしたわけです。

園野 あなたは、午前五時から午後十時までの間をきちんと分けていらつしやいますね。その通りですか。

小林 農繁期は朝五時に起きて、六時半頃掃除を終つて朝食、二十分ぐらいで食べ終り、十分ぐらい休んで、四人の子どもを学校へ出す。七時二十五分ぐらいから十分ぐらい新聞を見ます。それから水田に行つて、十一時半の役場のサイレンで上つて来まして、昼食です。夜も五時頃のサイレンで上つてきまして、屋敷を片付けたり、洗濯を取り入れたりしています。

山中 小林さんのところは一日と五日が完全な農休日といわれましたが、どんなふうにしてあなたの村でつくられたのですか？

小林 一、五、十五、その日に仕事をしていると、田植しているところ荒す、そういうことが昔からあつたらしいですね。

片口 富山市から電車で大体三十分ぐらい行つたところで、半農半商の、ちよつと町がかつたところでした。すぐ近所に、ラジオの部分品をつくる工場があります。それで農閑期になると、女の人でもそこへたくさん働らきに行つて、わりあいに経済的には楽だと思ひます。自由時間の問題ですけれども、一般に時間はあるのです。その時間を工場のほうに行つて、少しでもお金をかせいで、自分のほしい着物なり洋服をかうという状態で、公民館の婦人部のほ

うで、料理と裁縫、読書グループ、レクリエーションと四つに分けて、グループ式にやつているのですが、出て来る人が意欲がないというか、世話人だけが出て来るというような有様です。

海野 山梨の一の宮町といひますと、桃の有名なところで、桃とぶどうが少しばかりあるのが普通一般の家庭です。私のところは二反歩ぐらいのおどろだけの小さな経営ですが、小さな経営だけに、兼業の農家としての特色があると思うのです。

私欲張りかもしれないですが、よい嫁でありたい、よい妻でもありたい、よい母でもありたいと四つも五つも欲望をもっているし、兼業農家という大きなものを頭の中に雖然とつぎ込んでいて、重荷になつていました。私と同じような悩みをもつたグループ員もいまして、昨年の一繁忙しい時にアンケートをとりました。四十五名のグループ員ですが、「誰にもおかしなことをしない時間がありますか」という問に対して、全然自由時間を農繁期にもつことのできない者が二四名もあつた。そうして「ある」という方も、せいぜい一日に五十分、やつとみつていてというお話。それに比べて、今年の一月、農閑期にアンケートをとつてみましたら、主婦の自由時間はみなさんが平均二時間ぐらいはもつていらつしやるといふ結果が出ました。つまり農業経営をしている者にとつて、農閑期と農閑期の差がありすぎるということです。一年間の差を、いいあんばいにバランスをとつて労力の分配ができるような生活にすれば、きつと自由時間は農繁期でも農閑期でもたやすくみつけれられることができるのじやないかしら、ということをも、グループ員で話し合つていけるようなわけです。それには一年間の生活記録とか、作業こよみと

か、家事こよみとか、いろいろな生活の記録がなかつたならば完成することでもないし、次の発展段階に進むことができないので、今年のグループの目標として、何か一種でもいいから作業こよみをつくることにしたらどうでしょうと、地域社会の方たちと話し合いをしていくわけです。

萩原 私、ここに入れていただいたのは、自分が百姓していませんが、みなさんの声を聞いて勉強して来いということだと思ひます。

わたしは結婚するまでは都市生活をしていたのですけれども、結婚して農村に入りました。まわりが農家なので、そこに入つてから農村の悪いことが目について困つた。集会という、時間が一時間か二時間遅れる。終るのが十二時、真夜中です。そしてせつかく出て行つても、女の方は全然発言なさらない。こういうのをなおすのには新しく入つて、何をいわれても平気な人が発言しなければ、因習の打破といひますか、そういうことができないと思ひ、私が発言したのです。「始める時間は守りましょう」そうしたら、女が何かいつたというのでみんなびつくりしてしまつた。近所の奥さんたちが、そういうことをわたしもいいたいと思つていたが、ここに昔から住んでいるのでやれなかつた。後押ししますからやつてゆきましようというわけで、グループが出来ました。私自身も全然百姓をやらないのではそういう人たちの仲間入りができないので、農繁期になるとそういう方たちの家に手伝いに行つております。初めは自分の家のことなどの話し合いでしたが、もの足りないというので、政治のこととかいろいろやり出しました。けれど、やつ

ぱり農家なので雨の日でないと出て来られないという人が多くてむずかしい。どうしましようといひながらそれでも続けていきました。が、NHKの婦人学級があつてそれに出席しようということになり、一時から始めて二時に終り、そのあと一時間しやべり合う。それで一週間に二時間ずつ割り出すという方法を考えた。ラジオですからピツタリ始まります。そこで時間の概念というものが植えつけられたようです。

それからいろいろやつておりますうちに、わたしとしては、行き過ぎといふことがあるわけですが、そういうことがあれば、グループの方たちだけは、親身になつて注意してください。しかし、このグループに入つていらつしやらない方から、非難みたいなのをいただくわけです。だから、自分たちだけで何かやつてゆくといふことはむずかしいなと思つております。

小泉 どういう方が集まるのですか。
萩原 兼業農家の主婦とか、お嫁さんたちです。その時間にすぐ飛んで来られないから、田に行くふりをして、徹夜して、途中で飛んで来る。

土井 自由時間は何時間ぐらい？
園野 田に出て行く時も一日五時間の自由時間がある。夜七時から十時まで三時間。それから朝食のあと子どもさんたちが出て行つてから少し……平均して五時間あるわけです。田植の時は一時間といつていましたが、農閑期になりますと、八時間自由時間があると

いうひともあります。
園野 萩原さんのお話は、グループ活動に非農家の人が参加した

場合に、あるいはそれが障害にならないように、どうすればいいのか。また萩原さんの場合は、自由時間をうんともっているから、それで地域のために、萩原さんのような立場にいる人が時間を出すというふうな問題もあるわけですね。

山中 私は百姓に生まれて百姓に育つて百姓の嫁になつて、清水さんとお話しになつたように、百姓は働かなければあかん。朝は晴い中から、晩は暗くなるまで、とにかく百姓は働いたらいいといわれてきたんです。

子どもが高校に行き、弟が大学に進むようになってから、女というのはどうしてこんなに働かなければならんのだろう、百姓の嫁はどうして働かなければならんのだろう、なんで自分をこんなにまで疲さなければならんのかとつくづく自分が情けなくなりました。

一日の暮しが無計画やさかいに、もつと巧く暮らしていつたらもつと自分が若々しくなり、もつと明るい表情でもつと明るい生き方ができるのではないかと思つてもみましたが、農家というものは何百年続いた慣習というものがあつて、家族で働かなければ食つていけないのが農家の経済の構成ですから、暮らしを切り替えようと思つても、そんなら明日からというわけにはとてもいかない。がしかし、何とかしてもつと仕事を楽しめ、自分の生活を楽しむといういき方にもつてゆきたいと思つていました。

それで、家の者にこんなに働らいてばかりいるとせめて夕方一時間ぐらい仕事を早く切り上げ、夕食も楽しく食べて、子どもと一緒にゆつくり話し合い、自分もゆつくり休み、ラジオもゆつくり聞く

ようにしような、といったら、うちの父や母が、そんな百姓が一時間仕事早く切り上げて、お日いさんが高いうちに家に帰つてきたらもつたない。第一、人に笑われる、と反対した。わたしはそれを考えたのが、三十九才の時、八年前だつたけれども、根気よく両親を説き伏せて、やつと二年ほど前から家族の一人一人が自分のほんとうの自由時間をもつことができるようになりました。八年ほどの努力が実を結んだわけですけど、周囲の婦人会グループにそのことをすすめてみてもやつぱり、百姓は働かなければあかん、働らいていたらいいのだ、家にいたらおこられるさかいに、という。

いま萩原さんとお話になつたように、百姓の妻は自由時間は十分にあるのです。八時間あるといわれてみてみなさんびつくりしていなさつたけれども、ほんとうに計画的にやつていたら、八時間十分もつてゐる。けれどもその自由時間を無駄にし過ぎるがために、ほんとうに自分を豊かにして、家族の楽しい時間をもつことを知らんという気がします。

土井 こだわるようですが、八時間の自由時間というものをどの時間におとりになるのですか。それはおしゅうとさんの場合ならとれるかもしれないが、少くとも嫁さんだつたら、とても無理で思ひます。

国野 山中さんがお嫁にきて、その時は時間がなくて働いていた、しかしそのうちにお嫁さんがきて、その頃からあなたが自由時間の問題を思いついて、自然にあなたのとこに時間の余力ができてきた、そういうことはないですか。

山中 私の家は違ひます。母が八反、島が五反、果樹園六反七畝、子どもたちは学校に行つていますから、ほんとうに働らくのは主人とわたしと二人です。嫁はありません、忙しい時には人を入れますけれども、主人と二人で――まあ今日は着物を着ていますが、着物を着るのは正月一日ぐらいで、モンペを着て働らいています。

高見 京都といつたら、たいへんいいところから来ているように思われるかもしれないけれども、わたしは福知山からまだ二キロほど奥に入つた、ほんとうの僻地に住んでいます。わたしの家は兼業農家で、主人は小学校の教師をしています。田畑あわせて五反ほどですが、まだ上等のほうで一般的には、どうにか食べて働らいていればよいところなのです。百姓したことがなかつたわたしには、たいへん辛い毎日でしたが、よい嫁になろうと思つて、一心に働けるだけ働らいたわけです。子どもが二人できました時に、子どもの世話と百姓との無理がたたりまして、とうとう病氣になりました。その時にこんなことではだめだと思ひまして、生活こよみというものをづけ始めました。そしてわかつたのですが、大体仕事というものは、農繁期農閑期に分けて、わりに差がない。田だけでない、山がありまです。百姓の田畑の仕事の暇な時は山にまゐります。夏も冬も、お天気さえあれば差がないのです。それで、そういうことも含めまして、家事というものを、わりに田畑の忙しくない時に片付けて行くことが大事だということを考えまして、計画的にやりはじめました。わたくしの場合男仕事でも何でも一手に引き受けてやり遂げたので、こういう計画的なこともできたのですが、わたしのまわりの農家の嫁といえ、親から、これだけの仕事をしなさいとい

わかれれば、それを片付けんことには帰つてこれないわけです。遅かつたら、なまけていたのじやないかというわけで、絶対自分の自由時間というものが、嫁の間はできないわけです。二反ぐらいの田をつくつていて、お米をかう百姓もあるのですが、そういう人は自分のところの仕事はあつさり片付けておいて、炭焼をしたり……今年なんか水害の工事に、女も男も出かけてお金を儲けるわけです。これではほとんど、自由時間のもてる人がないわけです。そういつたわけで、わたしの場合は、ただし一人がそう考へていただけで、人に呼びかけても、村ではそういうことのできる方は指折り数えるほどしかいないのです。

国野 農業はただ働らいておればいいのだ、というふうな昔から農村にこびりついたものを、どうしてときほぐしてゆくか。山中さんのおつしやつていた、一時間早く帰るといふ話、それだつて非常にむずかしいことですし、それから高見さんの目下一人だけ楽しんでゐる、これもなかなか問題があります。それをどうしてもつと広く広げるか。広げる手段、ほかの家庭をどうして説得してあげるかという問題が残つてゐるわけです。

永井 私の村は戸数約四十戸ばかりの純農村です。私の家は水田が八反ぐらいです。それに柑橘が一町五反ぐらいあります。ほんとうに朝から晩まで働きつくめです。そういうところですから、とても封建制というのが強かつたのです。

わたしもしゅうと、しゅうとめは六十四才に五十七才です。まだまだ働らき盛りで、家庭としては戸主権をもつていたい時です。それに、主人が三十七才ですから、もう一人前の戸主権をもちたいわ

けです。やつぱり家の中に二人の船頭があつては、いつも波乱が起きる。衝突ばかりする。ですからわたしは、今から三、四年ほど前にみんなで話をして、家の生活設計を切り替えました。

自由時間に少し離れるかもしませんが、生活に自主性をもつというところが一番はしかつたのです。親のいうことを聞けば、主人が気に入らな、主人のいうことをきけば親が気に入らなというのでは、自分の性格もゆがめられるし、自分の主張がなかなか通らないので、それを切り替えました。

どういうふうに入り替えたかという点、親のものとしたものと、それからいま二十五才になる、分家をする男の子がある。この子をやつぱり自分の意見もありまして、自分の自主性というものをもちたい、……というわけで、家の中のやり方を五つに分けた。収入の面を分けたわけです。

萩原 うちの中を切り替え、収入の面を五つに分けたとおつしやつたが、どういう分け方をなさつたのですか。

永井 わたしのところは、水田とウメとミカンがあります。それで、水田は長男がもっている。ウメは年寄りがもっている。ミカンは二つに分け、半分は長男がもち、半分は次男がもち……というように分けたわけです。

國野 それは新しいやり方ですね。財布を誰が握るかはつきりさせて、そこから一人一人の自主性というか、人権が生まれてくるんですね。そこへもつてくるのに、生活上の演技というか……これは重要だと思っています。

土井 私は町に育ちまして全然百姓をしなかつた。最初田舎にお

つて、では今年一年かかつてあなたの方の生活の実体、労働作業その他の実体を記録して、調査しようということになつたわけです。春の農繁期と秋の農繁期の、夏の農閑期三つに分けて調査した。

春の農繁期の農作業は十二時間半、秋は十一時間、夏は日が長いから農閑期といつても十一時間やつてゐる。それから春の睡眠五時間半、秋が六時間半、夏が六時間家事労働は春が五時間、秋が五時間半、夏が五時間半。

自由時間とみなすべきものが、春、夏、秋を通じ一日一時間しかできない。次に気のついたのは、労働に対する睡眠時間が少ないということ。それから、なぜこんなに機械化されているのにその労働時間が長いのだろうかということです。ところが機械化によつて次々とする農具の借金が増えるために、嫁さんが働かなければならないというわけです。そして新しい農具が出てくるとまた無理をしてそれを購入する。悪循環です。わたしは、今後の農村は機械化貧乏という大きな荷物を背負つてゐると思ふんです。

私の希望としては、山中さんのお話のように計画的に時間を立てて、せめて一日に一時間早く仕事を繰り上げて、自由時間もせめて一日に二時間もほしい。それからその一時間の自由時間を、どんなふうに使つていきたいかを尋ねたところが、まず、子どもと一緒に勉強をしてみたい。それから自分の着物のつくろい、簡単な手芸もやつてみたいし、夫婦で話す機会を持ちたいという程度のはんとくにささやかな願いなのです。それからもう一つ、老人の自由時間の問題ですが、老人はたくさんもつてゐる自由時間を、自分の教養とか楽しみに当てませんから、いきおいお婆さんの監視にな

嫁に行つたのですが、行つた当時は地主階級だったものですから、百姓はせんでもよかつた。ところが、戦後どうしても自分たちで働かんといふべからぬという地主のあつた時代がやつてきまして、少しづつ返してもらつて、五反半つづつてゐます。私自身が全然百姓の経験がなかつたので、自分が力いっぱいやつても、半人前ぐらいしかやれない……というような苦勞をしながら、どうにかこうにかつてやつてきたわけですが、わたしがそういう経験をもつた関係かどうか分らんけれども、とにかく田舎のお婆さんとはかわいそうだということが身にしみていたわけです。それでなんとかして、農村の若いお婆さんというものを、すこしでも幸福な状態にしたいという念願から、十年ほど前に、若嫁会というものをつくつてもらつた。私たちが応援して若い人が喜んで会をつくつたわけですが、けれども、やはりしゅうとさんに理解のないために、一時、解散しようかという危機もありました。しかし、それじゃあなたの方でつくつた甲斐がない、自分たちの力で幸福をもちとらなければいけない、負けずにやりなさい、と激励して今日にいたつております。そして去年図らずも部落学級、地区の婦人学級の指定校になりました。そして、部落学級のリーダーとして一年送つたわけです。

それで部落学級をもつに当りまして、一年間の計画を立てて、毎月一回どうあつても婦人学級に当てようといふ約束して、若い人を主体に学級をもつた。ところが、さて婦人学級を始めますと、一月に一回の婦人学級に出る時間をつくるためには、前日に農の仕事を手回しをせんと出られない。それでも万難を排してやつてゐるうちに、どうしたら時間を生み出すことができるかという問題にぶつ

た。家族制度が解消しない限り、老人の自由時間のことを考えないと、お互が不幸になる。ぜひこの問題を考えたい。

國野 老人たちの時間の問題、これは重大ですね。

斎藤 今までは若い方の、ほんとうに明るい工夫をしていらつしやるお話を聞いて、羨しく思ひました。

島根県はすこく豊かで、お茶飲み時間が長くて困るという問題が出ていますが、ある郡は零細農家で、平均反別は五反ぐらい。十俵ぐらい供出して、そのお金で一年中の税金と、肥料代を払つたらお正月からはまたゼロから出発です。男の人たちにもつと本気になつて自分の生活を考えたというが、投げやりです。婦人にも生活をよくしようとか、自分の生活をみつめるとかいう反省なんか全然ない。ただ今まで通りに働いて、二人で、夜になつたら本が倒れるように寝てしまふ。くたくたになつて……。雑誌でも回覧しましよ、というんですが、疲れて本読む暇がないという。それでも五分ぐらい、寝る前の時間がなにかという、本を読む気持ちになれないという。しかし人の噂さ話なんかになると、一時間でも二時間でも話すんです。それでもどうやら本を読みたいという人たちが集まつてグループをつくつたんですが、そうすると忽ちあの人には婦人会長になりたいのだからといわれる。また私のまわりの人たちはそんなわけで、そのグループに入つておられませんから、一部の人は、先ず自分の足元からグループをつくるべきだ、自分の足元を捨てておいて、ほかの人と仲よくするのは間違いだと思はれる。しかし、やる気のない人たちがどうして……。

國野 いま斎藤さんのいわれた、自分の住んでゐる村でグループ

をつくつたらどうだという村の人の要求が正しいのか、そんなこといつても、わからん人ばかりだから、地域が飛び離れていても話の合う知つた人を集めるというものの考え方が正しいか、これはひとつよく話し合つてみなければならぬと思います。グループのつくり方です。

花岡 みなさん方、たいへん裕福な方ばかりですが、私たち漁村の婦人の生活はみなさん方の想像もつかんほど生活水準が低いのです。それで自分たちはこの暮しをどうしたら楽にするかということについていっばいの努力を続けてきました。

うちは、主人が漁業しておりまして、わたしが三反ほど畠をつくつております。以前は主人がとつてきた魚をわたしが売りに行くだけで、あとはのんびりだらりと、無自覚な自由時間を費していたわけですが、これではいけない、どうしたら自分がこの暗い生活の中から明るい生活ができるかというのを反省し、主人と三人で話し合いました。その頃に学校の役員に出され、続いて婦人会の役員になったのですが、右を見て左を向いても私のような馬鹿たれは一人もいないのです。それで主人と暮しのことから話し合つた結果、洋服を買いに行くようになりました。四十八の年からまる二年続けて洋服買いに行つて、洋服の先生のおかげで、どうにか少しは収入もあるようになったのですが、寄る年波で老眼がひどくなり、目が悪くなつてそれもできなくなりました。せつかく溜つてきたものをどうしたらいいかという悩みましたが、昔、畠を借りて開墾したときに、畠はやつぱり漁業者にとつて必要なものだと思つたことを思い出し、同情してくださる方もあつてようやく畠

を買つて、三反ほどつくり始めました。しかしただ働いて食うだけじゃつまらないから、どうしても自分の自由な時間というものをくろろと考えました。現在は、一日中を一杯に働かず、朝一時間早く、四時半頃起きて、朝のうちに家のことを片付ける。そうしているうちに主人が漁から帰つてくる。その魚を七時から九時頃までに商なつて、九時から畠に行く。畠のない日は家の用事をする。おひるになると、おひるに夕飯の支度をしておく。それからわたしの自由時間で、婦人会の会合に出るとか、話し合いに出るとか婦人部のお世話をするとか、そういうような毎日です。

前川 私のところは純農家で、一町歩。一日の分算された二十四時間の中で、つりあいのとれた生活をあてはめなければならぬと思ひまして、どうして時間を巧く切り廻してゆくかということいろいろ考えました。時間というものは上手に使えば二倍三倍もの時間が出てくるものなのですね。そして豊かな生活ができる。それで私は、家族会議を開きまして、一日の生活時間の表をつくり、労働のほうは家事が四時間、休養のほうは睡眠八時間と食事と休息が二時間、教養が二時間二十四分、生計時は三十分、これは着替へ、排泄の時間も入れてありますが、ざつとこのような家事時計をつくつてあるのです。もちろん時期によつて順次変えてゆきたいと思つています。

赤富 私は都市から農村に嫁いだものですから、農村の婦人があまりにも自由時間がなさすぎる。同じ女性でありながら、これだけのかと考えさせられました。わたしの村では戸数が八十戸。農家が六十戸で、平均反別は一町三反といいますが、二町以上の人がお

りますし、また少ない人もある。乳牛は三十頭。ちよつと考えると豊かなような感じがしますが、やはりさつきおつしやつたように、機械化資乏で、副業をすいぶんやり、大きな自動式のカマス織りを取り入れていきますので、雨の日も夜おそくまで働らくことになつております。

そうして、わたしは若妻の場合ですけれども、今の若妻の自由時間といえますと、PTAに行つた時と里帰り、それから年二回の若妻会だけです。有線放送や水道設備など文化生活は水準が高いが、男の考え方とお年寄りの考え方が古くて、話し合いの場がとてもないように思うのです。私が、話し合いをもつとなさつたら、と呼びかけましても、そんなことで一家に風波を立てたくない、ただささやかに、暮らせれば結構だという。ただ一つ村全体の農休日を含めていただきたい……それがほんのささやかな願いです。

団野 どうもありがとうございます。今日お話し合つたことの中で、どういふことが問題になるか、一応主なものを挙げますと、自由時間というものが果たしてできるのかできないのかという問題。できるといふ人もあるし、なかなかむずかしいという人もあるし、むずかしいならどこに原因があるのか。それから、自由時間はたくさんあるのに無自覚だつたというふうなこと、自由時間をどう使うのかという問題があります。また生活を合理化したり、計画化した自由時間をつくり出すには、家庭内の問題がたくさんある。それをどう処理すれば一番いいのか、さらに社会生活との関連、それから、自由時間というものは単に頭で考えたり、紙に時間表を書いてできるものじゃない。やはりそれは経済の問題とも結びついてい

る。生産の問題とも結びついていふ。それをどう処理したらいいのかという問題。

それからものの考え方ですね。たとえば農民は働らいてばかりいるべきだという考え方がともかく農村にある。そういう考え方をだんだん取り除いてゆくためには、どういう手順によればいちばん取り除き易いか。そういう考え方を改めてゆくには、農業を直接やっている人たちだけじゃなくて、農村の外から入つた人のものの考え方が、かなり役に立つ。しかしその人が徒らに孤立しているのではだめなので、農家と非農家の婦人が、どういふふうな手順で結びつくことが可能であるかどうか。そういうことじゃないかと思ひます。

移動会議の中で

団野 今日は、始めます前にみなさんから昨日の移動会議で一人になつたものの印象を一口ずついつていただきたいと思います。が、そのまえに漁業協同組合の池田さんから第一日目の会議の印象をお話し願ひたいと思います。

池田(漁協) 私、特別オブザーバーとして参加させていただきました。感謝しております。

私、第一目ずつとみなさんの会合の様子討議の様子を拝見させていただきましたが、第四部会は農漁村の部会というので、私としてはたいへん期待をもつて仲間入りさせていだいたのですが、けれども、漁村の関係の方はたつたお一人で、会のもようも、非常に

農家の方面のご発言が多くて、ちよつと私、残念に思いました。これはやはり全国的に漁業方面の婦人の応募が少なかつたということにもよりましようし、またひろがえつて考えますと、漁業経済の不振と貧困の重圧から、漁村の婦人は、自由時間どころか、朝から晩まで時間に追いやられて、非常に苦しんでいらつしやるということがいえるのではないかと思います。自由時間の設計、一日の時間の設計を立てても、とても思う通りに行かなくて、自分の自由な時間の確保はとてもむずかしい状態にあるということでしょう。

そういう点から眺めまして、全国的なこういったご意見の交換の場を、漁業の、自由時間の確保もできないような苦しい状態にある婦人の方たちに、いまだ少しいう場に出ていただいて、共に語り合う機会を得ることが出来たらなあと思感させられました。まあ私も来年度はせいぜい応募のほうもみなさんに奨励して、こういった勉強の機会をみなさんにもさせてあげたいという念願をもちまして、いろいろ勉強させていただいております。

岡野 いまの池田さんのお話にありましたように、こうした会談に参加できないたくさんの方が漁村にももちろんいらつしやいますし、また農村にもいらつしやうと思つたのです。したがつて今日のお話は、みなさん自分だけじゃなくて、みなさんのまわりのそういう人たちの生活、あるいは希望、要求、そういうものを代表するという立場で、幅を広くして話していただきたいと思つたのです。

それでは昨日の印象を、一言ずつ簡単に話していただきましよう。弥富さんからどうぞ。

弥富 雑誌とか何かでオートメーションということをよく聞いて

育圃は開かれていますのですが、実際は四才以上だけを取扱つていて、けれども農村の実態としては、三才以下の子どもを預つてもらつて、午前中のおしめの交換、あるいは授乳ということをやつてもらいたいわけです。私はこの施設をほんとうに農村にほしいと思つて、強く印象付けられてまいりました。

高見 わたしは、三菱造船所の社宅の奥さん方とお話しさせていただいたのですが、いままでも都会の主婦の方たちはいいなあと思つたのですが、実際にお話し合いますとそんなに豊かではないし、同じような悩みがあるのだということを知りました。

山中 わたしは昨日千葉県にまいりました。生まれて初めて漁村というものを見たわけですが、漁港が埋められてどんどん大きな工場が建つております。私の村にも多くの田地がつぶされて工場がどんどん建つて行くのですが、耕やす土地を失なつて行く農民と、海を失なつてゆく漁村の方たちの共通した淋しい気持ちがわかる気がして、涙がこぼれました。

萩原 私は日常科学に縁のない生活をしておりますので、千葉県の農業技術研究所というところを尋ねて、そこで牛や豚や鶏の人工授精をしているのを見させていただいたわけですが、私たちががしゅうとの問題やそのほか複雑な人間関係に悩まされている間に、丹羽博士をはじめ所員の方たちが人間関係をはなれて一生懸命地味な研究を続け、ここまで科学を進展させられたのかと深い感銘をうけました。

海野 私は千葉県にまいりましたが、登戸生協を見まして婦人の力であれだけの経営ができるようになったということにおどろき、

おりましたけれども、実際自分がこの目で乳業の工場と電機工場を見学しまして、予想以上に人手が要らないので、農家の二、三男坊の就業問題に急影響があるのじやないかとちよつと暗い感じを受けました。

前川 私は昨日千葉県のほうに参りまして、東京電力株式会社を見させていただきまして、その規模のとても大きいのにおどろきしました。

花岡 こんなことを申し上げますのはまことに失礼なことですが、埼玉県の美園村の生活改善グループに連れて行つてもらいまして、何か勉強になることがたくさんあるだろう。みなさんのおつしやることを聞いてみやげの一つにしようと思つてまいりましたのですが、とりたてて役立つようなことがなかつたのですからちよつと残念です。

小泉 わたしも感じましたね。やりつつあるということで、はつきりしてないですね。わたしたちのほうがまだはつきりしていません。

斎藤 わたしも埼玉班に入りましたけれども、私の住んでおりますところとくらべて、黒々した麦畑が続いている恵まれた条件の中で、一戸当りの耕作反別も豊かに暮している様子を見てほんとうに羨ましいと思ひました。

土井 私が東京班に参加したのは、団地の奥さんの生活と、農村の主婦の生活を比較したいということでしたが、それよりも印象深く見ましたのは三鷹保育所です。わたしの村にも保育園がありますが、三才以下の幼児を取扱つておりません。そういう形式で保

役員が今でも二日に半日ぐらい奉仕の時間があるということをおつしやつていましたが、その集団活動に費す時間のしわ寄せが家庭に及んでいるのではないだろうか、非常に疑問に思ひました。

片口 私は埼玉班にまいりました。花岡さんと同じで、美園村の生活改善グループのみなさんとお話ししましたが、やはりそこに集まつて来られたみなさんの身体つきとか、お顔を見ますと、わたしたちと同じように陽気なやつた方がたくさんおられた。やつぱりこの人たちは自由時間はあまりないのだな、という感じを受けました。

小林 神奈川班に入らせていただきました。旭ダウと日本石油を見学して来ました。百姓ばかりして、工場の機械化とかオートメーション見たことありませんが、持ち運びどころか、一つの施設で完全な製品が出来る。結局量より質ということで割り出された労働を感じてきました。

それから、社宅の奥さん方とお話ししましたが、ラジオを聞いたり、テレビを見ることが、自分の時間をもてあましていて若い嫁さんの人がいました。ああいう人が集まつて自発的にグループをつくつて、自分なりにわきの人と勉強したら、女というものものの勉強とその時間、それは自分の前にあるのじやないだろうかということを感じました。

岡野 いまのお話は二つ問題点があると思う。一つは、都市の工業というものが非常に機械化されて、オートメーションが進んで、むずかしい言葉でいえば労働生産性が高くなる。一日働いてそれによつて生み出される富、財産、そういうものが機械化されて

いることによつて非常に高くなり、その人たちは高い賃金を受けることができる。農村の場合はいめい手でやる作業が多い。したがつて一日一生懸命働いてもつくり出されるものが少ない。したがつて収入が少くないということになるので、将来の日本の農業というものの、やはり工場のように考えなければいけない。農村もできるだけ工場のようなやり方に近付いてゆかなければならない、という問題が一つあると思います。

それからいま一つは、都市のそういう奥さんたちが、自由時間をもてあましていうことですね。日本の婦人の中には、自分の時間をつくらうとしてもつくり出せない人、あるいはつくり出すために苦心しているみなさまのようなグループとみなさまのような立場の婦人と、自由時間を非常にもてあまして処理できない、暇があり過ぎて困っている人たちがいる。こういう婦人層をどうすればいいのかわ。もう少し話し合つて、社会奉仕のようなことでもやつたらどうだろうというお話は、都市の人に聞かせたい話ですね。

渡辺 私は神奈川で、社宅の主婦の生活をお話し合いましたのですが、立派な子供を育てるとか、尊敬されるお母さんになろうという面でも努力していらつしやる姿は、私たちと変わりありません。しかし、時間を持てあましてくらしている人たちに比べて、農村のほうがむしろ計画的に子供と遊んでやれるとか家事に没頭するとか……ということが出来るのではないかと驚きました。

岡野 都市の婦人と農村の婦人と、いろいろ生活の環境も条件も違いますが、お互いに非常に気の毒である。あるいは羨ましいという二つの気持があると思うんですね。しかしただ羨ましいとか気の

毒だというので止まれば、それはそれだけのことだと思ひます。しかしほんとうは、めいめいがその世界で生きている……農村なり山村なりで生きているのだ、そういう自覚をはつきりもつ必要があると思うのです。それが今度のスローガンにある「自主的」ということだと思ひます。

自分たちの環境の中で、どう考えるべきかということですね。自分たちの環境の中で、都市の人がやつている生活が参考になれば採り上げ、農村でやつている生活が参考になれば採る。しかし、考える主体はあくまで自分だということが今年のスローガンだと思います。

そういう意味でもう一遍家に帰つてみられて、羨ましいというのはどういふ点が羨ましかつたか、気の毒だというのはどういふ点が気の毒か、それを自分のところに引き比べたらどういふふうに解釈すればいいかということ、あとで考えてもらいたいと思います。

堀 私は東京で、三鷹の保育所を見学いたしました。わたしのほうは農家ですので、年間を通じてとはいませんが、せめて農繁期だけでもあのような施設がほしいと思いました。

清水 神奈川に加入していただきました。雇非沢の社宅の婦人方とお話しをしたことで感じたのですが、社宅の奥様たちが、家族みなさんの理解と協力の下に毎日心強くお隣りの人たちとも手を取り合つて生活していらつしやるということをお聞きしまして、私たち農村も自分たちの生活だけを考えるという気持をなくして、もつと助け合つて、明るく生活することにとめなければならぬということ強く感じてまいりました。

小泉 花岡さん、片口さんと同じに埼玉班に加わらせていただきました。片倉ハドソンを見ましたが、あんな立派な機械化でなくて

もわたしたちの辺りも開拓地ももう少し機械化されてもいいなと思ひました。どこに行つても機械化機械化で、わたしたちばかり機械化されていらないような。重労働は私たちが引き受けているという感じでしたけれども、せめてもう少し北海道も電化されたら、と思ひました。それから盆栽村に行つたのですが、私たちの村からちよつと持つて来たと同じような草木が、あそこでは五百年も六百年も経つた立派な木で、五万円も十万円もするといひます。(笑聲)二十町歩の村に置くと一銭の価値もないようなものが……

岡野 いま小泉さんのおつしやつた中で、おもしろいと思つたのは都会で何十万もしている盆栽が、自分のところに来たら無価値だということですね。それから人の知恵も場所によつて違う。都会においては全然無意味なことでも、田舎では非常に大きな意味をもつていふこともあるし、その反対もある。したがつて婦人雑誌なんか読む場合も都会を標準に書かれていることをそのまま真似するのでなくて、自分の村に持つて来て果して価値があるのかどうかを見きわめることが大事です。

これで一応終りました、漁協の池田さんに昨日の視察の印象をちよつとお話ししていただきます。

池田(漁協) 私、昨日特に選びまして埼玉班に参加させていただきました。さきほど農園村の生活改善クラブをごらんになつて何も得るところがなかつたというお話がありましたけれども、私には非常に得るところが多かつたわけです。

みなさんと見方がちよつと違つていられるかもしれませんが、あのクラブ員のみなさま方が、研究途上にあるからでもありません。うが、ほんとうにみなさん方の質問をよくお聞きになるその態度に、私は心を打たれるものがあつたのです。クラブ員の一人にお聞きしてみましたところ。クラブ員の信条として、人の意見をよく聞いていいところを探りましようということがあるそうです。その信条が、ほんとうににじみ出ていると思つたのです。それから最初から最後まで、非常によく私たちを純朴な心持で迎えてくださいました。帰りには心のこもる苗木までくださつて、「この苗木をみなさんで育ててください、何年か経つてみるように育ててください」とおつしやつた心根、ほんとうに私は農民の純朴な心に打たれました。これが日本の農民の姿である、研究そのものは途上にあるかもしれないが、その心根にほんとうの純朴さというものを見出して、私にはほんとうに得るところが多かつたのです。

二十四時間の組立と分類

岡野 それではこれからいよいよ問題に入ります。一昨日みなさんのお話を私が一番最後に問題点だけ大ざっぱに洗い出したのですが、みなさんがこの上に何か付け加えて、こういうものも採り上げてもいいということがあるばいってください。

山中 生活時間と自由時間というものを混同して考え易いのですけれども、生活時間と自由時間というものの違いを。

岡野 それは非常に面白い問題ですね。それでは、生活時間と自

由時間の問題から入ることにしよう。今度こういうスローガンを婦人週間の課題として掲げた意味は、生活時間というのは要するに一日に二十四時間だ。それをなぜ生活時間というむずかしい言葉でいい直したかというのは、その二十四時間の組立、分類を問題にしているということですね。どういうふうな二十四時間を仕分けてゆくかということの問題にしようとしたので、仕分け方は、主婦により、労働婦人により、あるいは農漁村の婦人によつて、それぞれ違うのではないか。その違い方は自分が決めなければいけない、自分で決めるということが自主的だということになる。そういう意味だと思ひます。

次に自由時間というのは、その生活時間の中にはめこまれるべき時間ですが、簡単にいえば暇な時間だということでしょう。暇な時間であるけれども、それはぼんやり遊んでいる時間ではなくて、自分の意思で自由に処分できる時間、主婦が自主的に処理できる時間が主婦の自由時間だ。そして自分だけが自由時間をつくるのではなくて、主人とか息子の自由時間がどういうふうになるのか。そういう疑問のつながりをもつたものとして、自由時間を考えねばならないと思ひます。ところで、二十四時間というものをなぜ仕分けなければいけないのですか。

弥富 生活を計画的にやるために仕分けたほうがいいと思ひます。

永井 計画性がないと、自由時間が出てこないと思ひます。
山中 人間として生きる以上、やはり人間としての喜び、生活してゆく楽しみ、仕事と生活を楽しむ時間をつくるために仕分けるの

中にとけ込まなければいけないと思ひます。

そこで初めて生き甲斐というものが出てくるわけで、生活時間を区分けするということは、そういう大きな裾野の上に乗った一つの問題だということになるのじゃないでしょうか。そういうことのために計画化するものであつて、ただ三十分、一時間を区分けして、赤白青に塗つて貼りましょうということじゃない。それはなぜするのだ、ということでない、壁に貼つても無意味だということがわかりますね。そういう考え方を、みなさんは帰つてみなさんと話し合つていただきたいと思ひます。

次に、今日はプリントの第一番目にある、自由時間は果してできるか、という問題。これをやりましょうか。むずかしいという意見とできるという意見、それに一時間しかできないという人と、五時間できるという人もありましたね。まず非常にむずかしいという意見を聞いて、こうしたらできるのじゃないかという意見をうかがいましようか。

機械化貧乏

小泉 私は前からいつている通り特別開拓地ですから、電化されていないなどといったようなことから、自由時間を出すのに苦労な

海野 山梨のように零細農家が多い地域では、量よりも質のよいものをとらなければならぬというので、非常に細かいところに手をかけています。また農繁期には果樹栽培は非常に労働時間が長いものですから、農閑期には自覚によつてもてると思ひますが、農繁

ではないかと思ひます。

萩原 仕分けてみてわかつたことですが、自分でどう生きているかということを見つめるためだと思ひます。

斎藤 うつかりしていたら時はどんどん流れてしまいますから、時間に区切りをつけることが大切ですね。

土井 今のその時の生活を幸福にするために生活を区切ることに必要と思ひます。

国野 いまのお話をちよつと分けると、三つぐらいある。弥富さんは生活を計画化するために仕分けるのだ。なぜ計画化するのか、それは自由時間、自分の時間を生み出すためなのだ。一方からは、そうじゃない、生活を自覚するために、今日生きていることを自覚するためにつくるのだ。ということが出た。ぼくはこういうふう

に思うのです。
この二十四時間というものは、刻々に過ぎて行く。ぼんやり過ごしていつたら動物が二十四時間生きているのと、人間のそれとは全く同じで、人間ではないということになる。人間は今日の生の喜びをやつぱり感じなければいけない。しかしそれだけを感じているだけでは不十分だ。なぜならそれはずっと行くと自分の子供や孫につながるということになる。過去から現在、未来と永劫に流れてゆく時間の中に住んでいるわれわれは、ちようどリレーをやつていてその一つのバトンを握つて行つていくわけで、その中で自分も楽しく走り、次に走る走者に早く楽しいバトンを渡すという、われわれの使命があるわけです。喜びも感じなければいけないが、悲しみも辛さも、もちろんある。しかし悲しみも辛さも、大きな人間としての喜びの

期には自由時間をもちにくく思ひます。

土井 自由時間はぜひほしいし、とれると思ひます。ただそこに壁が二つ三つあるのです。それはもちろん封建制の問題とかいろいろあるのですが、その一つに私の村には特に例の機械化貧乏によつて生れる労働の過重、もちろん大きな農家には必要のない働きももしれないけれども、都市に隣接しました零細農家、しかも兼業農家では特にこの問題が、次々と新しい機械が生まれて来ることによつていよいよ解決しきれなくなるといふ気がします。

弥富 わりあい豊かな農家であつても、自由時間がないのです。豊かな農家としましても、やはり機械化貧乏はありますし、機械化によつて生まれた暇を、ほかの副業とかに回します。百姓が暇をもつてどうするのだ、という考え方から、今帰つても作業服は脱かれないからというので、するすると非能率的にやつて自分の自由時間を失なうわけです。

渡辺 私は新潟の農村で育ちましたが、農繁期には自由時間はないと思ひます。ある程度自分の実績をつくつてからならば、自分の計画通りに行動することにそれほど手きびしい批判はないにしても、来たての嫁さんは、まずみんなの理解をつくるために働かなければならないから、おそらく自由時間がとれない。

斎藤 私のほうは零細農家で、生活が貧しいために、いつも不安な気持ちで諦めてしまうのか、投げやりになるのか、自由時間を考えるという心の構えが出来ておりません。

堀 農繁期でしたら、自由時間はどこも同じと思ひます。それで、部落ぐるみの修養日を設けてぜひとも出してもらうようになつ

て、いくぶんいいと思いますが。

高見 わたしのところでは耕地が少ないので、農繁期農閑期とはつきり区別がつくことはないのです。あらゆることをやつて何とかしてお金を儲けたいと思つていのですが、それがなかなか思うように儲からないものですから、生活の設計ということからして頭でない。

永井 わたしは働らく場が多過ぎて、自由時間がとりにくかつたです。

団野 いろいろと出ましたね。それじゃあこれをどうときほぐすかということ話ししましょう。

一番最初に自然の条件ですが、小泉さんにまず発言してもらいましょう。あなたは入植されて十年あまりになるのですが、その十年間どのように変りましたか。生活は多少楽になりましたか？

小泉 わたし入つてから十年くらい経ちますが、入つたその年が豊作だったのです。しかしその後の七、八年は冷水害で全く収穫はなく、どん底まで落ちこみました。人間は働らく働らく、働らくは何とかなると思つていましたが、結局自然の力には勝てなかつたわけです。そこでなんとかはかに生活の手立てはないものかと、三年ぐらい前から乳牛の飼育を始めたわけです。半農半畜というわけですが、これで息がついています。

団野 自然条件が悪いからといって諦めちやいけな、ということですね。だからわたしの村はどんなにやつてもだめですよ、と言う人が多いですが、実はそうじやない。きびしいことはきびしいし、その条件はなかなか取り去ることはできないが、その中で生

きて行く道はあるのだ、やることはまだ残つていのだということですね。それじゃ次に機械化貧乏という問題に入りましょう。

土井 百姓というものは低級だから、商人が儲けるために次々と新しい機械をもつてくると、まだ十の能力のある機械があるのに、十一のものを買い、更に十三のものが欲しくなる。また、例えば消毒薬の散布なども共同でやつてはいても、共同精神が欠けた場合には、たくさんふつてもらつたところ、ふらんところが出てくる。そうすると、やつぱり機械は自分で買わにやいかんということになる。

片口 経済面からいつたらどうしても共同で買わなければだめだと思ひます。いまの消毒薬散布の機械でも共同で買つて、使う場合は自分自身で使つたらいいでしょう。

土井 やりにくいというのは、私らの場合は兼業農家ですから、日曜日を利用して仕事をしようとする、その日がぶつかるのです。それで共同ににくいということがあります。

団野 それもありすけれども、若い人は共同で機械を買うということを経がっています。

団野 機械化貧乏にならないためには、共同で購入し、使用したらいというところはわかつていながら、なぜ共同で買わないのか、なぜいやがるかという点を……。

団野 わたしのほうでは、共同といつても、ほんとうに自分のものでないから早くこわれるというようなことも語に出ておりました。弥富 時期と天候で、使う時が同じだということもあります。

花岡 私、漁業と申しまして農業者も少しやつています。わた

しの村では、農協が、豆すり機とか、麦の脱穀機を買ひ入れまして、その機械でやるのですが、何日の何時から何時までやりますから、と有線放送で伝える。そして円満にやつています。

私のような小さい貧乏部落では、協同組合で機械を買つてくださることを有難く思つて、協力してスムーズにやつていけるのではないかと思うのですが。

団野 あなたのほうは反別が少ないようですからそれでもいいですが、秋の早場米の時期になると、誰もが早くやつて奨励金をもらいたいから、死にもの狂いです。だから若い人は早くやりたいから個人で持ちたくなる……。

団野 共同で利用できないということの一つには、天候と時間の点がある。それには早場米奨励金が大いに関係しているわけで、それをみんなはしがける。これは当然です。しかし一方には、機械を共同で利用しなければ儲からないというこの二つの矛盾がある。

萩原 奨励金を出すというのは、結局早く出させたいためでしょう。農民に競争心を起こして、早く出させるというその政策はやつぱり考えてみる必要があると思う。

永井 競争心と違ふ。やつぱり経済です。

弥富 農家が豊かだつたら競争しない。

共同の利益のために

団野 早場米奨励金というものは、米が足りない時に、団が早く

米を集めたいために、競争して早く出させた臨時的な制度ですが、

農村としては今までもらつていた早場米奨励金がなくなれば、非常に困る。だからこの早場米奨励金を基本米価の中に入れてくれれば一番いいのですが、一つの部落なら部落を単位にして、早くする人、おそくする人のそれを一緒にして、部落の中でプールして分けたらどうだろうとも考えられる。自主的にやろうとすればそういう解決の仕方もあるわけです。政府に対する要求というか、気持ちと同時に自分たちの中でどうして矛盾を解決したらいいかということ、自分で考えなければならぬということもあるわけです。

いま一つ、気にかかる問題は、機械を共同に管理していた時に無責任に扱われるということですが……、自分が一部を負担しているもの、一部は自分のものであるものを、なぜ自分だけのものと区別するのでしょう。

土井 心の問題です。

萩原 まわりの人の迷惑を考えない。

片口 個人主義です。どうも農民にはそういうところがあるようです。

小泉 機械を買ひ入れるときは、共同精神は割り合ひにあるのですが、あとの収穫が期待はずれになると、ガタツとくるという傾向もあるようです。ドンと収穫があると、みんなの気持が一致するのですよ。

山中 私のほうで共同購入したのは、責任者が二人ついている。二人が責任もつて使用したあとは必ず始末してます。そしてこの責任

者は、八人の一つのグループの中から今年は二人、来年は二人と、だんだんに回つてゆくのです。

萩原 共同化したらいよいよ言われれば、すぐ共同化のほうに飛びついて行つて、管理の方法もなにも考えないでみんな、わあーわあー使つちやう……

花岡 他人に依頼するという心が強い。

清水 自分の生活をつめて、あまり大きなことに手を出さなくともやれるようなことも考えたいのじやないかなと思います。

団野 共同の仕事をする場合に、個人の役割、心がまえはどうあるべきかという問題ですがその前にこうしたらよくやつてゆけるのではないかというのを二つ三つあげてみましょう。一つは、自分がその責任を負わされて、こわしたら弁償するという義務を負わされている場合、いま一つは、奉仕の精神というものであるだろうかと思ひます。わたしはみんなのためにしてやつてゐるのだという精神、それは奉仕の精神ではありません。むしろ反対のものです。自分の共同のための何かをすることが同時に喜びにならなければならぬ。その中に喜びを感じてつとめるということで、始めてうまくゆく。

みなさんグループ活動やつてゐる場合に、わたしは指導者であります。みなさんのために自分の時間を犠牲にしてやつてゐますという、そういう思い上つた気持ちでやるならやめたほうがいいと私は思います。そうじやなくて、みんなと一緒に生きてゆくために、自分は社会人として一つの役目を果してゐるということに喜びを感じる

グループ活動でなければだめだということです。そういう考え方がみんなにあれば、共同の品物も自分の品物と同じように大切に社会がつくれる。したがって共同化の問題は、村に帰つてこうしなさいというような修身の教科書みたいな言葉の問題じやないということがわかるでしょう。そういうものの考え方に立つた上の共同だということです。

それからもう一つ、機械化貧乏の問題ですが、商人にやられるというところ、それから機械を買つて、それで借金があふえ、それを減らすためにまた機械を買う。そうして私たちは貧乏ですと言つてゐる農民の姿はどういうことでしょうか。

渡辺 そういふ商人にやられるほど弱い農民だからこそおたがいの手を結ばなければならないのに、今までの苦しかつた環境から、そういう機械が出て来ると逆に競争になつてしまふのだと思ふのです。

山中 自分の経済をしつかりつめて、経済を計画的にやつてゆく、自分というものを、自分の耕作収入をしつかりつめて、機械と取り組んでゆくことが大切ではないかと思ひます。

土井 わしはとにかく農民がかしくならなければならぬと思ひます。商人の販売するものを判断する頭を養なわんと、今後伸びてゆかないと思ひます。

弥富 目先の利益に惑わされないということが大事だと思ひます。

団野 こういうことになりませんか。機械を買つて楽にしたい、これは人間の要求から当然のことですが、そのために機械を買つ

て、それで借金が増えて……ということ、これは自分の家の生産生活の家計が、最初から立つてゐない。まず農業自身の中でソロバンを弾かなければなりません。どれだけ肥料が要つて、経営の収支はどうなつたかという設計をやる農家、おそらく日本で一割くらいしかありません。自分の家のソロバンを弾いてみて、共同化したら得になるか、自分だけで買つたら得になるかを計算しなければなりません。

それから土井さんが、頭がよくならなければいけないと言われたが、それも家計をつけ、自分の家の経営の計算をやつてみることでかしくなるんで、そうすることによつて、どうして機械化貧乏になるかという原因がわかる。原因がわかれば解決の手段がわかる。だからまず帳面をつけることだ、ということになりますね。

それからいま一つの商人に対する問題は、やつぱり農業協同組合というものがしつかりして、商人に馬鹿にされないように、商人の言うことをウのみに、聞いてはだめだということです。共同組織である農協は利用しなければならぬか、農協がどうして売るかというところを、絶えずみなさんが自主的に見つけていることが肝要です。

封建的な鎖からの解放

団野 それでは引き続いて家族関係に入りましょう。家族関係についてはずいぶんみなさんから意見が出たのですが、どういふふう

たけれども、こう解決した……というふうなことをどなたからでも発言してください。

土井 おしゅうとさんの自由時間を考えることによつて、お嫁さんの自由時間を生み出すということが一つの方法になつてくると思ひます。

海野 農家では非常に開放的な大きな家をもつてゐるものですが、家の中が一目で見たたされてしまふ場合が多いのです。それで嫁は昼休みにもつとからだを休めたいと思つても、手や足を心の底からのぼすことがない、それで夫婦だけの部屋をつくつてあげて、家族関係を円満にしたおしゅうとさんの理解のあるお嫁がいました。

弥富 テレビを家に入れたところ、年寄がテレビを見たいために早く作業があるようになり、そのために若い夫婦の自由時間をもてるようになった例がありました。

山中 若い嫁の自由時間がないといわれるのですけれども、若いお嫁さんは新しい教育を受けて自分というものを十分自覚してゐるのではないかと思ふのです。それで人から自由時間を与えてもらうよりも、自分がこの家の中でほんとうに自由時間が欲しいければ、どのような暮らし方をすればいいか、ということをもつと考えればいいのじやないかと思ひます。

渡辺 大分手きびしい意見が出ましたが、わたしは嫁の立場として、その家の娘はお姉さんにもお母さんにも物を言う場合に有利な立場にあるわけです。誤解を招くことも少ないと思ひますから、その立場を利用してお嫁さんの意見なり意志を代つて話してあげた

り、きつかけをつくつてあげたりすれば……と思うのですが。
土井 今の若い人は自覚をもつておりますし、そういう計画も希望ももつておりますけれども、農村では自由にふるまうことによつて家庭の和を欠くということがまだまだあると思います。ですから団体の力等でそういう場をつくつてあげることが必要ではないかと思ひます。

前川 わたしは一町五反のところを、主人と二人で朝早くから夕方うす暗くなるまで、機械のように働らくのが生活のすべてです。最近になつて大分機械化されました、時間的には楽になつてきたのですが、やはり生活のバランスもとれておりません。これではいけないと思ひまして、今年はじめていろいろしゆうとめにも話をいたしましたして一月から時間割をつくり、それを家事時間にあらわしまして、そうしていまの時間の新生活を打ちたてることができました。

国野 大分いろいろ問題が出たのですけれども、一つ具体的な例をあげて、これを議論してみましよう。

これは数年前に茨城県で、若いお嫁さんが子どもを生んで間もなく池へ飛びこんで自殺したという事件がありました。最初新聞には神経衰弱で自殺したと報道された。ところが投書があつて、そうじやなくしてお母さんがきびしかつたからだという投書がきました。記者がそこへ行って調べてみますと、やはりその通りで、産前、産後にお嫁さんを非常に働かせ、お嫁さんはそれに耐えきれなかつたわけです。その家は、村の中かなりいい農家で生活的には楽な農家です。記者がお母さんに会つて聞いてみましたら、お母さんは「それは嫁が弱かつたのだ、自分が若い時はどんどん働らされた

ものだ、足腰のばしておることもなかつた。それに耐えられないお嫁さんだつたからだめだつたのだ」ということを、非常に強い言葉で自信をもつていつたというわけです。そのお嫁さんはどういう立場にあつたかというところ、やはり農家からその家へ嫁してきた、辛かつたので、一度実家に帰つてお父さんに訴えたが、お父さんに「嫁む二十年といつて、しばらく辛抱すべきものだ」といわれ、お嫁さんはやむなくまた、その家に帰つて働いていたけれども、とうとう耐えきれず、子どもを生んだ直後に死んだということが報道された。

この問題に対して皆さんの中でも賛否両論があると思ひます。お嫁さんがいつたに溺かつたか強かつたか、お嫁さんに責任があつたか、それからおしゆうとめさんをどういうふうに批判したらいいか、娘が訴えてきたのに、嫁む二十年だからお前辛抱しろといつて、ただ送り届けた実家のお父さんはどういうことなのか。おむこさんはどういふことなのか。それから嫁ぎ先のお父さんはどういふことになるのか。みなさんこの五人のだれに責任があつたと思ひますか？

小泉 その奥さんは子どもが生れたといひますね、その子どものためにもう少し自分が母親として強くならなければいけないかつた。

山中 日本の何百年続いた慣習、家族制度そういうものがその人を死に追いやつたものと思ひます。おしゆうとめさん、嫁、夫、実家の父親、その人たちはそれぞれの時代々々の教育を受けた人で、自分のいふことは当然であると思つてゐる。

小林 しゆうとめさんとすれば、自分たちのいままでのいき方から嫁を判断した。もつと嫁さんが自発的に自分は母親なんだという強さ、これは正しいのだという自信をもつと強くもつたほうがいいと思ひます。

国野 この事件の中で非常に重要なことはおしゆうとめさんが自分分は悪くなかつたという自信をはつきりもつてゐることですね。それでお嫁さんが嫁として不適当であつたというふうに決めてしまつてゐること。

渡辺 実家に帰つて苦情をいつた嫁さんが、兄弟になにも聞いてもらえなくてそのまま飛び出して川の中に飛びこんだらいいんですが、本當に身近でいつも力になつてくれる人がなかつたというのは、つまり旦那さんにすいぶん責任があると思ひます。

斎藤 私も嫁一人を苦しみに追いやつた、その主人に責任があつたと思ひます。おしゆうとめさん古い時代にいつまでも生きていないで、新しい嫁に対する思いやりというやさしい心であつたらと思ひます。

堀 わたしの部落にも自分の息子はかわいいが、嫁が気に入らなから、嫁を帰そうとしたおしゆうとめさんがあつた。その時息子さんが、「おれたちはほんとうに愛し合つた夫婦だから財産なんかいらなない。ふたりで出ていく」といつたそうです。そうしたらその家の問題はすつかり解決しました。

土井 わたしは、責任は夫と妻とに半分ずつあると思ひます。
萩原 わたしだれにもみんな責任があると思ひます。

花岡 漁村の立場から、農家の嫁さんの話を聞いてゐると思ひます。

まるように思ひます。漁村ではその反対に嫁さんのほうがおびのびとして、むしろしゆうとめのほうが氣を使つてゐるくらいです。

国野 いまのお話を整理してみると、年配の人はだいたい嫁が弱かつたという説と、嫁の主人が弱かつたという説が強い。それから昔からの因習のためだという説もありましたね。

私の結論をちよつと申し上げますと、みんなに責任があると思ひます。その中でまず一番責任があるのはお嫁さんの主人じやないかと思ひます。結婚というものは、愛情の中に築き上げねばならないもののなかに、その主人には築く努力と自覚がなかつた。お嫁さんが自分のなやみを夫に訴えるチャンスもなかつたかもしれないが、訴えても聞いてなかつたかもしれない、あるいは非常に両親の力が強すぎて小さい時からその夫というのには発言ができなかつた。人間として半ばな人間に育てられたのかもしれない。

それからお嫁さんの覚悟、母としての自覚がなかつたということがあるでしょう。それから実家の父親というの、これも実に古い人間だと思ひます。娘が訴えてきてゐるのに実の親としての努力を払わない。

さらにしゆうとめさんの立場が一番問題です。しゆうとめさんが自分の子どもに対して全然心の痛みを感じない。はつきり自信をもつてゐるところに問題があるのです。自分は若い時にはやつてきた、やり過ぎてきた、だから自分のお嫁さんにもそれを要求したので、これは日本の悲劇だと思ひます。この連鎖をいつの時にか断ち切らねばなりません。因習とみんながいう、その因習とはなにものか、わたしたしの村の古くからの慣習ですということでは終る。

それじゃその因習はどういう手順で切るのかということが問題だと思うのです。その破り方についてみなさんこれなら成功しそうだということがあつたら出して下さい。

小泉 わたしは、自分を犠牲にするのはよくないんですが、一応しゅうとめが死ぬまでは辛抱したら……と思います。

堀 なかなか自分だけでは解決できないと思います。わたしたちのほうでは、嫁の会とかしゅうとめの会とかそれぞれの立場でいろいろな会合をもつて、お互いに勉強するという機会をつくるようにしておりますけれども。

達辺 一番実権を握っているのは女性であるという自覚から、グループ活動なんかいま盛んにやつて、そういう努力をすることが自分の子どもを幸福にする力になるということをしつかり認識する必要があると思います。

土井 わたしは嫁の才覚でもつて、犠牲になるような形はとつていないが、実は自分が勝つていくのだという方法を——実力と和合の力で。

山中 私は、グループや家族会議で話し合つて、結論が出たとしても一週間、一月の後にその因習が破れるものだと思ふを急ぎすぎではないかと思うのです。家庭の中では、何度か話し合う努力をし、また外からはグループとか婦人会とか団体の力をかりて、徐々に力を盛り上げてゆくようにすればいいのではないかと思います。

団野 花岡さんがさつき、農村のお嫁さんは可哀想だ漁村はむしろ反対だとおしやつたけれど、花岡さんの場合は、ご主人がとつてきた魚を自分で行商して売っている、つまり生産活動に参加してい

るということです。ですから農村でもこの因習を、打ち破るには、うけつがれた財産の上に行なわれている生産の形を改め、何らかブラスを生み出すことによつて若い世代が発言権を得るということもできるのではないかと。そういう実例はたくさんあります。ただ口の上だけの議論だけではなかなか解決しないということです。高見さんはからだを張つてやつたとおつしやつたが、それがいいか悪いかは別としても、やつぱりそういうことから発言力が生まれるということは確信していいのじゃないでしょうか。生産生活の中心に入つていく、それには自分の頭をしよつ中働かせ、いい知恵を出す必要があると思います。

この家族関係の改善は急いではならない、けんかして解決できるものではないということ。ゆつくりやる、少々のことではなかなか倒れない、それほど因習というものは深いものですから、そういう取り組み方をしないと、なかなか解決できないんだという、太い神経をもたなければいけないということも出ましたね。

また気持ちを明るくもつということ。しゅうとめさんからおこられても、じめじめめそめそ泣かない、明るく自分の家庭環境をかえるように努力する。そういう努力、気持ちの持ち方、これは非常に重要です。

次に昨日だれがおつしやいましたが、演技力というものの——。一つのことをいう場合にどういふいいかその効果を考へてみる、おしゅうとめさんにはどういふふうにもつていけばいいだろうか、というふうな生活上の演技力も欲しいですね。グループ活動でもつて話し合をやり、それを家庭の家族会議に結びつけるということ。

これも一つの有力な手段だけれども、その結びつき方を誤まつたらこれは間違つたことになる。このあたりにも、演技力とか、辛抱とか、根強さが、いるということです。以上がみなさんのご意見をまとめた結論ではないですか。

最後に昨日から気になつていふ問題を出します。それはグループ活動やつていて、なかなか農家の若い嫁さんはそこに出来ない、それでも、自分でグループの中にある一人のお嫁さんが野良仕事にいくといつて家を出て、途中からグループに参加してくれた、という発言があつたのですが、これはちよつと問題だと思ふ、うそをついてグループ活動に参加したらグループ内のこととは調整されるだろうが、それによつて家族関係が調整されない、そういうことが判つた場合、その人の家庭内の立場はとんでもないものになる。やつぱりちよつと出てくるように指導しなければいけないと思います。あなたの家の人が出ていってはいけないというなら無理して出てこなくていい。それを説いて出るというふうにはグループの人が協力する、そういう手順をふまなければいけない、いいことだからという方法を使つてもやつてもいいというのでは、いよいよ関係が悪くなるのではないのでしょうか、それでは部落との関係に移りましてよう。

井戸端会議の是非

海野 自分の生活を考へ他人の生活を考へて自由時間というのは絶対にといつていくくらいに侵さるべきものでもないし、侵すべきものでもないという自覚をもつて、お互いの自由時間を尊重し合う

ような工夫をしていふたらしいと思います。

小泉 お客さんがきて仕事にならないという時がありますが、特殊なお客さんなら別ですが、近所の方がきた時は、悪いけれども手仕事していただくわねと打ちあけたらいいと思う。

団野 井戸端会議というものは、これは農村にも都市にもあるのですが、井戸端会議というものは必要ですか、必要じゃないですか。

山中 人間が生きていく上のある生活の一部分ですから、むだといふことも一つのレクリエーションとして必要じゃないかと思ひます。

土井 時間を生み出す上からみすると「時は金なり」という言葉もあるくらいですから、そういう言葉からいへばむだな話は大きな敵です。

萩原 賛成です。

永井 むだ話つてどういうことをむだ話つていうか知りませんが、わたしも必要ではないかと思ひます。なにか問題があつたら井戸端会議が一番手つ取り早いと思ひます。

小林 やつぱり百姓の姿のほうが一番気やすく話しができる。井戸端会議でも人を批判するとかそういうことは抜きにして、実のあるむだ話を……。

花岡 わたしはむだ話から出発して、順に向上してきましたから、むだ話も必要ではないかと思ひます。井戸端会議と一概にいわれますが、家におつて新聞読もうにも新聞なし、ラジオを聞こうにもラジオなし、というくらいに貧しい人もいるわけで、そういう人にはやはりなにかを見つめるための井戸端会議は必要ではないかと

思います。

土井 わたし、むだ話の中に案外いい話をひろうこともありますから、むだ話をする時間もあつていいですけれども、それは他の人の生活時間の計画を邪魔してはいけないと思うんです。夜の自由時間とか会合のときに、その会合は必ずしも勉強でなくともいいのですから、その時にむだ話を花を咲かせてもいいと思います。

山中 自由時間に十分むだ話をすればいいといわれますけれども、緊張した合間合間にもやはり悪い意味でないむだ話、ユーモラスな話は、人間の心を豊かにすると思います。

岡野 むだ話の中のうわさ話を非常にいけないという。ところが農村の中でなぜそんなにうわさ話するのだろう。うわさ話するということは、お互いの人間関係をますます冷めたくなっていくわけでしょう。どこの村でも、そういう人が一人か二人いる。そういう空気をなくするにはどうしたらいいか。

弥富 なにかほかに共通の興味をもてる話をもつようにしたらいいと思う。

荻原 うわさ話をしたという気持は、多かれ少かれ誰もが持っているものだと思うのですが、それをできるだけ少くするには、結局健全なレクリエーションというか、遊び場所、話し場所が問題だと思っています。

グループ活動の精神

岡野 その話し場所は結局グループみたいなものになりますね。心のうさの捨てどころが必要ですが、うさを捨ててはばかりでなく、か

なり積極的な明るいものでなければいけないわけで、その話題を見つけることがむずかしいですね。みんなの共通に関心をもつ問題をどうして見つけるかということもむずかしい。ある特定な人が思いつきでおしつけるのでなく、みんなの気持を合わせて、こういうことだというふうにもつていかなければだめなわけです。

もう一つ、部落との関係で、問題を出します。これは昨午出た問題だけれども、あるグループが地域婦人会と対立している。地域婦人会の会長さんは昔ながらのボスの奥さんがなつていて、そこに新しい別のグループをつくると、これが既存の組織とぶつかる。あれはねあがりではないかと、白い目で見られている、こちらの方も、なにいつているのだ、昔ながらの肩書だけのボスではないかと思つていて。これは昨日お話のあつた、自分のまわりの部落から、まとめたらどうだ、ほかの部落にも手を出してあちこちまとめる必要はないんじゃないか、という問題ともからみ合っています。どうすればいいでしょう。

堀 グループというものはまだ自分の周囲の人たちで固められるものではない。一つの目的をもつて人が集まつて話合つたりしていくものではないかと考えております。

小林 やつぱりグループの目的は婦人会の目的と違つてくるのじゃないかと思ひます。グループというものは自分の身近な足もとのほんとうの自分というものの勉強をもつて、——大きいことは婦人会にまかして——ほんとうに身近な困ることを気のあつた著同士話し合い、助け合うそれがグループじゃないかと思ひます。

土井 わたし下からもあがつたグループというのは、勿論大切

だと思ひますが、やつぱり婦人会活動とつながりをもちながら手をとる合いながらいかなければならないと思う。

斎藤 最近なにかにつけてグループ、グループといわれていますが、ほんとうに意欲のない人ならいくら形だけこしらえても長つづきしない。結局グループというものはほんとうに気の合った同士だと思ふ。

渡辺 日立市の場合を考えても、地域婦人会の活動の中でグループ活動が育つています。地域婦人会の目的とグループの目的とを、うまく一致させてゆく、そういう形もあると思ひます。

荻原 私も農村に住んでいる以上、婦人会に一応属している、自分で入つたわけです。そこに入りながらグループ活動もやつています。

小林 なにかグループと婦人会と別個のように考えられがちですが、結局同じ人間が婦人会員でありグループ員である、共通しているのではないかと思ひます。

岡野 グループ活動にしても、一つの村の中での組織活動というものは、これまである組織とむやみにおつたつてゆくのは誤りで、できるだけ避けて、調和をとつて、大きな渦をえがいていかなければならないということでしょうね。

もう一つおうかがいしたいのは、みなさんのような人たちと別に、自分の家で時間を取ろうとしてもできない非常に気の毒な人がたくさんある。生活的に気の毒な人、家族関係でも気の毒な人、自分とはともグループに入れないと思つていてるたくさんの人たち、そういう人たちは見捨てておいていいのでしょうか。

山中 わたしはそれをみなさんと話し合つて、先生にもご相談したいと思つていたので。農家の主婦はわたしたちの目から見ていると、自由時間は十分にありそうなのです。その人の考え方によつては暮らし方によつては、それを忙しい忙しいと毎日かけずり回つて、髪結う間もないという人たちにどうしたら考える時間を、計画的な考え方をもちあげられるか、ということをお話してみたいとお話合がしたいと思ひます。

岡野 ですからこれこそ人間関係なのです。みなさん農村の比較的先覚者だと思ひますけれども、いつたい自分は指導者だという顔でこういうものをつくつて、自分のつくつた円の中に人を入れるのか、あるいは、そういう気の毒な人たちの中に自分が入つていくのか、ということに問題の差があると思ふ。前者であれば指導者の運動になつてしまふ、こつちから相手に近づいてその人のところまで下げていつて積みあげていくということになつてもいいので。そうしないとこの運動は広がらないでしょう。

堀 わたしたちのほうでは部落の婦人会の支部活動ということがあるのです。グループをつくるといつてもなかなかそれぞれの環境や立場や望みが違ふと思ふ。それで私の方では衣、食、住にわけ、どこでもいいから希望するほうに入るようにし部落で四つくらいグループをつくることにしています。そしてそのグループにはだれそれがリーダーということがなくてもやれるように、講師なんかたのむ場合でも、お互いに自分たちの問題をそこにもつてきて、わたしはこういうふうになりたいけれども、こういうことはできないから、だれかいい方がないか、という程度で集まる会をつくつており

ますがどうでしょうか。

団野 会長、副会長があつてしかつめらしく演説するというよりも、みなさんのやみ聞き、その解決について一緒に考えてあげ、その人の身になつて……

花岡 わたしら漁協婦人部では、グループを五つくらいつくつて、家族計画とか、生活改善とか、宗教的には修養の場とか、活花、そういうグループをつくつてやつておつたのですが、三人でも五人でも集つてくると、次には会長さんが仲良しをそれぞれ訪つて集まつてくるといふ工合に、スムーズにやつていきます。

農村婦人の財布

団野 一番根本の考え方は、みんな同様な人間だと思ふことだと思ふ。ある人は大学出ているが、ある人は学歴がないとかあるでしょう。また頭がいいとか悪いとかもあるでしょうけれども、人間であることにはだれも変りがない。人間の優劣なんかはそんなことで決められることではない。だから人間としてはみな同じというものの考え方が一番根底にあつて、互いに接触が行われたなら、そこからみんなの成長が生れる。すべての活動、自由時間をつくる活動でもなんでもそういうことじゃないかと思ひます。

ではつぎに自由時間をどう利用するかということ、自由時間は非常にむずかしいけれど、工夫し努力すればつくれるだろうということとを前提にして、自由時間をどうつかうべきかということとを話し合ひましようか。

赤富 自由時間は、農繁期と農閑期とで違ふと思ひます。農繁

期の自由時間はぐつすりやすみたいだけです。農閑期ですと趣味とか教養といったものに回わしいとか、子供と遊びたいとかそういうふうになつてきます。

山中 自由時間は、ほんとうに自分で自由につかえる時間であつて欲しいと思ひます。

団野 他人の自由時間と自分の自由時間の問題、自分も勝手に自由時間の設計をやり人も勝手に設計している。むこうの自由時間との関係、これをどうしたものでしょう。

渡辺 他人の自由を侵さない自由。

山中 農家では、一人一人が自由時間をもつということが、わたしはできないだらうと思ひます。自分の経験から、それで家族全体が自由時間をほんとうに自由に、子どもが勉強したければ勉強、話し合いたければ話し合い、ものを読みたいければ読む、家族全体が自由につかえる時間は、農家の場合はだいたい一日の仕事をつた夕食のあとだらうと思ひます。

前川 私の自由時間は昼食のあと片づけが済んで二十分間、夕食後家計簿の記帳が済んだあとの七時半頃から九時半までの二時間をつかつております。食後の二十分には小さい仕事をするようにしており、夕食後にはテレビを見るとかみんなで話し合ふとか雑誌などを読むとか……

永井 わたしのところは部落全体一定しております。自由時間は昼食後一時間とついております。私はその自由時間を本を読んだり、会の連絡とかにつかつています。

萩原 私、自分の自由時間というものはつきりわけたつもりで

きたのですが、小林さんのほうでは農休日が設定されていて、その日に自分の好きなことをやる、それを生産活動というお金をとるところにつかつているというお話でしたが、自分で自由につかつてはいるが、お金をとるためにつかわれているということ、それは労働時間じゃないか、木当の自由時間ではないのではないかということを考えてみました。

小林 五の日は休みですからほんとうに自分が解放的になれる時間が余計あります。農村では経済面が困つていますから、自分の自由な時間を、自分が自由につかえる金を得るということに費すということは、自分で好きにやることだから労働にはならないと思ひます。

萩原 そうすれば家事労働でも自分が楽しくやつたら労働時間ではないということになる。

団野 自由時間と見ても労働時間と見てもどつちでもいいと思ひます。実質的には労働時間だらうけれども、気持では自由時間ですね。強制されない時間だから。だから自由労働時間といつていいと思ひますけれど、それで得たお金は、全部自分の自由にできるので

小林 子どもの学用品とか、その他自分の好きなものにつかわれます。

団野 いまの小林さんのお話は自由時間であるか労働時間であるかということはいまだ問題じやなくて、主婦が自分で自由にできるお金を自分の自由な時間を労働に当てることによつて得ることができる、そういうお金の問題です。いつたい主婦が自由な金をもつ

ているかという別の問題になつてきます。小林さんはそれを同時に解決しているというケースだと思ひます。それから、小林さんのお話の中ではよくの印象に残つたことですが、この方は自分の自由時間をつかつてお金をもうけて、それを子供のため、あるいは自分のためににつかつているということを通じて、時間の貴重さということを学んでいると思ひます。問題になりましたら、うわき話では時間の浪費だということがありましたが、浪費であるか浪費でないかということはこの人の場合はとつくによつて飛んでしまつています。

渡辺 私のところは、水田単作地帯ですが、女も男の人と同じ労働をする。そして収入が五十万なら五十万あつたとしても、農協に貯金されると、財布を握つているしゆうとさんならしゆうとさんのところを下りるわけですね。その他の者には自由に使える金がない。小林さんのようにやればいいが、労働の報酬の分配が何か不合理なような気がするのです。

赤富 小林さんのお話を聞いて羨しく思ひました。私のほうですと、卵を若い者が売りましても、年寄りの手に握られてしまふ。

清水 休みの日には休みたいけれども、生活費ですら自分に持たせてもらえないし、小遣いに不自由しているところから、例えば、子どもに学校に納めるお金とか小遣いとかをねだられても、お母さんのほうには全然お金がないわけです。おばあさんにもいいなさいとかおじいさんにもいいなさい、ということになる。結局母親としてやりたいことができないし、子どもからはお母さんは役に立たないという感じで見られる。そのために、少しでも子どもに学校に納める

金を出してやりたいという気持ちで、休み日も働らくということになる。小林さんのように頭かき働ければいいと思うんですが。

団野 お母さんが自分の子どもにお金をやらうとしても自分は一銭も持っていないから、おばあちゃんにもらいに行くといわれる。その母親の立場はどうなりますか、それで孫がお母ちゃんよりおじいちゃんになったといつて喜んでいられるとすれば、これほど悲惨な話はない。そういうこと農村にうんとあるでしょう。これはみなさんしゅうとめさんになった時には、解決してやらなければならぬ問題の一つです。

小泉 わたし、自由時間というのは、電気がないので、テレビを見るとかラジオを聞くとかということができないので、主人と交番で夜学に通っているのです。今すぐ役に立たなくても、子どもが大きくなつてからでも、家のお母さんは、勉強ができない時は話し相手になつてくれた母だということが分つてくれればいいし、子供の方になつてあげられる母になりたいと思つて、夜学に通っているのですけれども。

片口 わたしは、小林さんの場合と違いますけれども、農閑期になりますと、時間がたくさん余つてくるものですから、自由時間に、編物が好きですから、編物をやっています。自分の家のものを編んでもまだ時間がある場合に、近所の方に頼まれたりすると、編み物はわたしは自分のものとして取らないです。それを一応別の財布に入れて、自分に何かほしいものがある時に、自由に、大びらに、お母さんに平気でもらえるようにしています。

土井 いまお話をうかがっていましたら、たしか小林さんのところ

お金をいやしむようなふうがあるでしょう。

そういうこともやつぱり直さなければならぬことです。最後に自由時間というものは部落あるいはグループで決定して、それをみんなに強制すべきものか、どうかということに入りましょう。

山中 自由時間とはこういうものである。生活時間とはこういうものである。人間の生活に自由時間というものはこういうふうな大切なものであるから、できるだけこの方向に進むように努力しよう、と、ぼつぼつとその方向に近付いてゆくのがいいのじゃないかと思ひます。

小泉 わたしはその自由時間をうわべだけ、ただ、あんなしてみないかい、いいんだよ、といったように、自分がほんとうにする気がないのに他の人に言つても絶対だめだと思ふ。真実があつて、筋道をたてて教えてくれるのでしたらいいけれども。

永井 私のところでは自由時間について話し合いましたとき、これは団体の力で決めてもらつたほうがいいという声が出たので、そうしました。

土井 私はその自由時間をとるのに、やつぱり個人ではとれない。家族の協力が要る。仕事を家族一人一人に分担させて、子どもには子どもなりの仕事、おばあちゃんにはおばあちゃんなりの仕事をしてもらう、そういう家族の協力で、それからまた黒板に、今夜の献立はこうとか、今この田圃に出ているとか、そういう大事なことは印をつけて、一目見てわかるようにして、時間の節約をして自由時間をのびすようにする。また村全体に農休日を守りしめてもらうとか、農休日には会合をもつことはなるべくやめて欲しいとかで、

は、鶏を七十羽ぐらい飼つていて全部自分のお金にもらえらるというが、私らのところは七十羽も飼つていたら実計費に当然繰り入れられる。だから嫁さんが、月五百円でもいいから自分の金をはしがつていますけれども、もし立場をかえて、主婦が一家の財布を預かつたら、たとえ自分の金が一銭なくともやりくりして満足して耐えられと思う。三年とか五年とか、年が経つたら一応家計を任して、自主性をもたして、その中から自分が稼ぎ出して、小遣いも取れるほうがよいし、それだつたら満足すると思う。

自由時間の確保

団野 話がそれたようですが、自由時間という問題はそういう若い嫁さん、あるいは婦人の持つ金を持つていかう面とも共通の問題だということがわかります。つまり人間解放の問題です。両方とも。ですから自由時間の問題だけを話し合つて事が済んだというのじゃなくて、それとつながっているほかのたくさん問題も見つけていかなければならない。

労働の報酬の問題を、アメリカの農民の場合はどうしているかという、親子の間で契約を結ぶ。親と子どもが収入の中から必要経費を差し引いた残りを、それぞれにある割合で分配する。親子の借がそれによつて冷めたかというところでない。労働に対する報酬というものはつきり割り切つています。だから、金が汚いという考え方はおかしいので、もちろん汚い金もありますが、しかし労働で稼いだ金は汚くない。金は労働に応じて配分されるのが一番正しいということ。農村ではお金に非常に細かいせに、見舞で

内側と外側とからで完全にやりたい。

堀 日中は一日働いて、夜自由時間を持ちたいと計画しても、訪問客なんかがあつたりして自分だけでは解決できないので、部落としても、夕食後の訪問は避けるように、これを守ろうではないかというようにしてあります。そして、午後八時になりましたら、サイレンを鳴らして、これからはお母さんの時間だということにしてあります。お母さんの立場になれば、夕食後は自由時間となつておりますけれども、なかなかみんなの手前を考へて、寝たくても寝られないことがある。それでは困るというので、今でしたら八時、目が長くなると九時にサイレンを鳴らして、何も気を使わないで、すら自分の部屋に行けるようにしました。

自由時間の使い方

団野 では自由時間は個人で使うのか社会のために使うのか？というのを……。

海野 わたしは兼業農家の主婦ですから、自由時間は自分のためにまず一番最初に使いたいと思つています。夫は勤めておりますし、汗と埃にまねた身体で夫を迎えるということがないように、自分で得た自由時間をそういうことのために、まっさきに使いたいと思ひます。

萩原 私はみなさんより自由時間をたくさん持っていますから、個人のために使うのと、まわりの仲間の人と一緒に仲間のために使うのに分けています。

小泉 わたしは、自分の自由時間を誰にも束縛されないで使うだ

けじやなくて、その内容として貴重な時間を将来の子供のためや、教育のため、よい家庭を作るため、そうして社会のためにも尽くすことになるような使い方がいと思うのです。

前川 私の場合、積極的時間と消極的時間の二つに分けているので、家事に四時間当てておりますが、積極的に処理して、三時間でつき上げたならば、あとの一時間は自由時間として当てております。そうして大きい時間には大きい仕事小さい時間には小さい仕事。たとえば私は編物が好きですから、小さい時間には二十分ぐらい細物をしたりしています。

斎藤 私は、自分のやりたいこと——一冊本を読みたいので、一応計画を立てて、一か月に一冊くらいまとめて本を読んでいます。

花岡 わたしは朝五時に起きて、午前中にすべての仕事を一生懸命やつてしまつて、昼からは一切仕事をしないことにしております。そういうわけかといいますと、わたし今まで、無理に無理を重ねて、神経痛が出ています。それと婦人会と漁協婦人部の役員をしている関係で、いつどこから召集がかかつて来ても、その度に機嫌よく出してもらうというようにしております。

団野 この自由時間をどう使うかという問題は、めいめいそれぞれ違うだろうから、これを一律にどうしろということは無理ですね。ただ婦人の立場が非常に弱いから、堀さんのおつしやつたようにサイレンを合図にその後休養をさせるとか、あるいは訪問しないようにしようという申し合わせとか、そういうことが単にグループだけじゃなくて、村全体の申し合わせになつて、それが別に窮屈もなく行なえれば非常にこれはいいことです。そういう工夫なり知

恵はいくらでもある、というふうなことです。それから、農休日をあちこちでやつていますが、農休日に違反した場合にどうしますか。村八分にした例もあるんですが……。

弥富 わたしの部落ではみんなそこにお手伝いに行つてあげる。村中で手伝いにいつてあげる。

土井 わたしのほうでは農休日忘れて、田園に出ている人があると、見た人が誰かが注意して、必ず帰つてもらつてゐる。農休日には田園に出ないことにしている。

渡辺 違反した時は、その場所に行つてホラ貝を吹きます。

堀 わたしのところは、日曜日を必ず休むことにしている。しかし、農家でずからお天気の工合で前に繰り上げるとか、またその作業をどうしても明日の日曜日にやつてしまわなければならないという場合は、月曜日は休みにするとかして、とにかく一週間に一日は休みます。融通性がありますから、違反者も出ないわけです。

団野 大体三つの回答が出ました。手が足らない家に、手の余つてゐる人がお手伝いするという解決の仕方。働らいている人の耳のそばに行つて、ホラ貝を吹くなり、注意をするという仕方。また、農休日には弾力性を持たせるといふ解決の仕方。三つ出ましたね。

弥富 お手伝いというのは、いやがらせの意味です。

団野 なるほど。しかし、農休日をなぜとるかということは、ぼくはやつぱり婦人のためだと思ふんです。ですから婦人の間でものごとをやつぱり円満に解決すべきじゃないか、ほんとうにその家が、休んだのでは仕事が付かないというのであれば、厳がらせじ

やない、ほんとうの意味のお手伝いをしてあげる解決の仕方、その方法が望ましいのではないかと思ひますが、しかしこれはなかなかむずかしいからこれで打ち切りましょう。

終りにみなさんにお願ひがあります。みなさんは選ばれて東京に来られた。そこで、今度帰られたら、みなさんの言動というものは非常に注目されていると思うのです。みなさんが一番心すべきことは、威張つた氣持があつてはいけないということではないかと思ひます。東京に選ばれて出たんだからわたしはえらくなつたんだという誤まつた氣持の片りんでも出たら、みなさんはすでに選ばれてここに来た価値が全然失われてしまうということです。それでは、誰も話しを聞いてくれません。臆病になる必要はないけれども、さきほど私の申しました同じ人間なのだ、みんな手を取り合つて行こうという氣持で村に帰つてほしいということをお願いしておきます。長い間どうもありがとうございました。

第二部 婦人の生活と意識

— 調査資料 —

生活環境の変化

一 家族規模の縮小と平均寿命の上昇

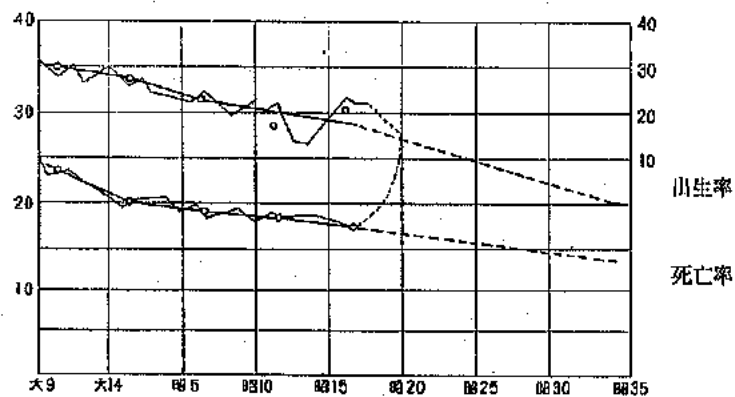
戦後の我が国における人口の大きな変化は、出生率、死亡率（下表）が急激に低下し、平均寿命（第三表）が著しくのびて老令層が増加する傾向がみられることである。このことはかなり今後婦人の生活にも影響することが多いと思われる。

はじめに出生率を見ますと、今から約六〇年前の明治三十三年には人口一〇〇〇人について、出生率は三二・四となっており、その後、長い間三〇人以下の出生率になったことはないが、昭和二五年頃から次第に減少し、三一年には一八・五人となつて欧米諸国の出生率の水準に近づいてきた。

母親の出産する年令も、二一才から三四才までの層に集中する傾向（第一表）とともに、一夫婦当りの子供の数も戦前の四・六人から昭和三年には二・八人というようになり減少してきている。

小家族への欲求（第二表）を二子をもつた親の追加希望をみると、昭和二五年から一〇年間に「もういらない」というものの数が倍になっている現状である。

出生率および死亡率の推移大正9～昭和33年



資料出所 人口問題審議会「人口白書」(34年)

特定国の年次別出生率（人口1,000対）

	日 本	スウェーデン	イギリス (1)	ドイツ (2)	フランス	アメリカ	インド	エジプト
明治 33(1900)	32.4	27.0	28.7	35.6	21.4	—	—	—
" 44(1910)	34.8	24.7	25.1	29.8	19.6	—	—	—
大正 9(1920)	36.2	23.6	25.5	25.9	21.4	23.7	32.6	32.3
昭和 5(1930)	32.4	15.4	16.3	17.6	18.0	18.9	32.9	45.5
" 15(1940)	29.4	15.1	14.1	20.1	13.8	17.9	32.0	41.3
" 25(1950)	28.1	16.4	15.9	16.2	20.7	23.5	24.9	44.4
" 31(1956)	18.5	14.8	—	16.2	18.5	24.9	27.4	—

資料 統計月報（1954年）国連

注 1）イングランド・ウェールズ

2）1946年以降は西ドイツ

諸外国における年次別死亡率（人口1,000対）

	日 本	スウェーデン	イギリス (1)	ドイツ (2)	フランス	ハンガリー	アメリカ
明治 33(1900)	20.8	16.8	18.4	22.1	21.9	26.9	17.6
" 44(1910)	21.6	14.0	14.0	16.2	17.8	23.5	15.0
大正 9(1920)	25.4	13.3	12.4	15.1	17.2	21.4	13.1
昭和 5(1930)	18.2	11.7	11.7	11.1	15.6	15.5	11.3
" 15(1940)	16.5	11.4	14.4	12.7	19.1	14.3	10.7
" 25(1950)	10.9	10.0	11.7	10.3	12.7	11.5	9.6
" 31(1956)	8.0	9.6	11.7	11.0	24.4	—	9.4

資料 国連統計月報（1957年）

注 1）イングランド・ウェールズ

2）1946年以降は西ドイツ

第 1 表 母の年令階級別出生数の割合の推移

	実 数		%	
	31 年	13 年	31 年	13 年
総 数	1,665,278	1,867,068	100	100
出 生 率 (1,000人 対)	18.5	27.2	—	—
15 才 未 満	15	152	—	—
15 ~ 19	22,268	52,802	1.3	2.8
20 ~ 24	456,115	443,893	27.4	23.8
25 ~ 29	687,009	571,538	41.3	36.0
30 ~ 34	346,702	402,803	20.8	21.6
35 ~ 39	123,563	278,722	7.4	14.9
40 ~ 44	28,167	104,093	1.7	5.6
45 才 以 上	1,440	12,948	0.1	0.7
不 詳	4	72	—	—

資料出所 厚生省人口動態統計

第 2 表 小家族への欲求はどのように前進してきたか（2子
の親の追加希望数別百分比分布）

年 次	総 数	もうい らない	あ と 1 人	あ と 2 人	あ と 3 人	あ と 4 人	4 人以上	希望数 不 詳	考えた ことな し
第 1 回（昭和25年）	100.0	29.8	32.8	19.2	3.5	3.4	—	—	11.3
第 2 回（昭和27年）	100.0	39.3	35.2	14.7	4.4	1.0	—	—	5.4
第 3 回（昭和30年）	100.0	42.7	32.3	15.8	2.5	0.7	0.7	—	5.3
第 4 回（昭和32年）	100.0	56.4	30.0	6.9	0.8	0.1	0.7	—	5.1
第 5 回（昭和34年）	100.0	57.7	25.6	7.2	1.0	0.4	1.8	—	6.4

資料出所 毎日新聞社人口問題調査会「産児調停に関する第5回世論調査」

（注）本表は夫妻票の合計による。

第4表 主要地域別水道普及率(32年度)(単位%)

	総数	水道	簡易水道	その他
全 国	44.7	35.5	6.3	2.9
東 京	75.0	74.5	0.4	0.1
神 奈 川	68.3	64.5	3.4	0.4
愛 知	56.4	39.1	14.6	2.7
大 阪	83.9	81.2	1.5	1.2
兵 庫	60.3	53.4	4.6	2.3
福 岡	56.9	38.6	1.7	16.6

資料出所 経済企画庁「国民生活白書」34年度版(厚生省調)

備 考 戦前の最高時(16年頃)の普及率は約2割である。(厚生省調)

生活に及ぼしている影響も見逃がせない。すなわち、近年公益事業としての電気、ガス、水道の施設ならびに供給量が増加し、また、洗濯機などの家庭用電化器具が普及したことは、生活の合理化ひいては主婦の家事労働の軽減に大いに役立っている。

電気の国民一人当りの供給量は戦前(九一一年)の二・五に比べており、ガスを利用している主帯は、二二六都市三〇九万戸で、戦前最高時(一六年)よりも三割増加している。その結果、国民一人当りガス供給量は、戦前(九一一年)の二倍になっている。(第6・7表)

水道は全人口の四一%が利用しており、まだ水道を利用出来ない人口の方が多いわけであるが、戦前の最高時(一六年頃)の約二割という普及率を見ると、戦後の一〇年間でかなり普及していることがわかる。(第4表・5表)

電気洗濯機の最近の普及はめざましく、都市世帯の約四割がこれを持っており、電気釜も都市世帯で普及しており、急速な増加の傾向がみられる。ミシンは都市世帯の三分の二がもっている現状である。(第8表)

テレビ、ラジオの普及状況からみると、テレビはまだ約一割六

第3表 平均寿命の推移(0才の平均余命)

	男	女
明 治32~36 (1899~1903)	44.0才	44.9才
・ 41~大正2 (1908~1913)	44.3	44.7
大 正10~14 (1921~1924)	42.1	43.2
・ 15~昭和5 (1926~1930)	44.8	46.5
昭 和10~11 (1935~1936)	46.9	49.6
・ 22 (1947)	50.1	54.0
・ 25 (1950)	58.0	61.5
・ 30 (1955)	63.0	68.4
・ 32 (1957)	63.2	67.6
・ 33 (1958)	65.0	69.6

資料出所 1899~1936年は内閣統計局調

1947年以降は厚生省統計調査部「簡易生命表」

家事労働の軽減

水道、ガス、家庭用器具等の普及状況

戦後の生活様式には、いろいろの面で、かなりの変化が見られるが、それによつて、一般に生活の合理化、主婦の家事労働の軽減がもたらされているといえよう。

まず住居の様式が、機能的な簡素なものになって来ている。とくに、独立家屋でなく、いわゆるアパートと呼ばれる共同住宅が急激に増加している。三〇年から三五年までの間に約三〇万世帯が、これらの共同住宅に住むようになって来ている。これらの共同住宅の多くは、鉄筋のアパートやテラス・ハウスで、食堂と台所の機能を能率的、快適にするため、ダイニング・キッチンの手法を取り入れた簡素で合理的なものになっている。これは、都市に多く見られる変化であるが、農村においても、生活改善の一環として、台所をはじめ住居の合理化簡素化が進められており、このような住居の様式の変化は、家事を担当する主婦の生活に大きな影響をもたらしている。

また、生活を合理化する施設や家庭用器具等の普及が、主婦の

第 7 表 国民 1 人当り家庭用燃料使用量の推移

	単 位	昭 9 ~ 11 年	28 年	32 年	33 年
ガ ス	1 人当り 立 方 米	9.3	12.0	18.9	20.5
電 気	1 人 当 り kwh	40.4	79.8	100.0	109.5
石 油	1 人当り リットル	—	1.3	8.58	5.12
石 炭	1 人 当 り kg	29.8	14.1	19.8	19.5
木 炭	1 人 当 り kg	32.6	22.3	17.9	18.3
ま き	1 人当り 薪 立 方 米	—	0.22	0.21	0.20

資料出所 国民生活白書 (33, 34年版) 附表より作成

第 8 表 都市農村別家庭用器具の普及率

品 目	全 国 都 市	農 村
電 気 洗 濯 機	33.0%	6.8%
電 気 が ま	20.7	4.7
電 気 井 戸 ポ ン プ	2.5	9.4
ミ シ ン	68.3	52.5

資料出所 経済企画庁「消費者動向予測調査」(34年 2 月)

第 9 表 農家の家庭用器具の普及率 (単位 %)

	電気洗濯機	電 気 が ま	電気井戸ポ ンプ	ミ シ ン
総 数	6.8	4.7	9.4	52.5
専 業 農 家	4.1	2.5	8.1	47.7
第 1 種 兼 業 農 家	3.2	1.3	9.2	50.0
第 2 種 兼 業 農 家	12.1	9.3	11.0	58.7

資料出所 経済企画庁「消費者動向予測調査」(34年 2 月)

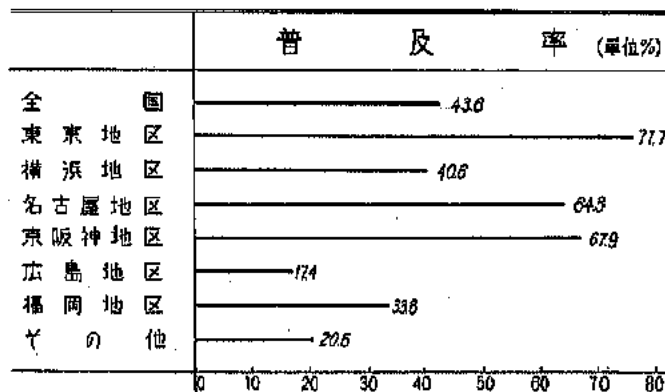
第 5 表 地域別、市町村別水道普及率 (31年) (単位 %)

	総 数	市	町	村
全 国	32.2	51.8	9.4	3.4
北 海 道	21.2	41.7	6.8	2.6
東 北	18.1	36.5	7.2	2.1
北 関 東	10.1	20.5	2.5	0.9
南 関 東	52.2	64.4	5.6	2.5
北 陸	20.5	38.8	10.3	0.6
東 山	23.0	40.1	15.0	9.8
東 海	27.7	41.7	5.2	1.8
近 畿	54.0	73.6	14.5	5.3
山 陰	21.3	41.8	6.7	3.8
山 陽	30.1	49.3	9.7	2.9
四 国	23.0	39.9	16.2	4.4
北 九 州	28.2	46.3	12.4	3.9
南 九 州	16.5	30.2	10.1	2.8

資料出所 経済企画庁「国民生活の地域別分析」(建築業務統計年鑑)

注 総数には簡易水道のうち届出のあつたものだけをふくむ。
32年度から届出が義務制になった。

第 6 表 主要地区別有ガス都市のガス普及状況 (33年12月末)



分の世帯がもっているにすぎないが、ラジオは約九割の世帯に普及している。(第 9・10 表)
農家における電気井戸ポンプや電気洗濯機などの普及は一部の農家の生活をかなり都市化している。

第 11 表 職業、所得階層別、家庭用器具の普及率（都市）（単位 %）

	電氣洗濯機	台 所 用 品			暖房器具			ミシン
		電氣がま	電氣冷蔵庫	氷冷蔵庫	電氣ストーブ	ガスストーブ		
総 数	33.0	20.7	5.7	21.0	8.0	10.9	68.3	
職 業	勤 勞 者	29.7	20.0	3.4	17.5	6.0	9.7	69.2
	職 員	40.2	26.8	5.4	22.1	8.7	13.1	79.0
	勞 務 者	14.4	10.1	0.5	10.9	2.1	4.9	54.9
	個 人 營 業	41.6	22.4	8.3	30.6	10.4	11.6	67.2
	会社団体などの役員 自由業者、無職およびその他	67.6	41.2	29.1	34.5	29.7	33.1	86.5
所 得 階 層	20 万 円 未 満	5.2	4.9	0.1	8.5	1.3	1.4	38.1
	20 ～ 30	15.8	15.3	0.9	13.5	2.6	4.5	61.5
	30 ～ 40	35.4	23.0	3.3	21.8	5.3	9.5	73.4
	40 ～ 50	43.6	23.0	3.8	24.9	9.5	9.6	80.5
	50 ～ 60	52.6	28.3	8.5	30.0	13.6	16.6	84.7
	60 ～ 70	61.0	36.8	14.3	34.2	20.3	24.7	83.5
	70 ～ 80	64.9	41.8	19.4	35.1	22.4	30.6	91.0
層	80 万 円 以 上	75.9	38.0	34.2	39.2	26.7	38.8	88.4
	不 詳	40.5	16.7	7.1	35.8	11.9	16.7	50.0

資料出所 経済企画庁「消費者動向予測調査」（34年2月）

第 12 表 地域別、家庭用器具の普及率（都市）（単位 %）

	電氣洗濯機	台 所 用 品			電 氣 ス ト ー ブ	ミシン
		電氣がま	電氣冷蔵庫	氷冷蔵庫		
全 国	33.0	20.7	5.7	21.0	8.0	68.3
北 海 道	24.5	22.1	4.3	1.4	6.3	73.1
東 北 道	17.3	13.5	0.0	12.0	2.4	74.0
関 東 道	36.7	19.2	7.8	21.8	9.9	68.2
東 海 ・ 北 陸	34.2	20.0	5.0	15.4	10.4	71.0
近 畿 道	42.7	17.9	5.7	32.3	8.5	69.4
中 國 道	28.2	28.8	5.4	21.8	7.1	74.0
四 國 道	24.0	30.3	3.4	17.3	2.9	66.3
九 州 道	17.3	24.8	5.0	13.9	5.0	54.3

資料出所 経済企画庁「消費者動向予測調査」（34年2月）

第 10 表 農家の地域別家庭用器具の普及率（単位 %）

	電 氣 洗 濯 機	電氣井戸ポンプ	ミシン
全 国	6.8	9.4	52.5
北 海 道	2.0	6.1	44.9
山 形 県	1.6	3.2	36.5
宮 城 県	6.3	1.6	52.4
茨 城 県	4.1	5.1	34.7
千 葉 県	2.4	9.5	36.9
長 野 県	5.6	5.6	57.1
新 潟 県	5.2	6.5	39.0
富 山 県	7.1	7.1	21.4
愛 知 県	12.8	9.0	73.7
兵 庫 県	12.2	27.6	65.3
島 根 県	3.6	7.1	33.9
岡 山 県	13.2	17.6	78.0
愛 媛 県	14.3	10.0	65.7
福 岡 県	3.8	9.8	63.2
鹿 児 島 県	3.3	7.7	30.8

資料出所 経済企画庁「国民生活の地域別分析」（同庁「消費者動向予測調査」34年2月）

主婦の生活と意見

家庭生活を中心としての主婦の暮らし方と考え方を見るために大・中都市及び農・漁村でどのように異っているかをみるとを目的にして、大都市からは、東京都（調査人員 五八七名）の区政施行地域をとり、中小都市、農村及び漁村として産業構成の平均したものとして神奈川県藤沢市（調査人員 一一六名）、山梨県の中巨摩郡田富村（調査人員 一二七名）及び茨城県的那珂湊市の田平磯地区（調査人員 一一四名）を選んで労働省婦人少年局がその実態を調査したものである。

生活に満足しているか

- (a) あなたは一口でいつて、現在の生活に満足していますか。
(b) どんな点で不満がありますか。

この結果は、四地点ともほとんど差はみとめられず、「満足」と「まず満足」というものが約七〇%ずつである。「不満な点全くなし」はどこも同じく三〇%である。不満な点は、一番多いのは経済的な問題についてであり、つぎに主人についての苦情であるが、経済問題にくらべればずっと少ない。以下「ひまがほしい」、「子供についての気づかい」などである。また夫が家事を手伝ってくれるもの、夫婦同伴で出かけるもの、夫の家事評価が高い方が満足度が高い、また、テレビ、電気洗濯機、ミキサーをもっているものは、満足度が高く、予算をたて、家の財産状態を知り、自由になると、つかいがあり、雑誌や本を買うものの方が満足度が高くなっている。

家事だけで満足か

炊事や洗濯、子供の世話などの家庭の仕事は一家にとつて大切なことですが、あなたはこういう家事だけをしてくらすことに満足しますか、それとも何か他にしたいと思いませんか。

東京、藤沢、田富はほぼ同じで、「なにかしい」が五〇%をこえており、「満足」は四〇%たらずであるが、平磯では「なにかしい」が四〇%、「満足」が五三%である。

東京について年令別に見ると、若いものほど「なにかしい」が多い——二〇才台六六%、五五才以上では四〇%弱。学歴別では旧制中学以上のものは、それ以下より「なにかしい」が多い。前者は七二%、後者四三%である。

家事以外の仕事をしているか

「ほかに何かしたい人」あなたはそのやりたい事をやれますか、現在していますか。

前の質問で「ほかになにかしたい」と答えた人のうちどこでも「やろうとしてもやれない」というものが五〇%から六〇%

生活に満足しているか

		満足	まず満足	時に満足	不満の点がある	不満	不明	計
東京	東	35	38	3	19	5	—	100
藤沢	京	38	36	3	15	8	—	100
田富	高	41	27	5	16	9	2	100
平磯	磯	33	36	2	21	7	1	100

家事だけで満足か

		家事だけで満足	ほかに何かしたい	その他	無回答	計
東京	東	39	57	4	0	100
藤沢	京	31	66	3	—	100
田富	高	39	54	6	1	100
平磯	磯	53	39	4	4	100

予算を立てているか

	予算を立てている	予算を立てたり立てなかつたり	全く予算をたてない	他	計
東京	58	15	25	2	100
藤沢	61	10	28	1	100
田富	34	19	45	2	100
平磯	39	10	47	4	100

夫が手伝ってくれる家事

	どれも手伝わない	床の上げ下し	室内の掃除	食事の後片づけや炊事	洗濯	計
a 現在						
東京	39	53	41	17	7	100 (587)
藤沢	44	47	38	12	10	100 (116)
田富	62	29	22	75	8	100 (127)
平磯	50	29	26	21	11	100 (114)
b べきだ						
東京	44	46	34	12	9	100 (587)
藤沢	38	48	35	6	9	100 (116)
田富	50	38	25	10	5	100 (127)
平磯	53	32	29	16	10	100 (114)

()内は100%としたサンプルの数。2つ以上あげたものがあるから、合計は100にならない。

- (b) あなたの御主人は次のことを手伝ってくれるですか。
- (1) 床の上げ下げ (2) 室内の掃除 (3) 食事の後片づけや炊事
- (4) 洗濯
- (b) ではこのうち、男も手伝うべきだと思うものがありますか。

夫が手伝ってくれる家事

東京と藤沢では「予算をたてているもの」が約六〇%で、「全くたてない」は二五%前後である。しかし、田富、平磯では「たてる」ものが約三五%、「たてない」ものが約四五%で、市と村の違いを示している。

東京は年令別では、若いもの程「予定をたてる」し、また学歴別では、高いものほど「たてる」ものが多い。

予算を立てているか

ているものが多く、逆に、こづかいをもっているものは、もっていないものより家計簿をつけているものが多い。

家事以外の仕事をしているか

	現在している	やればやれるが現在していない	やれない	無回答	計
東京	27	17	54	2	100
藤沢	24	11	65	—	100
田富	25	16	53	6	100
平磯	22	7	67	4	100

自由になるこづかい

	もっている	時々もっている	もっていない	無回答	計
東京	46	13	40	1	100
藤沢	45	5	49	1	100
田富	41	17	42	—	100
平磯	59	8	33	—	100

自由になるこづかい

台であり、「現在している」は二〇%台である。

ところでやれない人の理由をたずねると、やれない人（一八〇人）のうち、「多忙で暇がない」が四一%、「子供が小さい、子供がいる、子供が多い」が二九%、「経済的余裕がない」が一八%、「体が弱い、老令、妊婦中」一一%などが主なものである。

あなたは自分のものを買ったり、自分で自由に使えるこづかいをもっていますか。

東京、藤沢、田富はほとんど同じような分布で、「もっていない」と「もっている」が四〇%台である。漁村の平磯だけは、「もっている」が他の地点より多く五九%で、「もっていない」は二三%である。

予算をたてるか否かとの関係を見ると、予算をたてているものほど、こづかいを持っているものが多い。同様に、家計簿をつけているものは、つけていないものよりも、こづかいをもつ

楽しみがあるか

	楽しいと思う ことがある	楽しいと思う ことはない	その他	無回答	計
東京	76	18	5	1	100
藤沢	63	28	8	1	100
田富	82	16	2	—	100
平磯	52	39	7	2	100

会 合 (a) 出席するか

	よく出る方 だ	時々出る	出ない方だ	不明	計
東京	24	19	57	0	100
藤沢	19	19	49	13	100
田富	58	18	24	—	100
平磯	18	21	61	—	100

- (a) あなたは婦人会やP・T・Aや町内会や部落の集まりなどに
出ることがありますか。
- (b) 出るとは楽しみですか。

会 合

あなたは日々のくらしの中で心からたのしいと思うことがあ
りますか。

東京と田富は「楽しいと思うことがある」ものが八〇%前後、
藤沢や平磯は五〇～六〇%である。漁村の平磯では、「楽しいと
思うことはない」が四〇%に近い。

楽しみがあるか

五〇%であるが、二村では三〇～四〇%台である。そうして、
「話さない」は二村が東京、藤沢より多めである。家族の問題
はとも同じようで、「話し合う」が七〇%に達している。

また世の中の問題について、話し合うものほど、家族の問題
についてもよく話し合っている。東京では、学歴が高い程よく
話し合っている。

家族との話し合い (a) 世の中の問題

	話し合う	余り話し合 わない	話さない	計
東京	47	37	16	100
藤沢	50	32	18	100
田富	42	34	24	100
平磯	32	32	36	100

家族との話し合い (b) 家族の問題

	話し合う	余り話し合 わない	話さない	不明	計
東京	75	19	6	—	100
藤沢	73	18	9	—	100
田富	67	15	16	2	100
平磯	74	17	9	—	100

家族との話し合い

- 「どれも手伝わない」ものは東京では三九%で、田富(六二%)、平磯(五〇%)の両村よりも少ない。藤沢は東京に似て
いる。また東京、藤沢では「床の上げ下し」と「室内の掃除」
はかなりあるが、「洗濯」はごく少ない。また両村でも、この傾
向を示している。
- つぎに「夫が手伝うべき家事」について、「全く手伝う必要
がない」というのは約四〇%～五〇%をしめしている。そうし
て「手伝うべき仕事」としては「床の上げ下し」、「室内の掃
除」はかなりあるが、「あと片付け」や、とくに「洗濯」はず
つと少ない。
- (a) あなたは家族の方たちと世の中の動きや、政治に関係のあ
る問題について、話し合うことがありますか。
- (b) 家族内の問題、たとえば子供の教育や職業のこと、家庭の
将来のことなどについて話し合うことがありますか。
- 世の中の問題の方を見ると、「話し合う」は東京、藤沢では

けいこごとと勉強

	していない	している	無回答	計
東京	85	14	1	100
藤沢	85	15	—	100
田富	97	3	—	100
平磯	96	3	1	100

家庭用品

	電 アイロン	気 ミシン	ラジ オ	テレ ビ	電 洗	気 濯	機 ミキサー	ど れ も な し	計※ 100%
東 京	90	66	96	10	22	15	1	(587)	
藤 沢	85	69	93	10	24	16	—	(116)	
田 富	79	62	95	1	12	2	—	(127)	
平 磯	57	39	93	1	3	5	—	(114)	

※()内は100%としたサンプルの数、2つ以上あげたものがあるから、合計は100%にならない。

あなたは何かおけいこごとをしたり、勉強したりしていますか、それは何ですか。

東京、藤沢では、「している」ものが約一五%であるが、二村では三%にすぎない。

東京についてみると、年令別では四〇才台が他の年令より「している」が多い(二〇%)。学歴別では旧制中等学校以上のものは、「している」が二五%もあるが、それ未満の学歴では大勢にすぎない。

それではどんなことをしているかといえば(東京)、活花、編物、茶道がいちばん多いが、どれも約三%の主婦によつてされている。以下、長唄、洋裁、書道、料理などである。

これを少しまとめてみると、けいこごと(生花、茶道、長唄、書道、三味線、日本舞踊、琴、ピアノ、謡曲、洋舞、詩吟、民謡、仕舞が二〇%、実用をかねたこと編物、洋裁、料理、手芸、和裁など)が五%、教養(語学、読書その他の研究など)が二%である。

けいこごとと勉強

あなたは何かおけいこごとをしたり、勉強したりしていますか、それは何ですか。

東京、藤沢では、「している」ものが約一五%であるが、二村では三%にすぎない。

東京についてみると、年令別では四〇才台が他の年令より「している」が多い(二〇%)。学歴別では旧制中等学校以上のものは、「している」が二五%もあるが、それ未満の学歴では大勢にすぎない。

それではどんなことをしているかといえば(東京)、活花、編物、茶道がいちばん多いが、どれも約三%の主婦によつてされている。以下、長唄、洋裁、書道、料理などである。

これを少しまとめてみると、けいこごと(生花、茶道、長唄、書道、三味線、日本舞踊、琴、ピアノ、謡曲、洋舞、詩吟、民謡、仕舞が二〇%、実用をかねたこと編物、洋裁、料理、手芸、和裁など)が五%、教養(語学、読書その他の研究など)が二%である。

合 合 (b) 楽しみかどうか

	楽しみな方	時による	楽しみでない	他	不明	計
東京	57	21	12	9	1	100
藤沢	50	23	5	20	2	100
田富	91	5	2	1	1	100
平磯	71	11	16	—	2	100

雑誌や本の購入

	よく買う	時々買う	買わない	その他	不明	計
東京	31	34	31	3	1	100
藤沢	28	30	37	5	—	100
田富	23	28	46	3	—	100
平磯	6	25	67	2	—	100

東京と藤沢は「出ない」が約五〇%である。平磯もこれに近く、「出ない」が六〇%ある。しかし農村の田富は「よく出る」が五八%に達している。

出席するものに楽しみか否かをきくと、東京、藤沢では約半分が「楽しみ」と答えているが、田富、平磯では「楽しみ」が九〇%、七〇%に達している。

雑誌や本の購入

あなたは自分の読みたい雑誌や本を買うことがありますか。

東京、藤沢ではほとんど同じ分布で「よく買う」、「時々買う」、「買わない」は約三分の一ずつである。田富はそれより「買わない」が多くなる。農村の平磯は「よく買う」は六%にすぎず、「買わない」が六七%もある。東京についてみると、年令別には、若いものほど「よく買う」が多く、二〇才台四二%、五〇才以上二〇%、「買わない」は二〇才台一五%、五〇才以上五〇%である。学歴別でも差がはっきりしてをり、小学校以下では九%、旧中学校卒以上で四七%になっている。

都市主婦の生活時間

全国二八都市からえらんだ四、二三四世帯の主婦について、平日の家事に従事した時間が何時間であるかをみると、五〜七時間のものが全体の二四%で最も多く、ついで三〜五時間、七〜九時間がそれぞれ一八・八%、一八・二%で平均七時間八分となっている。

また、主婦のもつ一日の自由時間の長さは平均三時間三十分で、二〜三時間をもつとも多くて二二・六%、ついで三〜四時間、四〜五時間とつづいている。さらに自由時間に何をしていますかをみると、「ラジオ・テレビ・新聞」の七六%について、「この寝等の休息」「読書」「雑談」と答えたものが多い。また職業別では、職員世帯で「読書」や「けいこごと」、労働者で「雑談」「この寝」「映画」、個人営業世帯で「この寝」「雑談」「買物」、会社団体などの役員世帯で「読書」や「雑談」などが多くなっており、所得階層別にみれば、低所得層で「雑談」「この寝」「映画」などが多く、「読書」「けいこごと」と「その他」に比べて多い。(資料出所 経済企画庁・消費者動向予測調査昭和三五年度下期)

余暇時間の過ごし方 (単位 %)

	その他	散歩	映画	日曜大工	料理	読書	買物	雑談	寝る	その他	ラジオ
総数	21.8	1.9	3.2	3.0	6.1	12.3	33.9	32.2	34.1	76.1	76.1
勤労者	22.7	1.9	3.2	3.4	7.0	11.3	38.0	31.2	32.6	76.9	76.9
職員	22.3	1.7	2.7	4.0	9.0	10.7	44.7	27.9	30.0	78.9	78.9
労働者	23.3	2.3	4.0	2.4	3.5	12.3	26.9	36.8	36.1	73.4	73.4
個人営業	19.9	2.0	2.9	1.7	4.2	14.1	23.7	34.6	35.3	77.1	77.1
会社・団体役員	21.9	1.4	2.1	5.5	9.6	12.3	35.6	34.2	26.7	79.5	79.5
その他の自由業者	21.1	1.9	4.4	2.5	4.1	14.8	31.1	32.7	45.3	65.7	65.7
所得階層別											
30万円未満	22.0	3.2	3.8	2.9	3.7	13.9	28.8	38.3	38.2	68.2	68.2
30~60万円未満	21.9	1.5	3.2	2.8	7.0	11.4	36.3	30.9	32.0	79.5	79.5
60万円以上	21.8	0.9	2.5	3.8	7.7	11.6	36.6	27.4	32.1	80.5	80.5

ラジオの番組について

	主人の番組をかけることが多い	主人と自分の番組を半々かける	自分の番組をかけることが多い	他	計
東京	55	21	9	15	100
横浜	58	13	7	22	100
田舎	61	22	3	14	100
平磯	68	15	3	14	100

家庭用品

どこにも一番あるものは、「ラジオ」で九〇%を占めている。つぎは「電気アイロン」であるが、東京、横浜、田舎は九〇%、七九%であり、平磯ではこの三地点より少なく五七%にすぎない。「ミシン」も平磯は三九%で他の三地点の六〇%より少ない。電気洗濯機は東京、横浜は約二〇%、田舎は一二%、平磯は三%にすぎない。「テレビ」は東京、横浜は一〇%、二村は一%である。

なお、これらの用品と満足度の関係を見ると「電気アイロン」、「ミシン」、「ラジオ」はもっているにもかかわらず満足度に変わりがない。しかし「テレビ」や「電気洗濯機」をもっているものは、もっていないものより、満足度が高い。

ラジオ番組について

ご主人の聞きたい番組とあなたの聞きたい番組とちがうときに、どちらをかけますか。各地点とも大きな差はないが、市のほうが、村よりやや妻の番組のほうにかたよる傾向がみられるが、四地点とも、「主人の番組」が六〇%前後で、「主人と自分が半々」というものが一〇%から二〇%台で、「自分(妻)の番組」というのが一〇%に満たない。東京について、くわしくみても、すべての分類のカテゴリで、「主人の番組」が五〇%を占めている。そうして、年令別に見ても、学歴別(本人および夫の)にみても、職業についているか否かの別、夫の職業別にみても、全く差がみとめられない。

家事生活

家庭生活時間 職業・所得階級	調査世帯数	時間			
		3 時 未 満	3 ~ 5 "	5 ~ 6 "	6 ~ 7 "
総 数	4,134(100.0)	6.7	18.8	12.9	11.2
勤 勞 者	2,629(100.0)	5.1	17.3	12.9	11.9
職 員	1,637(100.0)	4.8	15.8	12.1	12.1
勞 務 者	992(100.0)	5.7	20.0	14.2	11.6
個 人 営 業	1,016(100.0)	9.7	21.6	12.5	9.7
会社・団体などの 役員	149(100.0)	7.4	17.4	15.4	5.4
自由業者・無職・そ の他	340(100.0)	8.8	22.5	12.6	13.2
20 万 円 未 満	468(100.0)	9.4	28.5	14.5	10.0
20 ~ 30 "	749(100.0)	7.1	20.1	14.3	11.9
30 ~ 40 "	913(100.0)	6.6	17.2	10.1	11.5
40 ~ 50 "	612(100.0)	4.7	17.0	11.9	12.9
50 ~ 60 "	463(100.0)	9.1	16.2	13.4	11.0
60 ~ 70 "	266(100.0)	3.8	15.4	13.5	11.9
70 ~ 80 "	167(100.0)	3.0	15.6	18.6	12.6
80 ~ 90 "	100(100.0)	5.0	13.0	12.0	11.0
90 ~ 100 "	48(100.0)	—	20.9	10.4	16.7
100 万 円 以 上	197(100.0)	8.1	16.8	11.2	7.6
わ か ら な い	151(100.0)	6.0	22.5	15.9	6.0

活 動 時 間 (単位:分, 世帯)

7 ~ 9 "	9 ~ 11 "	13 ~ 13 "	13 時 以 上	わ か ら な い	主婦なし	平 均 時 間 (単位:時 分)
18.2	10.2	6.9	7.6	0.5	1.0	7.08
19.7	16.6	7.3	7.9	0.4	0.9	7.21
20.0	17.2	8.4	8.1	0.5	1.0	7.33
19.0	15.6	5.4	7.5	0.2	0.8	6.59
14.6	15.6	7.0	7.9	0.6	0.8	6.48
24.2	19.2	1.3	8.7	—	0.7	7.06
15.0	13.2	5.9	4.7	1.5	2.6	6.20
12.2	10.0	6.0	5.1	1.3	2.6	6.05
15.2	14.7	7.5	7.7	0.4	1.1	6.57
20.3	18.5	6.9	7.3	0.5	1.1	7.30
19.8	17.0	6.4	9.6	0.2	0.5	7.24
18.3	15.6	8.0	7.6	0.2	0.6	7.04
17.7	21.0	7.5	8.3	0.4	1.1	7.29
23.2	15.0	5.4	6.0	0.6	—	7.04
24.0	16.0	8.0	11.0	—	—	7.43
20.9	18.7	6.2	6.2	—	—	7.21
21.8	22.3	5.1	7.1	—	—	7.15
17.2	11.3	7.9	8.6	2.6	2.0	6.46

余 暇 時 間

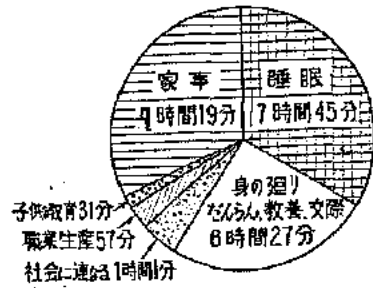
余暇時間 職業・所得階層	調査世帯数	1 時 間 未満	1 ～ 2 "	2 ～ 3 "	3 ～ 4 "
総 数	4,134(100.0)	1.1	10.6	22.6	19.5
勤 労 者	2,629(100.0)	0.8	9.2	21.6	19.3
職 員	1,637(100.0)	0.6	8.3	20.2	19.9
労 務 者	992(100.0)	1.2	10.6	24.1	18.2
個 人 営 業	1,016(100.0)	1.6	16.0	26.0	20.4
会社・団体などの 役員	149(100.0)	0.7	7.4	16.8	20.8
自由業者・無職・そ の他	340(100.0)	1.5	7.1	22.0	17.9
20 万 円 未 満	468(100.0)	2.1	12.6	23.1	17.5
20 ～ 30 "	749(100.0)	1.5	12.8	24.2	19.4
30 ～ 40 "	913(100.0)	1.0	10.2	22.5	20.3
40 ～ 50 "	612(100.0)	0.5	12.6	24.5	19.0
50 ～ 60 "	463(100.0)	1.1	8.6	19.0	19.9
60 ～ 70 "	263(100.0)	1.1	7.5	24.9	18.8
70 ～ 80 "	187(100.0)	0.6	12.0	18.0	18.0
80 ～ 90 "	100(100.0)	1.0	5.0	20.0	27.0
90 ～ 100 "	48(100.0)	—	10.4	16.7	14.6
100 万 円 以 上	197(100.0)	—	6.1	17.3	22.8
わ か ら な い	151(100.0)	0.7	7.9	25.3	17.9

の 分 布

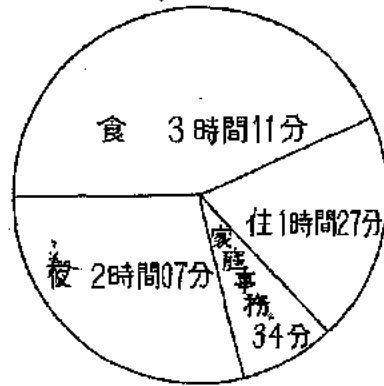
(単位:%, 世帯)

4 ～ 5 "	5 ～ 6 "	6 時 間 以 上	な い	わ か ら な い	主婦なし	平均時間 (単位:時 分)
15.8	10.1	16.3	1.8	1.2	1.0	3.38
17.1	10.8	18.0	1.3	1.0	0.9	3.48
17.3	11.6	19.5	0.5	1.1	1.0	3.56
17.0	9.4	15.5	2.5	0.7	0.8	3.35
12.5	8.0	9.8	3.6	1.3	0.8	3.01
20.8	11.4	20.1	0.7	0.6	0.7	3.59
12.0	11.2	21.2	0.9	3.0	2.6	4.00
15.6	7.7	13.5	2.8	2.5	2.6	3.23
14.3	9.1	14.6	2.1	0.9	1.1	3.23
16.1	9.6	15.6	2.2	1.4	1.1	3.37
14.9	9.6	12.0	0.8	0.6	0.5	3.37
17.5	12.3	19.4	0.9	0.7	0.6	3.55
20.3	9.8	13.9	1.1	1.5	1.1	3.37
14.4	11.4	21.4	3.0	1.2	—	3.47
17.0	14.0	15.0	1.0	—	—	3.50
12.5	16.7	27.0	2.1	—	—	4.19
19.8	14.2	19.3	0.5	—	—	4.04
9.3	10.6	18.5	3.3	3.3	2.0	3.44

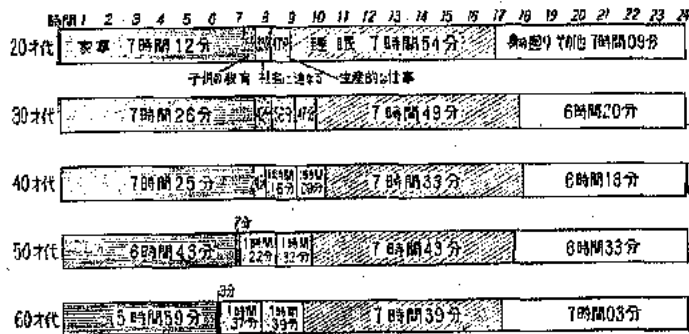
一日の生活時間



家事 7 時間 19 分の内容



年代別生活時間



一日のくらし(一週間の平均)

(衣食住の運営と家庭事務)

子どもの教育

職業又は生産

身の廻りだんらん

(娯楽教養)

社会に連なるため
睡眠に(ひるねも)

主婦の二四時間

——全国二、〇〇〇人の主婦の時間しらべ——

この調査は友の会を中心とする二、〇〇〇人の主婦の日頃の生活の二四時間のありのままを一週間記録したものである。

調査対象

家庭の職業	サラーマン	九、三一〇人	四国	四二七人
自由業	九、九七人	九州	一、〇八〇人	
商家	五、九四四人	二〇才代	一、六二二人	
農業	一、四四四人	三〇才代	五、五五七人	
地方	七、二九人	四〇才代	二、八九一人	
北海道	六、一〇人	五〇才代	八、六六人	
東北	八、四二二人	六〇才以上	一一九人	
信越	三、二六三人	住宅		
関東	一、〇九一人	一戸建	九、三九一人	
東海	一、八七五人	アパート	一、二三四人	
近畿	一、二八人	間借り	二、九〇人	
中国		その他	一、三〇人	

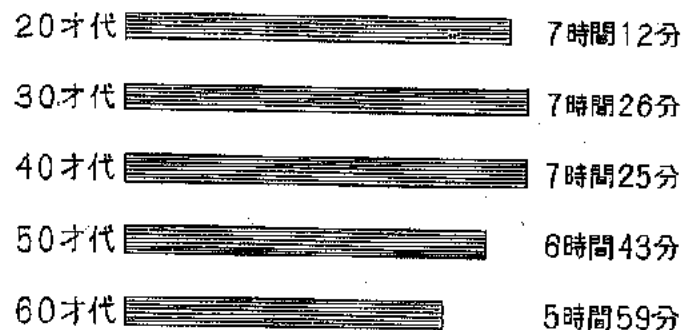


職業

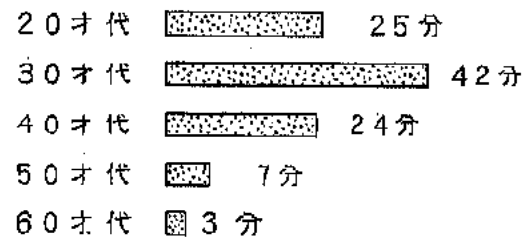
殆んどが家庭の主婦

一日に六時間以上の職業をもつ人……一九二二人

家事に使った時間



子供教育の平均時間



こどもの育ち盛りの三〇代、四〇代の主婦が最も忙しい。身の廻りやだんらんなどのゆとりは、新家庭時代に比べるとはるかに少ない。

家事の時間がその担当時代に多いのは当然のことであるが、その責任を離れつつある年令の主婦たちが、生涯や社会的な奉仕にその時間をよりむけていることがわかる。

(1) 年代別 家事に使う時間

平均は二〇才代の七時間二分から四〇才代にかけて多くなり、六〇才、五〇才代とも少なくなる。これは家庭の電化、家族構成の単純化によつて一般の家事労力が軽減されていることを反映している。

内容はどうなっているかを見ると、

一、食(買物、調理、片付け等)

三時間一一分

二、衣(洗濯、アイロンかけ、縫物、編物等)

二時間〇七分

三、住(内外の掃除、室の装飾、庭の手入れ等)

一時間二七分

四、家庭事務(記録、通信等)

三四分

(2) 睡眠時間

睡眠六時間以下の人は全体の二〇にすぎなかった。しかし起床就寝時間は不規則な人がかなりある。

(3) 子供の教育時間

ここに含まれたのは、学校の参観、復習やピアノなどを共にした、純粋に母と子が相對した時間のみである。

(4) 職業・生産的仕事の時間

これはきまつた職業についている人ばかりでなく、手芸でも園芸でも家庭教師でも、自分の才能をはたらかして幾らかの収入を伴うものも入れている。家事専一でなく、主婦が何か収入をとまう働きをするようになった。

(5) 身の廻り、団らん教養、交際の時間

近頃主婦自身の時間がふえてきた。読書は新聞を含めて朝一五分、夜二五分程度で、テレビを見る時間が非常にふえている。自らつくり出す時間は余程努めないと取れない。

(6) 社会奉仕等の時間

主婦も社会の一員である。家庭の問題は社会にも通じている。高い年令層程、社会に奉仕する時間を多くもっている。

東京都民の生活時間

設計についての態度

この資料は、昭和三十四年七月に東京大学新聞研究所が都内の有権者九一四人（男五七三人、女三四一人）を対象に実施した生活時間に関する調査から抜粋したものである。

この調査によれば、起きている時間は、男子は平均一六・二時間、女子は平均一六・六時間で、これから労働時間（第一表）第三表に掲載した業務、準業務、教育時間を合計したもので、男子は二・八時間、女子は九・三時間と、生活必需時間（第四表男子一・二時間、女子二時間）を差し引いた残りを余暇時間としている。その余暇時間は男子六・七時間女子五・三時間である。

(1) 労働時間

第1表～第4表を合計したものを労働時間とすれば

その平均は {男 8.3時間
女 9.3時間} である。

第1表 業務時間(%)

	総数	0	～4時間	～8時間	～12時間	～12時間1分以上
男	199	21.3	6.8	20.1	35.5	8.0
女	100	62.6	8.5	14.4	10.8	3.2

出 勤務先、帳簿整理、内職、アルバイトに要した時間

第2表 準業務時間

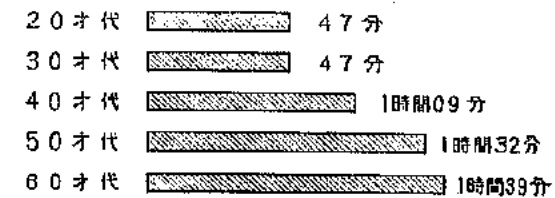
	総数	0	～2時間	～4時間	～6時間	6時間1分以上
男	100	43.1	38.6	12.3	4.6	1.8
女	000	83.0	10.9	4.7	0.6	0.3

出 勉強(学生)、読書(教師、研究者)、組合活動、通勤に要した時間

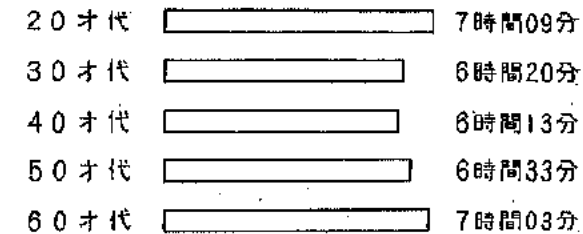
睡眠時間



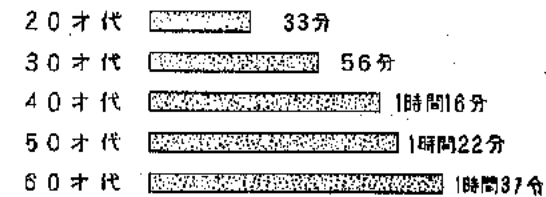
職業・生産的仕事の時間



身の廻りの平均時間



社会奉仕等の平均時間



(資料出所…婦人の友社「家庭生活の朝昼夕」六頁～一三頁より抜粋)

第7表 仲 間 づ き 合

	総 数	0	～1時間	～2時間	分類不能
男	100	76.8	14.8	8.0	0.2
女	100	72.5	16.7	10.1	0.6

注 仲間と雑談、来客接待(親しい人)、手紙かき

第8表 無 為

	総 数	0	～1時間	～2時間	分類不能
男	100	47.1	44.0	8.7	0.2
女	100	57.2	32.1	11.6	0.6

注 ぼんやりしている、昼寝など

第9表 マス・メ デ ィ ア

	総 数	0	～2時間	～4時間	4時間1分以上
男	100	13.1	47.7	27.3	11.8
女	100	26.4	41.7	18.4	12.6

注 新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、週刊誌

第10表 趣 味

	総 数	0	～1時間	～2時間	分類不能
男	100	70.1	19.9	9.9	0.2
女	100	81.7	11.4	6.5	0.6

第3表 家事、育児、教育時間(%)

	総 数	0	～4時間	～8時間	～12時間	12時間1分以上
男	100	73.0	24.1	1.9	0.5	0.2
女	100	7.9	28.7	30.0	24.6	7.1

注 掃除、買物、洗濯、食事の準備、後かたづけ、裁縫、洋裁あみもの、子供の世話、子供の勉強などに要した時間

(2) 生活必需時間

第4表 生活必需時間(%)

	総 数	0～1時間	～2時間	～3時間	～4時間	4時間1分以上	平 均
男	100	21.1	50.4	30.7	6.6	1.2	1.2 (時間)
女	100	8.8	43.2	33.8	12.3	1.9	2

(3) 余暇時間

第5表～第18表までを余暇時間とすれば、その平均は {男 6.7時間
女 5.3時間} である。

第5表 社交宗教的行事

	総 数	0	～1時間	～2時間	分類不能
男	100	93.4	3.3	3.1	0.2
女	100	81.4	5.3	7.6	0.6

注 冠婚葬祭、墓参り、法事に費した時間

第6表 家族だんらん

	総 数	0	～1時間	～2時間	分類不能
男	100	76.0	19.0	4.5	0.2
女	100	62.7	27.0	9.1	0.6

注 家族と雑談、子供の遊び相手

第 15 表 娯 楽

	総 数	0	～1時間	～2時間	2時間 1分以上	分類不能
男	100	77.8	8.7	13.1	0	0.2
女	100	93.6	1.8	4.4	0	0.6

例 第16表～第18表まで合計したもの

第 16 表 勝 負 事

	総 数	0	～1時間	分類不能
男	100	91.4	8.5	0.2
女	100	98.8	0.6	0.6

例 マージャン、碁、将棋、パチンコ、競馬など

第 17 表 ぶらつき、飲酒、喫茶店

	総 数	0	～1時間	分類不能
男	100	90.0	9.3	0.2
女	100	96.1	3.2	0.6

第 18 表 映画、観劇 など

	総 数	0	～1時間	分類不能
男	100	92.8	7.1	0.2
女	100	96.0	3.5	0.6

例 スポーツをみることも含む

第 11 表 スポーツ、散歩

	総 数	0	～1時間	分類不能
男	100	82.9	16.9	0.2
女	100	97.1	2.1	0.6

第 12 表 読 書 の 日 記

	総 数	0	～1時間	分類不能
男	100	88.5	11.2	0.2
女	100	92.1	7.3	0.6

第 13 表 生 物 愛 好

	総 数	0	～1時間	分類不能
男	100	94.0	5.8	0.2
女	100	95.9	3.5	0.6

例 小鳥の世話、庭いじりなど

第 14 表 稽 古 事

	総 数	0	～1時間	分類不能
男	100	98.4	1.4	0.2
女	100	94.7	4.7	0.6

第 20 表 あなたはいまの世の中がどうも忙しすぎて、心にゆとりがないという感じを受けることがありますか。そういう感じではありませんか。

	総 数	非常に強 く感じる	感じる	どちらとも いえない	それほど 感じない	全然感じ ない	わからな い	無 記 入
男	100	29.2	29.7	8.7	17.3	14.7	0.3	0.2
女	100	24.9	26.6	9.4	24.6	13.4	1.2	0

第 21 表 あなたは人々が日ごろ自分自身の生活だけを大事にして、近所
同士のつきあいが親密でないと感じるがありますか、そ
ういうことはありませんか。

	総 数	痛感する	多少感じ る	どちらでも いえない	感じない	わからな い	そ の 他
男	100	16.2	22.3	5.0	54.0	1.4	1.0
女	100	9.1	20.2	7.2	60.5	2.3	0.9

第 22 表 あなたは多少でも暇があつたら何かしないでいられない性分
ですか、それとも何をするとなくくってしまうような性分
ですか。

	総 数	何かしないで はいられない	どちらとも いえない	何をすると もなく	わからな い	そ の 他
男	100	54.5	12.6	31.2	0.2	1.7
女	100	70.4	7.4	18.2	1.8	2.1

(2) 生活時間設計についての意識

第 19 表 仕事に対する態度を次のような型にわけるとしたら、あなたの
仕事についての気持ちないしは考え方は次のうちどれが一番近い
と思いますか。無理かもしれませんが一つだけえらんで下さい。

1. 仕事をすることは人間の義務であるから、時間のある限りは働かなければならない。
2. 仕事は仕事、遊びは遊びである。決められた時間はきちんと働くが仕事から解放された時間は全く仕事のことを忘れて遊ぶ。
3. 仕事は食うための道具である。これは適当にやつておいて、できるだけ楽しく遊びたい。
4. 仕事は楽しみの一つである。別に仕事から解放されて遊びたいというようなことは考えたことがない。
5. 仕事は好きだが仕事のためのエネルギーを養うため必要なだけの休養や遊びの時間が欲しい。
6. 人生はどうあくせくしても始まらない、気ままにしたいことをしたらよいと思う。

	総 数	1	2	3	4	5	6	わから ない	無記入
男	100	18.8	39.4	4.2	12.4	20.8	1.7	2.4	0.2
女	100	26.3	29.8	2.9	15.3	19.1	2.1	9.5	0.9

これらのうちで一番気に入らない考え方はどれでしょうか。これも無理かもしれませんが一つだけえらんで下さい。

	総 数	1	2	3	4	5	6	わから ない	無記入
男	100	12.7	3.0	20.6	4.2	1.7	49.6	7.7	0.5
女	100	9.4	2.1	17.0	2.9	1.2	52.7	11.4	3.2

東京都婦人の自由時間の実態

産業のオートメーション化が進むにつれて、余暇の問題が大きくなり上げられるようになり、最近では、新しい学問の対象とさえなりつつある。ことに家庭に於いては、電化を中心とする生活の合理化が、相当の余裕時間を生み出している。しかし、問題はその使い方であり、余暇をどう利用するかが、生活を向上させるか否かの別れ道になる。また、一方では、農村において、耕作の機械化が多角経営へと歩を進めさせ、このため、かえって労働が過重になったとの声も聞かれる。そこで、余暇の実態と、その利用について聞いて見た。

(一) 自由時間(余暇)

自由時間の全くないものは全体の二四・二%であり、八五・八%のものは、多かれ少なかれ自由時間をもっている。このうち、一日に二〜三時間をもつものが最も多くて全体の二四・三%、ついで四時間以上の一四・七%、一〜二時間の二七・八%、三〜四時間の二四・二%、一時間未満の九・四%の順になっている。

これを地域別に見ると、自由時間の全くないものは、区部、市部、町村部の順で多いが、三時間以上自由時間のあるものも区部、市部、町村部の順で多く、二時間未満のものは反対に町村部、市部、郡部の順となっており、区部では、生活程度の格差の大きいことがうかがえる。

自由時間を多くもっているものは、年分別では二〇〜二四才、職業別では事務専門技術職のものであり、このクラスは、いわゆる結婚前のサラリー・ガールが多く、家庭においても職場においても比較的責任の軽い地位にあるためである。このことは、未婚者だけを対象とした場合、全く自由時間がないというものが、わずかに五・四%ということからも推察できる。また、五〇才代のものについては、全く自由時間がないものが一五・四%ある反面、四時間以上あるという

ものが二九・五%もある。

これは、この年代には主婦が多く、一応生活も安定し、育児にもあまり手がかからなくなつて、ある程度家事から解放されているためであろう。

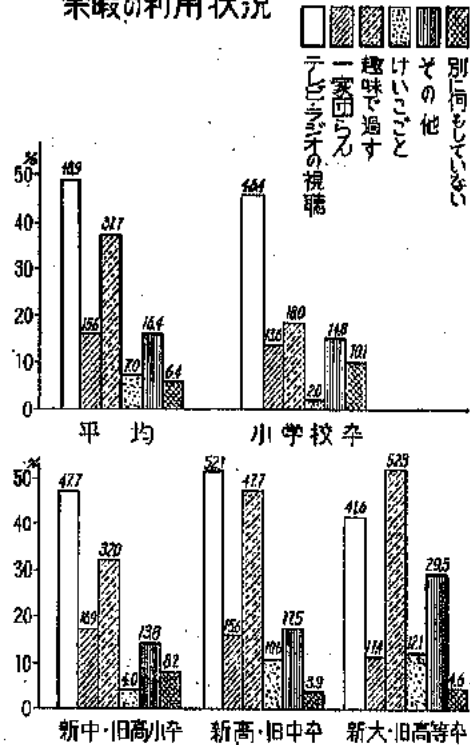
反対に、自由時間の全くないものは、年令では四〇才代、職業別では商工・サービス業のものに多く、それぞれ一七・八%および二四・三%に及んでいるのは、その家庭における地位及び現在の東京における商工業の多くが、経営規模としては中小企業に属し、家族従業員をその重要な働き手とする個人経営的色彩の強いものであつて、勤務時間もその経営時間にひとしく長時間にわたるものであることが推察される。

また、これを生活程度の面から見ると、その程度が低くなるにつれて、著しく自由時間が少なくなつており、配偶関係からみて、夫と生死別したもの時間の余裕がないのは、必然的に長時間働かざるをえないためであろう。

あなた自身としての自由に使える時間(余暇)
は1日平均何時間ありますか

時間		1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	4時間以上	時間不明	全くない
分類		%	%	%	%	%	%	%
平均		9.4	17.8	24.3	14.2	19.7	0.4	14.2
地域別	区	8.1	17.5	24.1	14.7	20.4	0.4	14.8
	市	14.6	18.6	26.0	13.1	17.1	—	10.6
	町	23.7	22.0	24.6	7.6	11.0	0.9	10.2
	村	7.3	14.6	24.7	21.0	23.2	0.9	8.3
年令別	20才以下	11.0	18.3	27.2	11.2	16.9	0.2	15.2
	30才以下	11.6	21.1	21.8	11.8	15.9	—	17.8
	40才以下	7.7	12.3	21.8	12.6	29.5	0.7	15.4
	50才以上	16.7	23.8	31.0	4.8	2.4	2.3	19.0
職業別	農・林・漁・業	11.0	23.9	22.4	7.7	10.7	—	24.3
	商・工・業	6.0	18.8	33.8	20.7	14.3	0.8	5.8
	事務・専門技術職	8.6	17.1	23.3	14.8	21.9	0.3	14.0
	主婦	6.1	17.3	24.3	18.7	26.6	0.1	8.9
生活程度	上	8.2	17.7	26.2	14.2	19.6	0.4	12.7
	中	13.6	18.1	20.7	11.9	12.0	0.2	23.5
	下	9.4	18.4	23.8	13.5	18.6	0.3	16.0
	現在結婚している	13.7	17.8	21.9	7.3	19.2	—	20.1
結婚しているか	死別	7.7	15.8	26.9	20.0	23.5	0.7	5.4
	未婚							

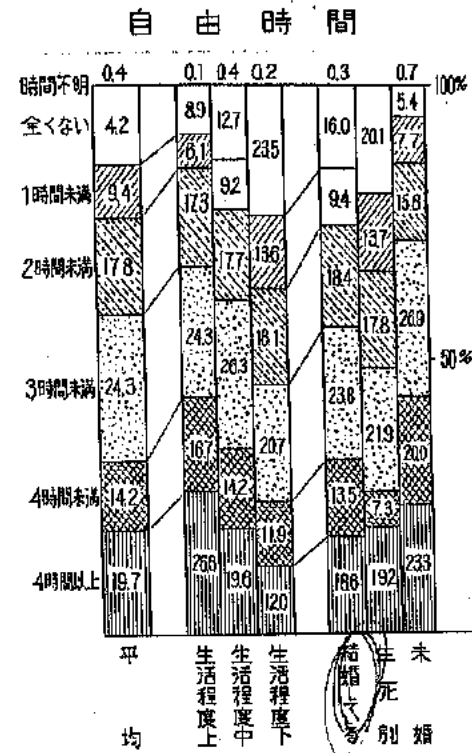
余暇の利用状況



自由時間をどのように過しているか

分類	けいここと (%)	ラジオ・テレビを視聴する (%)	自分の趣味 (%)	一家団らん (%)	その他 (%)	何もしない (%)
平均	7.0	48.9	37.7	15.6	16.4	6.4
学歴						
小学校卒	2.0	46.4	18.0	13.6	14.8	10.1
新中・旧高小卒	4.0	47.7	32.0	16.9	13.8	8.2
新高・旧中卒	10.6	52.1	47.4	15.6	17.5	3.9
新大・旧高等卒	12.1	41.6	52.3	11.4	29.5	4.0
生活程度						
上	3.5	41.9	30.1	9.9	14.9	8.7
中	6.4	48.7	36.0	16.9	17.4	7.0
下	10.9	55.3	46.7	18.2	16.2	3.4

余暇利用



余暇をどのように過しているかをたずねたところ
テレビ、ラジオを視聴する
自分の趣味で過す
一家だんらん
けいここと
その他
何もしない
となっている。

四八・九%
三七・七%
一五・六%
七・〇%
一六・四%
六・四%

これを分類別にみると、年令二〇～二五才のものでは、何もしないものは少なく(六・四%)、自分の趣味で過すもの(五〇・八%)、けいこことをしているもの(二五・二%)が多くなっている。反対に五〇才代では、何もしないものが多い(二五・五%)、自分の趣味で過すもの(二五・五%)、けいこことをしているもの(四・六%)が少なくなっている。

教育程度についてこれを見ると、学歴の低いものは何もしないものが多い、逆に自分の趣味で過すもの、けいこことをしているものが少なくなっている。この傾向は、生活程度から見た場合も、全く同様である。

(資料出所 東京都民生局婦人部
都民婦人の意識と実態
—— 婦人問題に関する実態調査 ——)

主婦の就業実態

	仕事の内容					仕事をも っている 世帯比率	家事手伝 のいる 世帯比率
	計	勤めに でる	家業の 手伝い	内職	その他		
一般住宅	100.0	27.5	32.9	26.1	8.5	31.9	12.3
商店街	100.0	—	97.5	0.4	2.1	76.7	24.8
団地	100.0	57.1	—	37.1	5.8	16.7	2.9

余暇時間の増減とその理由 (単位 %)

	ふえた と 答えた 世帯比率	ふえた理由						計
		洗濯機が 入ったから	子供の世 話がなくなったから	中・手 伝いが入ったから	勤めを やめたから	自ら工 事をした	夫の生活 が忙しなくなった	
一般住宅	33.5	22.6	57.0	7.9	2.3	10.2	—	100.0
商店街	17.6	36.7	32.4	20.6	1.5	8.8	—	100.0
団地	35.5	21.4	36.9	—	33.9	7.8	—	100.0

このように、団地に比べて、商店街では、家事時間も睡眠時間も短い。これには二つの理由が考えられる。第一はそれだけ余暇時間が多いということ。第二は家業の手伝いなどの収入生活時間が多く、そのしわよせとして家事と睡眠時間が圧迫されている。

まず余暇生活時間を間接的に推定してみよう。

上の表は主婦の就業状況を三つのグループ別にみたものであるが、やはり商店街の就業率が最も多く、全体の七六・七％が仕事をもっており、その内容をみると、そのほとんど（九七・五％）が家業の補助労働という形態をとっている。これに対して、団地は就業率が最も少なく（一六・七％）その内容はいわゆる共稼ぎが五七・一％で最も多く、内職が三七・一％でこれにしている。そして一般住宅地は両者のほぼ中間的性格をもっているものと思われる。

余暇時間がふえたと答えた世帯の比率は、団地が三五・五％で最も多く、逆に商店街が一七・六％が最も少ない。余暇時間がふえた理由について回答した内容を見ると、全般的に洗濯機の果たした役割が高く評価されており、家族

住宅地・商店街・団地の余暇

——西武池袋線沿線地帯の主婦の生活実態——

調査対象として西武池袋線沿線（東京・池袋・埼玉・飯能）をとり上げ、九つの地域に分けた。すなわち、まず池袋からの距離によって近接地域、中間地域、遠隔地域の三つに分け、また性格によって、一般住宅地、商店街、団地の三つに分け、これらの組合せによって九つの分類をした。

家庭の主婦が家事から解放される時間、つまり余暇時間をもっているか、また、それが世帯の性格によって、どの程度の相違があるか。この調査は、家事時間、睡眠時間等、その周辺の生活時間を明らかにすることによって、間接的に余暇時間を推定したものである。

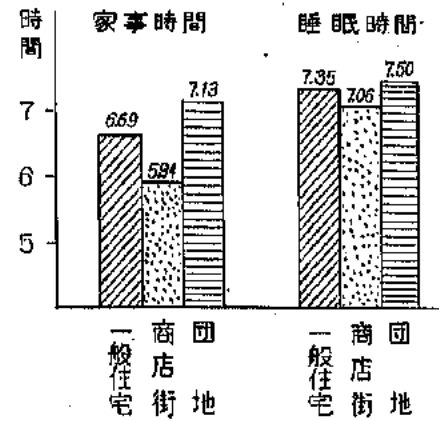
(一) 家事時間および睡眠時間

第一図は、調査地帯を一般住宅地、商店街、団地の三つの地域会社に分類して、主婦一人当りの家事時間（炊事、掃除、洗濯、育児、子供の勉強、買物等）および睡眠時間を示したものである。

まず家事時間を見ると、一般住宅が六六・九時間、商店街が五・九四時間、団地が七・一三時間となっており、団地の主婦が多く、商店街の主婦と対照的である。

睡眠時間では、明かに団地より商店街の主婦の方が少くしか睡眠時間をとっていない。

第 1 図



家事時間 (家事従業時間総数)
人 数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	計	一人当り 家事時間 (時間)
近接一般住宅地	—	—	10.2	10.2	20.4	22.8	—	14.0	2.9	9.0	2.0	6.5	2.0	100	6.7
中間一般住宅地	—	—	13.0	16.7	11.1	9.2	—	13.0	1.9	20.4	—	11.1	3.6	100	7.3
遠隔一般住宅地	—	2.7	9.9	10.8	24.3	17.2	—	7.2	5.4	10.8	6.3	5.4	—	100	6.5
近接商店街	—	6.7	15.5	10.0	21.1	12.2	7.8	4.4	—	13.3	6.7	2.3	—	100	6.0
中間商店街	—	—	5.1	16.5	12.6	25.3	16.5	10.1	3.8	2.5	—	3.8	3.8	100	6.5
遠隔商店街	3.4	7.7	21.4	9.4	21.4	5.1	1.7	7.7	5.1	12.0	5.1	—	—	100	5.5
近接団地	—	5.6	12.9	22.2	18.5	11.1	1.9	7.4	—	16.7	—	3.7	—	100	5.8
中間団地	—	—	—	11.7	18.1	11.7	10.4	9.1	5.2	14.3	2.6	10.4	6.5	100	7.8
遠隔団地	—	—	4.3	17.4	13.0	8.7	13.0	5.8	4.3	17.6	1.4	8.7	5.8	100	7.4

睡眠時間 1人当り平均 (総時間数)
対象者数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計	睡眠時間 (時間)
近接一般住宅地	—	—	—	1.5	5.1	26.0	—	61.8	4.1	1.5	—	100	7.3
中間一般住宅地	—	—	—	—	5.4	35.1	—	48.6	8.1	2.7	—	100	7.3
遠隔一般住宅地	—	—	—	—	4.1	30.1	—	56.2	4.1	4.1	1.4	100	7.4
近接商店街	—	—	—	—	5.4	27.2	31.5	27.2	6.5	2.2	—	100	7.1
中間商店街	—	—	—	—	1.3	51.8	30.8	12.8	3.8	—	—	100	6.7
遠隔商店街	—	—	—	—	1.6	19.2	32.8	42.4	2.4	1.6	—	100	7.3
近接団地	—	—	—	—	—	10.9	43.6	38.2	7.3	—	—	100	7.4
中間団地	—	—	—	—	—	10.2	37.2	42.3	5.2	2.6	2.6	100	7.6
遠隔団地	—	—	—	—	1.4	5.7	51.5	32.8	4.3	4.3	—	100	7.4

主婦の余暇利用の実態

	新聞	テレビ	休息	近き所 遊び	けいこ などの 趣味	読書
一般住宅	48.5	48.5	23.7	12.9	5.4	19.6
商店街	25.5	42.9	23.2	3.9	1.6	10.3
団地	67.1	61.9	20.5	5.2	10.0	27.6

※ テレビ視聴時間：一般住宅2.8時間、商店街2.0時間、
団地3.3時間

余暇利用について今後の希望

	休 息	けいこ 趣味	読 書
一般住宅	7.7	28.7	10.8
商店街	24.5	14.5	10.3
団地	1.9	40.5	7.6

(注) 平日における余暇利用の実態

構成や就業状況のように外的要素が大きな影響力をもち、生活の合理化などによる余暇時間の創出といった要素は比較的少ないことなどが目立っている。

新聞を毎日きまつて読んでいる主婦は、団地では全体の六七・一%を占めるのに反し、商店街では二五・五%で非常に低い。新聞に限らず休息時間を除いては、全般的に商店街ではその比率が低い。特に新聞、趣味ごと、読書などで差は大きい。これは二つの意味をもっているようである。まず商店街では絶対的に余暇時間が少ないこと、つぎは、教育水準の差である。毎日きまつて休息をとるという世帯の比率は、商店街が二四・五%で団地の一・九%と比べて非常に多いという点が特徴である。つまり、団地の主婦はより多くの教養と就業を求め、商店街の主婦はまず休息を望んでいる。(上表参照)

この中で特に興味をひく点は、団地の主婦が案外多く近所づき会いをしていることであり、その比率は、商店街では一三・二%であるのに対し、団地では三〇・五%で非常に高く、私たちの予想外の結果を示している。

主婦の余暇利用

○=いつもしているもの
△=ときどきしているもの

	ラジオ		新聞		テレビ		休息		近所づきあい		けいこ事趣味	
	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△
近接一般住宅地	40.4	12.7	57.0	17.0	48.4	14.7	25.3	12.7	14.0	26.7	6.0	12.3
中間一般住宅地	43.5	1.2	65.0	18.4	51.7	6.7	13.3	35.0	15.0	45.0	10.0	16.7
遠隔一般住宅地	20.0	4.2	56.0	12.5	47.5	12.5	25.0	18.3	9.2	28.1	2.5	4.2
近接商店街	22.0	10.0	20.0	24.0	44.0	23.0	23.0	11.0	4.0	12.0	2.0	3.0
中間商店街	48.8	5.0	10.0	46.2	21.2	66.3	23.8	16.3	1.3	15.0	1.3	6.3
遠隔商店街	20.0	7.7	39.2	11.5	55.4	14.5	13.8	14.5	5.4	13.1	1.5	6.1
近接団地	30.9	5.5	51.0	3.6	58.0	5.5	30.9	10.9	1.8	7.3	10.9	20.9
中間団地	27.0	8.2	60.0	5.9	57.6	1.2	23.6	14.1	3.6	16.5	8.2	21.2
遠隔団地	30.8	7.1	88.5	8.6	70.0	2.9	8.1	47.1	10.0	58.5	11.4	40.0

	映画		読書		運動		買い物ついでの散歩		庭いじり		=対象者数を100.0%とした比率
	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	
近接一般住宅地	0.3	17.7	2.2	28.7	0.7	3.7	8.7	15.7	7.0	17.7	
中間一般住宅地	—	30.0	23.3	30.0	1.7	1.7	3.3	26.6	40.0	20.0	
遠隔一般住宅地	0.8	15.7	11.7	27.4	0.8	—	5.8	15.0	3.3	9.2	
近接商店街	—	12.0	13.0	8.0	—	1.0	1.0	7.0	1.0	—	
中間商店街	—	2.5	5.0	6.3	—	—	—	—	1.3	1.3	
遠隔商店街	0.8	11.5	11.5	21.6	0.8	—	3.8	3.1	1.5	2.3	
近接団地	—	32.9	30.9	30.9	—	1.8	5.5	40.0	—	1.8	
中間団地	2.4	15.3	28.2	36.5	—	1.2	14.1	22.3	5.9	15.3	
遠隔団地	—	20.0	24.1	58.5	—	5.7	7.1	60.0	5.7	31.4	

主婦の余暇時間の減と増加の理由

	ふえた	へつた	変わらない	わからない	計	実数
近接一般住宅地	32.1	16.3	48.4	3.2	100.0%	283
中間一般住宅地	38.6	21.0	36.9	3.5	100.0	57
遠隔一般住宅地	34.6	14.5	49.0	1.9	100.0	110
近接商店街	14.3	11.0	73.6	1.1	100.0	91
中間商店街	5.3	13.0	77.2	1.5	100.0	75
遠隔商店街	28.0	5.1	66.0	0.9	100.0	118
近接団地	31.4	7.9	37.1	23.6	100.0	51
中間団地	30.8	38.2	38.4	2.6	100.0	78
遠隔団地	44.1	42.7	11.7	1.5	100.0	68

余暇時間がふえた理由（ふえたものを100.0%とした比率）

	洗濯機が入った	子供の世話がなくなった	女中・手伝人が入った	勤めなどの仕事をやめた	自ら工夫して生活を合理化
近接一般住宅地	25.2	61.7	3.8	2.8	6.5
中間一般住宅地	8.7	69.5	4.4	—	17.4
遠隔一般住宅地	23.4	40.4	19.2	2.1	14.9
近接商店街	30.0	40.0	25.0	—	5.0
中間商店街	60.0	40.0	—	—	—
遠隔商店街	37.2	28.3	20.9	2.3	11.6
近接団地	60.0	13.3	—	6.7	20.0
中間団地	38.7	45.2	—	3.2	12.9
遠隔団地	1.8	38.6	—	57.8	1.8

主婦のテレビの視聴時間

1. テレビ時間数

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	計	(実数)
										%	
近接一般住宅地	1.5	16.3	29.7	20.9	18.8	8.2	4.1	—	0.5	100.0	196
中間一般住宅地	18.6	7.1	20.9	23.2	18.6	9.3	—	—	2.3	100.0	43
遠隔一般住宅地	1.3	17.7	94.2	26.6	16.4	2.5	1.3	—	—	100.0	79
近接商店街	5.5	41.1	24.6	16.5	6.8	4.1	1.3	—	—	100.0	73
中間商店街	1.4	51.4	36.1	6.9	2.8	—	1.4	—	—	100.0	72
遠隔商店街	—	21.5	45.9	24.5	6.1	2.0	—	—	—	100.0	98
近接団地	—	—	16.5	44.5	27.8	5.6	2.8	2.8	—	100.0	36
中間団地	—	4.8	19.3	30.5	29.0	11.6	3.2	1.6	—	100.0	62
遠隔団地	1.9	9.6	17.3	36.6	25.0	5.8	3.8	—	—	100.0	52

(総テレビ時間数)
(対象者総数)

2. 1人当たりテレビ時間

	総時間数	1人当たり平均
近接一般住宅地	558	2.8
中間一般住宅地	119	2.8
遠隔一般住宅地	200	2.5
近接商店街	147	2.0
中間商店街	119	1.7
遠隔商店街	217	2.2
近接団地	123	3.4
中間団地	210	3.4
遠隔団地	160	3.1

主婦が今後とくにとしたいと考えるもの

(対象者数を100.0%とした比率)

	ラジオ	新聞	テレビ	休息	近所交際	趣味 けいこ事
近接一般住宅街	0.7	1.0	2.0	8.4	0.7	29.9
中間一般住宅街	—	1.7	5.0	10.0	3.6	40.0
遠隔一般住宅街	—	0.8	3.3	5.0	2.5	20.8
近接商店街	1.0	—	3.0	29.0	2.0	15.0
中間商店街	—	—	—	8.8	—	3.8
遠隔商店街	0.8	—	0.8	30.8	3.1	20.8
近接団地	—	—	1.8	—	7.3	34.6
中間団地	—	—	—	2.4	1.2	24.7
遠隔団地	—	—	1.4	2.9	—	64.3

	映画	読書	運動	買物ついで の散歩	庭いじり
近接一般住宅地	7.7	12.4	2.7	4.3	3.0
中間一般住宅地	5.0	16.2	3.6	3.6	38.2
遠隔一般住宅地	13.3	10.0	—	2.5	3.3
近接商店街	7.0	9.0	5.0	2.0	2.0
中間商店街	1.3	5.0	1.3	—	—
遠隔商店街	6.9	14.6	1.5	3.1	0.8
近接団地	5.5	9.1	10.9	—	1.8
中間団地	7.1	3.5	—	—	3.5
遠隔団地	5.7	11.4	5.7	2.9	1.4

主婦の日常生活

1. 家事以外にしている仕事

(「しているもの」を100.0%とした内訳)

	しているもの の比率(%)	勤めに 出ている	家事営業 の手伝い	内職	その他	不詳	していないもの の比率
近接一般住宅地	28.7	(34.8)	26.8	26.7	8.2	3.5	71.3
中間一般住宅地	35.0	42.9	19.0	33.3	4.8	—	65.0
遠隔一般住宅地	38.3	6.5	67.3	21.8	2.2	2.2	61.7
近接商店街	74.0	—	97.3	—	2.7	—	26.0
中間商店街	71.3	—	94.7	—	5.3	—	28.7
遠隔商店街	82.2	—	99.1	0.9	—	—	17.8
近接団地	23.6	76.9	—	15.4	7.7	—	76.4
中間団地	8.2	71.4	—	14.3	14.3	—	91.8
遠隔団地	21.4	33.4	—	66.6	—	—	78.6

2. 家事手伝い

	有	無	計
近接一般住宅地	9.0	91.0	100.0
中間一般住宅地	10.0	90.0	100.0
遠隔一般住宅地	21.6	78.4	100.0
近接商店街	23.0	77.0	100.0
中間商店街	10.0	90.0	100.0
遠隔商店街	35.1	64.9	100.0
近接団地	5.5	94.5	100.0
中間団地	3.5	96.5	100.0
遠隔団地	—	100.0	100.0

(資料出所 生産性本部の生産性研究第二〇集、コミュニティと消費パターン——西郷沿線における消費者動向調査——「主婦の余暇」)

山村婦人の生活と意識

平地農村よりも文化の接触がうすく、自然的社会的条件に制約されて労働もより荷重であり、生活も困難であり、また封建的慣習もより強いと考えられる山村において、婦人の生活がそのような山村地帯においてどのような状態におかれているか、婦人は生産者としていかなる役割を果し、家庭及び村落社会においていかなる地位を占めているか、そしてその生活に對する意識がどうなっているであろうか。

それを知るために、調査対象村として山梨県東山梨郡三富村(用材産地)及び長野県更級郡大岡村(薪炭産地)の二つの山村を選んでその実態を明らかにしようとしたものである。

家事分担

都会の婦人の労働は、家事のしごととその比重がかかっているが、山村の婦人は、農作業、山仕事、或は養蚕のほかに家事作業を分担しており、その上山村であると云う地理的悪条件が重つて婦人の労働時間は、生産労働と家事労働を合せると男子の労働時間より長くなっている事が多い。

例えば、三富村のある主婦の夫の一日の労働時間一時間に比べ、農作業は九時間、家事労働に五時間をついやし、夫より三時間多く働いている。

婦人の大部分は、炊事、洗濯、縫物、掃除、育児等の家事全般を負担しているが、特に主婦の場合は他の婦人に比べて、調査世帯の約五割の主婦が、炊事、洗濯、縫物、掃除等の仕事にたずさわっている。

労働負担の重さに対する感想

	総数	非常に つらい	相 当 つらい	普 通	まあ 楽な 方だ	楽 だ	無回答
大岡村	73(100)	7(10)	19(26)	26(36)	9(12)	10(14)	2(2)
計	72(100)	4(6)	12(17)	47(65)	8(11)	1(1)	
三富村	28(100)	2(7)	9(32)	16(57)	1(4)	—(—)	
三富村	44(100)	2(5)	3(7)	31(70)	7(16)	1(2)	

労働について
山村の婦人は農作業に山仕事に、或は家事の仕事に、その労働は相当過重であるが、約半数の五〇％のものが普通と答えており、これが最も多いが、次が「非常につらい」「相当つらい」といったものが約三〇％、残りの二割が「楽だ」「まあ楽だ」と答えている。「つらい」と答えたものに妻が多い。

生活改善について
「生活をよくするために、仕事や、家の中のこと、家族のことで改善したいということがありますか」という問に対して、大岡村では四七％(七三人中四三人)、三富村では五〇％(七二人中三六人)のものが答えている。これを相対別に見ると、嫁の層に「有り」が最も多く(七一％)、次ぎが妻の層に在る者(四八％)、娘の層(四四％)である。

意見の内容及びみると、大岡村では家事の合理化、即ち台所の改善、食事の改善、その他水の問題、かまどの改善等の内容のものが半数以上を占めており(五九％)、二六％の人が労働過重の対策と答えている。三富村では、「意見あり」と云ったものの五六％のものが家事の合理化を、六％のものが労働過重の対策と答えている。両村とも家族関係の民主化という意見が殆んどなく、また現状の生活を「仕方がない」とあきらめている人が多く、生活向上の意欲は薄い。

主人と主婦の生活時間

大岡村

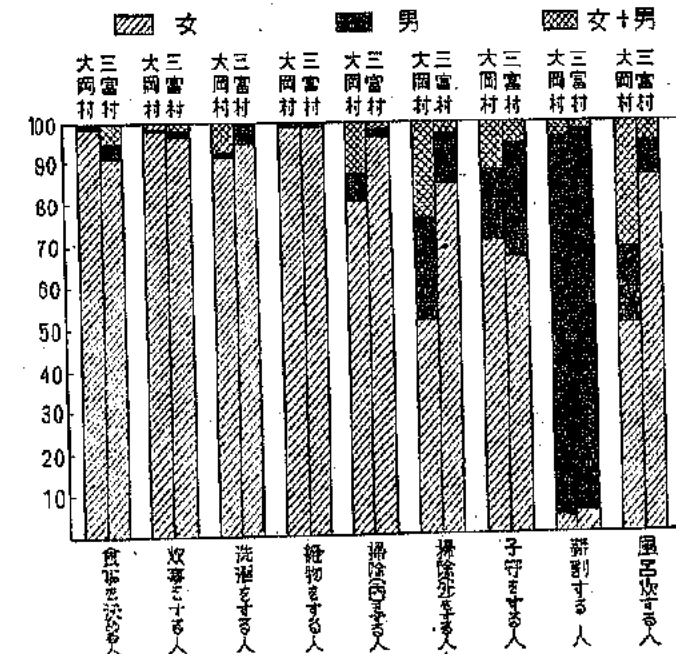
主人	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
主人	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
主婦	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠

三富村雷部落

主人	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
主人	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
主婦	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠

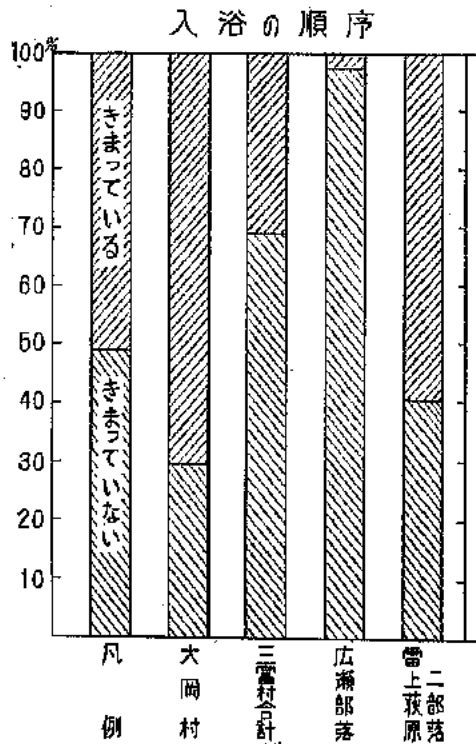
三富村広瀬部落

主人	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
主人	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
主婦	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠



家の生活程度に対する感想

	総 数	非 常 に 苦	相 当 苦 し	普 通	方 だ ま あ 楽 な	楽 だ	わ い か ら な	無 回 答
大岡村	78(100)	2(22)	16(22)	28(38)	13(18)	18(18)	—	1(1)
三富村								
計	72(100)	10(14)	14(19)	34(47)	7(10)	1(1)	4(6)	2(2)
広瀬部落	28(100)	6(21)	9(32)	11(39)	—	—	1(4)	1(4)
上萩原・雷二部落	44(100)	4(9)	5(11)	23(52)	7(16)	1(3)	3(7)	1(2)



入浴の順序
家族の中に身分秩序が強く意識されており、入浴の順序が自らきまつていて、容易に変えられない性格をもっている。
恐らく最初に入浴するもの男子、なかならず世帯主などは、家で最もえらいか大切だと考えられている人で、最後に入るのは、そうでない者になっている。
大岡村では、七一% (二一六戸中八二戸) がきまつているが、三富村の広瀬部落では五八戸中わずか一戸に過ぎない。

仕事、家庭内の問題等に関する改善意見の有無

	総 数	意見あり	意見なし	不 明
大岡村				
総数	73	34	38	1
妻	46	22	24	—
母	10	2	7	1
嫁	7	5	2	—
娘	9	4	5	—
その他	1	1	—	—
三富村				
総数	72	36	33	3
妻	47	25	20	2
母	7	2	5	—
嫁	7	2	5	—
娘	8	6	2	—
その他	3	1	1	1

改善意見の内容

	大岡村	三富村
家族関係の民主化	—	3
労働過重の対策	9	2
家事の合理化	12	8
食所の改善	1	1
食事の改善	8	11
その他の生活改善	4	9
その他	1	2

どんなことが楽しみか

村 別	計	大岡村	三富村
たのしみの種類			
計	100%	100%	100%
子供の成長	22	14	32
元気で働くこと	8	8	7
一家だんらん	9	1	77
実家に行くこと	10	16	3
旅行	11	22	—
映画、芝居、ラジオ	12	15	8
読書、洋裁、生花	4	5	3
休むこと、食べること	9	12	6
婦人会、青年団の集り	3	3	5
その他	1	1	1
なし	11	3	18

家庭内の発言

多くの場合は、妻の方が夫の考え方に同調し、自主的な判断をしない習慣になつているため、最近に至つても、「意見をのべる」ものと「のべない」ものが約半数づつになつている。

経済面における地位

「自分で自由になるお金を「もっている」と答えたものは大岡村で四割、三富村で三三%にすぎない。更に子供の用学品や自分の着物を自由で買えるというものはもつとも少くなり、自分の着物を買う時、夫（父、息子）から金をもらつて買う」、「夫（父、息子）に買つてくれる」、「自分の金で買う」の順となり、「買わない」というものも数名いる。

どんなことが楽しみか

大岡村においては、二三%の人が「旅行する」ものが一番多く、嫁の立場にある婦人は、実家へ行くことを楽しみとしてゐる人が一番多く、その他、子供の成長、休む事、食べる事というような消極的な希望を述べている。

三富村においては、大岡村と異り、子供の成長を楽しみだと言つてゐるのが最も多く三三%、次の意見なしの一八%を除いて、一家だんらん、元気で働くこと、子供のことに関連しているものが多く見られた。

自由になる金の有無

		総 数	あ り	な し	無 回 答	
大岡村	総	73	25	42	5	
	現金収入の有無別	あり	18	8	4	6
		なし	54	16	38	—
		不明	1	1	—	—
三富村	総	72	24	38	10	
	現金収入の有無別	あり	33	13	10	10
		なし	38	11	27	—
		不明	1	—	1	—

家庭内の発言

意見を述べない理由	大岡村	三富村
何かわからない、いうことがない	8	5
男（夫）にまかせておく方がよい	5	7
いつでも仕方がないきいてもらえない	3	5
いうとしかられる	3	—
いん届だから、年とつているから	1	4
嫁だからいいにくい	1	—
何となくいいにくい	1	1
その他	6	3
不明	1	7
計	29	32

新聞の購読状況

		総 数	とつて いない	と つ て い る					
				計	毎日読 む	時々 読む	よ まない	殆んど よい	よま ない
大 岡 村		73(100)	13(18)	60(82)	26(43)	8(14)	11(18)	13(22)	2(3)
三 富 村	計	72(100)	26(36)	46(64)	18(39)	15(33)	3(6)	10(22)	—
	広 瀬 部 落	28(100)	21(75)	7(25)	4(57)	1(14.3)	1(14.3)	1(14.3)	—
	上萩原・雷二部落	44(100)	5(11)	39(89)	14(36)	14(35)	2(5)	9(23)	—

新聞の購読内容

	新聞を 読んでいる人	国際政治	社会	文化	娯楽	小説	スポーツ	その他
大岡村	34	10(29)	14(41)	14(41)	18(57)	23(76)	12(35)	12(35)
三富村								
計	33	6(18)	19(61)	19(61)	20(64)	19(61)	18(58)	12(42)
広瀬部落	5	1(20)	2(40)	2(40)	3(60)	2(40)	2(40)	1(20)
上萩原・雷二部落	28	5(18)	17(61)	17(61)	17(61)	18(57)	16(57)	11(39)

注()内は%

新聞購読状況

大岡村では八割以上が新聞をとっているが、三富村では約六割強い過ぎない。特に広瀬部落においては二八世帯中七四世帯で、わずかに二割分に過ぎず、地理的悪条件のためである。

次に婦人が新聞をどれくらい読んでいるかをみると、大岡村では毎日読む人が四三%、読まない人が四〇%もいる。三富村では、毎日読む人が三九%、読まない人が二八%いる。

新聞を読む階層は、比較的若い娘の層に多く、学歴別では、学歴の高い方が購読率が高い事は両村ともほぼ共通している。

ラジオの聴取状況

ラジオは約八八%の家が所有している。このことは、山村生活の教養娯楽上、必要な存在であることを示しているが、婦人の聴取状況をみると、全体で五五%が聞いており、三割に近い婦人は、あまり聞いていない。(労働省婦人少年局婦人関係資料シリーズ 調査資料一八号 山村婦人の生活)

漁村婦人の生活と意識

我が国の漁村は、その営む漁業が多岐に亘り、また経営の規模や労働の形態も様々である。その上、多くの漁家は農業や加工業等も兼業している事情も加わって、漁村の経済構造は農村等にくらべてはるかに複雑であり、又漁家の生活基盤も多くの場合昇進ではない。更に又漁業は自然に依存すること大きいことから、生活が不安定であるということも、漁家の性格を特徴づけている。こうした環境にある漁家の婦人たちは、家庭の内外においてどのような役割を果し、地位を占めているのだろうか、またどのような考え方で暮らしを営んでいるのだろうか。

この調査のため、漁業形態、婦人労働形態等の観点から、漁村をいくつかの型に分け、代表的と見られる次の三地域(一)千葉県安房郡千倉町平館 (二)富山県永見市宇波 (三)岡山県児島市下津田ノ浦)を調査地に選んで、一地区から八〇名ずつの婦人について労働省婦人少年局が調査したものである。

家庭内における地位

漁村における家庭内の婦人の地位が、どのような地位を占めているかを「家庭で意見をのべるか」否かで調べて見ると、意見をのべるというもののべないものの割合は、平館では八五%と一三%、宇波では六四%と三〇%、田ノ浦では六〇%と三六%となっており、どの地域でも、ほぼ三分の二以上のものが意見をのべるといっている。

次に婦人の意見をのべたとき、それが容れられるかどうかについて質問した結果、平館では八九%、宇波では八〇%、田ノ浦では七八%と各地とも約八割から九割が「いれられる」といつている。

一方、意見が意見を述べないもののべない理由として、「夫に従うのは当然だから」「女は口を出すべきでないから」「地方の習慣だから」「夫がこわいから」「夫にわるいから」というように意見をのべるものと「夫にまかせておくと楽だから」「わからないから」というように、無気力で意見をのべないものとがみられ、どの地域でも、前者の方が多かった。

家の生活程度に対する感想

	総数	非常に 苦しい	相当 苦しい	普通	まあ楽 まだ	楽だ	無回答
平 館	79 (100)	2 (2)	16 (20)	44 (56)	10 (13)	7 (9)	— (—)
宇 波	80 (100)	1 (1.5)	14 (18)	44 (55)	9 (10)	11 (14)	1 (1.5)
田ノ浦	80 (100)	11 (14)	20 (25)	40 (50)	8 (10)	1 (1)	— (—)

生活に対する不安の有無

	総数	あ る	まあない	な い	わから ない	無回答
平 館	79 (100)	57 (72)	8 (10)	13 (15)	— (—)	1 (3)
宇 波	80 (100)	45 (56)	11 (14)	14 (17)	1 (3)	9 (10)
田ノ浦	80 (100)	52 (65)	14 (17.5)	14 (17.5)	— (—)	— (—)

生活不安の理由と対策の有無

	生活に不 安がある と答えた 人の数	生活不安の内容								無回答
		夫や息 子が遠 離する かも知 れない	不漁で 収入が 絶える	冬期ほ ど外時 の仕事 がある	船主の 雇に 乗るこ とがな い	に 船に 乗るこ とがな い	それ 以外	とられ ている	とられ ていな い	
平 館	57 (100)	24 (42)	43 (76)	3 (5)	— (—)	3 (5)	42 (74)	13 (23)	2 (3)	— (1)
宇 波	45 (100)	26 (58)	29 (64)	— (—)	1 (2)	— (—)	16 (36)	10 (42)	1 (2)	9 (20)
田ノ浦	52 (100)	25 (48)	27 (52)	6 (11)	— (—)	5 (9)	12 (23)	33 (64)	5 (9)	2 (4)

家庭で意見をのべるか（既婚者に）

		平 館			無回答	宇 波			無回答	田ノ浦			無回答
		既婚者の 総数	のべ 数	のべ ない		既婚者の 総数	のべ 数	のべ ない		既婚者の 総数	のべ 数	のべ ない	
総 数		78 (100)	66 (85)	10 (13)	2 (2)	77 (100)	49 (64)	23 (30)	5 (6)	72 (100)	46 (64)	26 (36)	— (—)
続 柄	女世帯主	4	3	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	妻	52	48	4	—	52	38	14	—	53	37	16	—
	母	9	2	1	—	4	2	—	2	1	—	1	—
	嫁	13	7	5	—	17	8	8	1	16	9	7	—
	娘	6	6	—	—	3	6	1	1	2	—	2	—
別 人	その他	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—
	現ある仕事 している 収入がない 不明	39	32	2	2	48	35	9	4	31	18	13	—
		39	34	—	—	28	13	14	1	41	28	13	—
		—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—

発言がいれられるか

地 域	意見をのべる もの総数	いれられ る	いれられ ない	わから ない	時による その他	無回答
平 館	66 (100)	59 (89)	1 (2)	— (—)	6 (9)	— (—)
宇 波	49 (100)	39 (80)	4 (8)	— (—)	5 (10)	1 (2)
田ノ浦	46 (100)	36 (78)	2 (4)	1 (2)	4 (9)	3 (7)

注（ ）内は%

団体加入の有無

	婦人会がある ことを知つて いる者の数	は い つ て い る 者				はいつ ていない もの	不 明
		婦人会	青年団	その他	不 明		
平 館	77(100%)	44(57)	—(—)	1(1)	15(20)	14(18)	3(4)
宇 波	77(100%)	46(60)	—(—)	—(—)	21(27)	9(12)	1(1)
田ノ浦	56(100%)	2(3.5)	1(2)	—(—)	3(5)	48(86)	2(3)

新聞の購読状況

	総 数	と つ て い る						とつて いない	その他	
		計	毎日 よむ	時々 よむ	殆どよ まない	よま ない	不明			
平 館	総 数	79(100%)	52(66)	36(46)	7(9)	3(4)	6(7)	—	27(34)	—
	20~29才	21	90	9	1	—	—	—	11	—
	30~39才	17	11	9	1	1	—	—	6	—
	40~49才	24	17	12	3	—	2	—	7	—
	50~59才	15	12	—	—	2	2	—	3	—
	60才~	2	2	6	2	—	2	—	—	—
宇 波	総 数	80(100%)	65(81)	30(37)	20(25)	3(4)	(10)12	2(3)	15(19)	—
	20~29才	19	13	8	5	—	—	—	6	—
	30~39才	23	21	7	9	—	3	2	2	—
	40~49才	21	16	11	3	2	—	—	6	—
	50~59才	16	14	4	3	1	6	—	2	—
	60才~	1	1	—	—	—	1	—	—	—
田ノ浦	総 数	80(100%)	48(60)	18(23)	13(16)	9(11)	5(6)	(3)4	31(39)	1(1)
	20~29才	24	14	7	1	3	1	2	10	—
	30~39才	20	12	3	7	1	—	1	7	1
	40~49才	24	14	6	4	2	2	—	10	—
	50~59才	11	7	2	1	2	2	—	4	—
	60才~	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	不 明	1	1	—	—	1	—	—	—	—

ラジオ聴取状況

	総数	ラ ジ オ が あ る						ない
		計	毎日きく	時々きく	殆どきかない	きかない	不明	
平 館	79(100%)	68(86)	54(68)	5(6)	3(4)	—(—)	6(8)	11(4)
宇 波	80(100%)	66(83)	28(36)	32(40)	4(5)	1(1)	1(1)	14(17)
田ノ浦	80(100%)	51(64)	27(34)	16(20)	2(2)	3(4)	3(4)	29(36)

社会生活意識

これらの漁村婦人の社会生活の場として、各地域に婦人団体、青年団、講などがあるが、いずれも具体的な活動をしているところが少く、年に何回かの料理、生花、手芸等の講習会、映画会、又はレクリエーションのための運動会、旅行等が主な催しになっているに過ぎない。

団体への加入は平館では対象者の七八%、宇波では八七%の人が婦人団体(婦人会が半数以上)に加入している。しかし田ノ浦では加入しているものは僅か一%で、婦人会にはいつていない人は四%にみえない。

そこで、これらの団体が地域の婦人たちにどの程度の関心をもたれているかを調べた結果、平館と宇波では大部分の人(前者九七%、後者九六%)があることを知っており、「知らない」者は極くわずかで、田ノ浦では、他の二地域に比べて知らないものが多い。加入した動機は「皆がいつていいるから」と答えた者が、平館三二%、宇波六五%、田ノ浦三三%で一番多く、次いで「勧誘されたから」「強制的に」などの答が多く、「自分のためになるから」と答えたものが、僅かに平館に一〇%見られた程度で、全体的に見てこのような積極的な動機は少なく、つき合い程度の人が多い。

余暇時間の利用

日夜家事労働に、或は漁業労働、農作業に従事している婦人たちは、その仕事の会間にどの程度教養娯楽の機会に接しているであろうか。これを新聞、ラジオ、映画(芝居)について調べたところ、次のような結果が得られた。

映画・芝居観覧の有無と回数

		総 数	映 画・芝 居 を み る										み ない	不 明
			一 ケ 年 に					一 ケ 月 に						
			計	1回	2回	3回	4回	計	1回	2回	3回	4回		
平 館	総女 世帯主 母妻娘の	数	79	33	1	12	7	19	16	5	6	3	2	30
			4	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	3
			3	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	2
			52	21	—	5	6	10	8	1	5	1	1	23
			13	6	—	3	—	2	6	4	1	1	—	1
宇 波	総女 世帯主 母妻娘の	数	80	29	5	4	7	13	34	22	9	2	1	16
			4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
			52	22	4	4	4	10	20	12	7	1	—	10
			17	5	—	—	2	3	10	7	2	1	—	2
			5	1	—	—	—	—	3	3	—	—	—	—
田ノ浦	総女 世帯主 母妻娘の	数	80	26	9	7	2	8	31	15	6	7	3	22
			1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			53	21	9	6	2	4	11	6	2	2	1	20
			16	3	—	1	—	2	12	6	2	4	—	1
			9	1	—	—	—	1	7	3	1	1	2	1

た の し み

	総 数	子供成長	元でく 気働こ	家内一人 隣家ら	旅行と 旅すこ	漁の時 のい	ゆくり つりむこ	映話ラオ 映統ラオ	実へく 行くと	その他	なし	無回答
平 館	総 数 20~29才 30~39才 40~49才 50~59才 60才~	79(100) 21 17 24 15 2	20(25) 4 6 8 2 —	8(10) 2 1 2 3 —	5(6) 2 — 1 2 —	6(8) 1 — 1 2 1	2(2) — 1 1 — —	— — — — — —	11(14) 3 3 2 2 1	3(4) 2 — 1 — —	14(18) 2 3 5 4 —	10(13) 5 2 3 3 —
宇 波	総 数 20~29才 30~39才 40~49才 50~59才 60才~	80(100) 19 23 21 16 1	26(33) 1 12 9 3 1	6(7.5) 5 2 2 1 —	4(5) 1 — 3 — —	9(11) 3 2 1 — 3	— — — — — —	— — — — — —	8(10) 6 6 1 — —	6(7.5) 3 3 1 — —	17(21) 4 2 2 8 —	4(5) — 1 2 1 —
田ノ浦	総 数 20~29才 30~39才 40~49才 50~59才 60才~	80(100) 24 20 24 11 1	20(25) 6 5 9 — —	5(6) 2 1 1 — —	5(6) — 2 3 — —	2(2.5) — — 2 — —	— — — — — —	4(5) 1 3 — — —	6(8) 2 2 — 2 —	2(2.5) 2 — — — —	15(19) 7 3 3 2 —	18(22) 1 6 4 6 1

新聞購読状況

平館では七九世帯中五二世帯(六六%)、宇波では八〇世帯中六五世帯(八一%)、田ノ浦では八〇世帯中四三世帯(六〇%)である。次にどの程度新聞を読んでいるかについてみると、平館では「毎日読む」もの三六人(四六%)、「時々読む」もの七人(九%)、宇波ではそれぞれ三〇人(三七%)と二〇人(二五%)、田ノ浦では一八人(二三%)と一人(一六%)となっており、三地域のうち田ノ浦ではとりわけ読むものが少ない。「読まない」と答えた人が比較的年輩者に多い。購読の内容について見ると、三面記事、娯楽面、小説と答えたものが最も多く、次で家庭欄で政治経済を読む人は極くわずかである。

ラジオの聴取率 平館では「毎日聞く」が五四人(六八%)、「時々聞く」が五人(六%)で、宇波では二八人(三六%)と三二人(四〇%)、両地区とも約四分の三が聞いているが、田ノ浦で全体の半分余りしか聞いていない。

各地域ともラジオがありながら、ほとんど聞かないものがあるが、これらはすべて妻又は嫁である。聴取内容も共通して娯楽番組(特に浪花節、歌謡曲)で、漁村の婦人にとっては教養より娯楽の役割をより多く果している。

映画や芝居を見るもの 平館では、一人当りについて平均すると、一カ月一回弱という結果であるが、一カ月一回以上というものは若い層(嫁、娘)に多く、妻について見ると、過半数が年に二回~四回となっている。

宇波では年一回、月一回弱となり、平館と変りがないが、妻の観覧率が平館に比べて高く妻五二人中二二人(二九%)の人が一カ月に一回行っており、次が年四回以上の二〇名(二四%)で、月に二回位みるという主婦も七人(二七%)あり、又嫁の中にも月一回以上に行くといっている人、七人中一〇人(五九%)あった。

田ノ浦では一カ月一回というものが多く、年に何回というものが次いで多い。嫁と娘のみる率が高く、月一回以上見ているのに対し、妻では月一回以上は、五分の一程度に過ぎない。(労働省婦人少年局 婦人関係資料シリーズ 調査資料 二二号 漁村婦人の生活)

第2表 職業のために一日平均何時間使いますか（1年のうちとくに忙しい時期とひまな時期があれば両方について答えて下さい）

		計	時間 ~1	時間 ~3	時間 ~5	時間 ~7	時間 ~9	時間 ~11	時間 ~16	16時間 以上	不明	平均
計	繁閑のある人	570	—	3	20	36	97	170	222	13	9	4.30
	忙しい人		60	75	94	146	130	32	5	—	24	4.30
	ひまな人		—	22	42	47	100	60	98	4	7	7.10
自 営	農林漁業	100	—	—	2	7	14	21	52	1	3	10.20
	繁閑のある人		11	14	19	30	20	1	—	5	—	4.10
	忙しい人		—	2	3	2	3	1	—	—	—	5.10
	非農林漁業	68	—	1	2	6	13	11	27	7	1	10.20
	繁閑のある人		7	8	8	14	9	12	4	—	6	5.20
	忙しい人		—	3	10	20	16	14	15	9	2	7.50
雇 用	農林漁業	53	—	—	2	1	17	20	13	—	—	9.20
	繁閑のある人		11	1	4	6	22	5	1	—	3	5.10
	忙しい人		—	1	4	4	64	14	6	—	1	7.50
家 族 従 業	農林漁業	291	—	1	6	14	98	104	119	5	4	10.20
	繁閑のある人		23	41	49	84	72	13	—	9	—	4.40
	忙しい人		—	6	10	2	7	9	7	—	1	6.50
	非農林漁業	58	—	1	8	8	15	14	11	—	1	8.00
	繁閑のある人		8	11	14	12	7	1	—	—	5	3.20
	忙しい人		—	10	15	19	11	12	10	1	3	6.30
内 職	農林漁業	123	—	4	6	30	30	25	16	2	1	7.50
	繁閑のある人		29	21	34	20	14	—	—	—	5	3.00
	忙しい人		1	17	30	31	16	11	2	—	7	4.50

主婦の自由時間についての意識

戦後、日本社会の近代化にともなつて家庭の生活様式にも可成りの変化がみられ、また一方、出生率の低下によつて家族構成が変化しつつあることは、主婦の家事作業の軽減とともに育児期間の短縮を意味すると考えられる。このことから今後時間の余裕をもつ主婦が次第に多くなることが予想され、自由時間の問題は、今後婦人の生活問題として考えられるが、現状において、主婦はどの程度の自由時間をもち、それをどのように使っているであらうか、また主婦自身自由時間をどのように考へ方をもっているであらうか。

一日の家事の時間

家事のために（第1表参照）一日のうちに、全体の三四%が三〜五時、三一%が五〜七時間で、七時間以上のものと、三時間未満のものが、夫々一五%である。無職のものが有職者にくらべて家事作業時間がなく、とくに区部の無職のもののがあつとも長い。反対に、有職者の中でも雇用手と非農林漁

第 1 表 あなたは家事や洗濯などの家庭の仕事のために
1日に何時間位使つていらつしやいますか

			總數		時間 ~1	時間 ~2	時間 ~3	時間 ~5	時間 ~7	時間 ~9	時間 ~11	時間 以上	無回答
			實數	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
計			1,863	100	3	2	13	34	31	12	3	2	1
地區別	區	部	208	100	3	3	7	29	41	9	2	4	1
	市	部	1,037	100	3	2	14	34	28	14	4	1	1
	郡	部	528	100	3	2	13	37	30	9	3	3	1
職別	自営	農林漁業	111	100	3	2	19	38	28	8	2	1	—
		非農林漁業	150	100	5	7	20	42	18	5	1	1	1
	雇	用	147	100	3	5	23	43	22	2	—	—	1
業別	家族業	農林漁業	333	100	2	2	16	43	27	8	2	1	1
		非農林漁業	139	100	7	4	14	42	22	6	4	1	3
別	內無	職	237	100	2	0	9	31	41	11	3	1	3
		職	741	100	2	1	7	26	35	18	5	4	—

自分の時間(第5表参照)には「読書」をするというものが全体の半数近くあつて最も多く、次いで多いのは「ラジオ」と「裁縫やつくりもの」で、それぞれ二七%と二五%、そのほかに「編物」「子供の相手」「雑談」「休息」「新聞よみ」がそれぞれ一〇%程度となつてゐる。地域別には大差はないが、区部では「テレビ」と答えたものが一六%あつて、「読書」「ラジオ」「裁縫」に次いで多く、郡部では「読書」が一位を占め「新聞」もかなり多い。

自由時間の内容

「予定を立てている」(第7表参照)ものは少なく、全体の二八%である。そして予定の中に自分の時間をとつてゐるものは、予定を立ててゐるものの約半分である。年令別では、四〇才までのものは三〇%前後が予定を立ててゐるのに対して、五〇才以上では予定を立てるものは二〇%以下である。

自由時間の長さ
七六%が多かれ少なかれ自由時間をもつてをり、自由時間の全くないものは二四%である。自由時間のあるもののうちでは、一〜二時間程度が最も多く三三%、次いで三〜四時間が二三%、五時間以上の自由時間をもつものは二二%である。自由時間のないものを含めて一人当たり平均時間数は、約二時間一〇分となる。一人当たりの平均自由時間数では、区部二時間三五分、市部二時間二〇分、郡部一時間五〇分で、区部と郡とは一時間近いひらきがある。

自由時間の長さ

一方、無職の主婦は、自由時間がないものは二三%にすぎず、過半数が三時間以上の自由時間をもつており、五〜六時間以上というものも二四%に及んでいる。ことに区部の無職者が九二%までが自由時間をもつており、時間数も最も長い。年令別、学歴別、家族数別にもそれぞれ特徴がでている。(第4表参照)

第3表 あなたはPTAや婦人会など団体グループの仕事とか民生委員や家事調停委員のような役所関係の仕事などを何か受けていますか

	総数	%	もつていない	もつてゐる		
				小計	団体の仕事	公職
計	1,868	100%	85%	15%	15%	0%
区部	293	100	83	17	17	0
市部	1,037	100	85	15	15	0
郡部	528	100	86	14	14	0

B その仕事のために1日のうち、あるいは週に、何時間位使っていますか

	団体公職関係者総数	1日に					1週に					週に何時間という程使わない
		時間11~23	時間23~45	時間45~6	時間6以上	7時間以上	時間11~23	時間23~45	時間45~6	時間6以上	10時間以上	
計	100%(279)	1%	1%	1%	1%	—	1%	7%	8%	1%	2%	75%
団体	100 (272)	1	2	2	1	—	1	7	9	2	2	75
公職	100 (7)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

業の自営者は家事作業時間をもつとも短い。時期によつて一日の労働時間(第2表参照)に相当のひらきのあるもので、各職業を通じて多い。有職者全体を通して見ると、繁忙期には一〇時間から一六時間、ひまな時期には六時間から九時間働くというものが最も多く、平均労働時間は繁忙期一〇時間、ひまな時期四時間半となつてゐる。また、とくに繁閑のない人々については、常時八〜九時間働くという人が最も多く、平均七時間一〇分となつてゐる。

団体公職に使う時間

区、市、郡部を通じて、団体やグループの仕事(第3表参照)をもつてゐるものは一五%前後で、公職をもつものは一%以下の少数である。

週六時間以上使うものが三%、五時間以下が一六%となつており、残りの七五%は週に何時間というほども使わない。要するに、少くとも週一時間以上の時間を団体関係などの社会的な仕事に使うものは、主婦全体の数から見れば、三%程度ということになる。

第5表 あなたは自分の時間に何をしますか

	自由時間あるものの総数		読書	ラジオ	雑誌	子供の相手	新聞	娯物	休息	雑談	テレビ	趣味	娯楽	その他
	実数	%												
計	1,417	100	49	27	25	13	12	12	12	10	9	9	4	16
区部	250	100	48	22	20	8	10	17	10	4	18	9	4	27
市部	785	100	58	29	23	13	4	11	13	10	9	6	5	17
郡部	382	100	35	26	34	15	29	11	11	14	9	3	2	8

(注) 二つ以上の内容を答えたものがあるため各項目の計は100%をこえる。

第6表 あなたは自分の時間を作るようにいつも心がけていますか

	総数		心がけている	心がけていない
	実数	%		
計	1,863	100	49	52
地域別	区部	298	100	46
	市部	1,037	100	48
	郡部	528	100	49
年齢別	29才以下	366	100	55
	30才台	633	100	52
	40才台	503	100	48
	50才台	267	100	40
	60才以上	94	100	21

第7表 あなたは時間の使い方について、一週間の予定とか、一日の予定を立てていますかその予定の中に自分の時間をとっていますか

	総数		立てていない	立てている	自分の時間を		
	実数	%			とつていない	とつていない	不明
計	1,863	100	72	28	14	13	2
年齢別	29才以下	366	100	69	31	16	13
	30才台	633	100	68	32	14	16
	40才台	503	100	71	29	14	13
	50才台	267	100	81	20	11	8
	60才以上	94	100	90	10	3	5

第4表 あなたは仕事をしたり、ねたり、食べたりする以外に、くつろいだり、自由に好きなことのできる自分の時間つまり余暇とか、ひまといった時間がありますか 一日に何時間位ありますか

		総 数		な	あ										平均
		実数	%		い	小計	時間 1 ~3	時間 3 ~5	時間 5 ~7	時間 7 ~9	時間 9 ~11	時間 11時 以上	不明	時分	
計		1,863	100	24	76	4	35	23	8	2	1	1	—	12.10	
地域別	区 部	298	100	16	84	7	32	29	10	3	1	1	—	2.35	
	市 部	1,037	100	24	76	4	33	24	9	2	1	1	—	22.20	
	郡 部	528	100	28	72	3	42	17	7	1	1	—	—	21.50	
職業別	農林漁業	111	100	16	84	2	30	23	4	1	1	—	—	2.00	
	非農林漁業	150	100	39	61	13	21	21	4	—	—	—	—	21.25	
	雇 用	147	100	35	65	10	40	12	3	—	1	—	—	11.20	
業 別	農林漁業	833	100	30	70	3	42	17	5	1	0	0	—	21.35	
	非農林漁業	139	100	38	63	1	34	24	—	1	1	1	—	11.35	
	家族内職	237	100	27	73	2	41	19	6	1	1	1	—	31.55	
無 職		741	100	13	87	3	30	29	15	5	2	2	—	13.05	
学 歴 別	小学校以下	542	100	28	72	3	34	21	7	3	2	2	—	22.10	
	高小・新中	710	100	28	72	5	37	19	7	1	1	1	—	11.55	
	旧中・新高	512	100	16	84	5	34	28	12	3	0	0	—	12.30	
家族数別	旧専・大学	54	100	11	89	4	30	33	9	6	2	—	—	62.50	
	そ の 他	45	100	9	91	4	49	24	7	—	4	—	—	22.25	
	2 人	117	100	14	86	4	31	27	15	5	2	3	—	3.05	
収入別	3 ~ 4 人	578	100	19	81	5	33	27	11	3	1	1	—	12.30	
	5 ~ 6 人	719	100	28	73	4	35	21	7	2	1	1	—	22.00	
	7 ~ 8 人	357	100	26	74	4	37	21	5	1	2	1	—	22.05	
不明	9 人 以上	97	100	30	70	2	45	16	3	—	2	—	—	21.35	
	0 ~20万円	507	100	29	71	4	35	15	11	2	1	1	—	12.05	
	20 ~30万円	449	100	24	76	4	34	29	7	1	1	1	—	11.55	
不明	30 ~50万円	484	100	24	76	5	36	22	8	3	1	0	—	12.10	
	50万円以上	314	100	16	84	5	36	28	8	3	1	1	—	22.20	
	不 明	109	100	24	76	2	36	20	6	1	3	2	—	72.05	

第9表 あなたはとくべつ用のない時に自由にくつろいだり、好きなことについて、家の人に気兼ねをしますか 誰に気兼ねをしますか

				総 数		気兼ね しない	気 兼ね す る					
				実数	%		計	夫に	夫父母に	その家族に	その他の	その他
				1,863	100	84	16	4	9	3	1	1
地域別	{	区	部	298	100	90	10	3	4	2	0	1
		市	部	1,037	100	85	15	4	8	3	1	0
		郡	部	528	100	78	22	5	15	3	1	1
職	{	自営	{農林漁業	111	100	79	21	5	15	5	2	2
		{非農林漁業	150	100	87	13	3	7	1	2	—	
業	{	雇	用	147	100	88	12	1	8	1	1	1
		{家従業族	{農林漁業	333	100	69	32	8	23	6	1	1
別	{		{非農林漁業	139	100	83	17	4	8	3	1	2
		内	職	237	100	89	11	4	5	3	1	—
	{	無	職	741	100	90	10	3	5	3	1	0
		～ 29	才	366	100	75	25	3	17	6	2	0
年	{	30	才 台	633	100	83	17	4	11	3	2	1
		40	才 台	503	100	88	13	5	7	1	1	1
令	{	50	才 台	267	100	89	11	5	4	3	0	—
		60	才 ～	94	100	92	9	2	1	5	—	—
別	{											

大部分が、「誰にも気兼ねしない」と答えている。気兼ねする相手は夫の父母が九%でもつとも多く、「夫」が四%、その他の家族が三%、地域別では、郡部に多く、都市部など少なくなっている。職業別では、家族作業者の立場にある農林漁業従事者に「気兼ねをする」ものが目立つて多く(三三%)、とくに夫の父母への気兼ねが多い。年令では、若いものほど多い(二〇才台二五%、三〇才台一七%、五〇才台一%)。

自由時間の利用

ひまな時間(第10表参照)を、「裁縫やあみもの」「子供の相手」、収入のある仕事」などのような家のための仕事をあげたものが過半数の五四%、「読書、新聞よみ」「教養のための勉

自由の時間の獲得

全体の約半数が自分の時間を作る(第6表参照)ようにいつも「心がけている」。職業別には殆んど差がないが、年令の若いものほど、「心がけている」というものが多くなっている。(二〇才台五五%、四〇才代四八%、六〇才代以上二二%)。「心がけている」いるものは「仕事の手順を考える」(六五%)ものが多い。

また現在自由時間をもつものは、もたないものにくらべて予定を立てているものが多い。(一時間未満三八%、一～三時間三三%、三～五時間二八%、五時間以上二三%)

自由時間の障害

自分の時間を作るのに、一番困ること(第8表参照)は「家業が忙がしすぎる」といつたものが、全体の二九%でもつとも多い。次に「子供に手がかかる」が二五%、「家事が忙がしすぎる」は一七%で比較的少ない。また「困ることは何もない」ものが二〇%ある。

年令別に見ると、二〇才台では、「家業」といつたものが一番多く五三%、三〇才では「家業」、「子供」、四〇才台と五〇才台では「子供」と「家事」をあげたものもつとも多い。

「気兼ねをする」というものは(第9表参照)全体の16%で

第8表 あなたが自分の時間を作ろうとするとき、一番困ることは何ですか

		総 数		家業が 忙し ぎる	子供に かか る手 がかる	家事が 忙し ぎる	家族に 気が する	その他	困るこ しな	無回答
		実数	%							
計		1,863	100	29	25	17	6	4	19	13
地域別	区 部	298	100	29	16	21	3	7	17	16
	市 部	1,037	100	29	23	17	6	5	19	12
	郡 部	528	100	28	32	15	8	1	18	12
年令別	20才 ~	366	100	53	14	10	12	2	13	9
	30才 ~	633	100	33	28	14	7	5	14	15
	40才 ~	503	100	17	30	23	4	7	19	13
	50才 ~	267	100	12	25	21	3	2	29	12
	60才 ~	94	100	19	16	16	2	3	36	13

第12表 最近では家事の合理化という事がよくいわれますが、数年前に比べて、お宅では家事の仕事が楽になったと思いますか

		総 数		楽になつた	以前と変わらない	その他(苦しくなつた)	無回答
		実 数	%				
計		1,863	100	64	36	0	1
地域別	区	298	100	67	32	1	—
	市	1,037	100	61	38	0	1
	都	528	100	66	33	1	1
職業別	自営	111	100	69	31	—	—
	農	150	100	71	29	—	—
	林	147	100	50	48	1	1
	漁業	333	100	63	35	0	1
	家族従業	139	100	70	30	1	—
	内職	237	100	58	40	1	1
	無職	741	100	65	35	0	0
	収入別	0 ~ 20 万円	507	100	50	49	1
20 ~ 30 "	449	100	60	39	0	0	
30 ~ 50 "	484	100	72	28	0	—	
50 万円以上	314	100	79	20	0	0	
不 明	109	100	60	37	—	4	

の見た方がほぼ三分の一つとなつてゐる。しかし地域別や職業別にみると可成りの相違がみられる。すなわち、区部では、「主婦のひま」の方が多く、郡部では、「夫のひま」の方が多し。また職業をもつ主婦は、どの職業のものも「夫のひま」の方が多し。これに對して、無職のものは「主婦の方のひま」というものが多くなつてゐる。

家事の合理化

以前にくらべて家事が「楽になつた」というものが全体の六四%で過半数、「以前と変わらない」ものは三六%である。(第12表参照)

主婦の職業別にみると、商工業、農林漁業自営者の七〇%が「楽になつた」と云つてゐる。無職者は区部が七四%でどの層よりも多い。雇用者(四八%内職者とも「以前と変りない」ものが可成り多い(四〇%)。収入別では、高い層ほど楽になつてゐる。年収二〇万円以下では五〇%で最底、二〇万~五〇万円では六〇~七〇%、五〇万円以上の階層では八〇%が

第10表 主婦にひまがあればその時間はどう使うのがよいと思いますか

総 数	100% (1,863)	裁縫、あみもの	12
読書、新聞よみ	15	子供の相手	18
教養、勉強	14	収入のある仕事	14
休 養	5	家 事	5
娯 楽	4	家政技術研究	6
趣 味	6	その他家のこと	4
ラ ジ オ	3	小 計	54
その他自分のこと	2	グループ活動、集会	
小 計	49	その他社会的活動	6

(注) 二つ以上の内容をあげたものがあるため、各項目の計は100%をこえる。

第11表 一般に主婦のくらしと夫のくらしをみて、どちらがひまが多いと思いますか

		総 数		主婦の方が ひま	夫の方が ひま	どちらとも いえない	無回答	
		実 数	%					
計		1,863	100	33	35	32	0	
地域別	区	298	100	45	23	32	—	
	市	1,037	100	32	34	34	0	
	郡	528	100	28	43	29	1	
	部							
職業別	自営	農 林 漁 業	111	100	21	40	40	—
		非 農 林 漁 業	150	100	19	43	38	—
	雇	用	147	100	22	52	26	1
	家族従業	農 林 漁 業	333	100	23	45	32	1
		非 農 林 漁 業	139	100	27	35	37	0
	内	職	237	100	33	36	31	0
		無 職	741	100	45	24	31	—

強「娯楽」などを自分の時間として使うというものが四九%で、そのほかに、「グループ活動」といったような社会的分野で使うというものが六%あつた。

夫、主婦の自由時間

対象者全体について見ると、(第11表参照)「主婦の方がひま」「夫の方がひま」「どちらともいえない」という三通り

家業や内職に使
つたものや、働
に出たものが、
二〇%となつて
いる。団体の社
事など、社会的
活動にあてたと
いうものは一%
に過ぎない。
(第14表参照)
労働省婦人少年
局 婦人関係資
料シリーズ
調査資料28号
「主婦の自由時
間に関する意識
調査」

第14表 その時間を何に使っていますか

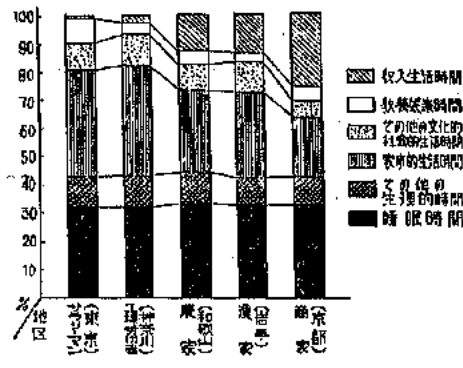
よゆう時間のできたものの総数	100% (978)	休 養	13
家業、内職、勤務	20	ラジオ、テレビ	4
縫物、あみもの、その他の家事	18	趣 味	4
子供の相手	8	娯 楽	2
その他家のこと	3	その他自分のこと	2
小 計	29	小 計	39
読書(新聞を含む)	12	団体のしごと集会その他社会的活動	1
教養	2	そ の 他	5
		わからない	12

階層別生活時間

この表は、婦人少年局が左の五地域で実施した実態調査の結果から
抜粋したものです。

- 東京都武野市日本住宅公園武野緑町団地(サラリーマン世帯)四二人
- 川崎市昭和町(工場労働者世帯)
- 京都市上京区今山川出町上ル(商家)
- 和歌山県那賀郡粉川町竜門(農家)
- 岩手県下閉伊郡山田町(漁家)

階層別主婦の生活時間



第13表 時間の点はどうですか、以前にくらべて時間のよゆうができたと思いますか

地区別	部 門	総 数		よゆうが できた	以前と 変わらない	その他	無回答
		実 数	%				
計		1,863	100	53	46	1	1
区 市 郡		298	100	57	40	3	0
職 業 別		1,037	100	52	46	0	1
	自営	528	100	51	48	0	1
	雇 員	111	100	55	44	0	1
	家 主	150	100	55	44	1	—
	従 業 員	147	100	41	59	—	1
	農 業	333	100	49	50	0	2
	林 業	139	100	55	44	1	1
	漁 業	237	100	55	42	1	2
	無 職	741	100	55	44	1	1
	自由時間	444	100	32	66	1	1
	1 時 間 未 以 上	79	100	46	54	—	—
	1 時 間 未 以 上	655	100	55	43	1	1
	1 時 間 未 以 上	424	100	67	32	1	1
	1 時 間 未 以 上	198	100	63	36	—	1
	1 時 間 未 以 上	38	100	47	53	—	—
	不 明	25	100	60	40	—	—

楽になつている。

時間の余裕

「よゆうができた」というものが五三〇で、「以前と変りない」というものよりやや多いが、家事が「楽になつた」というもの(六四%)より少なくなつている。

現在もつている自由時間との関係から見ると、自由時間の皆無のものや一時間未満しかもつていないものは、「よゆうができた」ものより、「以前と変りない」ものの方がむしろ多いが、自由時間数一時間以上になると、「よゆうができた」というものがだんだんふえて、三時間八時間の自由時間をもつものの中では、約三分の二が「よゆうができた」といつている。(第13表参照)

「よゆうができた」人々に、その時間を何に使っているかを調べた結果、教養、娯楽、趣味、休息など主に自分の時間として使つたものが約四〇%、育児など主として家庭のことに使つたものが三〇%

時 間 構 造

—NHK調査(昭和16年)からの抜粋—

一日当り生活時間構造

針仕事	勉強	教養	趣味	娯楽	運動	交際	公務	その他
時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分
—	4	44	1	14	1	24	23	1
—	—	38	—	10	—	33	29	—
—	—	37	1	11	—	39	26	1
—	—	31	2	16	—	29	9	1
56	1	16	1	6	—	5	2	1
47	—	10	—	5	—	9	2	1
37	—	11	—	9	—	16	1	—
29	—	9	—	12	—	15	1	1
—	7	1.05	5	17	5	25	18	1
—	—	1.02	3	13	5	35	43	1
—	1	1.12	4	13	5	46	51	1
—	—	1.32	7	30	12	48	25	1
1.29	4	42	9	9	1	13	3	2
1.18	—	39	3	8	1	17	3	1
1.17	—	39	2	12	1	92	4	1
1.19	—	40	4	28	4	98	2	3

農家世帯 小売業世帯
 31~45才の男子は 11時28分 10時36分
 女子は 13時15分 11時59分
 31~45才の男子は 2時57分 3時07分
 女子は 1時32分 2時06分
 (この備考は婦人少年局婦人課で算出した)

旅(女子)の一人一日当り生活時間構造

家事	針仕事	勉強	教養	趣味	娯楽	運動	交際	公務	その他
時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分
12	—	14	1.49	8	33	24	19	3	2
26	—	2	1.45	5	26	20	19	7	1
32	—	—	1.59	5	31	23	22	8	—
59	43	14	59	29	17	13	5	1	—
8	—	8	56	4	35	13	6	5	1
13	—	1	57	3	33	10	6	5	1
13	—	1	57	2	29	8	6	7	—
1.00	1.08	18	41	6	10	12	4	2	1
2.01	1.06	—	22	1	8	3	4	—	—
7.22	2.59	7	60	15	27	4	29	7	4
7.37	2.57	1	57	7	29	2	42	12	2
7.16	2.23	—	1.11	8	31	3	58	28	1
5.59	1.41	—	47	3	53	6	50	4	8
7.32	3.30	1	30	2	22	2	20	3	1
7.51	3.13	—	26	1	23	2	22	6	2
8.04	2.39	—	26	1	28	2	26	13	2

調査の時間は昭和16年11月6~25日までの間の1日の生活時間

傭生活者 工場労働者(31~45才) 家族(女子) (31~45才)
 男子(31~45才) 9時12分 男子 11時00分 傭生活者 10時56分
 女子(16~30才) 10時03分 女子 13時13分 工場労働者 12時00分
 男子(31~45才) 4時18分 男子 3時18分 傭生活者 3時24分
 女子(16~30才) 3時32分 女子 1時41分 工場労働者 2時18分
 (この備考は婦人少年局婦人課で算出した)

主婦の生活時間

	サラリーマン (東京)	工場労働者 (神奈川)	商家 (京都)	農家 (和歌山)	漁家 (岩手)
計	24時間 100%	24時間 100%	24時間 100%	24時間 100%	24時間 100%
生理的生活時間	10時間15分 43%	10時間18分 43%	10時間00分 42%	10時間31分 44%	10時間00分 42%
収入生活時間	12分 1%	42分 3%	6時間16分 26%	3時間13分 13%	3時間20分 14%
家事的生活時間	9時間02分 38%	9時間14分 39%	5時間07分 21%	6時間56分 29%	7時間11分 30%
文化的社会的生計時 間	4時間31分 19%	3時間45分 16%	2時間37分 11%	3時間20分 14%	3時間29分 15%

文化的社会的生計時間

	サラリーマン	工場労働者	商家	農家	漁家
計	時間 分 (4.31)	時間 分 (3.45)	時間 分 (2.37)	時間 分 (3.20)	時間 分 (3.29)
小計	271 (100)	225 (100)	157 (100)	200 (100)	209 (100)
教養	139 (49)	54 (24)	70 (45)	63 (32)	40 (19)
娯楽	43 30 3	7 16 —	11 18 —	8 20 1	6 14 1
交際	6 19 3	8 13 6	5 25 8	24 5 2	11 — 8
その他	1 6 10 12	— 0 — 4	— 1 2	— 8 —	— — —
小計	32 (12)	34 (15)	30 (19)	52 (26)	61 (29)
交際	12 18 2	17 15 2	4 18 8	29 23 —	22 39 —
休息	50 (19)	50 (22)	18 (12)	35 (18)	48 (23)
雑談	18 (7)	32 (14)	21 (13)	30 (15)	31 (15)
その他	39 (14)	55 (24)	19 (13)	20 (10)	29 (14)

戦 前 の 生 活

第1表 自営業世帯男女別一人・

		総 数	睡眠	食事	身の廻り	入浴	休息	従業	内手仕事	家事	
		時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	
農業世帯	男	21~30	24.00	7.52	1.05	33	14	1.37	9.58	41	10
		31~45	24.00	7.46	1.05	30	15	1.35	10.04	43	12
		46~60	24.00	8.06	1.00	31	15	1.46	9.26	41	15
		60以上	24.00	9.08	1.09	30	17	2.33	7.31	47	39
		21~30	24.00	7.13	1.07	37	15	1.07	8.13	48	3.08
		31~45	24.00	7.19	1.08	34	15	1.07	8.08	53	3.25
	女	46~60	24.00	7.47	1.08	33	15	1.22	6.58	53	3.50
		60以上	24.00	8.48	1.09	28	16	1.56	4.08	1.08	5.00
		21~30	24.00	8.10	1.17	28	19	1.06	10.04	1	11
		31~45	24.00	8.06	1.20	28	22	1.08	9.38	1	14
		46~60	24.00	8.06	1.23	29	23	1.21	8.48	2	14
		60以上	24.00	8.43	1.28	28	23	2.09	6.30	3	41
小売業世帯	男	21~30	24.00	7.30	1.26	42	26	58	4.24	4	5.38
		31~45	24.00	7.24	1.24	38	28	57	5.08	2	5.28
		46~60	24.00	7.39	1.27	37	26	1.19	4.40	2	5.01
	女	60以上	24.00	8.27	1.26	37	25	2.23	2.32	2	4.52

- 備考 1. 労働時間 (従業、内職手仕事、家事、針仕事、公務等)
 2. 自由時間 (労働時間および睡眠、食事、身の廻り、入浴等の生理的時間を差引いたもの)

第2表 体給生活者工場労働者ならびにその家

		総 数	睡眠	食事	身の廻り	入浴	休息	通勤	従業	内職	
		時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	
体給生活者 工場労働者	男	21~30	24.00	8.12	1.08	49	17	1.19	1.17	7.14	1
		31~45	24.00	8.10	1.10	52	18	1.20	1.21	7.18	—
		46~60	24.00	7.55	1.13	53	17	1.20	1.19	7.02	1
		60以上	24.00	7.43	1.08	1.12	23	1.15	1.29	6.51	—
	女	21~30	24.00	7.52	58	34	21	1.20	53	9.47	—
		31~45	24.00	7.48	1.01	33	21	1.27	51	9.50	1
		46~60	24.00	7.47	1.03	34	21	1.26	56	9.49	1
		60以上	24.00	7.32	1.01	41	24	1.06	19	9.16	1
	工場労働者	21~30	24.00	7.05	1.02	31	29	1.03	34	9.26	6
		31~45	24.00	7.20	1.25	40	27	1.05	—	—	10
		46~60	24.00	7.11	1.24	37	27	1.04	—	—	10
		60以上	24.00	7.17	1.24	36	24	1.13	—	—	11
体給生活者 家庭労働者	21~30	24.00	8.25	1.25	33	23	2.37	—	—	7	
	31~45	24.00	7.06	1.23	37	39	1.05	—	—	48	
	46~60	24.00	7.02	1.28	34	39	1.02	—	—	50	
	60以上	24.00	7.06	1.29	30	37	1.13	—	—	45	

(資料出所) 日本放送協会「国民生活時間調査」一般調査報告。調査対象は全国500地区の15000世帯と294職場の15920人

- 備考 1. 労働時間 (従業、通勤、内職、家事、針仕事、公務等)
 2. 自由時間 (労働時間および睡眠、食事、身の廻り、入浴等の生理的時間を差引いたもの)

アメリカにおける

婦人の生活時間

欧米の先進諸国では、特に労働時間の短縮と関連して、既に以前から自由時間の問題がとり上げられている。

婦人についての関係資料は余り見られないが、アメリカのシカゴ大学にフォード財団によつて設けられた余暇研究所 (Center for the Study of Leisure) 発行の関係論文集「マス・レジャー」(Mass Leisure) 掲載のものを一、二引用してみることにする。

(1) ニューヨーク近郊 (1934年) 第1表~第4表

「郊外地の研究 第4章 自由時間 (1934年)」より

著者 ジョージ・A・ランバード、ミラ・コマロフスキー、メリー・アリス・マツキナニー

調査対象 ニューヨーク ウェストチェスター地区 2,460人の4,460日分の日記

注意 ○拘束時間に、睡眠、有給の仕事、家事育児、身辺の必要な雑事、交通等を含む。それ以外を自由時間行動とする。食事時間も自由時間に含まれている。

○平均時間数は労働日5日と、土曜日を足して7で割つたもの、高校生の場合は、土曜の代りに日曜を使った。

○肉休労働の女子は工場労働者と家事従用人。

第1表 男子の自由時間と拘束時間の平均時間数

職 業 別	件 数	日 数	拘束時間	自由時間
肉 休 勞 働	10	30	17.2	6.8
事 務	268	804	16.7	7.3
専 門 職 及 び 管 理 職	97	307	17.2	6.7
無 主 職	71	213	14.2	9.2
高 校 生	773	773	16.6	7.4
大 学 生	53	159	17.2	6.8
總 数	1,272	1,286	16.6	7.4

別 1 日 平 均 時 間 数

無 職		高 校 生		大 学 生		計	平 均
男	女	男	女	男	女		
71	24	773	771	53			
213	72	773	771	159		4,460	
分	分	分	分	分	分	分	分
109	20	119	24	101	23	481,311	108
111	20	138	28	53	12	399,209	90
128	23	78	16	44	10	252,858	57
28	5	43	9	44	10	186,808	42
67	12	24	5	86	19	173,838	39
52	9	31	6	45	10	150,375	34
15	2	19	4	14	3	68,622	15
5	1	7	1	9	2	55,311	12
37	7	42	8	48	11	196,571	38
552	99	501	101	444	99	1,937,901	435

1929年11月)では、食事76、訪問69、読書58、商業娯楽5、スポーツ6、ラジオ9、

(2) シカゴ (1955年) 第5表および第6表

アメリカン・ジャーナル・オブ・ソシオロジー 第61巻第2号 (1955年9月) に発表されたものである。

調査者 シカゴ大学 クライド・ホワイト教授

調査対象 シカゴ、キューヤホガ地区、中位のものが年収5,000ドル以上の地域を除く14地域で、有効調査票は673件である。

調査方法 調査日の前1週間の自由時間内容を面接によつてとつた。

1953年に作られた社会階層別によつて分類してある。

注 意 ○社会階層別に自由時間の内容が如何に違うかを明かにすることを目的としている。

○自由時間を1日のうち睡眠、食事、仕事、以外の時間とし、学生については学校での勉強を仕事と同じに扱った。

○自由時間の内容を31項目にわけた。表中の9項目以外は全体の6.6%に当つていつた。

第2表 女子の自由時間と拘束時間の平均時間数

職 業 別	件 数	日 数	拘束時間	自由時間
肉 体 労 働	60	228	18.4	5.6
事 務	226	678	17.4	6.6
専門職及び管理職	—	—	—	—
無 職	24	72	15.7	8.3
主 婦	107	425	14.7	9.2
高 校 生	771	771	16.6	7.4
大 学 生	—	—	—	—
総 数	1,188	2,174	16.8	7.2

第3表 拘束時間の内容別男女別時間数

職 業 別	性別	睡眠	有給の仕事**		身辺の雑用	交通	家事育児	合計
			7日単位	5 ¹ / ₂ 日単位				
肉 体 労 働	男	9.0	5.9	7.5	0.8	0.9	0.6	17.2
	女	8.3	6.7	8.5	1.0	1.0	1.4	18.4
事 務	男	8.3	6.4	8.1	0.7	0.8	0.5	16.7
	女	8.2	5.9	7.5	1.0	1.1	1.2	17.4
専門職及び管理職	男	8.2	6.2	7.9	0.7	1.2	0.9	17.2
	女	9.1	2.2	2.8	0.7	0.5	1.7	14.2
無 職	男	8.9	1.0	1.2	1.0	0.7	4.1	15.7
	女	8.6	0.1	0.0	1.0	0.8	4.2	14.7
主 婦*	男	8.7	6.0	7.5	0.7	0.7	0.5	16.6
	女	8.7	5.6	7.2	0.9	0.6	0.8	16.6
高 校 生	男	9.5	5.6	7.1	0.6	1.1	0.4	17.2
	女							

* オレゴン州農村婦人についての調査では、睡眠8.5、身辺雑用0.7、交通0.3、家事育児10.6、合計20.1となつてゐる。

** 高校生、大学生については、学校の勉強をさす。男子の場合のみ1日30分の有給の仕事を含む。

参考

第十二回 婦人週間の構想

(一) 目標および強調事項について

○目標 生活時間の自主的な設計

○強調事項 自由時間の意義

労働省では例年の婦人週間にあたつて、特定の問題を選んで、週間の運動目標としています。第一回から第七回までは、意識の面の向上、実力の涵養等、婦人自身の成長ということに重点を置いて目標を定めました。第八回から第十回までは、一歩すすめて婦人の力を役立たせることを目標としました。(別項「婦人週間の目標」参照)このように、十回までの婦人週間を通して、婦人の地位向上のために必要と考えられる問題を主として封建的なものの排除という観点から段階的にとりあげてきました。が、昨年の第十一回婦人週間からは、社会の近代化に伴う変化を婦人がどのように受けとめているか、またその変化にどのように対処したらよいか、という観点から、その時々によつて要請されている婦人の役わりと関連した目標を選定する方針をとっています。昨年は、集団化現象に伴う婦人の生活と役わりの変化に着目して、婦人の自主性の問題を集団との関係でとらへ、集団における個人の自由と責任を強調しましたが、本年は、生活時間構造が変化してきているという認識の上に立つて、自主性の問題を生活時間の面からとりあげることとし、「生活時間の自主的な設計」を目標としました。とくに自由時間の意義について強調し、婦人が日々の生活の中に自由時間を確保するとともに、その自由時間を充実させることによつて、婦人

第4表 自由時間行動の内容

	事	務	専門職		主婦*		肉体労働	
			男	女	男	女	男	女
件数	268	276	97	107	10	6		
数	804	678	307	425	30	60		
分	114	116	103	106	101	109		
食	81	94	79	151	94	74		
訪	61	43	74	84	95	38		
読	45	48	15	44	35	29		
商	34	19	40	16	35	20		
業	34	18	22	29	32	45		
旗	20	25	15	10	12	13		
案	8	3	10	61	0	0		
ス	35	33	40	50	5	8		
ポ	438	399	401	551	409	336		
ー								
ズ								
ラ								
ジ								
オ								
ト								
モ								
ト								
ク								
ラ								
ブ								
活								
動								
車								
他								
計								

* オレゴン州農村婦人についての調査(オレゴン農業実験所ブレティン256号、クラブ活動35、その他51、合計304である。)

第5表 各階層100人についての自由時間内容率

自由時間利用方法	男				女			
	中の上	中の下	下の上	下の下	中の上	中の下	下の上	下の下
公園及び遊び場	1.6	7.0	12.2	23.0	1.9	6.7	6.8	16.4
社会奉仕	9.8	12.7	11.4	13.6	7.7	11.2	8.8	12.3
教会	49.2	68.4	66.2	76.1	53.8	73.8	81.8	82.8
博物館	1.6	3.1	1.2	7.1	0	4.1	1.6	4.9
図書館	21.3	20.6	13.7	11.5	17.3	25.1	19.1	12.3
家庭*	339.3	274.6	272.8	254.0	374.5	298.9	288.1	258.2
道徳的・種族的団体	4.9	6.1	8.5	0.9	3.8	3.7	9.4	0.8
講演、勉強	9.8	4.8	3.3	5.3	19.2	7.5	2.5	4.1
商業的娯楽	68.9	82.9	82.0	82.0	76.9	56.9	58.0	56.0

* 家庭で行う自由時間行動が多種類にわたっており1人が幾つも答えたので100を超えたものと思われる。(婦人編)

第6表 自由時間の過ごし方

自由時間の過ごし方	平均時間数			
	男		女	
	中の上	下の上	中の上	下の上
教会、読書、学校の予習復習	5.3	1.0	4.7	4.1
ラジオ、テレビ、映画、スポーツ	12.0	21.7	7.7	14.1
有給の仕事、家事	5.0	3.0	9.7	8.1
計	22.3	25.7	22.1	26.3

の成長とその周囲のしあわせがもたらされるよう期待するものです。

② スローガンについて

まず生活の時間割を、そして自由時間を

——自分のためにみんなのしあわせのために——

生活時間の自主的な設計を目標とし、自由時間の意義について強調する今週間のスローガンには、各個人が自分の時間割をもった生活をし、その中に自由時間を生み出して、さらにその自由時間を充実させることは、自分の楽しみや成長のために、また周囲のしあわせのために役立つものであるという点を打出しました。

③ 行事の運営について

婦人週間には、例年関係官公庁はもとより民間の婦人団体、青年団体、労働組合、報道機関などが協力されて、全国的に多彩な行事が展開されますが、すでに十余回にわたる実施によつて婦人週間はひろく一般に普及し、各機関が年例行事として、それぞれの立場で実施される段階になっています。それで、労働省として、本週間の目標や運動方針を明らかにして各機関に協力を依頼いたしました。協力機関で実施される行事の運営については、各機関の機能に応じて自主的にすすめられることを期待しております。

第十二回婦人週間の趣旨

(このたびの目標をとりあげた理由)

婦人が自主的な意識と態度を確立することは、婦人の幸福ばかりでなく家庭、職場、社会全般の進歩発展のために大切なことです。とくに近年は、生活様式の面にも著しい変化がみられ、婦人の生活時間構造も大きな影響を受けていますので、これ

に対処して自主的な態度で日々の生活を機能的に処理することが必要です。すなわち、世の中のめまぐるしい移りかわりの中で、婦人がその激しい波に押し流されず、自分を生かしながら、しかも社会生活との適応をはかるためには、積極的に生活時間を配分し、主体的な生活設計を確立することが強く求められ、それが今日の婦人の当面する大きな課題であるといえます。さらに時代の進歩とともに、婦人の役割に対する各方面の期待は、ますます大きくなるものと考えられますが、婦人が家族の幸福を司さる主婦として、日本経済の一翼をになう職業婦人として、さらに又、地域社会に住む有権者として、その責任を果たしていくためには、それぞれの生活時間の過ごし方に反省を加え、これを機能的に設計していくことが必要になってきます。このような観点から、婦人がそれぞれの生活内容に応じた自分の時間割をもつて、主体的に日々の生活を営むことをすすめるものです。

また、よい仕事、よい考え、よいものを創り出す力の根源は、日々の義務づけられた行動や仕事から解放された自由な時間にあるといえます。この自由時間はまた、人が生き甲斐を感じる人間的な生活をするためにも、欠くことのできない大切な要素であると考えます。そこで、この週間にあたつては、まず生活の時間割をもち、その中に自由時間を確保してその充実につとめることを強調します。なお今後、家族規模の縮小や生活様式の近代化などに伴つて、家事時間が短縮され婦人の生活に時間的な余裕ができてくることが考えられる一方、日本の社会に残存している伝統的な偏見や、経済的条件などが婦人の自由時間の確保を阻害しているという現象もみられますので、この婦人週間にあたつては、婦人が自分自身の生活時間の設計と自由時間の生かし方について考えるだけでなく、自由時間を持つてない婦人たちの問題についても関心を高めることをねがうものです。

第十二回婦人週間の運動方針

(一) 時間割をもった生活をするようすすめる。

時代の進歩とともに、婦人も、家庭人として社会人としていろいろの役割を期待されていますが、その期待にこたえながら、しかも自分自身を生かした日々をおくるためには、ひとりひとりそれぞれの生活内容に応じて、自主的に生活時間を設計するという積極的な態度がのぞまれます。たとえば、学校での学習が時間制によつて能率的にすすめられるように、婦人の日常生活も、自分できめた時間内制によつて、楽しく円滑に運営されるようでありたいものです。職業やその属する集団内での役わりなどによつて、個人の労働時間や社会的拘束時間には相違があり、家庭生活の型は家族構成などによつても違つてきますので、万人に適用することのできる生活時間構成の模範的図式はもとめられませんが、家計が、それぞれの家庭の実情に即して計画的に賄われることが必要であるように、生活時間も自分自身の、あるいは自分の家庭生活の内容に応じて合理的に配分されることが必要であると考えます。家計予算の場合緊急の必要があれば、外の費目から支出したり、貯えて補なつたりすることがあるように、時間制をきめていても、不時の出来事があれば外の用途に予定していた時間を転用するのは当然のこととて、時間制をもつた生活とは、決して窮屈な融通性のない生活を意味するものではありません。必要なことはつねに自己を失なわず、しかも、どのような生活状況の変化にも適応することのできる自主的な生活態度を確立することでありましょう。

私たちの周囲には自分の意思を率直に表明することを「女らしくない」とみるような古い考え方が残っているために、婦人の自主性が育ちにくく、また婦人自身にも、近代的な合理精神が欠けていて生活時間の自主的な設計の妨げとなつています。一方、マス・コミやマス・プロの閑散のない攻勢も、個人の生活時間の設計を乱し勝ちですが自分の生活を大切にすることを怠る態度を養い時間に支配されるのではなく時間を支配する主人公になるよう努め、「婦人は時間の概念がない」という言葉を返上したいものです。

(4) 日々の生活の中で自由時間をもつようにすすめる。

他人に強制されず、自分で選択のできる時間が、日本人の行動の中には少ないといわれますが、食事、睡眠、身の廻りなど

に費やす生理的時間、労働時間（主婦の場合、育児をふくむ家事時間）義務づけられた公務に従事する時間などを差し引いたものが自由時間内であるとすれば、多くの人がかなりの自由時間をもつことができるのではないのでしょうか。しかし現実には、労働時間と休息時間の区切りが明らかでなかつたり、周囲の現象に対して受動的であるために、自分のものとして使えるはずの時間も、自由時間として意識されずに消費されているという場合が多いようです。とくに家事労働は、仕事のすすめ方によつては際限のない性格をもつ労働であるために、極言すれば、終日家事に追われて過す場合もありましょう。しかし、また、家庭の仕事は雇用労働と異なり主婦自身の裁量によつて行なわれるものであるだけに、自分自身の工夫と努力で自由に配分できる幅も広いわけです。働く時間と同じように、人間にとつて大切な時間である自由時間を、毎日の時間割の中に必ず組み入れるように努めましょう。そのためには仕事の質と時間の分量を勘案して、そこからまとまつた自由時間を生み出すよう積極的な意欲をもつことが必要です。家計予算には、生活必需費のほか、教養・文化費など人間生活をゆたかにするための費目が計上されるように、また、一日のあるいは一週間の食事の献立には、カロリーや栄養のバランスなど生存のために必要な要素のほかに、楽しみの要素も盛りこまれるように、生活の時間割の中にも、自由時間を設けることができれば、私たちの生活は、明るくゆとりのあるものになりましょう。

(5) 自由時間をよりよい明日の生活のために役立たせるようながす。

生活時間構成に万人共通の模範的図式がないのと同様に、自由時間の過ごし方にもモデルになる型紙はもとめられません。が、生活を高めるために役立つ時間、人としての生き甲斐を感じる時間として使われることがのぞまれます。

自由時間の内容としては、休息、娯楽、スポーツ、趣味、思索、勉強、交際、奉仕などが考えられますが、それぞれの職業やその属する集団内での役わり、あるいは年令や肉体的条件などによつて、各自が自主的に計画することが必要です。たとえば、非常に密度の高い労働にエネルギーを集中する必要がある場合は、自由時間のすべてを、体力を回復するための休息

と、精神的労疲を癒やすための娯楽とにあてるといふ生活時間の設計もあり得るわけです。ひとりひとりが身心ともに健康であることは、自分自身のしあわせであるばかりでなく、家族生活や職場生活に明るさをもたらす要件の一つであることを考えれば、休息や娯楽の効用は大きいといえます。しかしさらに、自己反省や人間としての成長に役立つ思索や読書などに自由時間をあてることができれば、一層充実感のある日々を過ごすことができましょうし、さらにすすんで、地域の福祉や社会の文化に貢献するような奉仕活動に、自由時間を提供することのできる婦人が多くなれば、自由時間は、より積極的な意義をもつものとなります。要するに、自由時間の内容は、個人の選択にまっべきものですが、いつの場合も、「無駄に過ごした」という悔いの残らない、自分の人生設計につながる、目的をもつた時間として充実させたいものです。

④ 個人の自由な時間が侵されないような環境がつけられるよう啓発活動を行なう。

自由時間を確保するためには、まずひとりひとりの積極的な意欲が必要ですが、社会の風潮や慣行によつて、生活の時間が割が乱されたり、個人の大切な自由時間が侵されたりすることも多く、個人的な努力だけではそれらの要因を排除できない場合もみられます。たとえば、予想しない不時の訪問者のために生活の予定が狂ったり、近隣のラジオやテレビの高音が、思索や読書の時間を妨げたりする例は多く、また、自由であるべき時間に、余分の労働や義務を科せられる場合もしばしばみられます。まず、各個人がお互いに他人の自由時間を尊重しあう習慣をつくりましょう。そしてひとりの力では解決できない問題は、周囲の人と話しあつて、よい生活環境をつくるために力をあわせることがのぞまれます。

⑤ 自由時間のない層の婦人の問題について一般の関心を喚起する。

積極的な意欲さえあれば、自分自身の努力次第で、大いに自由時間を享受できる環境にある婦人も多いのですが、一方、婦人に対する伝統的な偏見や、経済的な制約のために、自由時間に恵まれない層の婦人があることも見逃がせません。勤務や内職に従う主婦や農・漁・商家などの婦人は、収入を伴う生産活動と家事労働の二重の負担のために、時間的な余裕のない生活

をしているのが一般的ですが、とくに、家父長的な家族関係が残っている農・山・漁村の「嫁」の生活は、精神的にも拘束の多いものとして、つねに問題視されているところです。また、住込の勤労婦人の生活にも、同様の問題がみられます。

近年は、農家の人々の休養や教養、娯楽などにあてるために、農休日制度を実施する地方が増加していますが「嫁」にとつてはこの日も休日にはならないという場合も多いようです。家族の誰かが気兼ねなく自由に休日を楽しめる制度がすべての農村に普及することがのぞまれますが、「嫁」の座にある人にも、日々の時間割の中に自由時間を織りこむことのできる生活がもたらされるよう、周囲の協力と援助が期待されます。また、商店街の週休制は、そこに雇用される人々の福祉の向上のために必要であるばかりなく、日常忙しい主婦の自由時間をゆたかにするためにも役立つものと考えられます。さらに母子家庭の働く母親や、共かせぎの婦人、あるいは内職に追われる主婦や家事使用人の問題についても一般の関心が高まり、自由時間が確保されるよう、社会的な条件が整えられることがのぞまれます。なお、時間的にも経済的にも恵まれない層の婦人を施設に招待し、休息とレクリエーションの機会を提供するという奉仕活動を、年例事業として行なっている婦人団体がありますが、この種の活動は本週間の趣旨にも沿つたものといえます。

あ　と　が　き

労働省婦人少年局

婦人課長　高　橋　展　子

「生活時間の問題は今後の婦人問題の主要なテーマとなる」という考えに立つて、私も「主婦の自由時間に関する意識調査」を行なったのは、昭和三四年の二月、報告書を出したのは九月でした。

その頃すでに、生活様式の近代化や出生率の低下、家族構成の単純化等によつて、婦人の生活時間構造には、かなりの変化が事実上起つていたのですが、また社会学等の分野では、大衆社会理論などの関連で全般の問題が、大分前からとりあげられていましたが、国民一般の生活感情の上では、自由時間や全般についての問題意識は、かならずしも濃厚ではなかったようです。

ところで昭和三五年の秋頃から、日本の社会はレジャー・ブームとやらで、消費経済の伸長、農休日や商店週休制の普及等による事実上の余暇の増大もさることながら、マスコミの上での余暇ムードはめざましいものです。

そこで、第十二回婦人週間のテーマに「生活時間の問題」をとりあげたことは、まさに先見の明であるとおほめをいただきますが、いや、あれがこのような軽薄なムードの醸成に一役買ったのだとお叱りを頂戴していますが、ともあれ社会の動きのめまぐるしさを、本書をまとめるに際して痛感させられたことです。

本書の編集については立仙敏勝氏、出版については大蔵省印刷局の御協力に負うところが多く、ここに感謝の意を表します。

353

生活時間白書

昭和36年9月30日発行 定価300円

編集 労働省婦人少年局

発行 大蔵省印刷局

東京都新宿区市谷本村町15

販売所 各県の官報販売所・主要書店
政府刊行物サービス・センター

東京都千代田区霞関2の1
大阪市東区大手前之町（合同庁舎内）

著丁、監丁はおとりかえします。